講義科目名称： 日本国憲法　　授業コード：

英文科目名称： The Constitution of Japan

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	１年	２単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
武井　英輔			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：H107
添付ファイル			
ルーブリック.pdf			

講義概要	憲法とは、国家の根本的な組織と作用のあり方を定めた、国の最高のルールである。本講義では、まず憲法とはどのような法であるか、日本とその他諸外国における憲法の歴史的展開を扱う。さらに、統治機構と基本的人権に関する概要や重要判例などを概説する。現代のグローバル社会における具体的課題（例えば個人情報保護、多様性の尊重、肖像権等）に関する素材を提供しながら、憲法の基本的知識をもって考え、発言できるための法的思考を学ぶ。 実務経験：弁護士業務で培った知識・経験に基づき、各法律問題に関して解説を行う。 他の科目との関連：日本国憲法は、教育基本法をはじめとする教育関連法規の基盤となるものです。憲法を理解することで、教育の理念や目的、教員の役割を深く理解することができます。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション、憲法とは何か 授業の進め方、そもそも憲法とは何か、憲法の存在意義について学ぶ。 予習：シラバス全体をよく読んで、科目の全体像を把握しておくこと（約1時間） 復習：時事問題に常に関心をもち、授業の内容を振り返ること（約1時間） B：少 第2回　人権総論 基本的人権の意味について歴史的な変遷を学び、人権の基本的知識について学ぶ。 予習：前回学んだ内容について、内容をまとめ疑問点をまとめておく（約1時間） 復習：時事問題に常に関心をもち、授業の内容を振り返ること（約1時間） B：少 第3回　法の下の平等 法の下の平等の基本的知識について、重要判例を通じて考える。 予習：前回学んだ内容について、内容をまとめ疑問点をまとめておく（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容の振り返りをしておく（約1時間） B：少 第4回　新しい人権 プライバシー権や肖像権など新しい人権について、重要判例を通じて考える。 予習：前回学んだ内容について、内容をまとめ疑問点をまとめておく（約1時間） 復習：時事問題に常に関心をもち、授業の内容を振り返ること（約1時間） B：少 第5回　思想良心の自由・信教の自由 思想良心の自由・信教の自由の基本的知識について、重要判例を通じて考える。 予習：前回学んだ内容について、内容をまとめ疑問点をまとめておく（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容の振り返りをしておく（約1時間） B：少 第6回　政教分離制度 政教分離制度の基本的知識について、重要判例を通じて考える。 予習：前回学んだ内容について、内容をまとめ疑問点をまとめておく（約1時間） 復習：時事問題に常に関心をもち、授業の内容を振り返ること（約1時間） B：少 第7回　表現の自由① 表現の自由の基本的知識・報道の自由や取材の自由について重要判例を通じて考える。 予習：前回学んだ内容について、内容をまとめ疑問点をまとめておく（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容の振り返りをしておく（約1時間） B：少 第8回　表現の自由② 表現の自由の応用分野（低価値表現等）の基本的知識について重要判例を通じて考える。 予習：前回学んだ内容について、内容をまとめ疑問点をまとめておく（約1時間） 復習：時事問題に常に関心をもち、授業の内容を振り返ること（約1時間） B：少 第9回　職業選択の自由と財産権 職業選択の自由と財産権の基本的知識について、重要判例を通じて考える。 予習：前回学んだ内容について、内容をまとめ疑問点をまとめておく（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容の振り返りをしておく（約1時間） B：少 第10回　学問の自由と教育を受ける権利 学問の自由と教育を受ける権利について、重要判例を通じて考える。 予習：前回学んだ内容について、内容をまとめ疑問点をまとめておく（約1時間） 復習：時事問題に常に関心をもち、授業の内容を振り返ること（約1時間） B：少 第11回　参政権と生存権 参政権と社会権の基本的知識について、重要判例を通じて考える。 予習：前回学んだ内容について、内容をまとめ疑問点をまとめておく（約1時間）

	復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容の振り返りをしておく（約1時間） B：少 第12回　国会・内閣 三権分立とは何か、国会と内閣の役割や権能（立法権、行政権）、関係性についてを学ぶ。 予習：前回学んだ内容について、内容をまとめ疑問点をまとめておく（約1時間） 復習：時事問題に常に関心をもち、授業の内容を振り返ること（約1時間） B：少 第13回　内閣・裁判所 司法権の意味を確認し、日本の裁判制度、違憲審査制の類型、訴訟類型について、学ぶ。また、司法制度改革に伴い導入された裁判員制度の方法や課題についても考える。 予習：前回学んだ内容について、内容をまとめ疑問点をまとめておく（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容の振り返りをしておく（約1時間） B：少 第14回　地方自治・平和主義・財政 地方自治とはなにか。その存在意義はなにか。憲法９条とは。財政の仕組み等について学習する。 予習：前回学んだ内容について、内容をまとめ疑問点をまとめておく（約1時間） 復習：時事問題に常に関心をもち、授業の内容を振り返ること（約1時間） B：少 第15回　まとめ（試験のフィードバックと学習成果の振り返り） 試験の復習を行う。 シラバスに書かれている到達目標を達成できたか各自振り返る。 予習：これまでの授業全体を通して質問などを考えて授業に臨むこと（約2時間） B：少
教育目標との関連	思想・良心の自由、表現の自由などの精神的自由、職業選択の自由、居住移転の自由などの経済的自由などの国家からの自由、国の政治に参加する参政権、経済的、社会的弱者を国家が保障する社会権など人権とは何かを学ぶ。立憲主義の歴史を紐解く。国家とは何か。戦争とは何か。憲法が保障する人権について理解し、人権保障の重要性を学ぶ。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．　日本国憲法とは何か、法秩序における憲法の位置付けを理解した上で、憲法に関する基本的な知識を身に着け、憲法に関する用語について説明することができる。現代のグローバル社会における具体的課題に関心を持ち、積極的に調べ、法的な観点から考え、述べることができる。 ３．　重要な憲法判例の概要を理解し、その判例（判例で扱う争点）について、自身の考えを持ち、論理的な思考に基づき、的確に議論・討論ができる。 ５．人権問題を学ぶことを通じて、広い視野をもち、異なる価値観や多様性を尊重することができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	期末試験　80% 平常点評価　　20% 評価方法は添付資料のルーブリックを参照すること。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第１５回目の授業で解説する。
教科書	なし
参考書	なし
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	基本は復習中心。時事問題に常に関心をもち、図書館や新聞記事、インターネットを活用して、予習復習を心がけてほしい。必要な時間は１時間以上。
履修上の注意、条件等	六法全書を授業に持ち込むことが望ましい。 現代のグローバル社会における具体的課題に常に関心を持ち、疑問があれば自分で調べること。 身近な人と意見交換を行い、自身の考えを持ち、発信することを心掛けること。
オフィスアワー	授業中に質問を受け付ける。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 幼児教育と情報機器演習Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称： Computer Training for Early Childhood Education Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
福田尚子・本間美重子（補助）			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：D104
添付ファイル			
幼児教育と情報機器演習1Rublic2025.pdf			

講義概要	「幼児教育と情報機器演習Ⅰ」（1年生春学期）、「幼児教育と情報機器演習Ⅱ」（2年生秋学期）を通して保育者にふさわしい情報スキルの獲得を目指す。情報モラル、必要な情報を探索する方法、収集した情報を分析評価する方法、そして自分の考えを効果的に表現する技法を演習を通して学んでいく。また、ICTを取り入れた保育や教育のあり方についても考察していく。 「幼児教育と情報機器演習Ⅰ」においては、まずは一般的な情報スキルとツール操作スキルの習得を目標とする。 本学で学習の基盤として使用するGmail、Google Classroom、Google ドキュメント、Google スプレッドシート、Googleフォーム、Google スライドの効果的な使い方を演習を通して学び、それらを活用した双方向型授業を実施する。 担当講師は、ICT企業においてエンジニア実務経験を有する。また、英語の中学・高等学校教員免許を持ち、教育的視点とICT実践的視点の双方から授業を行なっていく。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　ガイダンス － 幼児教育と情報機器演習の関係性 国内および諸外国での保育現場における情報機器の活用状況をもとに、本授業の意義を説明する。また、現時点での実力を確認するため実力テストを行う（タイピングテストと簡単なクイズ・アンケート）。 F：あり 予習：「幼児教育と情報機器演習Ⅰ」（本授業）のシラバス全体をよく読み、科目の全体像を把握しておく（約1時間） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（約1時間） 第2回　学習環境の解説 － Google Classroom（授業環境）とは何か 学習環境（Google Classroom）と今後の授業の進め方について説明する。また、タイピング練習方法について説明する。 F：あり 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（約1時間） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（約1時間） 第3回　フォーマルメールを学ぶ Gmailを用い、フォーマルメール（学内外の目上の方への丁寧なメール）の送り方について学ぶ。宛先の設定（To:Cc:Bcc）、文章の構成（宛名、挨拶文、本題、締めくくり）などメールを送る際のルールを学ぶ。 事前準備：学校から配布されたGmailアドレスとパスワードを準備する。 F：あり 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（約1時間） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（約1時間） 第4回　情報モラルを学ぶ　1 学校で生活する上で必要な情報モラル（LINEやインスタグラムなどのSNSの利用やインターネット利用時の著作権、肖像権、個人情報の保護など）について学ぶ。 また、本授業の内容をもとに、指示されたテーマについて考えをまとめフィードバックする。（形式は授業中に指示） A：少 E：あり F：あり 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（約1時間） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（約1時間） 第5回　レポート作成の基礎を学ぶ　1（情報の探索、分析、評価、整理） ある課題解決をするために情報探索し、分析・評価・整理したものをレポートとしてアウトプットする。またその際の注意事項（引用、著作権など）、Google ドキュメントを用いたレポート作成方法について学ぶ。また、第4回で提出された課題についてフィードバックする。 F：あり 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（約1時間） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（約1時間） 第6回　レポート作成の基礎を学ぶ　2（情報のアウトプット） 本学共通のレポートフォーマットを学ぶ。 F：あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（約1時間） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（約1時間） 第7回　文書作成の基礎を学ぶ　1（情報のアウトプット） Googleドキュメントを用い、簡単な文書を作成する。 F：あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（約1時間） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（約1時間） 第8回　文書作成の基礎を学ぶ　2（情報のアウトプット） Google ドキュメントを用い、簡単な文書（画像を含む）を作成する。

		F：あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（約1時間） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（約1時間）
	第9回	文書作成の基礎を学ぶ　3（情報のアウトプット） 幼稚園・保育園の「お便り」を題材に、これまで学んできた機能を使い必要な情報を効果的にアウトプットする方法を学ぶ。 F：あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（約1時間） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（約1時間）
	第10回	情報モラルを学ぶ　2 幼稚園や保育園など職場で必要な情報モラル（インターネットやSNSの利用や著作権、肖像権、個人情報の保護など）について学ぶ。 また、本授業の内容をもとに、指示されたテーマについて考えをまとめ提出する。（形式は授業中に指示） A：少 F：あり 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（約1時間） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（約1時間）
	第11回	プレゼンテーションの基礎を学ぶ　1（情報のアウトプット） Google スライドを用い、プレゼンテーションの基礎を学ぶ。また、第10回で提出された課題についてフィードバックする。 E：あり F：あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（約1時間） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（約1時間）
	第12回	プレゼンテーションの基礎を学ぶ　2（情報のアウトプット） Google スライドを用い、前回作成した資料をブラッシュアップする。 F：あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（約1時間） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（約1時間）
	第13回	プレゼンテーションの基礎を学ぶ　3（情報のアウトプット） 前回作成したプレゼンテーションを発表する。効果的に発表する方法を学ぶ。 A：多 D：多 F：あり 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。発表の準備をする。（約1時間） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（約1時間）
	第14回	文書作成の復習 「文書作成の基礎を学ぶ」１から３を通して修得した内容を演習を通して復習していく。 予習：前回までに学んだ内容全体について復習し、疑問点をまとめておく。（約1時間） 復習：これまでの授業の総復習をし期末試験対策をする。（約1時間）
	試験	期末試験
	第15回	期末試験のフィードバックと学習成果の振り返り 試験のフィードバック、および、シラバスに書かれている到達目標を達成できたか各自振り返る。 E：あり 予習：これまでの授業全体を通して、習得できたこと、課題などを考えて授業に臨むこと（約2時間）
教育目標との関連	本演習では、保育者として、また一社会人として必要な教養、基礎的な知識を身につけ、学習した知識・技術を活用して、保育や子育て支援に必要な実践・表現方法を修得する。	
到達目標　（学修成果）　　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	1.一般的な情報機器の特性(メリットテ゛メリット)について理解し、説明することか゛て゛きる。 3.大学生として、学内・学外に通用する文書・資料作成を行うことができる。	
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	期末試験　　20%：授業内容全般を理解し、自分の言葉で説明できているかを評価する。 提出課題　　50%：授業内で行う課題への取組みを評価する。 授業への参加度　30%：グループワークへの貢献度や、授業内での発言など、授業への取組み態度を評価する。 ＊評価基準は添付資料のルーブリックを参照	
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回目の授業時に期末試験を返却して解説・振り返りを行う。	
教科書	必要に応じて資料をオンライン配信する。	
参考書	特になし	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業時に必要に応じて指示する。	
履修上の注意、条件等	自分や子ども、保育環境を取り巻く情報機器のあり方について常に関心を持ち、自分なりの考えを持つよう心掛けること。	

オフィスアワー	授業の前後に教室で質問を受け付ける。また、Google Classroomの限定コメントやEメールでの質問も随時受け付ける。
備考・メッセージ	授業形態はすべて対面で実施する。シラバスの内容は履修学生の理解度等により変更する場合がある。

講義科目名称： 幼児教育と情報機器演習Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称： Computer Training for Early Childhood Education Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
福田尚子・本間美重子（補助）			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：D204
添付ファイル			
幼児教育と情報機器演習2Rublic2025.pdf			

講義概要	「幼児教育と情報機器演習Ⅰ」（1年生春学期）、「幼児教育と情報機器演習Ⅱ」（2年生秋学期）を通して保育者にふさわしい情報スキルの獲得を目指す。情報モラル、必要な情報を探索する方法、収集した情報を分析評価する方法、そして自分の考えを効果的に表現する技法を演習を通して学んでいく。また、ICTを取り入れた保育や教育のあり方についても考察していく。 「幼児教育と情報機器演習Ⅱ」においては、「幼児教育と情報機器演習Ⅰ」で学んだことをベースに、より現場で役立つ実践的なスキルの獲得を目指す。具体的には、保育現場で事務作業（書類作成、データ管理、保護者や保育者間の情報共有など）を円滑に行うスキルや子ども達の興味・関心を高めたり表現力を引き出すために情報機器を活用する技法を演習を通して身に付けていく。なお、この授業では「幼児と情報機器演習Ⅰ」と同様に、Google Classroom等を活用した、双方向型授業を実施する。 担当講師は、ICT企業においてエンジニア実務経験を有する。また、英語の中学・高等学校教員免許を持つため、教育的視点と実践的視点の双方から授業を行なっていく。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　ガイダンス － 幼児教育と情報機器演習の関係性 本授業の目的、学習のねらいなどについて解説する。 現時点での実力を確認するため実力テストを行う（タイピングテストと簡単なクイズ・アンケート） F：あり 予習：「幼児教育と情報機器演習Ⅱ」（本授業）のシラバス全体をよく読み、科目の全体像を把握しておくこと（約1時間30分） 復習：タイピング練習（30分） 第2回　文書作成の復習１（情報のアウトプット） Googleドキュメントを用い、簡単な文書を作成する。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：タイピング練習（30分） 課題：授業内で指示された課題への取組(1時間) 第3回　文書作成の復習２（情報のアウトプット） 第2回授業の続きを行い、文書を仕上げていく。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：タイピング練習（30分） 課題：授業内で指示された課題への取組(1時間) 第4回　文書作成の応用１（情報のアウトプット） Googleドキュメントを用い、幼稚園のお便りを作成する。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：タイピング練習（30分） 課題：授業内で指示された課題への取組(1時間) 第5回　文書作成の応用２（情報のアウトプット） Googleドキュメントを用い、幼稚園のお便りを完成させます。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：タイピング練習（30分） 課題：授業内で指示された課題への取組(1時間) 第6回　表計算ソフトの基礎１（情報の整理） Google スプレッドシートを用い、簡単な表を作成する。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：タイピング練習（30分） 課題：授業内で指示された課題への取組(1時間) 第7回　表計算ソフトの基礎２（情報の整理、集計、分析） Google スプレッドシートを用い、簡単なデータの分析をする。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：タイピング練習（30分） 課題：授業内で指示された課題への取組(1時間) 第8回　アンケートの作成　（情報の収集、集計、分析） Googleフォームを用い、簡単なアンケートを作成する。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：タイピング練習（30分） 課題：授業内で指示された課題への取組(1時間) 第9回　表計算ソフトの基礎３（情報の収集、集計、分析）

	Googleフォームで作成したアンケートの回答を集計する。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：タイピング練習（30分） 課題：授業内で指示された課題への取組(1時間) 第10回　プレゼンテーションの復習（情報のアウトプット） Google スライドを用い、テーマに合った内容のプレゼンテーションを作成する。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：タイピング練習（30分） 課題：授業内で指示された課題への取組(1時間) 第11回　プレゼンテーションの応用１（情報のアウトプット） 第10回から12回授業まで、Google スライドを用い、幼児教育の現場でのICT活用について情報収集、情報整理し、考察した内容をプレゼンテーション資料としてまとめる。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：タイピング練習（30分） 課題：授業内で指示された課題への取組(1時間) 第12回　プレゼンテーションの応用２（情報のアウトプット） 前回の続きで、プレゼンテーションをまとめる。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：タイピング練習（30分） 課題：授業内で指示された課題への取組(1時間) 第13回　プレゼンテーションの応用３（情報のアウトプット） 前回の続きで、プレゼンテーションをまとめる。 A: あり F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：タイピング練習（30分） 課題：授業内で指示された課題への取組(1時間) 第14回　プレゼンテーションの応用４（情報のアウトプット） クラス全員の資料をGoogle　Classroomを用いて共有し、他の人の意見やまとめ方を学ぶ。 また、試験についての説明を行う。 A:あり F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：タイピング練習（30分） 課題：授業内で指示された課題への取組(1時間) 試験　期末試験 第15回　期末試験のフィードバックと学習成果の振り返り 試験のフィードバック、および、シラバスに書かれている到達目標を達成できたか各自振り返る。 予習：これまでの授業全体を通して、習得できたこと、課題などを考えて授業に臨むこと（約2時間） E：あり
教育目標との関連	本演習では、保育者として、また一社会人として必要な教養、基礎的な専門知識を身につけ、学習した知識・技術を活用して、保育や子育て支援に必要な実践・表現方法を修得する。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.保育者として、情報機器の特性（メリットデメリット）について理解し、説明することができる 3.保育者として、保育現場で有効な文書・資料や教材の開発・作成を行うことができる 4.保育者として、情報機器を保育の場で有効に使うことに関心を持ち、活用方法を検討することができる
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	期末試験　　20%：授業内容全般を理解し、自分の言葉で説明できているかを評価する。 提出課題　　50%：授業内で行う課題への取組みを評価する。 授業への参加度　30%：グループワークへの貢献度や、授業内での発言など、授業への取組み態度を評価する。 ＊評価基準は添付資料のルーブリックを参照
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回授業にて、期末試験の解説を行う。
教科書	特になし
参考書	必要に応じて資料をオンライン配信する
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業時に必要に応じて指示する。
履修上の注意、条件等	子どもや保育環境を取り巻く情報機器のあり方について常に関心を持ち、自分なりの考えを持つよう心掛けること。
オフィスアワー	授業の前後に教室で質問を受け付ける。また、Google Classroomの限定コメントやEメールでの質問も随時受け付ける。

備考・メッセージ	授業形態はすべて対面で実施する。シラバスの内容は履修学生の理解度等により変更する場合がある。

講義科目名称： 英語コミュニケーション　Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称： English　Communication　Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	１年	１単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E103
添付ファイル			
ルーブリック評価　英語コミュニケーションI.pdf			

講義概要	現在のグローバル社会では英語が必要な場面が多々あります。日本で働いても、英語が必要な時が来る可能性あります。簡単な日常英会話を身につけましょう。 中学校の英文法を身に付ければ、日常英会話の9割ができます。この授業では、基本の英文法を復習しながら、英会話を練習します。 担当講師は20年間英語を教えた経験があります。保育園から小学校、大学生と社会人まで教えた経験を踏まえ、コミュニケーションに自信が付くように授業を行います。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　Unit 1 Getting Up Be動詞を使った英文を勉強しながら、英語で自己紹介できるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）と文法（１４ページ）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分） 第2回　Unit 2 Breakfast Time 一般動詞の現在形を使った英文を勉強しながら、自分の1日の行動を英語で説明できるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）と文法（２０ページ）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分） 第3回　Unit ３ Getting Ready for School 代名詞を使った英文を勉強しながら、自分の家族や友人を紹介できるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）と文法（２５ページ）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分） 第4回　Unit 4 There’s Nothing in My Backpack 前置詞を使った英文を勉強しながら、自分の回りにあるものの位置関係を英語で説明できるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）と文法（３０ページ）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分） 第5回　Unit ５ What a Small World! 英語の疑問文の使い方を勉強しながら、相手に英語で質問をして、必要な情報を聞き出せるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）と文法（３５ページ）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分） 第6回　Unit 6 Let’s Eat 現在進行形を使った英文を勉強しながら、自分が今やっていることを英語で説明できるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）と文法（４０ページ）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分） 第7回　Unit 7 It’s a Date 過去形を使った英文を勉強しながら、その日自分がしたことを英語で説明できるようになります。 A:中　E:あり　F:あり

		復習：単語（プリント）と文法（４５ページ）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分）
	第8回	Unit 8 I Have to Study 助動詞を使った英文を勉強しながら、自分ができる、やらなければならないことを英語で言えるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）と文法（５０ページ）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分）
	第9回	Unit 9 What Do You Think of My Sketch? 疑問詞を使った英文を勉強しながら、場所や価格について英語で説明できるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）と文法（５５ページ）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分）
	第10回	Unit 10 Kanji is So Difficult 不定詞・動名詞を使った英文を勉強しながら、自分が好きなことや嫌いなことについて英語で説明できるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）と文法（６０ページ）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分）
	第11回	Unit 11 I’ll Make a Birthday Cake 未来形を使った英文を勉強しながら、これからの予定について英語で説明できるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）と文法（６５ページ）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分）
	第12回	Unit 12 Saturday or Sunday? 接続詞を使った英文を勉強しながら、おすすめのお店について詳しく英語で説明できるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）と文法（７０ページ）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分）
	第13回	Unit 13 I’m Not Good with Computers 現在完了形を使った英文を勉強しながら、自分の経験について英語で話せるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）と文法（７５ページ）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分）
	第14回	Unit 14 Which is Better? 比較級・最上級を使った英文を勉強しながら、自分が好きな料理について、比較しながら英語で説明できるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）と文法（８０ページ）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分）
	第15回	Unit 15 Surprise! 受動態を使った英文を勉強しながら、自分のお気に入りの本や音楽について英語で説明できるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 復習：期末試験のために配布されたプリントを振り返ること。（２時間）
	試験	期末試験 期末試験を行います。
教育目標との関連	早期英語教育が人気であり、外国人の子どもが増えているという日本の状況で、外国人と簡単な日常英会話でコミュニケーションが取れないといけない場面が多くなります。この授業ではその力をつけながら、基本の英文法も身につけます。	
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.英語でコミュニケーションをできる基本な表現や語彙を理解できる 2.海外や異文化に対する興味や関心を高めることができる 3.英語で自分のことを表現できる	

評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	宿題　　20%　毎週短いライティングの宿題が出ます。 平常点評価　20%　グループワークの貢献度・参加度を評価します。 期末試験　　30%　選択問題の期末試験 単語テスト　30%　毎週、単語テストがあります。 なお、提出課題についてはルーブリックの表を別途配布し、各項目のパフォーマンス評価を行います。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	期末試験はGoogle Classroomの中で返却されます。メールで質問などを受けます。
教科書	English Day!　Robert Hickling 著　金星堂出版
参考書	「マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）」　Raymond Murphy　著　Cambridge University Press 出版
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	毎週、前週の授業に出た英単語テストがあります。
履修上の注意、条件等	毎週、宿題を提出することが大事です。
オフィスアワー	授業前後に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	英語が苦手でも、やる気が大切です！積極的に参加しましょう！ この授業は対面で行います。

講義科目名称： 英語コミュニケーションⅡ　　授業コード：

英文科目名称： English Communication Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	１単位	卒業必修　幼免必修　保育士必修
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E104
添付ファイル			
ルーブリック評価　英語コミュニケーションII.pdf			

講義概要	このグローバルな社会では、英語が必要な場面があります。日本で働いても、英語が必要な時が来る可能性あります。 この授業では英語コミュニケーションIで勉強した文法の基本にして、保育園で使える英語を勉強します。毎週、テーマ別に表現と語彙を勉強して、練習します。 ジョーンズは20年間英語を教える経験があります。保育園から小学校、大学生と社会人まで教えた経験から、コミュニケーションに自信が付くように授業を行います
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　Please Speak More Slowly 英語でコミュニケーションをするときの基本表現を勉強します。保育園での基本語彙を勉強します。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分） 第2回　Unit 1: Hi, I’m Yuri Tanaka 挨拶・自己紹介で使う表現を勉強します。英語で自己紹介できるようになります。人に何かを頼む表現を勉強します。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分） 第3回　Unit 2: Where is the Multi-purpose Room? 位置を伝える表現を勉強しながら、英語で簡単に園内の案内できるようになります。道案内に使う英語も勉強します。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分） 第4回　Unit 3: Good Morning. How Are You Today? 登園時の簡単な会話を勉強します。体調を聞く・答えるを英語でできるようになります。自分の持ち物について英語で説明できるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分） 第5回　Unit 4: What Color Do You Like? 工作時間の会話を勉強しながら、好き嫌いを英語で聞けるようになります。工作道具を英語で説明できるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分） 第6回　Unit 5: There’s a Ladybug on the Leaf 場所を表す表現を勉強しながら、自分の回りにあるものを英語で説明できるようになります。園外散歩での会話で使う表現を勉強します。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分） 第7回　Unit 6: It’s Time to Play Outside 命令文を勉強しながら、外で遊ぶときの簡単な会話をできるようになります。園庭にあるものを表す語彙を勉強します。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分） 第8回　Unit 7: She Is Allergic to Eggs 食材の語彙を勉強しながら、自分の食に関する好き嫌いを英語で説明できるようになります。手

	洗いや歯磨きのとき使う表現を勉強します。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分） 第9回　Unit 8: You Should Go to the Bathroom お昼寝時間の会話を勉強しながら、英語で児童にしなければならないこと・する必要があることを言えるようになります。英語のジェスチャーを勉強します。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分） 第10回　Unit 9: We Made Masks Today 降園時の会話を勉強しながら、英語で1日の活動や様子を説明できるようになります。気持ちや表情を表す表現を勉強します。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分） 第11回　Unit 10: If It Rains, What Happens? 仮定の表現を勉強しながら、園の行事予定を英語で説明できるようになります。体操で使う表現を勉強します。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分） 第12回　Unit 11: What Shall We Do Today? Shall I/we…?とWill you…?の表現を勉強しながら、英語で他の保育士と簡単な打ち合わせをできるようになります。時間を表す表現を勉強します。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分） 第13回　Unit 12: I Feel Feverish 病気やけがのときに使う表現を勉強しながら、体調不良の児童と会話をできるようになります。医療品と体の部分の語彙を勉強します。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分） 第14回　Unit 13: This is Yuri from Cosmos Day Care Center 電話対応で使う表現を勉強しながら、簡単な電話を英語でできるようになります。伝言で使う表現を勉強します。 A:中　E:あり　F:あり 復習：単語（プリント）を振り返ること。（３０分） 復習：授業中に配布されたプリントの質問を答えること。（１５分） 第15回　Unit 14: Thank You Very Much for Everything お別れのときに使う会話を勉強しながら、お礼を英語で言えるようになります。音楽の活動に使う表現を勉強します。 A:中 復習：期末試験のために配布されたプリントを振り返ること（２時間） 期末試験　期末試験 筆記試験を行います。
教育目標との関連	初期英語教育が人気であり、外国人の子供が増えているという日本の状況で、外国人と簡単な日常英会話でコミュニケーション取れないといけない場面が多くになります。この授業ではその力をつけながら、保育園で使える表現と語彙を勉強します。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.教育・保育現場で使う英語の表現が理解できる 3. 保育に関する基本的な英語の語彙を正しく使うことができる 2. 異文化理解を深めることができる
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	宿題　20%　毎週短いライティングの宿題が出ます。 平常点評価　20%　グループワークの貢献度・参加度を評価します。 期末試験　30%　筆記試験があります。 単語テスト　30%　毎週、単語テストがあります。 なお、提出課題についてはルーブリックの表を別途配布し、各項目のパフォーマンス評価を行います。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	期末試験はGoogle Classroomの中で詳しい解説付きで返却されます。質問などをメールで受けます。
教科書	「Happy English for Childcare」　土屋　麻衣子　編　金星堂
参考書	「マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）」　Raymond Murphy　著　Cambridge University Press 出版
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な	毎週は先週の授業に出た英単語テストがあります。

時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	授業前後に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	英語が苦手でも、やる気が大切です！積極的に参加しましょう！ この授業は対面で行います。

講義科目名称： 文章表現法　　授業コード：

英文科目名称： Japanese Writing Skills

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	卒業必修　幼免必修　保育士必修
担当教員			
相澤京子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：なし	ナンバリング：E102
添付ファイル			
「文章表現法」ルーブリック2025.pdf			

講義概要	自分の意思を言葉によって的確に表現することは、学生としても保育者としてもあらゆる活動の基礎となる。しかし、普段から話したり書いたりしている日本語を改めて振り返る機会はほとんどないであろう。そこで本講義では、自身の用いている日本語を見直すことからはじめ、自身の考えを適切な文章で書き表すための基本的なルールを具体的な演習課題を通して習得し、各自の日本語力の向上を図ることを目的とする。 他の科目との関連：自分の思いを文章で書き表す行為は、本学で開講されているすべての講義の基盤となる。特に、「キャンパスライフデザイン」では、本講義での学びを生かし、実際にレポートを作成する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション―保育者に必要な文章力とは― シラバスを用いて、本講義のねらいと内容、及び受講上の注意と約束を説明する。 保育者に必要な文章力とは何か、また日本語力を向上させるためにはどのようにしたら良いかについて学ぶ。 予習：シラバスをよく読み、科目の全体像を把握しておく。（約1時間） 復習：自身の言葉への関心度・言語環境を振り返り、改善できるところはないか考える。（約1時間） A:中　E:あり 第2回　日本語を豊かにするためのツール 日本語を豊かにするためのツールとして、辞書と新聞の使い方を学ぶ。 復習：配布したプリントを見直しておく。（約2時間） A:多 第3回　日本語の特徴と表記 諸外国語と比較した際の日本語の特徴を理解するとともに、正しい字形・表記で書くための留意点を学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。（約1時間） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約1時間） A:中 第4回　文章表現の基本① 主語と述語の見分け方を学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。（約1時間） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約1時間） A:中 第5回　文章表現の基本② 主語と述語が呼応したねじれのない文章を書くための留意点を学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。（約1時間） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約1時間） A:中 第6回　文章表現の基本③ 話し言葉と書き言葉の違いと、文体について学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。（約1時間） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約1時間） A:中 第7回　文章表現の基本④ 副詞の呼応と、効果的な接続詞に使い方を学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。（約1時間） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約1時間） A:中 第8回　作文演習① 原稿用紙の使い方を確認する。文例を参考にしながら、400字の作文を書く。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。（約1時間） 復習：自身の書いた作文を見直し、推敲する。（約1時間） A:中 第9回　敬語の基礎① 敬語の種類とよく使う表現を学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。（約1時間） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約1時間） A:中 第10回　敬語の基礎② 誤りやすい敬語表現を理解する。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。（約1時間） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約1時間） A:中 第11回　敬語の応用 これまでに学んだ敬語を活用し、ロールプレイを行うための原稿を作成する。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。（約1時間）

	復習：配布したプリントを見直しておく。（約1時間） A:多 第12回　改まった手紙を書く① 改まった手紙の書き方を学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。（約1時間） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約1時間） A:中 第13回　改まった手紙を書く② 実際に便箋を使って改まった手紙を書く。封筒の使い方を学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。（約1時間） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約1時間） A:中 第14回　作文演習② 作文演習①で書いた作文をリライトする。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。（約1時間） 復習：自身の書いた作文を見直す。（約1時間） A:中 第15回　総括と学びの振り返り 授業の総括を行うとともに、各自の到達度を振り返ることにより今後の学習課題を明確にする。 復習：これまでの授業のノート・プリント類を整理し、授業の内容を振り返っておく。（約2時間） E:あり
教育目標との関連	各自の日本語力の向上を図ることにより、学習した知識を適切に相手に伝達することができる。また、読まれることを意識しながら文章を作成することは、自らを客観的に見る視点と他者に配慮する姿勢を養うことにつながる。
到達目標　（学修成果）　　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	L03.日本語の表記・文法などの基本的なルールを理解した上で表現できる L05.文章を作成する際に、読み手の立場を尊重できる
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	期末試験　60%　・授業内容全般を理解し、日本語の基礎が身についているかを評価する 授業における取り組み　30%　・授業内容を理解した上で課題に取り組んでいるかを評価する 小テスト　10%　・範囲を指定して出題する小テストに対する取り組みを評価する 成績評価は添付資料のルーブリックを参照すること。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回目の授業時に期末試験の答案用紙をもとに各自の課題を明確化するための個人面談を行う。
教科書	毎回プリントを配布する。
参考書	特になし
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の準備学習は上記の通りである。 本講義の受講前に『入学前課題～ことばと漢字～』に取り組み、自己採点をしておくこと。
履修上の注意、条件等	クラス分けテストにより、上級と初級のクラスに分けて授業を行う。 シラバスの内容は履修学生の理解度等によって変更の可能性もある。
オフィスアワー	103研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。また、Googleクラスルームの限定コメントでも受け付ける。
備考・メッセージ	すべて対面授業で行う。 日本語の能力を高めるためには、日々の積み重ねが肝要である。従って、授業に休まず出席し、演習課題をこなすことが何よりも求められる。また、日常生活においても活字に触れる機会を増やすとともに、自身や他者の用いる日本語に敏感になってもらいたい。

講義科目名称： キャンパスライフデザイン　　授業コード：

英文科目名称： Campus Life Design

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
春学期	1年	1単位	卒業必修　保育士必修　幼免必修	
担当教員				
大見由香　相澤京子　他担任（専任教員）				
授業形態：演習	担当形態：共同		実務経験：あり（全員）	ナンバリング：H105
添付ファイル				
Campus Rubic 2024.pdf				

講義概要	本科目は、建学の精神、教育理念を体現した初年次教育という位置づけである。自らの人生において、どのようなプロセスを描き、何を実現したいかを明確にするのがキャリアデザインである。本科目である「キャンパスライフデザイン」は、建学の精神、キャンパスライフスタートアップ、保育の基礎、キャリア・プランニング、社会人基礎力アップの5つのシリーズで編成されている。1年生対象の本科目は、初年次教育として短大生活へのスムーズな移行を促すこと、そして自身がどのような人生設計を描くのか、キャリアイメージをふくらませていくことを目的とする。また、本科目の担当教員は、主に1年生の担任教員で構成され、全員が大学教員以外の社会人経験（一般企業等）を持ち、様々な視点から社会人基礎力の向上のための授業をおこなう。 第15回目授業のみライブ配信で行う。 他の教科との関連：本学で開講されているすべての科目の基礎となるのが本科目である。レポートの書き方等、短大での学びの基礎を培う。また、園児との自然遊びの授業も含まれており、子どもと関わる実体験によって実習の基礎ともなっている。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　建学の精神に学ぶ①　研修（日帰り）チームビルディング・短大生のマナー ●概要…この授業は、新入生のクラスごとに短大近郊の三輪緑地を活用して日帰りでおこなう研修である。チームビルディングにより、学生生活を支えあう仲間との信頼関係やアクティブラーニングの姿勢をつくる。また、保育者を目指す学生としてのマナーを演習形式で学ぶ。 ●予習…オリエンテーションの資料にしっかり目を通し、事前準備を整える。（30分） ●アクティブラーニング…A　多　C 多　D　中　E　あり 第2回　キャンパスライフ・スタート講座①　図書館との出会いと味わい・実習の流れと実習園の選び方 ●概要…学びの源である本学の豊かな図書館をどのように活用できるかを紹介する。 ●予習…事前に図書館を訪れ、どのような活用ができそうか調べておくこと。（30分） ●宿題…園を調べ、希望調査票に記入する（60分） ●アクティブラーニング…C　多　F　あり 第3回　建学の精神に学ぶ②　オリエンテーション・海外フィールドワークⅡの報告 ●概要…授業概要 ●海外フィールドワークⅡ（ニュージーランド研修）の報告を聞く ●予習…ニュージーランドについて図書館やネットで調べておく（30分） ●宿題…感想を記入する。（30分） ●アクティブラーニング…B　少　F　あり 第4回　保育の基礎① 子どもたちと一緒に遊ぼう１　たけのこ掘り ●概要…附属園の子どもたちを短大に招き、クラスごとに子どもたちと一緒に遊び、保育の基本となる子ども理解を深めよう。 ●予習…本学の附属園（認定こども園と小規模保育園2園）について図書館やインターネット等で調べ、どのような方針をもち、どのような年齢層の子ども達がいるか事前に理解しておく。（30分） ●宿題…学びを所定の用紙に記録する。（30分） ●アクティブラーニング…C　多　F　あり 第5回　キャンパスライフ・スタート講座②　担任との個人面談 ●概要…担任との面談を通して、これからの学生生活の目的を確認する. ●アクティブラーニング…B　少 第6回　キャンパスライフ・スタート講座③　コミュニケーション力テストと名札製作 ●概要… ・コミュニケーション力テストを実施する。 ・保育実習でエプロンにつける名札の製作を行う。 ●予習…事前に名札の材料や裁縫道具を準備し、デザインを考えておく（30分） ●復習…指示に従って、感想文を作成し提出する。（60分） ●アクティブラーニング…E　あり　/　F　あり 第7回　建学の精神に学ぶ③　愛の教育、国際こども教育の学びへの誘い ●概要… ・ねらいと内容・教員紹介 ・建学の精神：愛の教育 ・聖書贈呈式（写真撮影あり） ●復習…振り返りアンケートを行いない「愛」について考察する。（30分） ●アクティブラーニング…B　少 第8回　キャンパスライフ・スタート講座④　文章で表すことー課題文を読み、引用するー ●概要…レポートとは何かということと文献の引用について考え方を理解し、実際にPCでレポートの一部を作成する。 ●予習…学生ハンドブックのレポートの書き方の部分に目を通しておく。（60分） ●アクティブラーニング…E　あり　/　F　あり 第9回　保育の基礎②　幼稚園観察実習 ●概要…附属幼稚園を訪問し、クラスごとに子どもたちと一緒に遊び、保育の基本となる子ども理解を深めよう。 ●予習…本学の附属幼稚園について図書館やインターネット等で調べ、どのような方針をもち、

	どのような年齢層の子ども達がいるか事前に理解しておく。（30分） ●宿題…学びを所定の用紙に記録する。（30分） ●アクティブラーニング…C　多　　F　あり 第10回　キャンパスライフ・スタート講座⑤　文章で表すことーアウトラインを作成するー ●概要…レポートのアウトラインを作成する。 ●予習…前回までのレポートの書き方について授業を復習し、指定されたところまでレポートを作成しておく。（60分） ●アクティブラーニング…E　あり　/　F　あり 第11回　保育の基礎③　子どもたちと一緒に遊ぼう２　梅ちぎりと梅ジュース作り ●概要…附属園の子どもたちを短大に招き、クラスごとに子どもたちと一緒に遊び、保育の基本となる子ども理解を深めよう。 ●予習…本学の附属園（認定こども園と小規模保育園2園）について図書館やインターネット等で調べ、どのような方針をもち、どのような年齢層の子ども達がいるか事前に理解しておく。（30分） ●宿題…学びを所定の用紙に記録する。（30分） ●アクティブラーニング…C　多　　F　あり 第12回　キャンパスライフ・スタート講座⑥　文章で表すことーレポートを完成するー ●概要…これまでのレポートの書き方に関する授業の内容を受けて、レポートの課題の仕上げをおこなう。 ●予習…自身がここまで書いたレポートについて見直しておく。（60分） ●アクティブラーニング…E　あり　　F　あり 第13回　保育の基礎④　保育の仕事とは ●概要…外部講師による講話：保育の仕事とは、ふれあい体験の紹介 ●予習…保育所の一日の流れ、環境設定、子どもや保育者の活動について事前に調べておく（30分） ●アクティブラーニング…D　中 第14回　保育の基礎⑤　読み聞かせの実践に向けてー発音・発声の基礎ー ●概要…外部講師による実践的な講義により、読み聞かせの基礎となる発音・発声の仕方、気持ちを言葉にのせる方法を理解する。 ●予習…読み聞かせの方法や留意点について、図書館やインターネット等で調べておく。（30分） ●アクティブラーニング…D　中 第15回【ライブ配信】　キャリア・プランニング講座①　保育者として働くということ　～保育所・幼稚園・施設で活躍する卒業生の講演～ ●概要…保育者としての現在のしごとについて卒業生の話を聴き、対話する。学生の視点で、積極的に質問をしてもらいたい。 ●予習…学生支援スペースで、就職先のファイルや卒業生の残した資料を見ておく（60分） ●アクティブラーニング…B　少 第16回　保育の基礎⑥　子どもたちと一緒に遊ぼう３　水遊び ●概要…附属園の子どもたちを短大に招き、クラスごとに子どもたちと一緒に遊び、保育の基本となる子ども理解を深めよう。 ●予習…本学の附属園（認定こども園と小規模保育園2園）について図書館やインターネット等で調べ、どのような方針をもち、どのような年齢層の子ども達がいるか事前に理解しておく。（30分） ●宿題…学びを所定の用紙に記録する。（30分） ●アクティブラーニング…C　多　　F　あり 第17回　社会人基礎力アップ講座①　先輩の実習報告を通じて保育者に求められる知識・技術・資質を学ぶ ●概要…２年生による実習報告を聞き、具体的な実習内容・実習に向けた準備について学ぶ。 ●予習…実習に先立ち、先輩に質問したい事柄を考えておく。保育士養成校における実習について本やインターネットで調べておく（60分） ●アクティブラーニング…　D　中 第18回　社会人基礎力アップ講座②　救命救急講習＜講義＞＜演習＞ ●概要…約４時間の普通救命講習を受講する。修了者には、3年間有効な「救命技能認定証」が後日交付される。内容は、AEDの実技講習を含む。クラスごとに、2日間に分かれて実施する。 コミュニケーションテスト　フィードバック ●予習…身近な施設のどこにAEDが設置されているのか調べておくこと。（60分） ●アクティブラーニング…A　多
教育目標との関連	本学の建学の精神の根幹をなすのは「愛の教育」であり、創立以来の本学の教育理念の2つの柱の一つには、「家庭にあっても社会にあっても、世界にあっても、自分のおかれた環境に地歩を固め、自分らしく生きることができる力をもった人材を育成」とある。幸せに生きるためには力が必要である。その力を獲得するためには、自分らしく生きるとはどのようなことかを深く考え、自らの置かれた環境はどのようなものかを的確に認識し、自ら切り開くことのできる人生の選択肢は何かを見定め、社会の変化を受容しながら努力をすることが必要となる。本科目では、幅広い観点から、子どもと関わる自身の生き方について考える機会を提供する。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解　２．思考・判断　３．技能・表現　４．関心・意欲　５．人間性・社会性	L01.保育者として国内外で活躍するため、あるいは自ら子育てに関わるために必要な教養を身につけている L02.社会の変化や自身に求められている役割をもとに、自らの生き方について判断ができる L03.学んだ教養を活用して、大学生活や社会生活に必要な実践・表現ができる L04.現代の社会情勢に関心をいだき、自ら主体的に関わろうとする意欲をもっている L05.多様性を持った他者に対し、愛情をもって協力・協働を図ることができる
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	１．評価方法 期末テスト　　50%　・授業の理解度とともに、自身が感じたこと、考えたことを真摯にまとめているかを評価する。入学前課題はこの授業の期末テスト受験の条件となる。 レポート課題　　50%　・所定のレポートの書き方の理解度と表現力を評価する。

期末試験・期末レポートのフィードバック方法	期末レポートのフィードバックは後日配信する。
教科書	なし。授業回ごとにGoogle Classroomに資料や提出課題を掲載する。
参考書	なし。授業回ごとに参考文献は紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の授業テーマや外部講師について、予習として図書館などで調べておくこと。復習として、授業で配布した資料を必ずファイルに整理し、自身の成果物とともにポートフォリオとしてまとめていくこと。毎回、30分～1時間の事前事後学習の時間をとること。
履修上の注意、条件等	外部講師の授業は、スーツを着用すること。
オフィスアワー	担当教員の各研究室にて質問・相談を受け付ける。時間は掲示板および研究室前に掲示するが、それ以外の時間でも在室時は可能な限り対応する。遠隔授業回はGoogle Classroomの限定コメントで受け付ける。また、欠席票もGoogle Classroomから受け付ける。
備考・メッセージ	自らのキャリアについて主体的に考えるのは自分自身である。自分自身と向き合うことは時として難しいが、感性を豊かにすることにより、周囲との関係性からヒントが得られることも多い。本科目では、自分自身の生き方について前向きに考えるきっかけを多く提供していきたいと考えている。第15回目授業のみライブ配信で行う。

講義科目名称： キャリアデザイン（こども教育コース）　　授業コード：

英文科目名称： Career Design

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	1単位	卒業必修　幼免必修　保育士必修
担当教員			
相澤京子　間野百子　織壁佐和子　赤松広美			
授業形態：演習	授業形態：共同	実務経験：あり（全員）	ナンバリング：H202
添付ファイル			
「キャリアデザイン（こども教育コース）」ルーブリック2025.pdf			

講義概要	本科目は「キャンパスライフデザイン」に続き、建学の精神、教育理念を体現した教養科目という位置づけである。「キャリア」とは、単なる職歴・経歴だけではなく、仕事を通じて実現できる生活やライフイベントなどを含んだ生涯にわたるライフスタイルのプロセスを指す。自らの人生において、どのようなプロセスを描き、何を実現したいのかを明確にするのがキャリアデザインである。本科目では、1年次の「キャンパスライフデザイン」に引き続き、キャリア・プランニング、社会人基礎力アップ、就職活動の3つのシリーズで編成されている。その中でも、2年生対象の本科目は社会人基礎力アップと就職活動シリーズが中心となる。本科目の担当教員は、それぞれの就業経験を生かし、学生の卒業後のキャリアを見通した上で指導・助言を行う。 他の教科との関連：本学で開講されているすべての科目を踏まえた上で、社会人への橋渡しをするのが本科目である。特に「キャンパスライフデザイン」は本科目の土台となるものである。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　キャリア・プランニング①　就職活動の流れと進路希望調査 【対面】 本授業の概要とともに、学生支援室や2年生担任とどのように就職活動を進めていくか、全体の流れ（様々な進路の概要・園選び・見学、就職試験、内定から新人研修）とそのスケジュールを説明する。また、進路希望調査を行う。 予習：シラバスをよく読んでおく。自身の進路について、現段階の考えをまとめておく。（約1時間） A：少 第2回　キャリア・プランニング②　担任面談 【対面】 1年次の学びについて振り返り、2年次の目標を立てるとともに、卒業後の進路（進学・就職）についての各自の考えを担任と共有する。 予習：学生支援スペースを訪れ、自らの勤務希望地域にある園や施設の昨年度の求人内容について知っておく。（約1時間） B：少 第3回　就職活動シリーズ①　自己分析のためのワーク 【対面】 履歴書の作成をはじめる前に、まず自己分析が大切である。自己分析の際には、自身をより客観的に見つめるために、友人からコメントをもらうことにより、互いに自己理解を深めていく。 予習：自身の長所と短所を言えるようにしておく。（約1時間） A：中 第4回　社会人基礎力アップ①　お金の教養と求人票の読み取り方 【対面】 求人票に出てくる言葉の意味は何か、そこからどのようなことを考えればいいのか、社会人として必要な視点を獲得する。また、成年年齢引き下げによる消費者教育として、生活をするためにどの程度のお金がかかるかを実際に計算する。 予習：学生支援スペースで就職希望地域の園や施設の求人票を見ておく。（約1時間） B：中 第5回　キャリア・プランニング③　保育者として働くということ　～保育所・幼稚園・施設・海外で活躍する卒業生の講演～ 【Meet】 就職活動や就職後の現在の仕事について、幼稚園・保育園・施設・海外の保育現場で働く卒業生の話を聴き、対話する。 予習：卒業生が勤務している園や施設等について調べておく。（約1時間） B：少 第6回　就職活動シリーズ②　履歴書・エントリーシート作成のポイント 【対面】 就職活動を始める前に知っておきたい労働法や制度、就職活動に伴うハラスメントの留意点について学ぶ。また、自己PR、保育観など、履歴書・エントリーシートに必要な要素を考え、まとめる。 予習：自身の長所や短所から、自己PRを書けるようにしておく。（約1時間） B：中 第7回　就職活動シリーズ③　園見学の流れと留意点／夏休み中の就職活動について 【対面】 園見学の流れと留意点を学ぶ。また、夏休み中の就職活動について確認する。 予習：自身が見学したい園や施設等を探しておく。（約1時間） B：少 第8回　キャリア・プランニング④　JICA講演を聴く 【対面】 JICA海外協力隊事業概要とJICA海外協力隊経験者体験談を聞くことにより、開発途上国での生活や活動の様子を知り、異文化理解を深める。 予習：JICAの活動について、調べて考えておくこと。（約30分） B：少 第9回　キャリア・プランニング⑤　担任面談と履歴書完成

	【対面】 担任と個人面談をし、自己PRなどを中心に、履歴書を完成に近づける。面談以外の時間は、担任から返却された履歴書の修正をおこなう。 予習：担任との面談に備え、卒業後の進路について家族と話をしておく。（約1時間） B：少　F：あり 第10回　就職活動シリーズ④　学内就職説明会 【対面】 本格的な就職活動の前に、学内就職説明会をおこなう。協力してくださる園や施設のブースを練習として回り、話をうかがう。 予習：出展する園や施設について調べておく。（約1時間） B：中 第11回　就職活動シリーズ⑤　面接時のマナーと留意点／内定後の対応について 【対面】 面接シミュレーションに向けて、面接時のマナーと留意点を学ぶ。また、内定後の対応についても学ぶ。 復習：面接時のマナーについて、動画等で確認しておく。受験予定の園にあわせて志望動機を考え、履歴書を完成させておく。（約1時間） B：少　F：あり 第12回　就職活動シリーズ⑥　面接シミュレーション 【対面】 受験で最も大切な面接にむけて、職員による面接シミュレーション（模擬面接）をおこなう。 復習：自身の面接の反省点と友人の面接から学んだことをまとめておく。（約1時間） B：中　F：あり 第13回　社会人基礎力アップ②　文化祭におけるクラス企画のプレゼンと当日の参加 【対面】 文化祭でのクラス企画の内容を全員に共有するために代表者がプレゼンテーションをおこなう。また、自分のクラスのクラス企画の運営をする。 復習：他のクラスのクラス企画を見学し、工夫や配慮をした点を学ぶ。（約1時間） A：中　D：中 第14回　社会人基礎力アップ③　労働法の基礎知識 【対面】 外部講師を招き、働くために知っておきたい労働法や、責任ある市民としての知識を学ぶ。 予習：労働法に関する本を図書館で探し、読んでおく。（約1時間） B：少 第15回　社会人基礎力アップ④　コミュニケーション力テスト／各種アンケート 【対面】 2回目のコミュニケーション力テストを行い、2年間での成長を測る。また、各種アンケート調査をおこなう。 予習：本学での2年間で身につけたコミュニケーション力について振り返っておく。（約1時間） B：少 第16回　社会人基礎力アップ⑤　お金の基礎知識 【対面】 外部講師を招き、社会人として知っておきたいお金の基礎知識について学ぶ。 予習：金融教育に関する本を図書館で探し、読んでおく。（約1時間） B：少 第17回　社会人基礎力アップ⑥　職場での良好な人間関係構築／各種アンケート 【対面】 早期離職対策として、職場での良好な人間関係構築について学ぶ。また、コミュニケーション力テストのフィードバックや各種アンケート調査をおこなう。 予習：本学での2年間の学びを振り返っておく。（約1時間） A：少　E：あり
教育目標との関連	本学の建学の精神の根幹をなすのは「愛の教育」であり、創立以来の本学の教育理念の2つの柱の一つには、「社会でも家庭でも自分らしく生きられる人材の育成」とある。幸せに生きるためには力が必要である。その力を獲得するためには、自分らしく生きるとはどのようなことかを深く考え、自らの置かれた環境はどのようなものかを的確に認識し、自ら切り開くことのできる人生の選択肢は何かを見定め、社会の変化を受容しながら努力を重ねることが必要となる。本科目では、幅広い観点から、子どもと関わる自身の生き方について考える機会を提供する。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L01.国内外での専門職としての保育者や自らの子育てに関わることを理解できる L02.社会の変化や周囲の状況を踏まえ、自身に求められる役割や生き方を判断できる L03.他者の意見を傾聴した上で自らの意志（特にキャリアについて）を表現できる L04.子どもを取り巻く広い世界に関心をもち、積極的に関わろうする意欲をもつ L05.自身が受けた愛情を理解し、愛情をもって他者に奉仕できる
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	期末試験　30%　・1年間の授業を通して、自身のキャリア形成に対する意識が高まったかどうかを評価する。 授業における取り組み　20%　・授業内での積極的な質問やグループワーク、ペアワーク、個人ワークなどへの取り組み姿勢や貢献度を評価する。 課題等の取り組み　50%　・講義内容について感じたこと、考えたことを自身の言葉でまとめられているか、期限内に提出できているかを評価する。 成績評価は添付資料のルーブリックを参照すること。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回の授業で期末試験の振り返りを行う。
教科書	必要に応じてプリントを配布する。また、就職関連の資料はGoogleクラスルームに随時掲載する。

参考書	なし
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の授業テーマや外部講師について、あらかじめ図書館などで調べておくこと。
履修上の注意、条件等	「キャンパスライフデザイン」を履修していること。 外部講師の講演や面接練習などの授業は、スーツを着用すること。
オフィスアワー	担当教員の各研究室にて質問・相談を受け付ける。時間は研究室前に掲示するが、それ以外の時間でも在室時は可能な限り対応する。また、Googleクラスルームの限定コメントでも受け付ける。
備考・メッセージ	第5回はMeet、それ以外は対面で授業を行う。 自らのキャリアについて主体的に考えるのは他でもない自分自身である。自分自身と向き合うことは時として難しいが、周囲との関係性からヒントが得られることも多い。本科目では、自分自身の生き方について前向きに考えるきっかけを多く提供したいと考えている。

講義科目名称： キャリアデザイン（国際こども教育コース）　　授業コード：

英文科目名称： Career Design

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
通年	2年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修	
担当教員				
大見由香、相澤京子、八木真祈				
授業形態：演習	授業形態：共同	実務経験：あり（全員）	ナンバリング：H202	
添付ファイル				
キャリア国際 Rubric2025.pdf				

講義概要	本科目は「キャンパスライフデザイン」に続き、建学の精神、教育理念を体現した教養科目という位置づけである。「キャリア」とは、単なる職歴・経歴だけではなく、仕事を通じて実現できる生活やライフイベントなどを含んだ、生涯にわたるライフスタイルのプロセスを指す。自らの人生において、どのようなプロセスを描き、何を実現したいかを明確にするのがキャリアデザインである。本科目である「キャリアデザイン」は、1年次の「キャンパスライフデザイン」に引き続き、キャリア・プランニング、社会人基礎力アップ、の2つのシリーズで編成されている。2年生国際コース対象のキャリア・プランニングシリーズは、グローバルの視点での内容が中心となる。本科目の担当教員は、それぞれの就業経験を生かし、学生の卒業後のキャリアを見通した上で指導・助言を行う。 他の教科との関連：本学で開講されているすべての科目を踏まえた上で、社会人への橋渡しをするのが本科目である。特に、「キャンパスライフデザイン」は本科目の土台となるものである。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　キャリア・プランニング①担任面談 ●概要…様々な進路の概要とを確認した後、卒業後の進路（進学・就職）についての各自の考えを担任と共有する。 ●予習…国際コースの学びをどのように生かせるか、調べて考えておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…B　少　　F　あり 第2回　キャリア・プランニング② NZ研修報告会 ●概要…海外フィールドワークⅡ（ニュージーランド研修）の報告を聞く ●予習…ニュージーランドについて図書館やネットで調べておく（約30分） 宿題…感想を記入する。（30分） ●アクティブラーニング…B　少　　F　あり 第3回　キャリア・プランニング③ インタープリ見学体験に向けて1 ～Planting sweet potato seedlings～ ●概要…インタープリ園児との交流を通して自身の英語力の課題を見つけ今後に生かせるようにする。 ●予習…芋の苗植えやヤギと触れ合う際にどのような英単語や会話が必要なのか自身で考え準備をしておく。（約60分） 復習…活動を通して自身の課題を見つけ、今後の英語に対する取り組みついて考えまとめる。 ●アクティブラーニング…C：多　　F：あり　G：多 第4回　キャリア・プランニング④ マレーシアの幼児教育 ●概要…マレーシアの保育者経験について講演を聞き、文化の違いや異国での幼児教育について考察する。 ●予習…マレーシアについて調べておく（約30分） ●宿題…授業の振り返り課題を行う（約30分） ●アクティブラーニング…A：中　B：中　E：あり　F：あり 第5回　キャリア・プランニング⑤ SDGｓと教育の役割 ●概要…SDGsについての動画を鑑賞し、SDGと教育の役割について考える ●予習…SDGsについて調べておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…B　少　E　あり　F　　あり 第6回【Meet】　キャリア・プランニング⑥ 保育者として働くということ　～保育所・幼稚園・施設で活躍する卒業生の講演～ ●概要…就職活動や就職後の現在のしごとについて卒業生の話を聴き、対話する。 夏休み中の就職活動について確認する。 ●予習…学生支援スペースで就職希望地域の園の求人票をみて調べておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…B　少　E　あり　F　　あり 第7回　キャリア・プランニング⑦ 異文化体験 ●概要…プロジェクトを通して英語や異文化に触れ、国際コース1年生と異文化体験をシェアする。 ●予習…プロジェクトで導入する国や文化について図書館やネットで調べておく。（約60分） ●アクティブラーニング…A　　多　D　　多　　F　あり 第8回　キャリア・プランニング⑧ 履修カルテ面談 ●概要…担任と個人面談を行い、春学期の学びを振り返り今後の課題を見出す。 ●予習…担任との面談に備え、進路について考えておくこと。（約60分） ●アクティブラーニング…B　少　　F あり 第9回　キャリア・プランニング⑨ SSCとの対話 ●概要…カナダ在住の教員や、本学カナダ研修生とオンラインで繋ぎ、カナダの紹介、質疑応答などを行う。 ●予習…バンクーバについて調べておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…B　中 第10回　キャリア・プランニング⑩ JICA講演を聴く ●概要…JICA 海外協力隊事業概要を聴く、JICA 海外協力隊経験者体験談を聴く ●予習…JICAの活動について、調べて考えておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…B　少

	第11回	キャリア・プランニング⑪ インタープリ見学体験に向けて２ ～Sweet Potato Digging～ ●概要…インタープリ園児との交流を通して自身の英語力の課題を見つけ今後に生かせるようにする。 ●予習…前回の芋の苗植えやヤギとの触れ合い学習の際を振り返り、自身のたてた英語の課題に取り組めていたかを振り返る。また芋ほりでどのような英単語や会話が必要なのか自身で考え準備をしておく。（約60分） 復習…活動を通して自身の課題を見つけ、今後の英語に対する取り組みついて考えまとめる。 ●アクティブラーニング…C：多　F：あり　G：多
	第12回	キャリア・プランニング⑫ EICの見学体験に向けての準備 ●概要…11月のEIC見学体験に向けて、英語での絵本読み、うたや導入、まとめなどの演習を行い、現場での声かけや配慮点について学習する。 ●予習…希望の年齢に合った絵本を選び練習しておく。（約60分） 復習…課題点を修正し。 ●アクティブラーニング…A ：中　D：中　E：あり　F：あり
	第13回	社会人基礎力アップ② 文化祭におけるクラス企画のプレゼンと当日の参加 文化祭でのクラス企画の内容について、各クラスが全員に共有するために代表者がプレゼンテーションをおこなう。自分のクラスのクラス企画の運営をする。 復習：他のクラスのクラス企画を見学し、工夫や配慮をした点を学ぶ。（約60分） A：中　D：中
	第14回	キャリア・プランニング⑬ EICの見学体験 ●概要…イングリッシュイマージョン教育を行う附属園EICの見学を行い、子どもと英語で接し、絵本読みなどの実技を行う。 ●予習…質問を考えておくこと、年齢に合った絵本を選んで練習しておくこと（約45分） ●宿題…見学体験の振り返りを行う（約30分） ●アクティブラーニング…C　D　多　E　あり　F　あり
	第15回	キャリア・プランニング⑭ インターナショナルスクールの見学体験 ●概要…インターナショナルスクールの見学を行い、子どもと英語で接する。 ●予習…質問を考えておくこと（約30分） ●宿題…見学体験の振り返りを行う（約30分） ●アクティブラーニング…C　D　多　E　あり　F　あり
	第16回	キャリア・プランニング⑮ SSCとの対話 ●概要…カナダ在住の教員や、本学カナダ研修生とオンラインで繋ぎ、カナダの紹介、質疑応答などを行う。 ●予習…バンクーバについて調べておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…B　中
	第17回	社会人基礎力アップ③ 労働法の基礎知識 外部講師を招き、働くために知っておきたい労働法や、責任ある市民としての知識を学ぶ。後半は2回目のコミュニケーション力テストを行い、2年間での成長を測る。 予習：労働法に関する本を図書館で探し、読んでおく。（約60分） B：少
	第18回	社会人基礎力アップ④ コミュニケーション力テスト 各種アンケート 2回目のコミュニケーション力テストを行い、2年間での成長を測る。また、各種アンケート調査をおこなう。 予習：本学での2年間で身につけたコミュニケーション力について振り返っておく。（約60分） B：少
	第19回	社会人基礎力アップ⑤ お金の基礎知識 ●概要…外部講師を招き、社会人として知っておきたいお金の基礎知識について学ぶ。 ●予習：金融教育に関する本を図書館で探し、読んでおく。（約60分） ●アクティブラーニング…B：少
	第20回	社会人基礎力アップ⑥ プレ就職ガイダンス 各種アンケート ●概要…23の能力調査をはじめとしたアンケートや卒業関連の連絡、コミュニケーション力テストのフィードバックをおこなう。国際コースは就職に向けてのガイダンス ●予習…ホームカミングデーでやりたいことを考えておく。（約60分） ●アクティブラーニング…A　多
	第21回	キャリア・プランニング⑯ カナダ研修報告会 ●概要…カナダ研修の報告を聞く ●予習…質問を考えておくこと、カナダに関して調べておくこと（約45分） ●アクティブラーニング…B　中　E　あり　F　あり
	試験	期末試験
	第22回	キャリア・プランニング⑰専攻科ゼミ発表を聴く ●概要…専攻科ゼミ発表を聴く。期末試験のフィードバック ●予習…自身の興味のある分野について、考えておくこと。（30分） ●アクティブラーニング…B　少
教育目標との関連	本学の建学の精神の根幹をなすのは「愛の教育」であり、創立以来の本学の教育理念の2つの柱の一つには、「社会でも家庭でも自分らしく生きられる人材の育成」とある。幸せに生きるためには力が必要である。その力を獲得するためには、自分らしく生きるとはどのようなことかを深く考え、自らの置かれた環境はどのようなものかを的確に認識し、自ら切り開くことのできる人生の選択肢は何かを見定め、社会の変化を受容しながら努力を重ねることが必要となる。本科目では、幅広い観点から、子どもと関わる自身の生き方について考える機会を提供する。	
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L01.国内外での専門職としての保育者や自らの子育てに関わることを理解できる L02.社会の変化や周囲の状況を踏まえ、自身に求められる役割や生き方を判断できる L03.他者の意見を傾聴した上で自らの意志を表現できる L04.子どもを取り巻く広い世界に関心をもち、積極的に関わろうする意欲をもつ L05.自身が受けた愛情を理解し、愛情をもって他者に奉仕できる	

評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	期末試験　20%　・1年間の授業を通して、自身のキャリア形成に対する意識が高まったかどうかを評価する。 提出課題　50%　・出席フォーム等に課題を提示し、講義内容について感じたこと、考えたことを自身の言葉でまとめられているかを評価する。 受講態度　30%　・授業内での積極的な質問やグループワーク、ペアワーク、個人ワークなどへの取り組み姿勢や貢献度を評価する。 成績評価は添付資料のルーブリックを参照すること。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	最終回の授業内にてフィードバックを行う。
教科書	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の授業テーマや外部講師について、予習として図書館などで調べておくこと。復習として、授業で配布した資料を必ずファイルに整理し、自身の成果物とともにポートフォリオとしてまとめていくこと。毎回、30分～1時間の事前事後学習の時間をとること。
履修上の注意、条件等	「キャンパスライフデザイン」を履修していること。 外部講師の講演などの授業は、スーツを着用すること。
オフィスアワー	担当教員の各研究室にて質問・相談を受け付ける。時間は研究室前に掲示するが、それ以外の時間でも在室時は可能な限り対応する。また、Googleクラスルームの限定コメントでも受け付ける。
備考・メッセージ	第6回はMeet、それ以外は対面で授業を行う。 自らのキャリアについて主体的に考えるのは自分自身である。自分自身と向き合うことは時として難しいが、周囲との関係性からヒントが得られることも多い。本科目では、自分自身の生き方について前向きに考えるきっかけを多く提供していきたいと考えている。

講義科目名称： 体育理論　　授業コード：

英文科目名称： Theory of Physical Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春又は秋学期	１年	１単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
二階堂　あき子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：有	ナンバリング：H108
添付ファイル			
体育理論ルーブリック4-1.pdf		体育理論のルーブリック	
体育理論ルーブリック４.pdf		達成度別ルーブリック	

講義概要	保育者を目指す学生に必要な考え方を実践する内容、安全に各自の体力を増強する事に向き合う「体育理論」となる。 理論をデータで理解できるように、自分の問いを立て各自の記録から、読み解く事を学ぶ。 各自の課題が、それをどのように解決するのか、達成できるのか、もしくはしないのかを記録から分析し、保育者として必要な体力の基を考える。 体育理論では、実技で試した結果からも調査し考察を重ねて、プレゼンテーション作成をする。 各自の成果を発表する経験から、保育者に必要な行動的体力である意思・判断・意欲を考える。 体調管理や睡眠指導経験に基づき、記録を科学的に読み解く視点を理解する。 当該科目は、「体育実技」と関連が深く、また、「幼児と健康」や「幼児と表現」分野、そしてプレゼンテーションのための「幼児教育と情報機器演習Ⅰ及びⅡ」とも関連する。 担当教員はモダンダンス、ジャズダンス、舞踊創作の指導者として、35年以上の経験があり、また、親子体操・ダンス、キッズヨガ、障碍児のエアロビクスやダンスなども、都内の各地域の特殊学校等で担当していた。現在はバレエスタジオや地域のサークル活動にて、ダンス創作法やストレッチ方法などを指導中。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション 体育実技の授業との関連及びその進め方・評価方法について 課題説明と動画視聴　プレゼンテーションのための解説 予習30分：カリキュラムを読んでくる。　復習30分：本日の課題を行い提出する。 C:多　F：有 第2回　体と動きの仕組みを知る 運動A：少　B：多　E:少　F:多生理学　キネシオロジー①、及び身体データのまとめ方について 予習30分：前回のスライド等を見返し、前回の内容を確実にしておく。 復習30分：本日の課題を行い提出する。 E;多　E:有　F:有 第3回　睡眠と活動（運動強度と消費カロリー） 睡眠障害と睡眠リズムの獲得　消費カロリーとMETS（運動強度） 睡眠時間と体温の表とグラフの作成の補足 予習30分：前回のスライド等を見返し、中間テストに備えておく。 復習30分：本日の課題を行い提出する。 E:有　F:有 第4回　小テスト 小テスト及び解答　解説 運動発達のメカニズムとプロセス 睡眠リズムの獲得対策　行動と脳内ホルモン 予習30分：小テストに備える。 復習30分：テストの結果を受け、今後のプレゼンテーションに備える。 E:有　F:有 第5回　プレゼンテーション① 年間目標についての個人課題を、3分程度のプレゼンテーション前半の作成を行う 体力について　やせる太るの科学　運動と栄養 予習30分：作業内容について理解し、見本のブログを参考にしっかりと見ておく。 復習30分：解説されたところを、しっかりと作業できているか確認する。 E:有　F:有 第6回　プレゼンテーション② 個人課題の3分程度のプレゼンテーション後半の作成を行う プレゼンテーション作業の質問等 予習30分：前回の作業の続きを振り返りながら、次の作業に備えてブログの見本を見ておく。 復習30分：プレゼンテーション前半と後半を繋げて、筋が通るかを確認する。 D:中　E:有　F:有 第7回　体育理論のまとめ① プレゼンテーションの発表準備 プレゼンテーションの発表及び全員の提出確認、プレゼンテーションの質疑応答・振り返りを実地 予習30分：自分の発表に備えて、スピーカーノートを読む練習し、質疑応答に備える。 復習30分：他の発表と比較して、提出用のプレゼンテーションを修正して提出する。 D：中　E:有　F:有

	期末試験　試験・レポートの回 期末試験とレポートを時間内に提出する。 予習30分：試験準備として、スライドとプリント内容を理解する。 復習30分：プレゼンテーションスライドに必要な事項を確認する。 E:有　F:有 第8回　体育理論のまとめ② 体育史と体力　総まとめプレゼンテーション発表（有志の続き） テストと課題の解説と総評 予習30分：全てのスライドを見て、まとめ方を理解しておく。 復習30分：最後にやり残した部分はないかを確認する。 D:中　E:有　F:有
教育目標との関連	体育の知識・技能にのみならず、保育者として理解を伴う自分自身の健康・体力課題を考えることができる。 個人の課題から心身を含めた各自の体育知識の理解を深め、保育に応用していく実践できることを目標とする。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1. 心と体の健康や体力に関する知識を理解して、理解したことを説明できる。 2. 心身に関する課題を判断して、目的をもって自らの健康や体力に関する目標を設定できる。 3. 自身の心身を管理していくための知識や方法を探索して実践し、表現できる。 4. 体育的トピックに関心と意欲を持ち、そのトピックを配慮できる。 5. 生涯体育・運動課題・健康問題に関する事項を理解し達成するために、集団行動やグループ活動で助け合うことができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	期末テストと中間テスト30%：授業内で示した基本知識の理解を評価する。 最終授業の発表（プレゼンテーション提出と発表、及びプリントワーク）30%：授業内での成果と知識を評価する。 各課題提出、授業内発表及び態度 40%：課題に取り組む積極的な姿勢と、どれだけ深く取り組めたかを評価する。 *評価基準は添付資料のルーブリックを参照。 *欠席等の取り扱いは『履修要項』に準ずる。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	授業内での小テストは、次回に解説しながら、採点等の確認も行う。 プレゼンテーションは、発表時にフィールドバックを伝える。 未発表者のプレゼンテーションは、そのスピーカーノート等を視聴して評価の対象とし、フィードバックは限定コメント等で伝える。
教科書	https://nikaidope.blogspot.com/　に授業スライドを提示することで、教科書の代わりとする。 グーグルクラスルーム内にて課題ドキュメントを配布する。
参考書	二階堂あき子『キッズ・ボディーコーディネーション講座　初級及び　中級テキスト』amazon 電子書籍 『幼児体育』第5版　理論と実践　日本幼児体育学会編　大学教育出版社
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業内容を、予習30分程度、復習30分程度してくること。指示されたプリントやサイトは必ず読んでくること。
履修上の注意、条件等	個人課題の発表が評価の主な対象になりますので、積極的に発表される事を目指してください。 季節や天候に左右される体育実技授業との関連により、授業内容が多少入れ替わる事が生じる場合がある事をご理解くださいませ。
オフィスアワー	質問等に関しては、授業の前後、又はグーグルクラスルームの限定コメントにより受け付ける
備考・メッセージ	積極的に発表することが、求められます。 90分授業×8回+課題試験1回（基本は対面授業で行い、必要があればハイブリット授業（配信・オンデマンドなど）で行う。）

講義科目名称： 体育実技　　授業コード：

英文科目名称： Activities in Physical Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期または秋学期	１年	１単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
二階堂　あき子			
授業形態：実技	担当形態：単独	実務経験：有	ナンバリング：H106
添付ファイル			
ルーブリック体育実技校3.pdf		体育実技のルーブリック	

講義概要	保育者にとって必要な体力と技術は何であるか。各自が安全に精神的行動体力である意思・判断・意欲の増強を実践できる事、それをこどもに伝える事を学ぶ。保育者として自らの体組織、体力、技能の段階を知る事で、保育の現場でも役立つような実践力がつく演習を行う。 体育は「体」を「育てる」と書きますが、自分の体と演習に向き合いながら、各自の考える体育を実践する。理論化されている部分と実際の自分のデータを見比べて、保育者としての体育や自分に必要な体力を考える。演習では、観測、観察などから、実践的な目標に到達するように記録することを理解する。レクリエーション等の遊びやゲームを発案し、それを元に他者の発表から互いに学びあいチームビルディングを目指す。基礎体力などは、毎回、準備運動や整理運動などを基礎から体験することで、「各自が考える体育」を考察する。体形や体調管理についての指導経験をもとに、様々なトレーニング方法も紹介する。 当該科目は、特に「体育理論」と「幼児と健康」、そして「幼児と表現」や「子どもの保健」と関連が深く、また、実習科目に関しても、当該科目で培おうとする肉体的・精神的体力が必要であるため、全般的に関連を持つ科目である。 担当教員は、モダンダンス、ジャズダンス、舞踊創作の指導者として、35年以上の経験があり、また、親子体操・ダンス、キッズヨガ、障碍児のエアロビクスやダンスなども、都内の各地域の特殊学校等で担当していた。現在はバレエスタジオや地域のサークル活動にて、ダンス創作法やストレッチ方法などを指導中。また、親子ヨガやキッズボディーコーディネーション資格の講師も勤める。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション 授業の進め方や評価方法について説明する。課題設定と振り返りシートを作成する。 各自の健康や体力等に関する課題を考える。 用語説明（体脂肪、BMI ）目標設定のアンケート 予習30分：カリキュラムを読んで、必要な物をそろえる。 復習30分：本日のデータを記録しているか確認する。 F：有 第2回　身体について考える①　目標設定と方法 自分の体を認識するために、様々なワークを行い、各自の課題設定を決定する。（身体測定や体力測定を含む） 課題と年間予定を考える。体力の分類　記録方法　座位ウォームアップと解説① 予習30分：見本のプログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録しているか確認する。縄跳びの練習をしておく。 E：有　F：有 第3回　身体について考える②　体育と人間力 自分の体と向き合って、目標を達成するための方法を考える。 人間力とは　体力を考える 座位ウォームアップについてアンケート。リスクとハザード及び、防災ピクニックについて 予習30分：見本のプログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録しているか確認する。縄跳びの練習をしておく。 E：有　F：有 第4回　健康行動に関する質問と書き方　ウォームアップと縄跳びについて どのように健康を保持できるのか、その前に現在の自己イメージと理想及び現実のデータを比較する 座位ウォームアップと解説②　縄跳び（前跳び） 予習30分：見本のプログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録しているか確認する。実技テストのステップを練習する。 C:多　E：有　F：有 第5回　公衆衛生と体育　防衛対策ミッション 各国の公衆衛生の取り組みについて 体育科目の特性において、三密を避けられない事を認識し、各自の環境において、どのような対策をしているかをREPORTする。自主トレーニングのすすめ 予習30分：見本のプログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録しているか確認する。実技テストのステップを練習する。 C:多　D:多　E：有　F：有 第6回　保育者に必要な体力について　防衛対策ミッションの解説 公衆衛生と体育の解説　防衛対策ミッションの講評　数値化の為の記録シートの書き方を確認 縄跳びのコツ：駆け足跳び 予習30分：見本のプログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録しているか確認する。実技テストのステップを練習する。 C:多　E：有　F：有 第7回　体育の環境整備　及び　運動方法① 運動遊びと体育遊び①　レクリエーション活動を考える 幼児期運動指針について　保育者のなりやすい疾病　体育実技の服装TPO　運動方法①縄跳びの運動消費カロリーについて　METsとは　縄跳びのコツ（片足跳び） 予習30分：見本のプログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録しているか確認する。縄跳びや実技テストのステップを練習し、体力をつける努力をする。 C:多　E：有　F：有

	第8回	体育のアクティブラーニングを考える① 運動遊びと体育遊び②　レクリエーション活動をシミュレーションする① 授業回数7回までの整理　幼児期運動指針②　運動のトレーニングの量について考える 縄跳びのコツ（後ろ跳び） 予習30分：見本のプログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録しているか確認する。縄跳びや実技テストのステップを練習し、体力をつける努力をする。 C:多　E：有　F：有
	第9回	体育のアクティブラーニングを考える② 運動遊びと体育遊び③　レクリエーション活動をシミュレーションする② 運動方法②　運動プログラムの手順①　「WANT TO]か「HAVE　TO]かを考える 縄跳びのコツ（あや跳び） 予習30分：見本のプログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録しているか確認する。縄跳びや実技テストのステップを練習し、体力をつける努力をする。 C:多　E：有　F：有
	第10回	体育のアクティブラーニングを実践する① 鬼あそび①　レクリエーション活動のグループ毎の発表と実地① 幼児期運動指針のポイント　遊びと運動　基礎代謝と消費カロリーを知り計算する 縄跳びのコツ（交差跳び） 予習30分：見本のプログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録しているか確認する。縄跳びや実技テストのステップを練習し、体力をつける努力をする。 A:多　E：有　F：有
	第11回	体育のアクティブラーニングを実践する② 鬼あそび②　レクリエーション活動のグループ毎の発表と実地② 日常の基本的な動きと運動　体内組織を考える　体育のアクティブラーニングのまとめ 縄跳びのコツ（二重跳び）　縄跳びのコツのまとめ A:多　B:小　E：有　F：有
	第12回	運動方法③　運動プログラム作成の手順② 鬼あそび③　レクリエーション活動のグループ毎の評価と講評 必要なエネルギー量について考える　縄跳びの講評②　備品の扱い方と説明 縄跳びのコツまとめと復習 予習30分：見本のプログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録しているか確認する。縄跳びや実技テストのステップを練習し、体力をつける努力をする。 A:多　B：小　D:中　E：有　F：有
	第13回	運動方法④　運動プログラム作成の手順③ 水遊び①　もしくは、気配切り① 子どもに活かす保育者の体育経験　運動ルーティンと消費カロリーの確認　ストレッチとは 抗重力筋について B:中　C:中　D:多　E：有　F：有
	第14回	運動方法⑤　ストレッチングと筋力トレーニングについて 水遊び②　もしくは気配切り② 「チーム」と「グループ」の違いについて ストレッチング解説及び講評　筋力トレーニングの意味　ダメージのないスクワット 予習30分：見本のプログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録しているか確認する。縄跳びや実技テストのステップを練習し、体力をつける努力をする。 A：多　C:多　E：有　F：有
	第15回	運動方法⑥　身体エクササイズ基礎　筋力トレーニング（無酸素運動）とダンス（有酸素運動） 水あそび③及び気配切り③の予備日 15回までの記録シートの確認　筋力トレーニング（背筋、腹筋） HIITトレーニングについて　有酸素運動（エアロビクスやダンス）について 疲労と回復について 予習30分：見本のプログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録しているか確認する。縄跳びや実技テストのダンスを練習し、体力をつける努力をする。 C:多　D:中　E：有　F：有
	第16回	身体エクササイズ①　チームビルディング（有酸素運動・無酸素運動） チームビルディングにおける競争と協力 有酸素運動と無酸素運動（筋力トレーニング）について　負荷と強度を考える ダンスステップの紹介　能力アップと運動の関係　最終課題説明① 予習30分：見本のプログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録しているか確認する。縄跳びや実技テストのダンスを練習し、体力をつける努力をする。 A:中　B:中　E：有　F：有
	第17回	身体エクササイズ②（基本運動） 基本運動を学ぶ。基本運動とステップの実技テストの説明 対面授業の解説①　周辺視と歩運動（前後左右） 進度調整 予習30分：見本のプログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録しているか確認する。縄跳びや実技テストのダンスを練習し、体力をつける努力をする。 D:中　E：小　F：有
	第18回	身体エクササイズ③（自由表現運動） 対面授業の解説②基本運動から表現運動など、各自の自由な動きの編み出し方法を学ぶ 基本運動とステップの実技テスト②　ツーステップ 予習30分：見本のプログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録しているか確認する。縄跳びや実技テストのダンスを練習し、体

	力をつける努力をする。 D:中　E：有　F：有 第19回　身体表現① 対面授業の解説③　リズムとステップ 身体表現の導入として、動きの成り立ちと分解を学ぶ 基本運動テスト及びダンス課題曲のテスト① 予習30分：見本のブログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録しているか確認する。縄跳びや実技テストのダンスを練習し、体力をつける努力をする。 D：中　E：有　F：有 第20回　身体表現② 実習をめざして① 身体表現の発展方法とシークエンス作成方法を学ぶ リズムダンスや体操のカテゴライズ、及び身体表現のパターン認識と構造を理解して創作できる 基本運動テスト及びダンス課題曲のテスト② 予習30分：見本のブログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録しているか確認する。見本のブログをみて、ポートフォリオの準備をする。 D：中　E：有　F：有 第21回　身体表現③　と　評価方法 実習をめざして② 体育の様々な評価方法を学ぶ。 各グループ活動のまとめ、各自の身体記録データ及び運動記録の整理を行い、提出する。 予習30分：見本のブログを見て、必要なデータ等のポートフォリオを確認し準備する。 予習・復習30分：本日のデータを記録しているか確認し、グーグルクラスルームで未提出の課題がないかを確認する。 D：中　E：有　F：有 第22回　総まとめ①　ポートフォリオ作成と提出 これまでの作成したデータ等をポートフォリオとしてまとめ、各単元の理解を深める。 予習・復習30分：これまでの記入漏れがないかどうか、本日のデータを記録しているか確認し、グーグルクラスルームで未提出の課題がないかを確認する。 D：中　E：有　F：有 第23回　総まとめ②　ポートフォリオの講評 講評により各単元の意図を理解していたかを自己確認する。 授業の目的に沿って　学修が出来るかができたら、今後の課題についても考える。 予習・復習30分：今迄の実技の総復習をしておき、グーグルクラスルームで未提出の課題がないかを確認する。 D：中　E：有　F：有
教育目標との関連	体育の知識・技能にのみならず、保育者として理解を伴う自分自身の健康・体力課題を考えることができる。 個人の課題から心身を含めた各自の体育知識の理解を深め、保育に応用していく実践できることを目標とする。 スポーツや身体ワークを行うことで、仲間づくりやコミュニケーションの重要性を理解できる。 生涯を通じて運動する事の重要性を理解する。 グループ活動により、社会性や人間力のみならず、各自の関心や意欲について考える事ができる事も目標とする。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1. 心と体の健康や体力に関する知識を理解して、理解したことを説明できる。 2. 心身に関する課題を思考して、目的をもって自らの健康に関する目標を設定できる。 3. 自身の心身を管理していくための知識や方法を探索して実践し、表現できる。 4. 体育的トピックに関心と意欲を持ち、そのトピックを配慮できる。 5. 生涯体育・運動課題・健康問題に関する事項を理解し達成するために、集団行動やグループ活動で助け合うことができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	Google Education提出課題とその他　25%：課題内容を的確に捉え、量は指定された量と行う事で評価する。 授業態度　25%：取り組む意欲、積極性や環境整備等を行う、又はその視座を評価する。 体育にふさわしい身だしなみ、及び実技テスト・期末ポートフォリオ提出　50%：真摯に取り組む姿勢や得意不得意に関連せずに、取り組みによる各自にその実技の達成度で評価を判断する。期末ポートフォリオは丁寧な記述で、要求された項目をまとめる事を評価する。 *評価基準は添付のルーブリックを参照。 *欠席等の取り扱いは、『履修要項』に準ずる。 但し、体育実技は科目の特性から、「見学」に関しては、見学用紙の提出で遅刻と同等の取り扱いとする。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	実技テスト等は規定用紙に評価を記入して各自に返却する。 ポートフォリオは、学年末に評価を書き添え返却する。 ポートフォリオのフィeードバックについては、授業内及びグーグルクラスルームで伝える。
教科書	https://nikaidope.blogspot.com/　に授業スライドを提示することで、教科書の代わりとする。 グーグルクラスルーム内、及び、上記ブロガー記事より、資料及び課題ドキュメントを配布する。
参考書	二階堂あき子『キッズ・ボディーコーディネーション講座　初級及び　中級テキスト』amazon kindle 『幼児体育』第5版　理論と実践　日本幼児体育学会編　大学教育出版社
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業内容を、予習30分程度、復習30分程度して整理しておく。指示された実技課題の自主練習をしておく。 授業中にプリント配布予定。
履修上の注意、条件等	見学の際には、見学用紙に授業内容を記入して担当教員のサインをもらう。 運動に相応しい服装（体操服・体育室専用の靴下・アクセサリー不可・髪はきちんとまとめる） 体育室では、靴下で運動を行う予定なので、替えの靴下を持参 外での活動に備えて、体育のある日は、運動靴で登校下さい。

	実地する季節や天候により、カリキュラム内容の多少の変更や入れ替えが生ずる場合がある事をご理解ください。
オフィスアワー	面接授業の前後にて質問等を受け付ける。質問等に関しては、グーグルクラスルームの限定コメントにより受け付ける
備考・メッセージ	自発的に参加することで、学べる授業展開をするので、積極性を心がけること。 90分授業×23回授業　基本は対面授業で行い、必要があればハイブリット授業（配信・オンデマンド）で行う。

講義科目名称： 教育原理　　授業コード：

英文科目名称： Principles of Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	2単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
石見容子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A103
添付ファイル			
ルーブリック教育原理（2025）.pdf			

講義概要	教育の基本的概念を学ぶ。教育とは何か、教育者とは何をする人か、という根本的なことから自身の教育観、子ども観にまで発展して、その在り方について様々な角度から考える。 「学ぶ人」として、また、未来の「教育する人」として様々なことに興味を持ちながら「学ぶ」ことの楽しさに気づくとともに、教養を高め、他を尊重する気持ちを養い、共に学び合うことを大切にする。 他科目との関連：ここで学ぶ教育の原理を基に、教育に関する専門科目の習得へのつなげていく。 担当教員は日米の乳幼児教育の実践経験とインターナショナルスクールでの教員経験がある。その経験を活かして、様々な角度から”教育”について共に考えていきたい。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション・教育原理って何？ 本講義の概要について理解する。教育者とは何をする人か、考える。 予習：シラバスを事前に読む（1時間） 復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する（約1時間） B：少 E：あり F：あり 第2回　教育の目的とは何か考える 教育とは何か、その目的と目標について、また、人間形成との関係について考える。 予習：事前の配布資料を読む（1時間） 復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する（約1時間） B：少 E：あり F：あり 第3回　義務教育とは何か、教育のはじまりについて知る なぜ義務教育があるのか、その必要性について考える。 予習：事前の配布資料を読む（1時間） 復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する（約1時間） A：中 D：少 E：あり F：あり 第4回　教育観、子ども観の変遷について学ぶ これまでにあった様々な教育観、子ども観に触れ、各々の教育観、子ども観について考えるきっかけとする。 予習：事前の配布資料を読む（1時間） 復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する（約1時間） B：中 D：少 E：あり F：あり 第5回　「遊びは学び」であることに気づく 子どもにとって「学ぶ」とはどういうことか考える。 予習：事前の配布資料を読む（1時間） 復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する（約1時間） B：中 E：あり F：あり 第6回　諸外国の教育制度について知る 諸外国の教育制度について知り、自国の教育制度の在り方について考える。 予習：事前の配布資料を読む（1時間） 復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する（約1時間） A：中 B：少 E：あり F：あり 第7回　様々な教育方法を知る① 日本には様々な教育方法があることを知る。 予習：事前の配布資料を読む（1時間） 復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する（約1時間） A：中

		B：少 D：少 E：あり F：あり
	第8回	様々な教育方法を知る② 世界には様々な教育方法があることを知る。 学校と地域との連携及び学校安全への対応を考える。 予習：事前の配布資料を読む（1時間） 復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する（約1時間） A：中 B：少 D：少 E：あり F：あり
	第9回	昭和～平成～令和の社会の変化と教育の在り方について考える 時代の変化と共に変わっていく教育の意義について知り、これからの社会における教育の位置づけについて議論する。 予習：事前の配布資料を読む（1時間） 復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する（約1時間） A：中 B：中 E：あり F：あり
	第10回	保護者支援と教育の関係性について知る 保護者支援者としての教育者の役割について考える。 予習：事前の配布資料を読む（1時間） 復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する（約1時間） A：中 D：少 E：あり F：あり
	第11回	保護者との連携の大切さに気付く 幼児教育において、保護者とどのように連携し子どもを育てていくかを考える。 予習：事前の配布資料を読む（1時間） 復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する（約1時間） A：中 B：中 E：あり F：あり
	第12回	クラスだよりの意義について考える 実際のクラスだよりを基に、教育者の役割について考える。 予習：事前の配布資料を読む（1時間） 復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する（約1時間） B：少 E：あり F：あり
	第13回	イマドキのニュースについて深く考え、議論する 新聞記事などを活用し、現代における教育課題について理解したうえで、これからの保育・幼児教育・保育者の在り方について考える。 予習：事前の配布資料を読む（1時間） 復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する（約1時間） A：中 B：少 E：あり F：あり
	第14回	生涯学習について理解を深める 自分にとっての生涯学習とは何か考える。 予習：事前の配布資料を読む（1時間） 復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する（約1時間） A：中 B：少 E：あり F：あり
	第15回	振り返りと今後の自身の学びの方向性を考える 期末試験のフィードバックを行う。また、試験と各単元の振り返りをしながら自身の今後の課題について考える。 予習：今までの授業を振り返る（1時間） 復習：授業内で行うまとめ試験の振り返りについてのメモを読み直す（約1時間） A：中 B：中 E：あり
教育目標との関連	教育の基本的概念を理解し、特に幼児期における教育は、「生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの」であることを十分に理解する。そのうえで、人の生涯にわたる発達を支援するということがどのような営みであるか理解する。また、教育に関する歴史や様々な思想に興味を持ち、自身の教育観について考える。	

到達目標　（学修成果）　　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L01．幼児期における教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることを認識し、教育の理念、思想について理解している。 L04．世の中の事象に興味を持ち、教育との関連や子どもとの関連を視野に、自身の考えを述べることができる。 L05．周囲との円滑なコミュニケーションを図りながら、他と協働して、保育者としての資質向上を目指し、人としての手本となろうとする。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	提出物　　40% 授業に向かう姿勢（積極性）10% 期末試験　　50% 評価基準は添付資料のルーブリック参照
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	個別に期末試験の返却を行い、15回目授業内で期末試験のフィードバックを行う。
教科書	『保育用語辞典〔第8版〕』ミネルヴァ書房　本体2300円＋税 『幼稚園教育要領解説』　フレーベル館　本体240円+税
参考書	『実践につなぐ　教育原理』みらい　2420円 『これだけは知っておきたい　わかる・書ける・使える　保育の基本用語』わかば社　1000円＋税 『保育所保育指針解説』　　フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』　フレーベル館
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	事前にシラバス内容を確認し、必要な資料を熟読しておくこと。 その日に出会った新しい言葉、専門用語について理解すること。
履修上の注意、条件等	常に問題意識を持ち、自分の頭で考えるということが求められる。 卒業必須であると同時に、実習前に必要な知識が詰まっていることや幼免・保資必須科目であることを十分に意識すること。
オフィスアワー	研究室に掲示する。 質問等はオフィスアワー、またはGoogleクラスルーム限定コメントにて受けつける。
備考・メッセージ	グループワークやグループでのディスカッションを多く取り入れる科目です。積極的に授業に参加することが学ぶことの早道です。

講義科目名称： 教職概論　　授業コード：

英文科目名称： Approach to Teacher's Competency in kindergarten

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	2単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
森下匡子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A104
添付ファイル			
2025ルーブリック.xlsx			

講義概要	「教職概論」では、教職の意義、教員の役割及び教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）について学ぶ。保育に携わる者として社会が求める教職のありかたについては、各時代の教育法規に規定され、教育制度や教育目標達成に向けて専門職としての保育者の専門性、カリキュラム全体を通して履修科目の振り返りを行い、保育者としてあるべき姿について考えを深める。幼稚園教諭としてふさわしい資質・能力の向上をめざす。 他の科目との関連：「教育原理」で学ぶ教職の意義、教職の歴史、教員養成の変遷などの項目をさらに掘り下げて学び、幼児教育者としての資質、求められる役割について習得する。また、教育実践能力に関しては実習関連科目に深くかかわる。 講師は私立幼稚園での担任、公立小学校での支援員、親子教育研究所における子育て支援活動、保育所での保育士など現場での仕事を続けている。その実務経験を活かし、保育現場での保育者として求められている姿を、より分かりやすく実践を踏まえながら授業に取り入れている。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　教職とは何か 幼児教育の意義や特質について学び、教育者について理解を深める。さらに自分自身がなぜ教職を目指したのか、その動機について振り返る。 予習：教職概論のシラバス全体をよく読み、科目の全体像を把握しておくこと（約30分） 復習：レジュメ　配布資料をよくよみ授業の到達目標を把握すること（約30分） 第2回　教育職の基本　専門性とは 保育者の専門性として正しい子ども理解のために、〈幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿〉がなぜ重要なのかを学ぶ。 予習：前回の授業内容をまとめておく（約30分） 復習：配布資料・レジュメをよく読み、専門性をまとめておく（約30分） E:あり 第3回　保育者の資質・能力と求められる役割① 保育者の資質向上研修俯瞰図より〈資質能力を付けるための6項目〉を学ぶ。特に学びを深めたい項目2つを選び、個の授業での自身の課題とする。 予習：前回の授業をまとめておく（約30分） 復習：配布資料をよく読みまとめておく（約30分） E:あり 第4回　保育者の資質・能力と求められる役割② 保育現場の様子を記録した映像教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。（3歳児前半） 予習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（約30分） 復習：３歳児の発達について幼稚園教育要領解説第2章を復習しておくこと（約30分） ワークシート　E：あり 第5回　保育者の資質・能力と求められる役割③ 保育現場の様子を記録した映像教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。（3歳児後半） 予習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（約30分） 復習：３歳児の発達について幼稚園教育要領解説第2章を復習しておくこと（約30分） ワークシート　E：あり 第6回　保育者の資質・能力と求められる役割④ 保育現場の様子を記録した映像教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。３歳児と比べ、その成長を読み取る４歳児の特徴と保育者との関わりを考える（４歳児） 予習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（約30分） 復習：４歳児の発達について幼稚園教育要領解説第2章を復習しておくこと（約30分） ワークシート　E：あり 第7回　保育者の資質と求められる役割⑤ 保育現場の様子を記録した映像教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。５歳児の特徴と保育者との関わり方を学ぶ（5歳児前半） 予習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（約30分） 復習：５歳児の発達について幼稚園教育要領解説第１章第2節を復習しておくこと（約30分） ワークシート　　E：あり 第8回　保育者の資質・能力と求められる役割⑥ 保育現場の様子を記録した映像教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。（5歳児後半） 予習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（約30分） 復習：５歳児の発達について幼稚園教育要領解説第1章第2節を復習しておくこと（約30分） ワークシート　E：あり 第9回　保育者の資質・能力と求められる役割⑦ 保育現場の様子を記録した映像教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。 ３年間の記録の中で、あそびの種類や方法、ものづくり、保育者の関わり方、友人関係などを要素をまとめる。 予習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（約30分） 復習：２～７回のワークシートをまとめる（約30分）

	ワークシート　Ｅ：あり 第10回　保育者の資質・能力と求められる役割⑧ 前回の授業でまとめたものを基にグループにて考察。 予習：前回の授業内容から視聴覚資料映像の年齢による特徴的なシーンをまとめておく（約30分） 復習：新たな視点をまとめておく（約30分） Ｆ：あり A：多B：多 第11回　保育者の資質・能力と求められる役割⑨ 前回グループでまとめた内容を、掲示発表。クラスでの発表内容を各自記録する。 予習：２～８回の授業内容をまとめておく（約１時間） 復習：レジュメに記入した内容をまとめておく（約30分） 第12回　保育現場に生かせる教材・表現方法の研究①　「特別講座　紙芝居の出来るまで」 児童画家　夏目尚吾氏による特別講座　紙芝居の制作過程を知る。保育現場における紙芝居の効果、読み聞かせの方法、紙芝居の選び方を学ぶ 予習：紙芝居について、［保育内容　言葉］の授業で学んだ内容をまとめておく（約30分） 復習：専門家の仕事について、気づいたこと保育現場での、紙芝居の重要性をまとめる（約30分） 第13回　保育現場に生かせる教材・表現方法の研究② 前回学んだ紙芝居について、保育とのつながりの重要性を考え、グループ毎に実践する。 各グループの紙芝居の演じ方を記録し、実践におけるポイントをワークシートにてまとめる 予習：前回の紙芝居の世界から学んだ事をまとめてお（約30分） 復習：紙芝居と子ども達とのつながりについて考えをまとめてお（約30分） A:多E:あり 第14回　それぞれの得意分野を活かした保育 自身の得意分野は保育の強みになる事を学び、自己分析からその得意分野を保育で実践する方法について考える。 予習：自身の得意分野、についてまとめておく（約30分） 復習：ワークシートの内容をまとめる（約30分） Ｆ：ありＥ：あり 第15回　まとめ②　　教育者として自己課題について これまでの授業内容のまとめとして、求められる保育者の姿を明確に、保育実習における自己課題についてにまとめる。 予習：試験について自己評価をしておく（約30分） 復習：試験結果から理解が不十分だったことを授業内容から振り返り学習する（約30分） Ｆ：あり
教育目標との関連	幼児にとって、初めての集団生活の場となる幼稚園は、友だちや保育者と一緒に楽しく伸びやかに園生活を送れるように環境を整え、教育的愛情を持ち心をこめて関わることが求められる。子どもの個性を見つめながら、その発達を細やかに支援することができるようになるために、学生は本学の教育目標でもある、知識と教養、豊かな感性を身につけ、さらに保育者としての実践的な技能を習得しなければならない。何よりも教員として幼児の成長を支えていくために、健全な心と体に支えられた強い意志の力が必要なのである。このように、本学の教育目標の達成と本科目により示される教員の資質及び能力は密接に関わっているのである。
到達目標　（学修成果）　　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．教員の職務の意義や内容について幼稚園教諭としてふさわしい資質・能力として関連づけ、身につける基礎を学び、向上しようとする態度と意識を説明できる。 ２．教員の職務の意義や内容について、幼児の理解と保育の方法の実際について映像などの情報をもとに、自分なりに判断類別し考察することができる。 ３．映像教材を通して、保育技術の実践を学び、自分の得意分野などの技能を自覚し、保育現場での表現方法として活かすことができる。 ４．保育現場での話題および事例を通して教育に対してより身近な関心を持ち、教職に対する意欲を高めることができる。 ５．保育現場で教員として常に責任感を持ち、深い愛情と共感性を備えて、チーム保育者として行動できる。 到達目標は添付資料のルーブリックを参照すること。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	期末試験　70%　　講義全般を理解しているか評価する 提出課題　30%　毎回の授業の中でワークシート記入を実施し、授業の理解度や授業の感想を評価する。 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回の講義にて、試験問題内容を用いて解説と振り返りを行う。
教科書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館　2018年3月23日発行　240円(税別)
参考書	授業内で紹介
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記のとおりである。
履修上の注意、条件等	教育職を志す学生として自覚を持ち授業に取り組むこと。
オフィスアワー	毎回の授業後に設ける
備考・メッセージ	どのような保育者を目指すのか、自分自身で確立するために、常に学ぶ姿勢を大切にすること。 幼児教育へつながる事柄に対して積極的に理解する意欲を持つこと。 全て対面授業となる

講義科目名称： 保育の心理学　　授業コード：

英文科目名称： Psychology of childcare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	2単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
中村麻衣子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：B101
添付ファイル			
ルーブリック保育の心理学.pdf			

講義概要	乳幼児期から青年期に至る心身の発達および学習の過程について、基礎的な知識を身につける。各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導や教育、人との相互的かかわりや体験、環境の意義など基礎的な考え方を理解する。スクールカウンセラーや発達相談の実務経験を有する教員による具体的な体験事例を通して、発達に応じた子どもへの働きかけや、調和のとれた子どもの育ちを支えるための視点を養う。 他の科目との関連：「子ども家庭支援の心理学」「子ども理解と相談援助」「子育て支援」「子ども家庭支援論」等の科目は本講義で学ぶ心理学の基礎理論が基になっている。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　発達を理解することの意義 人間の発達は生涯続くものであるが、どの時期も同じ重さを持つわけではない。初期の発達と後期の発達とでは意味や課題が異なることを理解する。 予習：「保育の心理学」のシラバス全体をよく読んで、科目の全体像を把握しておくこと（約1時間） 復習：教科書第1章を読み、授業の内容を振り返ること（約1時間） A：少　B：少　E：あり　F：あり 第2回　発達と環境 人間は環境の中でさまざまなことを体験して学ぶ。環境に主体的にかかわることにより、心身の発達が促進されることを映像を視聴しながら学ぶ。 予習：教科書第2章と第3章を読んでおくこと（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返ること（約1.5時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第3回　発達理論と子ども観 発達に関する国内外の代表的理論を踏まえ、グループワークを通して自分なりの子ども観・保育観を持てるようにする。 予習：教科書第4章を読んでおくこと（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返ること（約1時間） A：中　B：中　D：少　E：あり　F：あり 第4回　知覚、認知の発達 かつて新生児は何も見えないと考えられていたが、最近になって赤ちゃんは驚くべき能力を備えて産まれてくることがわかってきた。乳幼児期の認知の発達について、映像を見ながら学ぶ。 予習：教科書第5章と第11章を読んでおくこと（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返ること（約1時間） B：中　D：少　E：あり　F：あり 第5回　身体的機能と運動機能の発達 身体機能と運動機能の発達の過程と特徴について理解する。 予習：教科書第6章を読んでおくこと（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返ること（約1時間） B：中　D：少　E：あり　F：あり 第6回　愛着の形成と発達 愛着の形成がその後の発達に及ぼす影響について理解する。 予習：教科書第7章を読んでおくこと（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返ること（約1時間） B：少　E：あり　F：あり 第7回　社会情動的発達 情動とは、極めて主観的な複雑な心の動きである。人間の基本的な情動の発達や機能、情動表出について、映画視聴を通して楽しく学ぶ。 予習：自分の中にどのような情動があるか、その情動は日常生活でどのような役割を果たしているかを考えること（約1時間） 復習：教科書第8章を読み、授業の内容を振り返ること（約2時間） A：中　B：中　D：少　E：あり　F：あり 第8回　社会性の発達 社会性は社会的相互作用の中で発達していく。特に仲間関係によって身に付く力は、幼児期以降、児童期・青年期の対人関係、コミュニケーションスキルの発達につながっていくことを理解する。 予習：教科書第9章を読んでおくこと（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返ること（約1時間） A：中　B：中　D：少　E：あり　F：あり 第9回　言語・コミュニケーションの発達 産まれてすぐのまだ言葉を話せない赤ちゃんも、全身を用いて豊かな能動的コミュニケーションを実現している。そうしたコミュニケーション能力を備えて誕生してくる赤ちゃんは、言葉によらないやり取りを活発にするうちに、やがて言葉を獲得していく。このプロセスを映像を見ながら理解する。 予習：教科書第10章を読んでおくこと（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返ること（約1時間） B：少　E：あり　F：あり

	第10回　認知の発達 子どもは大人とは異なった思考や感受性を有する時期がある。子どもの見ている世界に入り込み、その感情に共鳴しながら、子どもの認知機能（思考や記憶）の発達を理解する。 予習：教科書第11章を読んでおくこと（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返ること（約1時間） A：少　B：少　D：少　E：あり　F：あり 第11回　学習に関する理論 さまざまな学習の形態や概念、およびその過程を説明する国内外の代表的理論の基礎を理解する。 予習：教科書第12章を読んでおくこと（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返ること（約1時間） A：少　B：少　D：少　E：あり　F：あり 第12回　主体的な学習を支える指導 主体的な学習を支える動機づけや集団作り、学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解する。 予習：教科書第12章を読んでおくこと（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返ること（約1時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第13回　乳幼児の学びの過程と特性 乳幼児の学びに関わる基礎理論を理解した上で、それを支える保育について考える。 予習：教科書第14章を読んでおくこと（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返ること（約1時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第14回　乳幼児期の学びを支える保育、まとめ 子どもの発達をめぐる課題、発達課題に応じた保育、生活における学びについて、これまでの授業を振り返りながら総合的に考える。 予習：教科書第15章を読んでおくこと（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメ、テキスト、GoogleClassroomに配信された資料等を整理し、これまでの授業内容を振り返ること（約1時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第15回　試験のフィードバックと学習成果の振り返り 期末試験のフィードバック、および、シラバスに書かれている到達目標を達成できたか各自振り返る。 予習：これまでの授業全体を通して質問などを考えて授業に臨むこと（約2時間） E：あり
教育目標との関連	保育者には、どんな時も愛情深く子どもの傍らに寄り添う温かさや、伸びゆく子どもの可能性を信じる強さが求められる。それを裏打ちする心理発達の道筋についての的確な理解や正しい知識を習得する。また、これらの知識の習得が学生自身の発達について改めて考える機会となり、自らの発達を自覚的に捉え直し、人生を主体的に自分らしく生きる意志の力を身に付ける。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	LO1:子どもの発達や保育実践にかかわる心理学の基礎について説明することができる LO2:子どもの行動の背後に潜む心理を理解するように努め、保育場面に応じた判断ができる
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	期末試験　50%：授業内容全般を理解し、自分の言葉で説明できているかを評価する。 提出課題　20%：授業内で行う課題への取組みを評価する。 授業への参加度　30%：グループワークへの貢献度や、授業内での発言など、授業への取組み態度を評価する。 ＊評価基準は添付資料のルーブリックを参照
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回目の授業時に期末試験を返却して解説、振り返りを行う。その後答案用紙は回収する。
教科書	保育士を育てる①　『保育の心理学』　谷田貝公昭（監修）瀧口綾・福田真奈（編著）　一藝社、2020年3月 2,100円
参考書	授業内で適宜紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記の通り。教科書・レジュメ・GoogleClassroomにアップした資料等を有効に活用し、授業内容の理解に努めること。
履修上の注意、条件等	子どもの心理発達に関する社会情勢に関心を持ち、自分なりの意見・考えを持つよう心掛けること。
オフィスアワー	研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。また、Google Classroomの限定コメントでも随時受け付ける。
備考・メッセージ	授業形態はすべて対面で実施する。シラバスの内容は履修学生の理解度等により変更する場合もある。

講義科目名称： 特別支援教育（障害児保育）Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称： Special support education (childcare for children with disabilities) Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
石川　卓磨			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F107
添付ファイル			
特別支援教育（障害児保育）Ⅰルーブリック.pdf			

講義概要	この科目は、Ⅰ・Ⅱで構成される特別支援教育（障害児保育）のⅠにあたる。Ⅰでは特に、障がいの特性や気になる子について事実を学び、障害児保育や子育て支援の基礎を養う。さらに海外にルーツのある子どもの保育、現在の国内外における障害児保育（特別支援教育）の実態を把握する。 特別支援教育（障害児保育）は高い専門性を要し、現代の保育者には欠かせない分野である。一方で、日常生活において障害のある子どもと接する場面は非常に限られている。そのため各障害について具体的なイメージを正しく持っている学生は少ない。そこで、この授業では動画による視覚的なイメージの形成を重視し、グループディスカッションによる学生の主体的な洞察や学びを展開する。また授業者は保育所でダウン症などの障害を持つ子どもを保育した実務経験や、乳幼児期の発達障害や発達の遅れ、その懸念に関する研究実績があり、その事例やデータに基づくポイントやコメントを示し、フィードバックする。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション & 知的障害①理解 ・講師の自己紹介と授業の進め方の説明をする。 ・知的障害のある子どもの理解について学ぶ。 予習：この授業のシラバスを読んでくる（1時間）。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める（1時間）。 A：中　B：少　F：あり 第2回　知的障害②援助 ・知的障害のある子どもの援助、発達を促す生活や遊びの環境、インクルーシブ保育/教育や合理的配慮、職員間の連携・協働、心身の健康と安全、保護者支援について学ぶ。 予習：前回の授業の内容（知的障害の理解）について復習し、授業に臨む（1時間）。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める（1時間）。 A：中　B：少　F：あり 第3回　ダウン症の理解と援助 ・ダウン症のある子どもの理解と援助、発達を促す生活や遊びの環境、インクルーシブ保育/教育や合理的配慮、職員間の連携・協働、心身の健康と安全、保護者支援について学ぶ。 予習：第1回～第2回の授業の内容（知的障害の理解と援助）について復習し、授業に臨む（1時間）。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める（1時間）。 A：中　B：少　F：あり 第4回　自閉症①理解 ・自閉症のある子どもの理解について学ぶ。 ・自閉症と知的障害の併発の可能性を把握する。 予習：第1回～第2回の授業の内容（知的障害児の理解と援助）について復習し、授業に臨む（1時間）。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める（1時間）。 A：中　B：少　F：あり 第5回　自閉症②援助 ・自閉症のある子どもの援助、発達を促す生活や遊びの環境、インクルーシブ保育/教育や合理的配慮、職員間の連携・協働、心身の健康と安全、保護者支援について学ぶ。 予習：前回の授業の内容（自閉症児の理解）について復習し、授業に臨む（1時間）。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める（1時間）。 A：中　B：少　F：あり 第6回　ADHD①理解 ・ADHDのある子どもの理解について学ぶ。 ・ADHDと自閉症の併発の可能性について把握する。 予習：前回と前々回の授業の内容（自閉症児の理解と援助）について復習し、授業に臨む（1時間）。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める（1時間）。 A：中　B：少　F：あり 第7回　ADHD②援助 ・ADHDのある子どもの保育、発達を促す生活や遊びの環境、インクルーシブ保育/教育や合理的配慮、職員間の連携・協働、心身の健康と安全、保護者支援について学ぶ。 予習：前回の授業の内容（ADHD児の理解）について復習し、授業に臨む（1時間）。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める（1時間）。 A：中　B：少　F：あり 第8回　学習障害の理解と援助 ・学習障害のある子どもある子どもの理解と援助、発達を促す生活や遊びの環境、インクルーシブ保育/教育や合理的配慮、職員間の連携・協働、心身の健康と安全、保護者支援について学ぶ。 予習：第1～2回の授業の内容（知的障害児の理解と援助）について復習し、授業に臨む（1時間）。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める（1時間）。 A：中　B：少　F：あり 第9回　障害の早期発見の重要性とアセスメント ・これまでの授業内容を振り返り、発達障害や知的障害の診断が出る年齢、各種障害の併発の可

	能性、各種障害の特性を持つ子どもに対する保護者の悩み、心理検査を含むアセスメント法について学ぶ。 ・軽度知的障害や境界域知能について把握する。 予習：前回の授業の内容（学習障害児の理解）について復習し、授業に臨む（1時間）。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める（1時間）。 A：中　B：少　E：あり　F：あり 第10回　気になる子・育てにくい子の理解と援助 ・保育所における気になる子や家庭における育てにくい子の理解と援助について学ぶ。 ・これまでの知的障害や発達障害のある子どもの理解や援助についての振り返りを行う。 ・軽度知的障害や境界域知能について把握する。 予習：これまでの授業の内容（知的障害児・ダウン症児・発達障害児の理解と援助）について復習し、授業に臨む（1時間）。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める（1時間）。 A：中　B：少　E：あり　F：あり 第11回　視覚障害・聴覚障害・言語障害の理解と援助 ・視覚障害や聴覚障害、言語障害のある子どもの理解と援助、発達を促す生活や遊びの環境、インクルーシブ保育/教育や合理的配慮、職員間の連携・協働、心身の健康と安全、保護者支援について学ぶ。 予習：第8～9回の授業の内容（学習障害児の理解と援助）について復習し、授業に臨む（1時間）。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める（1時間）。 A：中　B：少　F：あり 第12回　肢体不自由のある子どもの理解と援助 ・肢体不自由のある子どもの理解と援助、発達を促す生活や遊びの環境、職員間の連携・協働、心身の健康と安全、保護者支援について学ぶ。 予習：前回の内容（視覚障害児・聴覚障害児・言語障害児の理解と援助）について復習し、授業に臨む（1時間）。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める（1時間）。 A：中　B：少　F：あり 第13回　重症心身障害のある子どもや医療的ケアが必要な子どもの理解と援助 ・重症心身障害のある子どもや医療的ケアが必要な子どもの理解と援助、発達を促す生活や遊びの環境、心身の健康と安全、インクルーシブ保育/教育や合理的配慮、職員間の連携・協働、発達を促す生活や遊びの環境、保護者支援について学ぶ。 予習：前回の授業の内容（肢体不自由児の理解と援助）について復習し、授業に臨む（1時間）。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める（1時間）。 A：中　B：少　F：あり 第14回　海外にルーツのある子どもなど、その他の特別な支援を要する子ども理解と保育 ・海外にルーツのある子どもの理解と援助、発達を促す生活や遊びの環境、インクルーシブ保育/教育や合理的配慮、職員間の連携・協働、心身の健康と安全、保護者支援について学ぶ。 ・諸外国における障害児保育（特別支援教育）について把握する。 ・障害はないが特別な支援を要する子どもの存在について把握する。 予習：第8～11回の授業の内容（特に、学習障害児・気になる子・言語障害児の理解と援助）について復習し、授業に臨む（1時間）。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める（1時間）。 A：中　B：少　F：あり 試験　期末試験 第15回　授業総括 ・試験の解説をしてこれまでの授業を振り返り、資料、ノートを整理する。今後の自己課題を明確にする。 予習：前回の授業の内容について復習し、授業に臨む（1時間）。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める（1時間）。 B：中　E：あり　F：あり
教育目標との関連	障害児保育をめぐる基礎的な知識を身に付け、深く考え、対話することにより、保育者としての確かな知識を身に付ける。
到達目標　（学修成果）　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	L01. 乳幼児の発達保障の担い手としての保育士に必要な知識と方法の基礎を理解し、説明できる L02. 子ども理解の視点として親子の生活と発達と障害の関連について理解し、説明できる L03. 合理的配慮やインクルーシブ保育・教育の適切なあり方について、自ら考え、論じ合うことができる L04. 障害児保育の現状・課題を把握し、説明できる L05. 障害者を排除しないインクルーシブな社会を尊重し、受け入れることができる
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	期末試験　50%（授業全体の理解度、それらを踏まえた論理的な説明など） 授業態度　25%（授業での聞く姿勢や発表、グループディスカッションでの進行などの貢献度など） 振り返りシート、課題　25%（その日の授業の理解度や工夫、前回からの改善、次回への意欲など） （添付資料のルーブリックを参照すること）
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回の授業でフィードバックを行う。
教科書	①幼稚園教育要領 ②保育所保育指針 ③『よくわかる障害児保育［第2版］』（ミネルヴァ書房、2018）編集：尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子、2,750円（税込）
参考書	・保育所保育指針解説 ・幼稚園教育要領解説 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習、復習は授業計画の通り。
履修上の注意、条件等	シラバスの内容は履修学生の理解度により変更もある。
オフィスアワー	授業の前後に教室で質問を受け付ける。また、Google Classroomの限定コメントやEメールでの質問も随時受け付ける。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 教育課程総論（保育の計画と評価）　　授業コード：

英文科目名称： Curriculum in the Kindergarten, Nursery Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	2単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
石見　容子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F106
添付ファイル			
ルーブリック教育課程総論（保育の計画と評価）.pdf			

講義概要	幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園における保育や教育課程・全体的な計画の意義や編成について学び、子どもたちの主体性を活かした教育課程及び全体的な計画の在り方について考える。 教育課程及び全体的な計画の編成とそれを踏まえた指導計画の作成を実際に行うことにより、具体的に理解する。 他科目との関連：保育内容５領域において学んだねらい及び内容は、園生活の全体を通して総合的に展開されなければならない。教育課程総論(保育の計画と評価)では、５領域を総合的に捉え、指導計画を作成していくことを学ぶ。 授業担当者は、日米の乳幼児教育の現場経験とインターナショナルスクールでの経験がある。その経験を活かして、子どもの主体性を大切にした計画について共に考えていきたい。「子ども理解に基づいた評価」「幼保こ小連携」という視点から保育の計画を考える授業を行う。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション　保育の計画と評価 講義概要を理解する。 子どもが主体となって保育が展開され、より良い育ちに繋げていくという流れを理解する。 予習：教育課程総論（保育の計画と評価）のシラバス全体を読み、講義概要を理解する。（約１時間）復習：授業内で実施する「本日のメモ」の紙を読み直し、新しく出てきた用語について理解する（1時間） B：中　E：あり　F：あり 第2回　カリキュラムの意義と必要性、カリキュラムマネージメントとは カリキュラムとは何か、なぜ計画を立てる必要があるのか、実施した後、その計画をどのように扱うのか、保育の中のカリキュラムの意義と必要性について学び、より良い計画に改善していくことの大切さを知る。 予習：事前の配布プリントを見ながら自分の考えをまとめ全体的な計画・教育課程の考え方についての理解を深める。また、授業時に配布したプリントを読み、教育課程の編成の仕方を理解する。（約１時間）復習：授業内で実施する「本日のメモ」の紙を読み直し、新しく出てきた用語について理解する（1時間） Ｂ：少　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第3回　ねらいについて考える 保育者として子どもにどのように育ってほしいと願うのか。計画を立てる際の目標はどうするのか、事例をもとに考える。 予習・復習：自分の考えをまとめ幼稚園の理解と教育課程の編成・指導案の立案についての理解を深める。（約１時間）復習：授業内で実施する「本日のメモ」の紙を読み直し、新しく出てきた用語について理解する（1時間） Ｂ：多　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第4回　ねらいの立て方と指導案作成の手順 保育の専門用語を知るとともに、どのような意味をもって計画案を作成するのか理解する。 予習・復習：自分の考えをまとめ幼稚園の理解と教育課程の編成・指導案の立案についての理解を深める。（約１時間）復習：授業内で実施する「本日のメモ」の紙を読み直し、新しく出てきた用語について理解する（1時間） Ｂ：多　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第5回　計画をどのように構想するか 長期指導計画と短期指導計画の関係性について学び、時間の流れを意識した計画を構想するということの大切さを知る。 予習・復習：指導計画作成の実際ついて理解する。（約１時間）復習：授業内で実施する「本日のメモ」の紙を読み直し、新しく出てきた用語について理解する（1時間） Ｂ：少　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第6回　環境構成について考える 子どもの育ちにとってより良い環境とは何か、様々な角度から「環境」について考える。 予習・復習：乳幼児の保育計画について理解すると共に、実際に子どもの姿を読み取りまとめる課題に取り組む。（約２時間）復習：授業内で実施する「本日のメモ」の紙を読み直し、新しく出てきた用語について理解する（1時間） Ｂ：少　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第7回　子ども理解と保育者の役割 計画を立てるためには子ども理解が必要不可欠であることに気づき、そのとき保育者はどうあるべきか考える。 予習・復習：指導計画の作成の基本とその具体的方法について理解する。（約１時間） Ａ：多　Ｂ：多　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第8回　様々な計画の種類を知る 計画には様々な種類があることを知り、それぞれの計画の特徴を捉える。 予習・復習：授業後に時系列の保育記録を作成する。（約２時間）復習：授業内で実施する「本日のメモ」の紙を読み直し、新しく出てきた用語について理解する（1時間） Ａ：多　Ｄ：中　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第9回　養護と教育について 幼児期と乳児期の発達の違いを理解し、乳児期の保育を計画するということを考える。

	予習・復習：配布資料を読み、接続期カリキュラムについて理解する。（約１時間）復習：授業内で実施する「本日のメモ」の紙を読み直し、新しく出てきた用語について理解する（1時間） Ｂ：多　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第10回　様々な保育について知る 一般的な保育の流れに加え、様々な施設があることを知り、それぞれの社会的役割について考える。 予習・復習：５歳児の発達の特徴を理解する。（約２時間）復習：授業内で実施する「本日のメモ」の紙を読み直し、新しく出てきた用語について理解する（1時間） Ａ：多　Ｂ：多　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第11回　行事について考える 子どもにとっての行事の在り方について学び、計画することの大切さについて理解を深める。 予習・復習：事前の配布プリントを読み、５歳児の発達の特徴を理解する。（約２時間）復習：授業内で実施する「本日のメモ」の紙を読み直し、新しく出てきた用語について理解する（1時間） Ａ：多　Ｂ：多　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第12回　保育や計画を評価し改善するということ 実際に1日指導案を作成し、見直すことの大切さに気付く。 予習・復習：指導計画（週案・日案）のプレゼンテーションで指摘を受けた部分を修正する。作成した週案に基づき、日案の細案の作成を行う。（約６時間） Ａ：多　Ｄ：中　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第13回　全体的な計画について 「全体的な計画」と1日の流れのつながりについて考える。 予習・復習：全体的な計画について理解する。（約１時間）復習：授業内で実施する「本日のメモ」の紙を読み直し、新しく出てきた用語について理解する（1時間） Ｂ：多　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第14回　発達の連続性を踏まえた小学校との接続について 接続期における発達の連続性について理解する。幼保こ小連携の実際を踏まえ、幼保こ小連携の可能性について考える。 予習・復習：全体的な計画について理解を深める。（約１時間）復習：授業内で実施する「本日のメモ」の紙を読み直し、新しく出てきた用語について理解する（1時間） Ｂ：多　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第15回　期末試験振り返りと指導要録・保育要録の理解 期末試験の振り返りを行う。 保育の評価の在り方について考え、子どもの育ちを小学校につなぐ資料である「保育所児童保育要録」および「幼稚園幼児指導要録」について学ぶ。 Ｂ：多　Ｅ：あり　Ｆ：あり
教育目標との関連	教育課程・全体的な計画の在り方と意義について説明できるようになるとともに、保育の目標を達成するために必要な方法を判断できるようになる。また、乳幼児の発達の特徴を理解した指導計画の作成をするために発達や環境、子ども理解を深める。
到達目標　（学修成果）　　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L0１．教育課程・全体的な計画の在り方と意義について説明できる。 L0２．保育の目標を達成するために必要な方法を判断できる。 L0３．乳幼児の発達の特徴を理解した指導計画の作成ができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	期末試験50% 提出課題40% 授業態度10% 教科基準は添付資料を参照
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	試験は個別に返却し、15回目の授業で期末試験のフィードバックを行う。
教科書	『新・保育の計画と評価　―理論と実践をつなぐ保育カリキュラム論―』教育情報出版　(2000円＋税)
参考書	『幼稚園教育要領解説』フレーベル館（240円＋税） 『保育所保育指針解説』フレーベル館（340円＋税） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館（249円＋税） 『保育用語辞典〔第8版〕』ミネルヴァ書房（2300円＋税）
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記の通り
履修上の注意、条件等	保育者として子どもの発達を踏まえた指導計画の作成が求められる。授業内で各年齢の部分案・日案（活動案）の提出がある。 卒業必須科目であると同時に、幼稚園教諭免許、保育士資格を取得するための必須科目となることを意識して取り組むこと。
オフィスアワー	研究室にて受けつける。時間は研究室掲示板で確認のこと。
備考・メッセージ	期限を守ることを前提に課題が課されます。フォルダやファイルを活用し、プリントなどの管理をしっかりしましょう。

講義科目名称： 自然遊びと生活環境保全Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称： Nature Play and Living Environment Conservation Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
舟生 直美			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F101
添付ファイル			
ルーブリック自然遊びと生活環境保全I （2025）.pdf			

講義概要	・乳幼児の成長にとって「自然遊び」活動は非常に重要である。保育者になる学生自身が「自然遊び」の意義を理解し、「自然」を遊びの中に取り入れる保育のあり方について考えていく。また、子どもの生活環境の安全に向けた内容を取り上げ、保育者として現場で生かせるように理解する。 ・他の科目との関連：１年前期「幼児と環境」の内容を春から秋の季節感を味わいながら体験的に学習する内容になっている。さらに１年後期の「保育内容「環境」の指導法」では秋から冬の季節の活動であり、１年の季節を通した内容になっている。 ・担当教員は、保育現場での実践的な経験があるため、保育現場において、実際の子どもの遊びの事例を多く伝えることを通し、自然遊びの魅力を学んでもらいたい。また、ディープエコロジー（環境保護の視点）やバイオフィリア（人・自然・生物のつながりを考える視点）などの観点から地球環境の保全について関心を持ってもらいたい。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション 授業内容を理解する。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する（約2時間）。 D:多　E：あり　F：あり 第2回　春の自然に親しむ：シロツメクサの冠づくり シロツメクサの冠づくりを通し春の季節を知る。春の季節に触れる。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する（約2時間）。 D:多　E：あり　F：あり 第3回　音から自然環境を知る：サウンドスケープ 自然散策をしながら、聞こえてくるさまざまな音を聞き、その音の出す意味を探る。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する（約2時間）。 D:多　E：あり　F：あり 第4回　食農保育を考える（1）：保存食メンマづくり 保存食づくりを通し、発酵のしくみに興味・関心を持ち、食農保育について考える。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する（約2時間）。 D:多　E：あり　F：あり 第5回　食農保育を考える（2）：芋の苗植え 芋の生長に興味を持つと共に、畑に住む生き物にも関心を持つ。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する（約2時間）。 D:多　E：あり　F：あり 第6回　自然環境保全を考える（1）：種団子づくり 里山をはじめ、地球の自然環境について知り、自然環境保全について考える。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する（約2時間）。 D:多　E：あり　F：あり 第7回　自然環境保全を考える（2）：種団子観察 それぞれの種の育ちの違いを実感すると共に、子どもたちの育ちの違いへの理解を深める。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する（約2時間）。 D:多　E：あり　F：あり 第8回　食農保育を考える（3）：梅ジュースづくり 季節の実りを知り、保育の中で利用できる身近な食農保育を身に付ける。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する（約2時間）。 D:多　E：あり　F：あり 第9回　身近な植物に興味関心を持つ（1）：球根を植えよう 身近な植物に興味を持ち、根、茎、葉、花のしくみを知る。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する（約2時間）。 D:多　E：あり　F：あり

	第10回　食農保育を考える（4）：ラディッシュの種まき ラディッシュの種蒔きを通し、食育、食農に興味を持ち、間引きの方法を習得する。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する（約2時間）。 D:多　E：あり　F：あり 第11回　食農保育を考える（5）：保存食を調理しよう 自分たちで作った保存食を調理することの楽しさを味わい、保育に役立てていくことをイメージする。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する（約2時間）。 D:多　E：あり　F：あり 第12回　動物介在保育からバイオフィリアやディープエコロジーを考える：モルモットの飼育と環境循環 モルモットとの触れ合いを通し、動物を慈しむ心や環境の循環について考える。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する（約2時間）。 D:多　E：あり　F：あり 第13回　身近な植物に関心を持つ（2）：種団子・球根生育観察　/　行事に親しむ：七夕飾り制作 第6，7，9回で植えた植物の育ちの違いから，インクルーシブ保育を考える。 七夕の行事について幼児に解説できるようになる。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する（約2時間）。 D:多　E：あり　F：あり 第14回　季節に合わせた玩具制作：水遊び用おもちゃ作り 子ども達と遊ぶことをイメージし、一緒に遊べる玩具を作成する。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する（約2時間）。 D:多　E：あり　F：あり 第15回　総括まとめと振り返り 期末テストの解説を理解する。この授業のまとめをする。 復習：教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する（約2時間）。 D:多　E：あり
教育目標との関連	子どもの生活環境に安全性を求めたライフスタイル及び「自然遊び」に関する教材活用としての知識・理解並びに作品づくりを通して表現力を修得する。
到達目標　（学修成果）　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	L01. 子どもの生活環境の保全について関心を持ち、事故例などから安全性を理解し、説明できる。 L02. 課題を通して、環境構成の方法や教材活用の視点から考え、工夫できる。 L03. 春から夏の自然の美しさや面白さの発見を通して、生命の尊重の大切さを理解し、表現できる。 ※到達目標は添付ファイルのルーブリックを参照すること。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	①期末試験では授業の内容全般についての理解度を評価する（70%） ②授業に対する前向きさ、関心・意欲、そして、生活環境保全、自然遊びの重要性等に対する理解度で、総合的に評価をする。（ 30% ） 評価基準は添付したルーブリックを参照すること。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	15回目の授業時に模範解答を配布し、解説を行う。疑問点など、さらに、学生からの質問等に答える。
教科書	保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
参考書	教材及び資料（授業時配布する資料）
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記の通り（120分予習復習をすること）
履修上の注意、条件等	授業を構成する当事者として意欲をもって出席するようにしましょう。 私語、携帯電話等の使用は、特にこの授業では、使用不可。自然の理解ですから、自然に積極的にかかわること。条件を満たせない場合は、単位取得が難しくなります。
オフィスアワー	研究室で受け付ける。時間は研究室前、扉に掲示する。Google Classroomの限定コメントでも受け付ける。
備考・メッセージ	保育者になる意識で授業に参加してください。

講義科目名称： 保育内容総論　　授業コード：

英文科目名称： Contents of Early Childhood Care and Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	１年	１単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
織壁 佐和子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F103
添付ファイル			
保育内容総論(2025)ルーブリック.pdf			

講義概要	・幼稚園、保育所、認定こども園における保育内容の理解を深め、その基本的な考え方と諸事項を総論的に学習する。 ・グループでの作業を通して、保育現場での実践力・応用力を養う。またグループメンバーと共に、子どもの生活や遊びから、子どもの姿をイメージし、具体的な保育者の援助や配慮等を学ぶ。さらに、グループ討議や課題作成を通して協働する力を養う。 ・保育を構成する理論や歴史、環境と生活からの経験的な学び、それらを支える保育方法などについて、幼稚園教育要領や保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領をはじめとする様々な資料を基に学ぶ。 ・他の科目との関連は、保育内容の総論であることから、保育内容（領域）に関連する科目は勿論、保育、子どもの発達に関わるすべての科目に関連する。また、保育実習にも関連することから、保育内容総論の理解は重要である。 ・担当教員がもつ幼稚園教諭として20年以上の保育者経験を生かし、具体的な保育実践の事例や映像等、理論と実際の保育を講義内容に組み込む。このことからも、子どもの発達、保育内容等含め保育全体について理解深める。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回 対面　オリエンテーション・保育内容の概要と目的 ・本講義の内容・構成について理解する ・子どもを取り巻く環境について知る ・保育の社会的意義と保育者の専門性などの重要性を知り、当事者として学ぶ意識を高める 予習：シラバスを読み、本講義の全体像を把握し理解する（1時間） 復習：学びの振り返りをし、「学びのレポート」をまとめる（次回提出）（1時間） A:中　B：中 E:あり、F：あり 第2回 配信　保育内容の変遷 ・保育内容の歴史的変遷について学び、社会情勢と保育内容の関係性を理解する ・環境による保育と5領域とへの歩みについて学び、その意味を理解する 予習：事前に支持された課題についてレポートにまとめる（1時間） 復習：配布されたプリントの復習する。学びの振り返りをし、「学びのレポート」をまとめる（次回提出）（1時間） A:少、B：中、D：少 E:あり、F：あり 第3回 配信　子どもの発達と保育内容① ・乳児期の発達の特徴を理解し、保育内容との関係性を理解する ・保育現場の保育実践の映像・講話を通し学ぶ ＊「保育内容事例研究ワークシート」に取り組む 予習：事前に支持された課題についてレポートにまとめる（1時間） 復習：本日の授業で分かったことについて、「学びのレポート」をまとめる（次回提出）（1時間） A:少、B：中、D：少 E:あり、F：あり 第4回 対面　子どもの発達と保育内容② ・主体的・対話的・深い学びについて理解する ・幼児期の発達の特性を理解し、保育内容との関係性を理解する ・社会情動性（非認知能力）の重要性を学ぶ ・保育現場の保育実践の映像・講話を通し学ぶ ＊「保育内容事例研究ワークシート」に取り組む 予習：事前に支持された資料、図書を読む（1時間） 復習：本日の授業で分かったことについて、「学びのレポート」をまとめる（次回提出）（1時間） A:少、B：中、D：少 E:あり、F：あり 第5回 配信　子どもの生活の中の行事と保育内容 ・保育と行事について学ぶ 行事の捉え方について理解する。保育の中の行事と日本の伝統行事について考える 予習：事前に支持された課題についてレポートにまとめる（1時間） 復習：本日の授業で分かったことについて、「学びのレポート」をまとめる（次回提出）（1時間） ・ワークシートをもとに考察する A:多、B：中、D：中 E:あり、F：あり 第6回 配信　インクルーシブ保育・ダイバーシティ（多様性）と保育内容 ・家庭の影響と子どもの育ち、保育内容の関係性を学ぶ ・インクルーシブ保育の概要と個別支援計画や支援体制について事例から理解する ・社会の多様性と子ども一人一人の多様性理解と保育内容の関係を学び理解する 予習：事前の配布資料を読む（1時間） 復習：本日の授業で分かったことについて、「学びのレポート」をまとめる（次回提出）（1時間）

		A:中、B：中、D：少 E:あり、F：あり
	第7回 対面	保育内容と記録 ・保育内容と記録の関係について学び、記録のとり方と作成を学ぶ ・記録の活かし方の基本を事例から学び、実践に繋げる意味を理解する 予習：事前配布資料を読む（1時間） 復習：本日の授業で分かったことについて、「学びのレポート」をまとめる（次回提出）（1時間） A:少、B：中、D：少 E:あり、F：あり
	第8回 配信	評価の意味と意義（１）評価法の種類と価値 ・評価の意味と意義について理解する ・保育の事前・遊び・事後評価など、評価の視点について学ぶ ・ＰＤＣＡ、チェックリストを始め、保育における様々な評価の視点を知り、重要性を理解する A:中、B：中、D：中 E:あり、F：あり 予習：配布資料、ノート等の整理をして、ミニテストに備える（1時間） 復習：本日の授業で分かったことについて、「学びのレポート」をまとめる（次回提出）（1時間）
	第9回 配信	評価の意味と意義（２）質的評価とプロジェクト・アプローチ ・生涯発達の視座から幼児期の学びと育ちについて学ぶ ・対話による探求的保育であるプロジェクト・アプローチを総合的に学ぶ 予習：事前配布資料を読む（1時間） 復習：本日の授業で分かったことについて、「学びのレポート」をまとめる（次回提出）（1時間） A:少、B：中、D：少 E:あり、F：あり
	第10回 対面	保育内容と指導計画案（１）指導計画案と保育内容の関係性 ・乳幼児の育ちについて大切なことを考えた指導計画案について学ぶ ・指導計画案の作成と活かし方の重要性について理解する 予習：事前配布資料を読む（1時間） 復習：本日の授業で分かったことについて、「学びのレポート」をまとめる（次回提出）（1時間） ＊部分指導案作成する A:中、B：中、D：少 E:あり、F：あり（指導案作成）
	第11回 対面	保育内容と指導計画案（２）指導計画案・保育内容と評価の関係性 ・指導計画案の作成と保育内容、そして評価との関係性について学ぶ ・評価の活かし方について理解する 予習：事前配布資料を読む（1時間） 復習：本日の授業で分かったことについて、「学びのレポート」をまとめる（次回提出）（1時間） A:中、B：中、D：少 E:あり、F：あり
	第12回 配信	諸外国の保育・多様な保育（支援が必要な子どもの保育） ・諸外国の保育に学び、世界の動向への意識を高める ・多様な保育と保育者の専門性について学ぶ ・仲間の中で育ちあう保育について考察する 予習：指示された課題について事前に調べ学習をする（1時間） 復習：本日の授業で分かったことについて、「学びのレポート」をまとめる（次回提出）（1時間） A:少、B：中、D：少 E:あり、F：あり
	第13回 配信	子どもの育ちと保育内容（保育者の役割） ・社会変化の中で子どもの生活実態を理解を深め、保育内容を考える 予習：指示された課題について自分の意見を発表できるようにまとめておく（1時間） 復習：本日の授業で分かったことについて、「学びのレポート」をまとめる（次回提出）（1時間） A:少、B：中、D：少 E:あり、F：あり
	第14回 対面	さまざまな保育環境について ・諸外国の保育の環境　日本の幼稚園、保育所等の保育の環境から保育を考える ・DVD視聴等から学ぶ 予習：事前配布資料を読む（1時間） 復習：本日の授業で分かったことについて、「学びのレポート」をまとめる（次回提出）（1時間） A:少、B：中、D：少 E:あり、F：あり
	第15回 対面	授業のまとめ振り返り ・授業内にて期末試験の解説をする。試験と各単元の振り返りをしながら自己の課題について考える。 予習:今までの授業の振り返る。（1時間） 復習：今までのまとめを振り返り、資料等読み返す（1時間）
教育目標との関連	複雑化した現代社会により、保育は多機能化している。保育者は「一人ひとりの子どもの発達に責任を持ち、	

	子どもの最善の利益」を保障することが必須である。そこには、子どもが社会に順応することを求めるだけではなく、生活を創造し、社会を変革しながら活き活きと生活する基礎を培うことが保育内容であると捉えることが求められる。保育者も子どもと共に生活する中で、学び成長する者として、保育内容を展開することが大切である。ゆえに保育内容総論では、歴史、思想、保育方法等の知識を習得し思考し、自分の意見をもてるように学ぶ。
到達目標　（学修成果）　　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	授業の到達目標 1.　子ども理解と保育との関連性を理解し具体的な保育の過程に繋げ説明できる。 3.　保育内容の方法と原理、及び保育者の役割を理解し、５領域の内容が総合的に理解でき論理的な考えに基づき論じ合うことができる。 5.　保育者としての態度の必要性を理解し、その基礎を理解することができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	①期末テスト　40% ②授業内容全般について理解度を評価（課題レポート等の内容）40% ③受講態度：グループワーク、ディスカッション等において、理解度や取り組みの積極性等を評価　20%
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	最終授業で期末試験のフィードバックを行います。
教科書	「演習保育内容総論 - 保育の総合性を読み解く - 」著者神田伸生・高橋貴志 編著　萌文書林　1980円（税込）
参考書	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」各解説書
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	毎回の授業における課題には、真摯に取り組んでください。授業で不明な用語・内容理解のための復習が欠かせませんので、分からないことをそのままにしないようにしましょう。
履修上の注意、条件等	授業を構成する当事者として出席するようにしてください。 ・私語・携帯電話等の教室内使用は不可。条件を満たせない場合は、単位取得が難しくなります。 ・シラバスの内容は授業展開に応じて変更する場合があります。
オフィスアワー	授業の終わり、研究室、限定コメントで受け付けます。
備考・メッセージ	一緒に楽しく学びましょう。

講義科目名称： 幼児と健康　　授業コード：

英文科目名称： Infants and Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
春学期	2年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修	
担当教員				
近藤洋子				
授業形態　講義	担当形態　単独		実務経験　なし	ナンバリング：A203
添付ファイル				
2025幼児と健康ルーブリック.pdf				

講義概要	講義概要：現代の幼児を取り巻く社会状況や教育的課題をふまえ、領域「健康」の指導に必要な基礎的知識・基礎的技能を身につけることを目指す。主に、幼児の健康、心身の発達と基本的な生活習慣、運動発達と身体活動、安全な生活を軸に展開する。 他の科目との関連：1年次に学ぶ「子どもの保健」をもとに、「子どもの健康と安全」「保育内容（健康）の指導法」「体育実技」「体育理論」「実習に関する科目」などの基礎知識として本科目の教育内容・方法を学び、実習に備える。後学期の「保育内容（健康）の指導法」では、乳幼児が「自ら健康な心と体を育て、安全な生活を作り出す力を養う」ための保育実践に向けて、グループワーク等を通して実践的な指導方法を学ぶ。本科目ではその基盤となる知識・技能を学び理解を深める。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　【対面授業】幼児期までに育てたい10の姿（健康な心と体）の理解－健康の定義と乳幼児の健康の意義－ 授業の進め方と、授業の評価方法の説明をする。 乳幼児期の健康の意義とともに、諸外国の動向との比較も行いながら、乳幼児を取り巻く生活環境や健康の現状や課題について理解する。 予習：幼稚園教育要領や保育所保育指針では「健康」をどのようにとらえているか確認する。（30分） 復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（30分） A:中　B:中　E:あり 第2回　【オンデマンド配信授業】身体の諸機能の発達－身体・運動・精神― 乳幼児期の身体発育および、脳の発達、精神・運動機能、生理的機能などの発達について理解する。 予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（30分） 復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（30分） A:少　B:少　E:あり 第3回　【オンデマンド配信授業】日常生活における運動と遊びとしての運動 国内の幼児期運動指針とともに、WHOのガイドライン等による諸外国の動向をふまえ、幼児期の運動の意義や具体的な方法について理解する。 予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（30分） 復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（30分） A:少　B:少　E:あり 第4回　【対面授業】幼児期の生活習慣の獲得および生活リズム形成とその意義 生涯の健康（well-being）につながる基本的生活習慣や生活リズムの獲得について理解する。 乳幼児期の生活習慣の獲得時期の目安を理解する。 予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（30分） 復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（30分） A:中　B:中　E:あり 第5回　【オンデマンド配信授業】安全管理と事故予防（保育施設や学校における安全管理と危機管理：リスクとハザード） 保育の場における安全管理・危機管理のあり方や、子どもの安全への意識や態度を育むことの重要性を理解する。 予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（30分） 復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（30分） A:少　B:少　E:あり 第6回　【オンデマンド配信授業】病気の予防（感染症の予防） 幼児期に特徴的な病気として、主に感染症をとりあげ、その予防法について理解する。 病気を予防するための乳幼児期における健康教育のあり方について考える。 予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（30分） 復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（30分）

	A:少　B:少　E:あり 第7回　【オンデマンド配信授業】幼児期の神経発達症（発達障害） 幼児期の神経発達症（自閉スペクトラム障害、ADHD、学習障害など）について理解し、気になる子どもへの対応のあり方について学ぶ。 予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（30分） 復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（30分） A:少　B:少　E:あり 第8回　【対面授業】保育実践に向けて　まとめ 子どもの健康や全面発達の保障について、大人の役割、保育者の役割について理解する。 期末試験の総括と振り返りを行う。 予習：期末試験の振り返りを行い、疑問点などを明確にしておくこと。（30分） 復習：これまでに学んだ内容について振り返り、今後の学びやキャリアにどのように生かすか考える。（30分） A:中　B:中　E:あり
教育目標との関連	健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身につける。具体的には、幼児の心身の発達、基本的生活習慣、運動発達、安全な生活等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.　幼児期の健康課題と健康の発達的意味を理解できる。 2.　幼児期の身体の諸機能・運動発達や生活習慣形成の重要性を理解し、発達段階に応じた対応をするための思考力・判断力を高めることができる。 3.　安全な生活と事故や病気の予防に必要な技能と相手に伝える能力を高めることができる。 4.　幼児を取り巻く健康に関する社会状況や教育的課題に関心を持ち、意欲的に授業に取り組むことができる。 5. 幼児が自らの健康を保つことに主体的に取り組めるように、グローバルな視野と豊かな人間性を生かし社会に貢献する姿勢をもつことができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	1.期末試験（授業内容全体の理解度）40%、授業内の課題（グループワークやディスカッションへの貢献度・参加度）20%、授業の振り返りに関する課題（授業の理解度や取り組みの積極性）40% 2.課題に取り組む積極的な姿勢と、どれだけ深く取り組めたかを評価する。 添付資料のルーブリックによる評価基準を参照のこと。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	8回目授業において、解説・振り返りを行う。
教科書	教科書は使用せず、授業中の配布資料、並びにGoogle Classroom配信資料をテキストとする。
参考書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館、2018、264円 『保育所保育指針解説』厚生労働省編、フレーベル館、2018、352円 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他、フレーベル館、2018、385円 『子どもの保健』児童育成協会監修、松田道雄、金森三枝編集、中央法規、2019、2,200円 『子どもの健康と安全』児童育成協会監修、松田道雄他編集、中央法規、2019、2,200円 その他　参考URLなどは授業中に提示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	シラバスや配布資料を参照し、準備学習に取り組む。授業によっては情報収集を事前課題とする場合がある。健康や保育関連の既知の用語だけでなく、新しい用語を確認し、調べておくこと。特に、オンデマンド配信授業については、配付資料で示した参考資料などを参照し、主体的・発展的に学びを深めるように心がけてほしい。復習としては、毎回の振り返り課題に取り組み、授業内容の理解度を確認すること。
履修上の注意、条件等	授業に関する資料等はすべてGoogle Classroomに掲示する。事前配付資料を参照し、疑問点等を明確にした上で授業に臨むこと。
オフィスアワー	授業終了後、もしくはメールで受け付ける。
備考・メッセージ	1・4・8回目は対面授業、その他はオンデマンド配信授業。 子どもの健康を守り、心身の健康状態を向上させるのための情報を収集しておくこと。

講義科目名称： 幼児と人間関係　　授業コード：

英文科目名称： Young Children and Human Relationship

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
石見　容子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A106
添付ファイル			
ルーブリック幼児と人間関係（2025）.pdf			

講義概要	現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、乳幼児教育で保障すべき、養護・教育の内容に関する知識を身に付ける。特に、領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で、幼児期の人とかかわる力が育つことを理解する。子どもの人間関係の発達過程の理論と実践について、実務経験のある本授業担当者から保育現場における事例を通して学ぶ。子どもが主体的に学び、人間関係を育む保育者としての当事者意識を高める。他の科目との関連：乳幼児の人間関係は他の領域とも関係が深く、生活や遊びを通して総合的に発達することを理解した上で、本講座で学んだ理論を他の領域と関連付けながら具体的な保育場面につなげていく。 担当教員は日米の乳幼児教育を実務経験がある。その経験を活かして、様々な角度から子どもたちを取り巻く“人間関係”について共に考えていきたい。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　イントロダクション・子どもと人間関係（対面） 【対面】 ・現代社会と幼児の人間関係・自分自身の人間関係について振り返る ・人を知ること、人間関係について事例から考える 予習：シラバスを読み、本講義の全体像を把握する（30分間） 復習：授業内で見聞きして興味をもったことを調べる（1時間） A：少 B：少 E：あり F:あり 第2回　乳幼児期における人間関係①（配信） 【配信】 ・保育・幼児教育の基礎を知る ・保育者の援助について学ぶ ・子どもを取り巻く社会を考える 予習：保育所、幼稚園、認定こども園について調べる（1時間） 復習：授業内で見聞きして興味をもったことを調べる（1時間） E：あり F:あり 第3回　乳幼児期における人間関係②（配信） 【配信】 ・育まれる人間関係及び育む人間関係を知る。 ・環境から人間関係について理解する 予習：自分自身の幼児期における体験を思い出しまとめる。 ＊前の授業で指示を出す（（1時間） 復習：授業内で見聞きして興味をもったことを調べる（1時間） E：あり F:あり 第4回　子どもの発達と人間関係（対面） 【対面】 ・領域「人間関係」の考え方について理解する 予習：保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の人間関係を読む（1時間） 復習：授業内で見聞きして興味をもったことを調べる（1時間） A：多 B:中 D：中 E：あり F:あり 第5回　人間関係の成り立ちと展開（配信） 【配信】 ・自分自身の人間関係の成り立ちを振り返り人間関係の成り立ちを学ぶ ・乳幼児期の人間関係の育ちと人との関わりの道筋を理解する 予習：保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における10の姿を読む（1時間） 復習：授業内で見聞きして興味をもったことを調べる（1時間） C：中 E：あり F:あり 第6回　幼児の人間関係の育みを理解する（配信） 【配信】

	・乳児の育ちと人との関わりを知る ・自立心の芽生えと人間関係について学ぶ 予習：乳児の発達について資料に目を通す。関係個所については授業内で指示を出す（1時間） 復習：授業内で見聞きして興味をもったことを調べる（1時間） E：あり F：あり 第7回　幼児の人間関係の育み①　授業の総括・振り返りと最終課題（対面） 【対面】 ・保育者が子どもと関わるきっかけを考え人間関係の発達を理解する。 ・保育者が子ども同士をつなぐかかわりについて学ぶ。 ・最終課題に取り組む。その後、解説を聞き、多面的視点から保育を捉える。 予習：今までを振り返り、授業のキーワードで不明なところをまとめておく。（1時間） 復習：授業内で見聞きして興味をもったことを調べる（1時間） A：中 B：中 E：あり F：あり 第8回　幼児の人間関係の育み②（対面） 【対面】 ・最終課題についての解説を行う。 ・保育の領域「人間関係」についての理解を深める。 予習：授業のキーワードで不明なところをまとめておく（1時間） 復習：授業内で見聞きして興味をもったことを調べる（1時間） A：少 B：中 E：あり F:あり
教育目標との関連	保育所保育指針が示す乳児保育における養護及び教育について、保育者が行う援助や関わりについて、保育者として必要な教養、子どもや保育の内容・方法を理解し、基礎的な専門知識、技法、態度を身につける。また、身に付けた教育・福祉の専門知識を活かして、地域社会及び家庭においても、人間関係を円滑にする役割を果たすことができるようになる。
到達目標　（学修成果）　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	L01．子どもの人間関係の発達論について理解し、自分の言葉で説明・解説できる L03．子どもとの関係性を育むための言葉づかいや表情等について、指摘できる L05．保育者は子どもの人間関係の育ちのための人的環境であることを自覚して、多様な他者を尊重し、受け入れることができる 到達目標は添付資料のルーブリックを参照すること。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	毎回の授業の振り返り、小レポート　56%（各回7%×8） 授業態度、積極的な授業参加　10% 最終課題(レポート)　34% 添付のルーブリック参照 ＊欠席等の取扱いについては「学生ハンドブック　授業について」に準ずる。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	最終授業において最終課題(レポート)の解説を行い学びを整理する。
教科書	「天使のにもつ　童心社　いとうみく/著 1300円」 「幼稚園教育要領解説　平成30年　フレーベル館　文部科学省/著　264円」「保育所保育指針解説　平成30年　フレーベル館　厚生労働省/編　352円」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書　平成30年、フレーベル館　内閣府/著　文部科学省/著　厚生労働省/著　385円」及び解説書
参考書	「事例で学ぶ保育内容　領域　人間関係」　萌文書林（無藤隆監修）
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	復習：振り返りを行い、不明な用語、内容について理解しておくように努める（1時間） 予習：毎授業における課題に取り組み、授業に臨むこと（1時間）
履修上の注意、条件等	シラバスの内容は、履修学生の理解度等による変更もある。
オフィスアワー	研究室に掲示 質問はオフィスアワー、googleクラスルーム限定コメントにて受けつける。
備考・メッセージ	対面授業（第1回、第4回、第7回、第8回）と配信（左記以外の回）を併用する。（ハイブリッド授業） ※配信はその日9：00～、提出期限はその日23：59、翌日23：59までの提出は「遅刻」となる

講義科目名称： 幼児と環境　　授業コード：

英文科目名称： Infants and Environment

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年生	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
舟生 直美			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A107
添付ファイル			
ルーブリック幼児と環境 （2025）.pdf			

講義概要	・保育における環境について具体的に理解しつつ、子どもの発達と関連付けながら領域「環境」の意義と「ねらい」「内容」を学んでいく。保育の実践の様子や事例に触れることで、子どもの発達を促す保育者の援助やかかわりについても学び、保育者としての専門性の基礎を身に付ける。 ・本科目担当者は、保育者としての実務経験があり、保育現場における具体的な事例や、映像教材等を用い、実際の子どもの姿に合わせた保育方法や保育の環境に関わる内容について解説し、「幼児と環境」の理解を深める。 ・他の保育内容に関わる科目すべてに関連づけながら領域「環境」の理解を深めていく。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:ＰＢＬ（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回対面　保育における環境とは何か 保育における「環境」とは何を指すのかを具体的に理解し、その重要性を考える。 さまざまな保育から学ぶ（レッジョ・エミリアの保育に学ぶ。モンテソッソーリに学ぶ。） 予習：シラバスとテキスト第1章を読み、これからの学習に対して理解する。（1時間） 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。（1時間） E：あり 第2回配信　子どもの発達と環境 領域「環境」の考え方について理解し、子どもの発達との関連を考える。 予習：教育要領の領域「環境」部分とテキスト第2章を読む。（1時間） 復習：授業内容を振り返り、理解を確認する。課題プリントを仕上げる。（1時間） E：あり　F：あり 第3回配信　人とのかかわり―人的環境としての友達・保育者 園生活において友達や保育者とかかわる様子を具体的に知り、人的環境の意義や重要性を考える。 予習：自身の幼児期における身近な人とのかかわりについて思い起こし、どのようにかかわり、影響し合ったかを考え、ノートにまとめる。（1時間） 復習：授業内容を振り返り、理解や考えを深める。課題プリントを仕上げる。（1時間） E：あり　F：あり 第4回対面　ものとのかかわり―遊びにおける子どもの発達 園生活において、子どもが玩具（もの）とどのようにかかわり、発達していくかを映像視聴から考える。 予習：テキスト第3章を読む。（1時間） 復習：授業内容を振り返り、理解や考えを深める。課題プリントを仕上げる。（1時間） E：あり　F：あり 第5回配信　自然とのかかわり―子どもの興味や意欲に基づく活動の展開 子どもは自然物に対してどのように興味をもちかかわっていくのか、保育者はどのようにして子どもの主体性を尊重しながら保育を展開していくのかを、事例を通して考える。 予習：自身の幼少期に「自然（植物・ペット以外の生き物）とかかわった経験について思い出し、自分にとってどういう意味があったかを考える。（1時間） 復習：授業内容を振り返り、理解や考えを深める。課題プリントを仕上げる。（1時間） E：あり　F：あり 第6回配信　文化・社会とのかかわり―地域の文化や伝統に親しむ 文化や社会を環境として考える意義を理解し、身近な地域の伝統文化や風習について調べ、レポートにまとめる。 予習：テキスト第5章を読む。社会や文化を環境として捉え、自身との関わりを考える。（1時間） 復習：課題（身近な伝統文化について調べる）に取組み、仕上げる。（2時間） E：あり　F：あり 第7回対面　子どもの育ちを支える環境―授業の総括・振り返りと最終課題 子どもの発達と環境の在り方について理解する 予習：第1回から第6回までの学習内容を総合的に振り返り、理解を確かにする。（2時間） 復習：事業内容を振り返り、特にできなかった事項について理解を確実にする。（1時間） E：あり 第8回配信　子どもの育ちを支える環境のまとめ（期末レポート課題の振り返りと解説） これまでの授業の振り返りを行い、各自の成果と課題を明確にする。 予習：これまでの学習と学習成果について振り返る（1.5時間） 復習：学習成果を振り返り、今後の自己課題を明確にする。（1.5時間） E：あり
教育目標との関連	領域「環境」の視点から、子どもの発達や保育者の役割を理解し、保育者としての資質を高めることを目指す。

到達目標　（学修成果）　　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	L01.保育における「環境」の重要性を理解し、幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本と関連付けて考えることができる。 L02.領域「環境」に示される「ねらい」「内容」を踏まえ、さまざまな環境にかかわる幼児の姿から発達を捉えることができる。 L03.幼児の主体的・対話的で深い学びを実現できる保育者の援助やかかわりについて理解し、自分の考えを述べることができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	評価 ①課題等の提出物…40% ②対面時の授業態度10% ②試験（レポート課題）…50% 評価基準 添付のルーブリックを参照のこと
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	・期末レポートにより試験となる。 ・期末レポートの解説は、8回目の授業時にて丁寧に解説を行う。学生の疑問点等は、Googleクラスルームにて個別でも受け付け解説を行う。
教科書	・『体験する　調べる　考える　領域「環境」』田宮　縁　　萌文書林 ・『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018年 ・『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年
参考書	授業にて紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業計画欄を参照のこと
履修上の注意、条件等	配信授業の回では、授業内で課された課題を当日中に提出することで「出席」とする。 詳細は初回の授業にて説明する。
オフィスアワー	研究室にて、質問等に対応する。Googleクラスルームにて個別に受け付ける。
備考・メッセージ	・ハイブリッド形式(配信授業：第2・3・5・6・8回授業、対面授業：第1・4・7回）で行う。 ・提出課題に対するフィードバックは、授業内にて行う。

講義科目名称： 幼児と言葉　　授業コード：

英文科目名称： Young Children and Language

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	1単位	卒業必修　幼免必修　保育士必修
担当教員			
相澤京子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：なし	ナンバリング：A109
添付ファイル			
「幼児と言葉」ルーブリック2025.pdf			

講義概要	領域「言葉」の指導の基盤となる、乳幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身につける。具体的には、人間の証と言える「言葉」の意義と機能について理解した上で、乳幼児の言葉の発達過程を学ぶ。さらに、乳幼児の言葉を育み、言葉に対する感覚を豊かにする絵本や紙芝居などの児童文化財や言葉遊びの実践に関する基礎的な知識や技能を修得する。 他の科目との関連：「保育内容（言葉）の指導法」では本講義で学んだ理論を具体的な保育場面につなげていく。また、総合的に保育内容を理解するためには、他の領域に関する科目もそれぞれに関連している。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション―人間にとって「言葉」とは何か？ シラバスを用いて、本講義のねらいと内容、及び受講上の注意と約束についての説明を受ける。 ワークショップを通して「言葉」とは何かを考える。 予習：シラバスをよく読み、科目の全体像を把握する。（約1時間） 復習：自身にとって「言葉」とはどのような意味を持つのかを考えてみる。（約1時間） A:中 第2回　言葉の機能 前回のワークショップを踏まえて、言葉の機能について学ぶ。 絵本カードの課題についての説明を受ける。 復習：テキストpp17-21を読む。絵本を読み、記録をとる。（約2時間） A:少　F:あり 第3回　乳幼児の言葉の発達① DVDを視聴し、乳幼児の言葉の発達の全体像を把握する。 予習：自分自身の幼少期の言葉について保護者等に聞いておく。（約1時間） 復習：DVD確認プリントの内容を整理する。絵本を読み、記録をとる。（約1時間） F:あり 第4回　乳幼児の言葉の発達② 前言語期の言葉の発達と保育者の援助を具体的に学ぶ。 復習：テキストpp39-41を読む。絵本を読み、記録をとる。（約2時間） F:あり 第5回　乳幼児の言葉の発達③ 初語から二語文の時期までの言葉の発達と保育者の援助を具体的に学ぶ。 復習：テキストpp42-45を読む。絵本を読み、記録をとる。（約2時間） F:あり 第6回　乳幼児の言葉の発達④ 多語文の時期から言葉を思考の道具として使用する時期までの言葉の発達と保育者の援助を具体的に学ぶ。 復習：テキストpp45-46を読む。絵本を読み、記録をとる。（約2時間） F:あり 第7回　乳幼児の言葉の発達⑤ 書き言葉に関心を持ち、文字を習得する時期までの言葉の発達と保育者の援助を具体的に学ぶ。 復習：テキストpp47-49を読む。絵本を読み、記録をとる。（約2時間） F:あり 第8回　言葉を育み、想像する楽しさを広げる児童文化財① 児童文化財の種類と乳幼児にとっての意義を学ぶ。 復習：テキストpp99-102を読む。絵本を読み、記録をとる。（約2時間） A:中　F:あり 第9回　言葉を育み、想像する楽しさを広げる児童文化財② 絵本の読み聞かせの意義と方法を学び、実際に実践する。 復習：テキストpp102-103を読む。絵本を読み、記録をとる。（約2時間） D:多　F:あり 第10回　言葉を育み、想像する楽しさを広げる児童文化財③ 日本と外国の様々な絵本の面白さを知るとともに、各年齢別の絵本の選び方を学ぶ。 復習：テキストpp103-104を読む。絵本を読み、記録をとる。（約2時間） A:少　F:あり 第11回　言葉を育み、想像する楽しさを広げる児童文化財④ 絵本と紙芝居の違いについて知るとともに、紙芝居の演じ方を学ぶ。 復習：テキストpp110-112を読む。絵本を読み、記録をとる。（約2時間） A:少　F:あり 第12回　言葉に対する感覚を豊かにする実践① 言葉の美しさや楽しさを実感するためのワークショップを行う。 復習：身近にある言葉から、言葉の面白さが分かる例を探してみる。絵本を読み、記録をとる。（約2時間） A:多　F:あり 第13回　言葉に対する感覚を豊かにする実践②

	言葉遊びの種類を知るとともに、実際に実践する。また、保育にどのように取り入れていくかを学ぶ。 復習：テキストpp116-121を読む。絵本を読み、記録をとる。（約2時間） A:中　B:中　F:あり 第14回　領域「言葉」の概要 領域「言葉」のねらいと内容について学ぶ。 復習：テキストpp25-37を読む。絵本を読み、記録をとる。（約2時間） F:あり 第15回　総括と学びの振り返り 授業の総括を行うとともに、各自の到達度を振り返ることにより今後の学習課題を明確にする。絵本カードの課題を提出し、感想をまとめる。 復習：これまでの授業のノート・プリント類を整理し、授業の内容を振り返っておく。（約2時間） E:あり
教育目標との関連	乳幼児の言葉の発達やそれを支える児童文化財等の基礎的知識を習得することにより、社会生活に必要な教養と保育者として確かな知識を身につける。また、言葉に対する感覚を豊かにする実践を行うことは、学生自身の豊かな感性を育てることにつながる。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L01.人間にとっての言葉の意義と乳幼児の言葉の発達について理解し、説明できる L01.言葉に対する感覚を豊かにする実践と児童文化財に関する基礎的な知識を説明できる L03.乳幼児の言葉を育み、想像する楽しさを広げる児童文化財を実践できる L04.乳幼児の言葉を育み、想像する楽しさを広げる児童文化財に関心を持つ
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	期末試験　60%　・授業内容全般を理解し、自分の言葉で説明できるかどうかを評価する 授業における取り組み　10%　・授業内での実践等における作品の理解度、表現力を評価する 課題等の取り組み　30%　・教材研究への主体的な取り組みを評価する 成績評価は添付資料のルーブリックを参照すること。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回の授業で期末試験の解説と振り返りを行う。
教科書	駒井美智子編『保育者をめざす人の保育内容「言葉」 第2版』（みらい、2018）2,200円（税込）
参考書	『幼稚園教育要領解説』（平成29年3月告示　文部科学省） 『保育所保育指針解説』（平成29年4月告示　厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の準備学習は上記の通りである。課題以外にも、絵本などの児童文化財に触れる機会を意識的に増やしてもらいたい。
履修上の注意、条件等	受講者全員に絵本の読み聞かせの実践をしてもらう予定である。 シラバスの内容は履修学生の理解度等によって変更の可能性もある。
オフィスアワー	103研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。また、Googleクラスルームの限定コメントでも受け付ける。
備考・メッセージ	すべて対面授業で行う。 授業の進め方の都合により、45分授業を15回実施する。

講義科目名称： 幼児と表現　　授業コード：

英文科目名称： Young Children and Expression

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
秋学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修	
担当教員				
大見由香　安田真紀子　二階堂あき子				
授業形態：講義	担当形態：オムニバス	実務経験：有（講義概要欄参照）	ナンバリング：A108	
添付ファイル				
幼児と表現Rubric2024.pdf				

講義概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針等に於ける感性と表現に関連する領域「表現」について理解する。 領域「表現」に関する乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、乳幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身につける。 学生自身の啓発及び、感性を刺激することで、学生自身が子どもの表現するモデルとなれることを目指す。 当該科目は、保育の他領域「幼児と言葉」、「幼児と健康」、「幼児と人間関係」、「幼児と環境」、「幼児音楽」、「幼児造形」と関連する。表現は、他領域を「表現」することに深く結びついているからである。 また、当該科目を基本として、「表現の指導法Ⅰ」及び「表現の指導法Ⅱ」に続く科目となる。 全9回のうち対面授業7回、配信授業2回で行う。 大見先生の実務経験 インターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験がある。子どものミュージカルやティータイムショーの企画、監督なども手がけている。海外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイント、また楽器を用いた表現法をなじみやすい方法で紹介できる。 安田先生の実務経験 パネルシアター創始者古宇田亮順氏に師事し、パネルシアター公演を約17年1000回以上行っている。幼稚園、保育園、子育て支援施設、特別支援学校、福祉イベント等を中心に活動し、親子向けワークショップや保育者講習会の講師も務める。 二階堂先生の実務経験 モダンダンス、ジャズダンス、舞踊創作の指導者として、35年以上の経験があり、また、親子体操・ダンス、キッズヨガ、障がい児のエアロビクスやダンスなども、都内の各地域の特殊学校等で担当していた。 短大、バレエスタジオや地域のサークル活動にて、ダンス創作法やストレッチ方法などを指導中。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第１回　【対面】オリエンテーション・表現とは何か 授業の概要　保育の基本と表現（担当：大見、安田、二階堂） 領域「表現」及び、表現総論　身近なものの音に出会う 予習・復習:幼稚園教育要領の領域「表現」の部分を読んでおく（30分） 宿題：授業で取り組んだキャンパス音マップを完成させ、指定の方法で提出する。（30分） C：小　E：あり　F：あり 第２回　【配信】複合的表現（パネルシアター）① 様々な要素を用いての表現について（担当：安田） 予習：様々な表現の要素とは何かを調べ学習する（30分） 復習：授業内で学んだ表現の要素をまとめる（30分） E：あり　F：あり 第３回　【配信】複合的表現（パネルシアター）② 表現とコミュニケーションについて（担当:安田） 予習：表現とコミュニケーションの関係を自分なりに考え、調べ学習する（30分） 復習：授業内で学んだ表現とコミュニケーションの関係についてまとめる（30分） E：あり　F：あり 第４回　【対面】表現活動の企画（文化祭企画発表） 文化祭におけるクラス企画のプレゼンと当日の参加（担当：大見、安田） 文化祭でのクラス企画の内容について、各クラスが全員に共有するために代表者がプレゼンテーションをおこなう。自分のクラスのクラス企画の運営をする。 復習：他のクラスのクラス企画を見学し、工夫や配慮をした点を学ぶ。（約1時間） A：中　D：中　E：あり　F：あり 第５回　【対面】身体表現① 表現とは何か（担当：二階堂） 様々なアートや環境・技術(ICT)と対話 パフォーマンス・インスタレーションなどを知る 予習：該当Blogをよくみて、予習（20分） 復習：課題を作成して　提出（40分） C:中　E:：小　F：有 第６回　【対面】身体表現② 身体表現等と多文化背景について学ぶ（担当：二階堂） 身体と表現の始まりを意識する 文化背景の異なる表現方法 予習：前授業内容の見直し　課題の確認(30分) 復習：授業課題を仕上げて　提出(30分) D：中　E:有　F:有 第７回　【対面】音楽表現① 声を用いた表現、諸外国の音楽表現について（担当：大見） 声や歌を用いた表現活動を実際に体験する。 予習：声や歌を用いた表現についてネットやYouTubeで調べてみる（30分）

	復習・宿題：授業でみたビデオの感想をクラスルームより提出する。（30分） A:多　D:中　E:あり　F：あり 第８回　【対面】音楽表現② 器楽合奏について（担当：大見） 楽器の奏法や特性を理解し、実際に合奏する。 予習：楽器用いた表現についてネットやYouTubeで調べてみる（30分） 復習：授業で行った活動の振り返りをクラスルームより提出する。（30分） A:多　D:中　E:あり　F：あり 第９回　【対面】領域「表現」の授業全体のまとめ 授業全体の振り返りと期末テストのフィードバックを行う。 幼稚園教育要領の領域「表現」について理解を深める。（担当：大見　安田　二階堂） 予習・復習：幼稚園教育要領の領域「表現」について再確認しておく（30分） E:あり　F：あり
教育目標との関連	「社会生活に必要な教養と保育者として豊かな知識を身に付ける」ために、感性をどのように磨き、どのような表現活動を為しうるのかを、実際に思考錯誤することで修得する。それには、自身の精神力・努力が重要である。様々な物事に好奇心を持ち関連づけていくことで、「表現」の領域を経験的に学ぶ。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L01. 子どもの遊びを豊かに展開するために「表現」領域の内容や知識を修得する。 L03. 表現、音楽表現、言語表現等の表現活動に必要な技術方法や知識を理解し、修得する。 L04. 子どもの「表現」援助に必要な指導力の向上を目指して、自身の表現力や感性を養うことに努力できる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	１．課題及び主体的・対話的・協調性などの授業態度を評価する 60% ２．期末テスト40% *欠席等の取り扱いは、『学生ハンドブック』の履修要項に準ずる。 評価基準は、添付資料のルーブリックを参照のこと。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	期末テストのフィードバックは最終授業内にて行う。
教科書	テキスト　プリントを適宜、配布する 『幼稚園教育要領』文部科学省　2017年　240円(税別) 『保育所保育指針』厚生労働省　2017年　320円(税別) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府他 2017年 385円 共にフレーベル館
参考書	授業中に適宜資料を配布する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	事前事後学習は、各教員が授業内もしくはGoogle Classroomで示す
履修上の注意、条件等	実践的演習なので、学生主体の授業展開になる。そのため各自が積極的に授業に参加することで評価の対象となる。
オフィスアワー	質問等に関しては、Google Classroomの限定コメントにより受け付ける
備考・メッセージ	全9回授業であるため、欠時オーバーにならないよう提出日や受講日のスケジュール管理をしっかり行うこと。 対面授業7回、オンデマンド配信授業2回で行う。授業はクラスにより授業回が前後することがある。Google Classroom の掲示やメール通知をよく見ること。

講義科目名称： 保育内容（健康）の指導法　　授業コード：

英文科目名称： Childcare Content Health Guidance Method

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
近藤　洋子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：なし	ナンバリング：F208
添付ファイル			
2025保育内容（健康）の指導法ルーブリック.pdf			

講義概要	講義概要：乳幼児期において「自ら健康な心と体を育て、安全な生活をつくり出す力を養う」ために、発育・発達の基本を踏まえ、領域「健康」のねらいと内容や、遊びや生活の中での効果的な指導法を理解するとともに、指導に必要な知識・技能を修得する。 関連図書・資料や実習等での実践的な学びをもとに、知識・理論と実践を関連付け、保育内容（健康）の指導法について考える。さらに、国内外の子どもの健康に関する課題、感染症・アレルギー・事故予防、保健活動の実践などについて、グループワークや課題レポートに取り組み、グローバルな視野やダイバーシティの視点から、子どもに対する理解を深めながら保育のあり方について考える。 他の科目との関連：1年次に学ぶ「子どもの保健」および2年次に学ぶ「幼児と健康」をもとに演習を進める。「子どもの健康と安全」「体育実技」「体育理論」「実習に関する科目」の基礎知識として本科目の教育内容・方法を学び、実習に備える。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション　保育内容（健康）の概要について 授業の進め方と、授業の評価方法の説明をする。 幼稚園教育要領や保育所保育指針等を理解する。「子どもの健康な育ちを保障する」ための課題について考える。健康阻害要因について、諸外国との比較を行うことにより、子どもの健康についてグローバルな視点からとらえ、健康課題についての理解を深める。 予習：幼稚園教育要領や保育所保育指針では「健康」をどのようにとらえているか確認する。（30分） 復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（30分） A:中　B:中　E:あり 第2回　ライフサイクルからみた健康 ライフサイクルを通して健康や発育・発達の特徴を学び、「健康な子ども、元気な子どもの姿とは」何か、それを実現するための保育のあり方について考える。 予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（30分） 復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（30分） A:中　B:中　E:あり 第3回　基本的な生活習慣 健康の基礎になる基本的な生活習慣（運動・食・睡眠・生活リズム）の現状やその重要性について学び、乳幼児期の生活習慣に関連する問題への保育者としての関わり方について考える。 予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（30分） 復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（30分）） A:中　B:中　E:あり 第4回　幼児と運動・遊び 幼児の運動発達とともに、様々な遊びの中での多様な運動経験の重要性を理解し、発達に応じた運動や遊びの指導のあり方について考える。 予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（30分） 復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（30分） A:中　B:中　E:あり 第5回　幼児と食生活を考える1 幼児の食生活の現状について学ぶ。さらに、朝食や共食の意義を確認し、孤食などの食生活面の問題への対応について、家庭との連携・協力の視点も含めて考える。 予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（30分） 復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（30分） A:多　B:多　E:あり　F:あり 第6回　幼児と食生活を考える2 幼児期の食生活面の問題として、偏食や少食などについて、食べる意欲や楽しく食べるという視点から保育者としての関わり方や多職種連携について考える。また、食物アレルギーの現状や対応法についても学ぶ。 領域「健康」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器や教材の活用法を理解し、保育の構想に活用できるようにする。

予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（30分）
復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（30分）

A:多　　B:中　　C:中　　D：中　　E:あり

第7回　幼児の睡眠・生活リズムと健康1
子どもの生活リズムについて、睡眠・覚醒リズムの発達から理解する。さらに子どもの生活リズムへの保護者の生活リズムや家庭環境の影響についても考えることにより、家庭と保育現場との連携の重要性について考察を深める。保育者を志す、受講生自身の生活リズムについても見直しや振り返りを行う。

予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（30分）
復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（30分）

A:中　　B:中　　E:あり

第8回　幼児の睡眠・生活リズムと健康2
子どもの生活リズムと健康の関係について、スマホやゲームの利用状況をふまえ、望ましいメディアとのつきあい方やICT活用のあり方について理解する。
領域「健康」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器や教材の活用法を理解し、保育の構想に活用できるようにする。

予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（30分）
復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（30分）

A:中　　B:中　　E:あり

第9回　子どもの感染症とその予防
子どもの感染症やその予防策について理解した上で、保育の中の健康教育のあり方について考える。

予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（30分）
復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（30分）

A:中　　B:中　　E:あり

第10回　子どもの事故防止と安全教育
子どもの事故の特徴について理解し、事故防止の視点から保育環境の構成を確認する。さらに、子ども自身の事故回避能力を育むための安全教育について考える。

予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（30分）
復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（30分）

A:中　　B:中　　E:あり

第11回　子どもの生活と育ちを考える1
幼稚園や保育所等の年間計画や年間行事の中に、日本の文化を伝える行事や遊びが含まれていることを理解し、保育活動の中の指導法のあり方や、健康とのつながりについて考察を深める。
領域「健康」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器や教材の活用法を理解し、保育の構想に活用できるようにする。

予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（30分）
復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（30分）

A:多　　B:中　　C:中　　D：中　　E:あり　　F:あり

第12回　子どもの生活と育ちを考える2
保育の中の食育活動について、実践的な事例をふまえ、これまで学んだ基本的生活習慣とのつながりなどを理解し、保育活動の中の指導法のあり方や、健康とのつながりについて考察を深める。
領域「健康」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器や教材の活用法を理解し、保育の構想に活用できるようにする。

予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（30分）
復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（30分）

A:多　　B:中　　C:中　　D：中　　E:あり　　F:あり

第13回　子どもの生活と育ちを考える3
保育の中で実践されている保健活動や安全教育などの実例をふまえ、子どもの健康増進のための指導法のあり方について考える。
領域「健康」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器や教材の活用法を理解し、保育の構想に活用できるようにする。

予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（30分）
復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（30分）

A:多　　B:中　　C:中　　D：中　　E:あり　　F:あり

	第14回　子どもの健康を支援する 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や保幼小連携について学び、乳幼児期の健康は児童期の健康や生涯の健康につながっていることや保育者としての支援のあり方について理解する。 予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（30分） 復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（30分） A:中　B:中　E:あり 第15回　授業のまとめ　振り返り これまでの授業内容、試験、提出課題について振り返り、保育における健康の意義を改めて考え、保育者の役割について考察を深める。 予習：期末試験の振り返りを行い、疑問点などを明確にしておくこと。（30分） 復習：これまでに学んだ内容について振り返り、今後の学びやキャリアにどのように生かすか考える。（30分） A:中　B:中　E:あり
教育目標との関連	・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における、「健康」領域のねらい及び内容について理解し、乳幼児期の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現することを目指し、指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 ・保育全体の目標や保健活動と関連付けながら、乳幼児期の発育・発達に応じた健康面に関する保育計画を立案することができるようになる。 ・児童期を見据えた支援や、子どもが他者及び多様性を尊重し協力・協働を図れるような指導ができるようになることを目指す。 ・さらに、保育者として自身の心身の健康を保持増進することの重要性についても理解できるようになる。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.　「健康」領域のねらい及び内容や発育・発達に関する知識を習得し理解できる。 2.　子どもの健康に関する知識をもとに、保育者として留意・配慮すべき事項や保育のあり方について考え、子どもや保護者への望ましい関わり方を判断することができる。 3.　子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な場面を想定した保育を構想するための技能の向上を目指すことができる。 4. 子どもの「健康」に関心をもち、グローバルな視野やダイバーシティの視点から、現状の問題点とその対策を考えることができる。 5.　子どもの全人的な発達の保障という保育者の役割を理解し、自らの健康も管理できる保育者を目指すことができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	1.期末試験（授業内容全体への理解度）40%、授業内の課題（グループワークの完成度およびグループワークへの貢献度）30%、授業の振り返りに関する課題（授業の理解度や取り組みの積極性）30% 2.課題に取り組む積極的な姿勢と、どれだけ深く取り組めたかを評価する。 添付資料のルーブリックによる評価基準を参照のこと。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	15回目授業において、解説・振り返りを行う。
教科書	教科書は使用せず、授業中の配布資料、並びにGoogle Classroom配信資料をテキストとする。
参考書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館、2018、264円 『保育所保育指針解説』厚生労働省編、フレーベル館、2018、352円 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他、フレーベル館、2018、385円 『子どもの保健』児童育成協会監修、松田道雄、金森三枝編集、中央法規、2019、2,200円 『子どもの健康と安全』児童育成協会監修、松田道雄他編集、中央法規、2019、2,200円 その他　参考資料やURLなどは授業中に提示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	シラバスや事前配布資料および参考書等を参照し、準備学習に取り組む。授業によっては情報収集を事前課題とする場合がある。健康や保育関連の既知の用語だけでなく、新しい用語を確認し、調べておくこと。復習としては、毎回の振り返り課題に取り組み、授業内容の理解度を確認すること。
履修上の注意、条件等	授業に関する資料等はすべてGoogle Classroomに掲示する。事前配付資料を参照し、疑問点等を明確にした上で授業に臨むこと。
オフィスアワー	授業終了後に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	子どもの健康を守り、心身の健康状態を向上させるのための指導法に関連する情報を収集しておくこと。

講義科目名称： 保育内容（人間関係）の指導法　　授業コード：

英文科目名称： Teaching Method of Contents in Childhood Care and Education (Human Relationship)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
恵良　紗希子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F104
添付ファイル			
保育内容（人間関係）の指導法ルーブリック.pdf			

講義概要	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について乳幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。その上で保育者としての実務経験のある本授業担当者から、保育現場の事例を通して、子どもの姿を多面的に考察し保育を構想する方法を学ぶ。そして、乳幼児の発達過程にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育の具体的な方法を身につける。 他の科目との関連：乳幼児は総合的に生活や遊びを通して発達することから、他の領域と密接に関連する。本講座で学んだ理論を他の領域と関連づけながら具体的事例を通して理解を深める。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　授業の概略説明 ・「個性心理学」の分析を通して、自分を知る・他人を知る。 自分の「強み」「弱み」とは何か。自分を知らずして相手のことを知ることはできない。 「私」にとっての人間関係と何かを考える。 予習：シラバスを読み、本講義の全体像を把握する（30分） 復習：学習した範囲を振り返ること（１時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第2回　保育者の役割とは１（乳児期） ・乳児期における子どもと保育者のかかわり合いを考える。 乳児期は子どもと周囲の人が共鳴することによって交流が生まれると言われている。 表面的な遊びばかりではなく、何気ないやりとりを子どもたちが味わい、経験していけるような かかわり方が求められる。遠野のわらべ歌についても紹介する。 予習：事前に配布した資料を読んでおくこと（1時間） 復習：学習した範囲を振り返ること（１時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第3回　保育者の役割とは２（幼児期） ・幼児期における子どもと保育者とのかかわり合いを考える。 幼児期になると、仲間入りをめぐる葛藤や交渉過程で、 大人がどのようにかかわっていくかが大切になる。 事例を見ながら話し合う。 予習：事前に配布した資料を読んでおくこと（1時間） 復習：学習した範囲を振り返ること（１時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第4回　信頼関係を築く～親とのかかわり～ ・人とのかかわりは、まず親子関係から始まると言われている。 愛着関係を育む養育者のかかわりについて考える。 予習：事前に配布した資料を読んでおくこと（1時間） 復習：学習した範囲を振り返ること（１時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第5回　事例から読み取る子どもの理解 ・月齢ごとに事例を分けて紹介する。 子どもたちがどのような興味を持っているか、 それに対して、大人がどのようにかかわっているのかを学ぶ。 予習：事前に配布した資料を読んでおくこと（1時間） 復習：学習した範囲を復習すること（1時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第6回　想像的に遊ぶ ・ワークを通して、想像力を膨らます。 保育現場において、自分を表現することが苦手な子どもがいる。 保育者として、どうかかわっていくかを考える。 自分自身がまず主体的に活動に取り組み、子どもへのかかわり方を学ぶ。 予習：事前に配布した資料を読んでおくこと（1時間） 復習：学習した範囲を振り返ること（1時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第7回　発達特性のある子への理解 ・発達特性のある子にどうかかわっていくかは、学級経営の土台となる。 楽しさを共にする経験から、楽しさを共にする関係性が生まれる。 どのようなかかわり方ができるか、事例を通して考える。 予習：事前に配布した資料を読んでおくこと（1時間） 復習：学習した範囲を振り返ること（１時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第8回　他の領域と結び付ける ・5領域の中の「人間関係」以外とは、どのように結びつくのか。 日頃の保育や行事などを事例を通して、どう関係づけられているのかを考える。 予習：事前に配布した資料を読んでおくこと（1時間）

	復習：学習した範囲を振り返ること（１時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第9回　個と集団の育ち ・「一人ひとりを理解する」ことは保育の基本である。 しかし、実際の保育では、大勢の子どもが同時に活動している。 一人ひとりに対応しつつ全体を見るということは、どういうことなのかを考える。 予習：事前に配布した資料を読んでおくこと（1時間） 復習：学習した範囲を振り返ること（１時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第10回　話し合うことの大切さを知る～「こどもかいぎ」を体験してみよう～ ・保育現場では、子どもたちが自分の気持ちを言葉にして話し合うことが大切だと言われている。 映画「こどもかいぎ」を見て、子どもが自分の気持ちを出せる関係性について考える。 予習：事前に配布した資料を読んでおくこと（1時間） 復習：学習した範囲を振り返ること（1時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第11回　子どもをどう見るか～「おむつなし育児」の視点から～ ・現在、おむつ外しの時期が遅くなってきている。 「おむつなし育児」の視点から、トイレトレーニングをどう考えるか、 保護者にどうアドバイスをしていくことが大切かを一緒に考えていく。 「おむつなし育児」では、トイレトレーニングは排泄コミュニケーションだと言われている。 排泄を通した人とのかかわりについて具体例を出しながら紹介する。 予習：事前に配布した資料を読んでおくこと（1時間） 復習：学習した範囲を振り返ること（1時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第12回　子どもをどう見るか～性教育の視点から～ ・「性教育」とは、「人生を豊かにするための教育」である。 近年、「性教育」は教員や保育士の中でも注目されている分野である。 子どもを尊重するためには、どのようなかかわり方が大切なのかを考える。 また、自分自身にとっても、「自分を大切にする」ことを呼びかけたい。 予習：事前に配布した資料を読んでおくこと（1時間） 復習：学習した範囲を振り返ること（１時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第13回　子どもをどう見るか～感覚統合の視点から～ ・「感覚統合」の視点から、子どもの育ちを考える。 子どもたちの苦手なことには理由があり、無意識的な感覚が敏感なのか鈍麻なのかによって、 感じ方はさまざまである。大人が感覚の違いを理解することによって、かかわり方は変わっていく。 事例を出しながら、どのような支援が可能かを考えていく。 予習：事前に配布した資料を読んでおくこと（１時間） 復習：学習した範囲を振り返ること（１時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第14回　授業の総括 ・資料及びノートを整理し授業全体を振り返り「自己の課題と自学の目標」の明確化を試みる。 予習：すべての授業を振り返り試験に向けて学びの整理をする。（1時間） 復習：試験に出た問題を振り返り関連個所を配布資料などで確認する（１時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 試験　期末試験 第15回　今後の課題の明確化 ・学びを総括し自己の学びのを評価すると同時に今後の課題を明らかにする。 予習：配布資料、ノートなどに目を通して学びを整理し今後の課題を明確にする（１時間） B:あり　E：あり
教育目標との関連	乳幼児期教育はその後の人格形成の基盤となするということを理解し、保育者として必要な子どもや保育の内容・方法について乳幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容に関する知識、技能、態度を習得する。乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。また、身に付けた教育・福祉の専門知識を活かして、地域社会及び家庭においても、多様性を尊重したコミュニケーションによって人間関係をより豊かに円滑にすることができるようになる。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．乳幼児が人と関わる力を育む為には、保育者が重要な役割を果たすことを理解し、説明できる ３．幼児期の遊びや生活の中で育つ人間関係の発達について、個と集団の中での育ちを観点として討論できる ５．保育者には幼児のモデルとなる役割があるという自覚をもって、自主的・自律的に行動し、多様な他者と協調することができる
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	授業への参加態度・取り組み・リアクションペーパーの内容：60％ 試験：40％
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回目の授業時に期末試験のフィードバックを行う。
教科書	なし。

参考書	資料を適宜配布する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記の通り。
履修上の注意、条件等	・授業では、幼児教育と自分がどのようにつながるか、自分だったらどうするかという当事者意識をもって、参加すること。 ・シラバスの内容は、履修学生の理解度等により、変更することもあります。
オフィスアワー	授業前後に教室で、又随時電子メールで受け付ける。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 保育内容（環境）の指導法　　授業コード：

英文科目名称： Teaching Method of Contents in Early Childhood Care and Education(Environment)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
舟生　直美			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F105
添付ファイル			
ルーブリック保育内容「環境」の指導法　(2025).pdf			

講義概要	・現代の乳幼児を取り巻く環境やその在り方を追究し、幼稚園教育要領や保育指針を踏まえながら、保育内容「環境」のねらいや内容について理解を深める。さらに保育者の役割を理解した上で、具体的な保育場面を想定した模擬保育等を通して、保育の計画・実践・省察についての方法を身に付ける。 ・幼児教育における保育内容5領域の在り方を理解し、保育内容に関わる科目すべてを関連づけながら保育内容「環境」について理解を深めることが可能となる。 ・担当教員は、10年以上の保育者として私立幼稚園、保育園など様々な保育現場における実務経験があり、実際のエピソード等を用いることで具体的な保育場面をイメージすることが可能となり、保育内容「環境」への理解を深めることができる。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション：幼児教育の基本と保育内容「環境」について 保育内容に関する領域の観点から「環境」の在り方を理解し、幼児教育における指導方法とその基本的な考え方を理解する。 予習：シラバスをよく読み、授業の流れと全体像を把握しておく。テキスト第１章３節を通読する（1時間）。 復習：授業内容を振り返り、全授業の流れを再確認する（0.5時間）。 A：中、B：中、E：あり、F：あり 第2回　保育における環境構成とは何か　「環境を通して行う教育」 ３法令を踏まえ、乳幼児を取り巻く環境の在り方と環境構成についての意義とその内容を学ぶ。 予習：テキスト第１章第４節を通読する（1時間）。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める（1時間）。 A：中、B：中、D：少、E：あり、F：あり 第3回　自然に親しみ、植物に触れる保育の実践①　＜計画立案＞　グループワーク 保育実践における栽培活動についての実際を知り、栽培計画を立てる。 予習：テキスト第4章を通読する（1時間）。 復習：指導案を完成させる（1時間）。 A：中、B：多、E：あり、F：あり、H：中、G：少 第4回　自然に親しみ、植物に触れる保育の実践②　＜教材研究・模擬保育＞　グループワーク 自ら計画した教材を追究し、実際の保育場面を想定しながら栽培活動を行う。 予習：栽培活動のイメージ作りと教材研究を行う(1時間）。 復習：模擬保育の振り返りとまとめを行う（1時間）。 A：多、B：中、C:多、E：あり、F：あり、G：中 第5回　自然に親しみ、植物に触れる保育の実践③　＜発表・省察＞　グループワーク 実践全体についてまとめたものを発表し、栽培活動の計画から振り返りまでを省察する。 予習：発表の準備や練習をする（1時間）。 復習：自他の発表を振り返り、考えや理解を深める（1時間）。 A：多、B：中、C:多、E：あり、F：あり、G：中 第6回　子どもを取り巻く環境　「地域・伝統文化とのかかわり」「数量・文字とのかかわり」 子どもが地域や伝統文化、数量・文字に触れた遊びを幼稚園の実践事例から知り、子どもが遊びに取り入れる学びの姿を考える。 予習：テキスト第6.7章を通読する（1時間）。 復習：授業内容を振り返り、考えや理解を深める（1時間）。 A：少、B：中、E：あり、F：あり、H：少 第7回　子どもの心が動く環境　「アフォーダンス」「有能感」 環境を通して行う教育という幼児教育の基本において、心理学的観点から幼児期の発達における環境との関わりについて学ぶ。 予習：テキスト第2.8章を通読する（1時間）。 復習：授業内容を振り返り、身の回りの環境に課題意識を持つ（0.5時間）。 A：少、B：中、E：あり、F：あり、H：少 第8回　身近な素材や自然物を用いた保育の実際①　「物的・人的・社会的環境」 幼児を取り巻く環境の観点について、保育場面の一事例を取り上げてワークをしながら理解を深める。 予習：子どもが遊ぶ姿を思い描き、遊びから得られる子どもの学びを考える（0.5時間）。 復習：授業内容を振り返り、考えや理解を深める（1時間）。 A：少、B：中、E：あり、F：あり、H：少 第9回　身近な素材や自然物を用いた保育の実際②　「ものとのかかわり」 身近な素材を使って、子どもの目線に立ちながら教材研究を行い、子どものものの捉え方や遊びの傾向について理解する。 予習：テキスト第2.8章を通読する（1時間）。 復習：授業内容を振り返り、考えや理解を深める（1.5時間）。 B：中、D:少、E：あり、F：あり、G：中 第10回　身近な素材や自然物を用いた保育の実際③　「人とのかかわり」 保育場面の事例を取り上げながら、ものとかかわる子どもに対しての他者のかかわりや保育者の援助の仕方について考える。

	予習：テキスト第1章6節を通読する（1時間）。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める（1時間）。 B：中、D:少、E：あり、F：あり、G：中 第11回　遊びの環境設定とは①　＜立案・指導案作成＞ 保育環境において、実際に保育者が行う遊びの環境設定について計画し、指導案を作成する。 予習：保育環境の中で行われる遊びに必要な要素を調べる（1時間）。 復習：指導案を完成させる（1時間）。 B：中、C:少、E：あり、F：あり、G：中 第12回　遊びの環境設定とは②　＜模擬保育（前半）＞ 作成した指導案をもとに、1人ずつ遊びの環境設定（模擬保育）を行う。互いに評価し合い、フィードバックを行う。 予習：模擬保育の準備・練習を行う（1時間）。 復習：自他の模擬保育を振り返り、自己の課題を明確にする（1時間）。 C:少、D:多、E：あり、F：あり、G：中 第13回　遊びの環境設定とは③　＜模擬保育（後半）＞ 前回に引き続き作成した指導案をもとに、1人ずつ遊びの環境設定（模擬保育）を行う。互いに評価し合い、フィードバックを行う。 予習：模擬保育の準備・練習を行う（1時間）。 復習：自他の模擬保育を振り返り、自己の課題を明確にする（1時間）。 C:少、D:多、E：あり、F：あり、G：中 第14回　環境にかかわる現代的課題と展望・諸外国の保育環境について 日本および諸外国における幼児教育の現状を事例や映像などから知り、現代的課題を交えながらこれからの保育環境の展望についてディスカッションを行う。 予習：テキスト第9章を通読する（1時間）。 復習：授業内容を振り返り、考えや理解をまとめる（2時間）。 A:少、B:少、E：あり、F：あり、G：中、H：少 第15回　まとめ　保育内容「環境」と保育者の役割 レポート発表を行い、今日の保育における環境について理解を深める。 予習：これまでの授業内容を総合的に振り返り、自身の学習成果と課題を考える（1時間）。 復習：今後の学習に向けて、自身の意欲や課題を明確にする（1時間）。 B:中、E：あり
教育目標との関連	・保育内容「環境」のねらい及び内容・指導上の留意点を理解し、保育における環境の基本的構造を理解する。 ・子どもの取り巻く環境を理解し、保育者としての実践力を身に付けながら専門性を高める。
到達目標　（学修成果）　　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	L01:保育内容「環境」について、３法令を下に、子どもに育みたい資質・能力およびそれを実現するためのねらいや内容に関して理解している。 L02:保育における環境の重要さが分かり、身近な環境に主体的にかかわることによって子どもの発達や学びが促されていくことを説明できる。 L03:環境をつくりだす保育者の役割を理解し、保育を計画し展開する実践力の基礎を習得している。 L04:保育の実践や課題について、積極的に自身の考えを述べ、他者と意見を交わすことができる。 *添付資料を参照のこと
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	・期末試験…30% ・課題等の提出…40％ ・発表及び授業への参加態度…30％ 評価基準は添付のルーブリックを参照のこと。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	期末試験は、期末レポート作成及び提出とします。 最終授業時にて説明および解説をし、共有を行います。 個別においても質問や疑問を受け付け、随時解説します。
教科書	『新訂事例で学ぶ保育内容 領域環境』萌文書林
参考書	・『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018年 ・『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各授業計画欄を参照してください。 上記に加え、自分の取り巻く環境に常に意識を向けながら過ごしましょう。
履修上の注意、条件等	授業を構成する当事者として、意欲を持って参加しましょう。 授業態度は、これから保育者を目指す人であれば、子どもの見本となる人であるので、態度、姿勢は重要です。意識しましょう。
オフィスアワー	研究室にて、質問等に対応します。対応時間等にいては、研究室に掲示します。
備考・メッセージ	全て対面授業で行います。主に講義を交えた演習を行います。 一緒に楽しく学びましょう。

講義科目名称： 保育内容（言葉）の指導法　　授業コード：

英文科目名称： Teaching Method of Contents in Early Childhood Care and Education(Language)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期/秋学期	2年	1単位	卒業選択　幼免必修　保育士必修
担当教員			
相澤　京子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：なし	ナンバリング：F203
添付ファイル			
「保育内容（言葉）の指導法」ルーブリック2025.pdf			

講義概要	乳幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で、乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 他の科目との関連：「幼児と言葉」で学んだ理論を本演習では具体的な保育場面につなげていく。また、総合的に保育内容を理解するためにあ、他の領域に関する科目もそれぞれに関連している。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション―保育における「言葉」とは何か シラバスを用いて、本講義のねらいと内容、及び受講上の注意と約束について説明を受ける。 領域「言葉」のねらい及び内容を学ぶ。 予習：シラバスをよく読み、科目の全体像を把握しておく。（約1時間） 復習：テキストpp25-35を読んでおく。（約1時間） E:あり　F:あり 第2回　育みたい資質・能力と領域「言葉」との関係 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と領域「言葉」との関係性を理解する。 予習：テキストpp35-37を読んでおく。（約1時間） 復習：授業内容と実習での体験を結び付け、まとめておく。（約1時間） E:あり 第3回　子どもの言葉の発達過程① 実習での体験を踏まえ、子どもの言葉の発達過程についてまとめる。 予習：実習での体験をまとめておく。（約1時間） 復習：友人の実習での体験を聞き、気づいたことをまとめておく。（約1時間） A:多　E:あり 第4回　子どもの言葉の発達過程② 子どもの言葉の発達過程を踏まえ、生活に必要な言葉の習得について理解する。 予習：「幼児と言葉」のプリントを見直しておく。（約1時間） 復習：授業内容と実習での体験を結び付け、まとめておく。（約1時間） E:あり 第5回　言葉を育む環境構成と保育者の援助① 子どもが話したい、聞きたいという意欲を生み出す援助方法、また言葉がうまく伝わらないもどかしさに対する援助方法を学ぶ。 予習：実習での体験をまとめておく。（約1時間） 復習：テキストpp63-70を読んでおく。（約1時間） B:少 第6回　言葉を育む環境構成と保育者の援助② 文字などで伝える楽しさを生み出す援助方法を学ぶ。 予習：実習園での環境構成の工夫についてまとめておく。（約1時間） 復習：テキストpp70-86を読んでおく。（約1時間） B:少 第7回　言葉を育む環境構成と保育者の援助③ 特別な配慮が必要な子ども、外国にルーツのある子どもへの援助方法を学ぶ。 予習：様々な配慮が必要な子どもについて、実習での事例をまとめておく。（約1時間） 復習：テキストpp75-86を読んでおく。（約1時間） B:少 第8回　子どもの言葉を豊かにする児童文化財① 保育の中での紙芝居の活用方法や留意点を学ぶ。 予習：知っている紙芝居の作品についてまとめておく。（約1時間） 復習：授業で紹介された紙芝居を読んでみる。（約1時間） E:あり 第9回　子どもの言葉を豊かにする児童文化財② 紙芝居の演じ方を練習する。 予習：実演する紙芝居を下読みし、内容を把握しておく。（約1時間） 復習：紙芝居をグループで練習してみて気づいたことをまとめておく。（約1時間） A:多 第10回　子どもの言葉を豊かにする児童文化財③ 紙芝居を実演し、相互評価を行う。 予習：紙芝居を実演するための練習をしておく。（約1時間） 復習：紙芝居を実演してみて気づいたことをまとめておく。（約1時間） D:多　E:あり 第11回　言葉に対する感覚を豊かにする実践 言葉遊びを実際に行うとともに、保育の中での活用方法を学ぶ。 予習：自らの知っている言葉遊びについてまとめておく。（約1時間）

	復習：授業で扱った以外の言葉遊びを実践する。（約1時間） A:多 第12回　子どもの言葉を育む保育の構想と実践① 指導案作成に向けて、教材研究を行う。 予習：子どもの言葉の発達についてまとめておく。（約1時間） 復習：教材研究の不足分を補っておく。（約1時間） A:多 第13回　子どもの言葉を育む保育の構想と実践② 子どもの言葉を育むための具体的な保育場面を想定した指導案を作成する。 予習：指導案の基本的な書き方について確認しておく。（約1時間） 復習：作成した指導案を見直すとともに、模擬保育に必要なものを準備しておく。（約1時間） A:多 第14回　子どもの言葉を育む保育の構想と実践③ 模擬保育を実践し、その内容について振り返りを行う。 予習：模擬保育に向けての準備を行う。（約1時間） 復習：模擬保育の内容を踏まえ、指導案を書き直す。（約1時間） D:多　E:あり 第15回　学びの振り返りと今後の課題 授業の総括を行うとともに、各自の到達度を振り返ることにより今後の学習課題を明確にする。 復習：これまでの授業のノート・プリント類を整理し、授業の内容を振り返っておく。（約2時間） E:あり
教育目標との関連	乳幼児の言葉を育む保育者の援助を理解し、具体的な指導場面を想定した保育を構想することは、保育者としての確かな知識を実践的な技能に結びつけることになる。
到達目標　（学修成果）　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	L01.領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、説明できる L01.乳幼児の言葉を育む環境構成と保育者の援助についての基礎的な知識を理解し、説明できる L03.乳幼児の発達や学びの過程を理解した上で、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想できる L04.言葉に対して関心をもち、自身の言葉を豊かにしようと努めることができる
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	期末試験　40%　・授業内容全般を理解し、自分の言葉で説明できるかどうかを評価する 授業における取り組み　40%　・模擬保育等などのグループ活動への貢献度を評価する 課題等の取り組み　20%　・教材研究への主体的な取り組みを評価する 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回の授業で期末試験の解説と振り返りを行う。
教科書	駒井美智子編『保育者をめざす人の保育内容「言葉」 第2版』（みらい、2018）2,200円（税込）
参考書	『幼稚園教育要領解説』（平成29年3月告示　文部科学省） 『保育所保育指針解説』（平成29年4月告示　厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の準備学習は上記の通りである。授業内で昔話や幼年童話を多く紹介する予定であるが、授業以外でも様々な児童文化財に接する機会を多く持つようにすること。
履修上の注意、条件等	シラバスの内容は、履修学生の理解度等により変更の可能性もある。
オフィスアワー	103研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。遠隔授業においてはGoogle Classroomの限定コメントで受け付ける。
備考・メッセージ	すべて対面授業で行う。

講義科目名称： 保育内容（表現）の指導法Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称： Teaching Method of Contents in Childhood Care and Education (Representaion) Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年生	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
大見由香、安田真紀子、二階堂あき子			
授業形態：演習	担当形態：オムニバス	実務経験：有（講義概要欄参照）	ナンバリング：F202
添付ファイル			
LO Rubric Expression1.pdf			

講義概要	保育内容を総合的に捉え各領域との関わりから、表現活動を中心に乳幼児に即した展開や指導方法を学ぶ。 身体的・音的・物的・時間空間的認識から五感へと、全ての環境資源を利用して、表現活動の特徴や面白さを確認し、乳幼児に指導するための、構想・計画・実践を身に付ける。 各教員の経験からくる「暗黙知（プロの技）」から、学生自身の啓発及び、感性を刺激することで、学生自身が子どものよき表現するモデルとなれることを目指す。 第2回目から第13回目は３つのグループに分かれ各分野4回のゼミ授業を受ける。ゼミ受講の順番はグループにより異なる。 他の科目との関連：当該科目は、「幼児と表現」を基本として、「表現の指導法Ⅱ」に繋がる重要な科目である。また保育の他領域「幼児と言葉」、「幼児と健康」、「幼児と人間関係」、「幼児と環境」と重なり関連する。表現は、他領域を「表現」することに深く結びついているからである。「幼児音楽Ⅰ、Ⅱ」などとも深く関連する。 大見先生の実務経験 インターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験がある。子どものミュージカルやティータイムショーの企画、監督なども手がけている。海外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイント、また楽器を用いた表現法をなじみやすい方法で紹介できる。 安田先生の実務経験 パネルシアター創始者古宇田亮順氏に師事し、パネルシアター公演を約17年1000回以上行っている。幼稚園、保育園、子育て支援施設、特別支援学校、福祉イベント等を中心に活動し、親子向けワークショップや保育者講習会の講師も務める。 二階堂先生の実務経験 モダンダンス、ジャズダンス、舞踊創作の指導者として、35年以上の経験があり、また、親子体操・ダンス、キッズヨガ、障がい児のエアロビクスやダンスなども、都内の各地域の特殊学校等で担当していた。 短大、バレエスタジオや地域のサークル活動にて、ダンス創作法やストレッチ方法などを指導中。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとF	第１回　オリエンテーション オリエンテーション：担当教員の紹介 領域「表現」と当該科目の概要と各ゼミの内容について説明を受ける。 予習：幼児と表現で学習した表現・感性について確認しておく（30分） 復習：授業で紹介されたゼミの内容をよく確認しておく。（30分） 自分のゼミグループの順番を確認し、次回のゼミ活動について考えておく。（30分） A：少、F：あり 第２回　ゼミ活動：複合的表現（パネルシアター）の探索方法（安田） パネルシアターの表現要素を探索し、子どもを対象としたパネルシアター作成方法について学ぶ 予習：パネルシアターとは何か調べ学習をする（30分） 復習：パネルシアター実演を振り返り、次回のゼミ活動への構想を練る（30分） A：少　B：少　E：あり　F：あり 第３回　ゼミ活動：複合的表現（パネルシアター）の展開方法（安田） 子どもを想定したパネルシアター制作とその活用方法について学ぶ 予習：パネルシアター制作について調べ学習をする（30分） 復習：その日の作業を振り返り、次回の作業の計画を立てる（30分） A：多　B：多　E：あり　F：あり 第４回　ゼミ活動：複合的表現（パネルシアター）の発展方法①（安田） パネルシアターの表現方法と実践の方法を学ぶ 予習：パネルシアターの演じ方について調べ学習をする（30分） 復習：その日の作業・演じ方練習を振り返り、次回の作業・練習の計画を立てる（30分） A：多　B：多　D：少　E：あり　F：あり 第５回　ゼミ活動：複合的表現（パネルシアター）の発展方法②（安田） ゼミ内作品発表 予習：演じ方の練習をする（1時間） 宿題：発表を振り返り自己の課題を確認する（30分） A：多　B：少　D：多　E：あり　F：あり 第６回　ゼミ活動：身体表現と創作法入門　（二階堂） 乳幼児とアート　専門用語の理解 貫通表現（モチーフ）を理解して、身体表現を探し出す （ICTを含めた対象・使用法の子どもへの導入方法を探索する） 予習：該当Blogを読んで　ワークに備える（30分） 復習：課題を仕上げて　提出（30分） A：あり　E:あり　F：あり 第７回　ゼミ活動：身体表現と創作法①　表現力の経験値をあげる（二階堂） 草案（動きのデッサン）から作品構造の組み立てまで

の宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	予習：即興方法と作品構造をBlogで確認（30分） 復習：作品動画を編集して提出（30分） A：多　B：多　E：あり　F：あり 第８回　ゼミ活動：身体表現と創作法②　発表までの過程と動機付け（二階堂） どのような見せ方をするのか、発表後のケアとは 予習：該当Blogと前授業の課題を確認（30分） 復習：課題を提出（30分） A：多　B：少　D：多　E：あり　F：あり 第９回　ゼミ活動：身体表現における体験・交流型のワークショップ（二階堂） ワークショップにおける誘導・支援、そして交流方法を知る 予習：該当Blogの動画等を視聴して要点を確認（30分） 復習：課題を動画にして編集して提出（30分） A：多　B：多　D：多　E：あり　F：あり 第１０回　ゼミ活動：音楽表現の探索方法（大見） 音楽表現の技法について音の素材や曲作りのプロセスを事例を通して学ぶ 宿題：授業で取り組んだ曲を完成させ、動画を提出する。（1時間） E：あり　F：あり 第１１回　ゼミ活動：音楽表現の展開方法（大見） 協同創作の方法 ： 即興で音を楽しむ、世界のさまざまな音に触れる チームでさまざまな音作りの方法を模索する。 宿題：YouTubeなどでさまざまなエスニックサウンドを探求する（1時間） A：多　D：少　E：あり　F：あり 第１２回　ゼミ活動：音楽表現の発展方法①（大見） 発想を豊かにする創作の発展方法：ICTを利用した音楽表現 チームでストーリーに合わせたBGMや効果音を作成し、音の絵本を作る。 宿題：授業で取り組んだ音の絵本を完成させ、動画を提出する。（2時間） A:中　B：少　E：あり　F：あり 第１３回　ゼミ活動：音楽表現の発展方法②（大見） ゼミ内作品発表、評価方法について学ぶ ワークショップに向けて 宿題：授業で鑑賞した音の絵本を評価する。（1時間） A：少　D：少　E：あり　F：あり 第１４回　模擬保育に向けた表現の指導方法 各ゼミ内容の学年発表を通して表現の指導方法について確認する。 宿題：各ゼミの内容や意義について振り返る（1時間） B：中　E：あり　F：あり 第１５回　まとめと評価法 乳幼児の表現活動分野の広がり 期末試験の解説・振り返りを行う。 秋学期に向けてクラス内でグループ分けを行い、ディスカッションする 予習：ワークショップ選択に向けて3分野のゼミ内容を振り返っておく（30分） 復習：秋学期で行うワークショップについて調べ何ができるか考えておく。（1時間） B：中　E：あり　F：あり
教育目標との関連	（１）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 1）幼稚園教育の基本と領域「表現」のねらいや内容を包括的に理解している。 2）領域「表現」を乳幼児の発育・発達に応じて、指導の留意点を理解している。 3）幼稚園教育の評価の考え方を理解している。 4）領域「表現」における「接続期」の課題を理解している。 （２）幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 1）造形表現、音楽表現、言語表現や環境に関わる表現等の活動に必要な指導技術や知識を理解している。 2）自身の表現力や感性を養い、乳幼児の「表現」援助に必要な情報機器及び教材の活用法を理解し、指導力の改善や向上の必要性を理解している。 3）協同により自身の特性を理解し、表現における創意工夫を身につける。 4）模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける。 5）子どもが主体的・対話的に表現することの意味を理解して、保育環境をより向上させる構想に取り組むことができる。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L03.子どもの遊びを豊かに展開するために「表現」領域の内容や知識を修得できる。 L02.自身の得手不得手を自覚し、創意工夫により思考し、力量形成している。 L02.子どもが主体的に表現することの意味を理解し、判断してその環境作りに協力できる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	１.課題提出及び主体的・対話的・協調性などの授業態度を評価する（各担当教員による30%） ２.発表及び課題提出を評価する（各担当教員による30%） ３.期末試験40% *欠席等の取り扱いは、『学生ハンドブック』の履修要項に準ずる。 評価基準は添付資料のルーブリックを参照のこと。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回目の授業内で期末試験の解説と振り返りを行う。
教科書	プリントを適宜、配布する 『幼稚園教育要領』文部科学省　240円(税別)　『保育所保育指針』厚生労働省320円(税別)　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府他　385円 共にフレーベル館
参考書	『生活事例からはじめる 一保育内容― 表現』 徳安敦・関口明子編著　青踏社　1,900円＋税 https://hyougen1-2.blogspot.com/　身体表現ゼミブログ

準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	事前事後学習（各1時間）は、詳しくは、各教員が授業内で示す
履修上の注意、条件等	実践的演習なので、学生主体の授業展開になる。そのため各自が積極的な授業参加することが評価の対象となる。
オフィスアワー	質問等に関しては、Google Classroomの限定コメントにより受け付ける
備考・メッセージ	Google Classroomの通知や参考URL等を良く見ておき、発表日や提出日を忘れないようにする。

講義科目名称： 保育内容（表現）の指導法Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称： Teaching Method of Contents in Childhood Care and Education (Representaion)Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
秋学期	2年生	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修	
担当教員				
大見由香、安田真紀子、二階堂あき子				
授業形態：演習	担当形態：オムニバス		実務経験：全員有（講義概要欄参照）	ナンバリング：F207
添付ファイル				
RubricLOExpression2.pdf				

講義概要	乳幼児期に於ける育みたい資質や能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領にある内容を表現と関連して理解を深める。 乳幼児期の発達を踏まえて、援助・指導できる実践的な場面を想定して、乳幼児の主体性を鑑みて保育構想を立案する方法を身に付ける。 これまで「表現の指導法Ⅰ」で学んだノウハウを、学生が主体となり幼稚園児向けのワークショップを作りあげる活動をすることで、実践的な活用ができるようになることを目的としている。 各回講義の後グループワークを行い、作業記録をポートフォリオにまとめる。 他の科目との関連：当該科目は、保育の他領域「幼児と言葉」、「幼児と健康」、「幼児と人間関係」、「幼児と環境」と重なり関連する。また５領域と実習に関する科目全てと関連する。「幼児と表現」を基本として、「表現の指導法Ⅰ」から総括に繋がる重要な科目である。 大見先生の実務経験 インターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験がある。子どものミュージカルやティータイムショーの企画、監督なども手がけている。海外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイント、また楽器を用いた表現法をなじみやすい方法で紹介できる。 安田先生の実務経験 パネルシアター創始者古宇田亮順氏に師事し、パネルシアター公演を約17年1000回以上行っている。幼稚園、保育園、子育て支援施設、特別支援学校、福祉イベント等を中心に活動し、親子向けワークショップや保育者講習会の講師も務める。 二階堂先生の実務経験 モダンダンス、ジャズダンス、舞踊創作の指導者として、35年以上の経験があり、また、親子体操・ダンス、キッズヨガ、障がい児のエアロビクスやダンスなども、都内の各地域の特殊学校等で担当していた。 短大、バレエスタジオや地域のサークル活動にて、ダンス創作法やストレッチ方法などを指導中。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する	第１回　オリエンテーション① シラバスの解説、領域「表現」のねらいから指導方法を考え、各自の課題を設定する（課題） ワークショップについての説明を受ける 分野グループに分かれプロジェクトに向けてチームビルディングを行う 予習・復習：グループで話し合ったプロジェクトで導入できそうなものを調べておく（30分） 宿題：活動記録をまとめる（30分） A：小　B：中　E：あり　F：あり 第２回　オリエンテーション②　表現の各領域について 各自の構想と協働学習を設定し、模擬保育の構想について理解する 構成と主題（テーマ）について 予習：諸外国の表現について調べておく（30分） 宿題：活動記録をまとめる（30分） A：中　B：中　E:あり　F：あり 第３回　表現と協同遊び 遊びから組み立てる表現について考える 予習：表現の領域での協同遊びについて調べておく（30分） 宿題：活動記録をまとめる（30分） A：中　B：中　E:あり　F：あり 第４回　インクルーシブ保育と表現の可能性 各領域との関連性を考える 記録方法（ドキュメンテーションとポートフォリオ） 予習：ドキュメンテーションについてネットで調べておく（30分） 宿題：活動記録をまとめる（30分） A：中　B：中　E:あり　F：あり 第５回　表現とイマジネーション 子どもの想像力を促すための表現方法を考える グループプロジェクトの中間発表に向けた準備 予習：発表の内容を考え、プロジェクションの準備を行う（30分） 宿題：活動記録をまとめる（30分） A：中　B：中　E:あり　F：あり 第６回　表現とコミュニケーション 子どもの発想力を促すための対話と援助 学内発表と推敲：各グループのプロジェクト計画を発表する 予習：発表の方法を考え、プロジェクションの準備、練習を行う（30分） 宿題：活動記録をまとめる（30分） A：中　B：中　E:あり　F：あり 第７回　模擬保育　準備①

場合に【あり】と表記されます。	子どもの動機を整理する表現構想 プロジェクトの修正 予習：グループのこれまでの企画を自分なりに練ってみる（30分） 宿題：活動記録をまとめる（30分） A：多　E：あり、F:あり 第８回　模擬保育　準備② 子どもの思いを形にする、指導案（進行表）作成方法 予習：グループの指導案に目を通しておく（30分） 宿題：活動記録をまとめる（30分） A：多　E：あり、F:あり 第９回　模擬保育　準備③ グループごとにリハーサルを行う 指導案の修正 予習：指導案に目を通しておく（30分） 宿題：活動記録をまとめる（30分） A：多　E：あり、F:あり 第１０回　模擬保育　準備④ 子どもの発見を反映する、指導案の修正 予習：指導案に目を通しておく（30分） 宿題：活動記録をまとめる（30分） A：多　E：あり、F:あり 第１１回　模擬保育　準備④　クラス単位 ワークショップの会場準備とリハーサル 予習：各自の役割を確認しておく（30分） 宿題：活動記録をまとめる（30分） A:多　D:多　E：あり　F:あり 第１２回　模擬保育　発表（ワークショップ）① ワークショップ準備と園児の受け入れ 実技テストとしての評価対象 宿題：活動記録をまとめる（30分）・ワークショップの振り返りを行いクラスルームに提出する（30分） A:多　D:多　E：あり、F:あり 第１３回　模擬保育　発表（ワークショップ）② 園児に向けたワークショップを行う 宿題：活動記録をまとめる（30分）・ワークショップの振り返りを行いクラスルームに提出する（30分） B：中　E：あり、F:あり 第１４回　保育の向上を目指して① 保育の表現と評価方法：同じ分野間でワークショップの振り返りを行う。 ドキュメンテーション作成方法のまとめ 課題：ドキュメンテーション（2時間） B：中　E：あり　F:あり 第１５回　保育の向上を目指して② まとめと振り返り ・ドキュメンテーションの用法 ・期末試験・ドキュメンテーションのフィードバック ・他グループのワークショップを見る 課題：他グループのワークショップの感想をクラスルームに提出する（1時間） E：あり　F：あり
教育目標との関連	（１）幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領におけるねらいと内容を理解する。 1）幼稚園教育の基本と領域「表現Jのねらいや内容を包括的に理解している。 2）幼稚園教育要領のねらいから、各領域と領域「表現」の関連性を理解して指導上の留意点を理解している。 3）幼稚園教育における評価を理解している。 4）小学校を意識して、なだらかな「接続期」を目指して保育内容を構想することを身に付ける。 （２）乳幼児の発達や学びを理解して、領域「表現」に関わる指導法を構想し、保育内容の向上に努めることができる。 1）領域「表現」の指導上の留意点を乳幼児の発達や学びの過程において理解できる。 2）自身の表現力や感性を養い、乳幼児の「表現」指導・援助に必要な情報機器及び教材の活用法を理解し、指導力の改善や向上の必要性を理解している。 3）協同により自身の特性を理解し、表現における創意工夫を身に付ける。 4）模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。 5）子どもが主体的に表現することの意義を理解して、保育環境をより向上させる構想力に取り組むことができる。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L03.造形表現、音楽表現、複合的表現等の表現活動に必要な技術方法や知識を修得する。 L05.子どもの「表現」援助に必要な指導力の向上を目指して、個性や現状に応じた表現を実践できる。 L05.子どもが主体的に表現することの意味を理解し、判断してその環境作りに協力できる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	１.課題提出及び主体的・対話的・協調性などの授業態度を評価する（各担当教員による30%） ２.発表及び課題提出を評価する（各担当教員による30%） ３.期末レポート40% *欠席等の取り扱いは、『学生ハンドブック』の履修要項に準ずる。 評価基準は添付資料のルーブリックを参照のこと。
期末試験・期末レポートのフィード	第15回目の授業にてフィードバックを行う。

バック方法	
教科書	テキスト　プリントを適宜、配布する 『幼稚園教育要領』文部科学省　240円(税別)　『保育所保育指針』厚生労働省320円(税別)　『幼保連携授型認定こども園教育・保育要領』内閣府他　385円 共にフレーベル館
参考書	参考書・参考資料等 『生活事例からはじめる 一保育内容―　表現』 徳安敦・関口明子編著　青踏社　1,900円＋税
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	事前事後学習（各1時間）は、詳しくは、各分野の教員が授業内で示す
履修上の注意、条件等	実践的演習なので、学生主体の授業展開になる。そのため各自が積極的な授業参加することが評価の対象となる。
オフィスアワー	質問等に関しては、Google Classroomの限定コメントにより受け付ける
備考・メッセージ	全ての回を対面で行う。 Google Classroomにおけるや参考URL等を良く見ておき、発表日や提出日に向けて早めに準備を行う。

講義科目名称： 保育・教育方法技術論　　授業コード：

英文科目名称： Theory on the Methods and Techniques of Childcare and Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	２年	２単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
織壁 佐和子、福田 尚子、本間美重子			
授業形態：講義・演習	担当形態：オムニバス	実務経験：あり	ナンバリング：F205
添付ファイル			
保育教育方法技術論 ルーブリック(2025).pdf			

講義概要	この科目では、これまでに他の科目で学んだことを踏まえ、これからの社会を担う子ども達に求められる資質・能力を育成するために必要な保育・教育の方法及び技術、教材の活用に関する基礎的な知識や技能をさらに深める。 また、保育とは何か、保育者がどのような役割を担っているのか、保育職とは何かについて自ら考え、保育の感覚をつかむことを目指す。 担当教員は、授業で学んだ知識・技能を現場でどのように活かすことが出来るかについて学生に学んでもらえるよう、保育者としての実務経験に基づいた実践的な内容を交えた授業を展開する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション、保育・教育方法とは何か？（担当：織壁） 授業の概要、評価、担当教員について知る。保育・教育方法とは何かについて学ぶ。 予習：保育・教育方法技術論のシラバス全体をよく読み、科目の全体像を把握しておくこと。（約1時間） A：少 D：あり E：あり F：あり 第2回　環境を通した保育とは（担当：織壁） 環境を通して行う保育とはどのようなことかについて学ぶ。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。授業テーマに関する情報を調べる。（約1時間） A：中 B：中 D：少 E：あり F：あり 第3回　環境を通した保育の方法・展開＜環境構成＞（担当：織壁） 遊びを通して行う保育及び生活の中で行う保育とはどのようなことか、子どもの実態に応じた保育環境とその環境構成について学ぶ。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。授業テーマに関する情報を調べる。（約1時間） A：中 B：中 D：少 E：あり F：あり 第４回　保育の環境設定＜模擬保育①＞（担当：織壁） 子どもの実態に応じた保育環境と環境構成について模擬保育を通して考える。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。授業テーマに関する情報を調べる。（約1時間） A：中 B：中 D：少 E：あり F：あり 第５回　保育の環境設定＜模擬保育②＞（担当：織壁） 子どもの実態に応じた保育環境と環境構成について模擬保育を通して考える。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。授業テーマに関する情報を調べる。（約1時間） A：中 B：中 D：少 E：あり F：あり 第6回　最新の保育環境と環境構成（担当：織壁） 園の行事や取組みに注目した家庭や地域と連携による学びの実践事例から、子どもにとっての豊かな経験とは何かを考える。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。授業テーマに関する情報を調べる。（約1時間） A：中 B：中 D：少 E：あり F：あり 第7回　教材や情報機器を活かした保育方法　①目標設定（担当：福田・本間） ICTと幼児教育の関係について学ぶ。KOOVというICTを活用したおもちゃを使って、その概要と活

		用の可能性を考える。実際にKOOVを体験する。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間） A：多 B：中 D：中 E：あり F：あり
	第8回	教材や情報機器を活かした保育方法　②計画（担当：福田・本間） KOOVの基本操作を学ぶ。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間） A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり
	第9回	教材や情報機器を活かした保育方法　③計画（担当：福田・本間） 幼児向けICT活用事例を知り、KOOVを活用した「遊びのデザイン」について考える。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間） A：中 B：多 D：中 E：あり F：あり
	第10回	教材や情報機器を活かした保育方法　④計画（担当：福田・本間） KOOVを使った教育活動の設計を行う。グループで「子ども向けKOOV遊び」を考案する。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間） A：中 B：中 D：多 E：あり F：あり
	第11回	教材や情報機器を活かした保育方法　⑤準備（担当：福田・本間） 第10回授業で考案した「子ども向けKOOV遊び」をグループごとに発表する。他のグループからのFBを受け、ブラッシュアップする。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間） A：中 B：多 D：中 E：あり F：あり
	第12回	教材や情報機器を活かした保育方法　⑥準備（担当：福田・本間） 幼稚園での実践を想定し、模擬保育を行う。「保育者」役と「子ども」役に分かれて実施し、それぞれの立場からFBを受け、計画をブラッシュアップしていく。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間） A：中 A：中 B：中 D：少 E：あり F：あり
	第13回	教材や情報機器を活かした保育方法　⑦実践（担当：福田・本間） 幼稚園の子ども達と実際に遊ぶ。自分たちが考えた遊びに対する子ども達の反応を観察する。振り返りと今後の活用方法について考える。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。授業テーマに関する情報を調べる。（約1時間） A：中 B：中 D：少 E：あり F：あり
	第14回	期末試験対策（担当：織壁） 様々な子どものニーズに着目し、保育者による援助方法と子どもの享受について保育現場の事例から考える。 予習・復習：これまで学んだ内容について復習しておくこと。（約1時間） A：中 B：中 D：少 E：あり F：あり
	第15回	授業全体の振り返りとまとめ　（担当：織壁） これまでの授業を振り返り、保育現場に活かせる事柄をデザインする。 予習：期末試験の内容について復習しておくこと。また、この授業で学んだことを各自で振り返り、自分の保育にどのように活かせるかについて考え、共有できるようにしておく。（約1.5時間） A：中

	B：中 E：あり
教育目標との関連	これからの社会を担う子ども達に求められる資質・能力を育成するために必要な保育・教育の方法及び技術、教材の活用に関する基礎的な知識や技能をさらに深めることは、保育者に必要な力を高めることである。 また、保育とは何か、保育者がどのような役割を担っているのか、保育職とは何かについて考え、保育の感覚をつかむことは保育者として必要な資質を高めることにつながる。
到達目標　(学修成果)　　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	DP1：保育・教育方法の基礎的理論と実践について理解している。 DP3：これからの社会を担う子どもに求められる資質・能力を育成するための教育方法のあり方について理解している。 DP4：様々な場面における保育・教育に関心を持ち、保育者になる者として自ら考え、子どもの目で世界を見ようとしている。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	1. 期末試験…40%　課題等の提出…40%　授業への参加態度姿勢…20%　を基本とし、総合的に評価する。 2. 添付資料のルーブリックの到達目標を参照。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	期末試験は、期末レポート作成及び提出とします。最終回の授業において全体的なフィードバックを行います。個別のフィードバックを希望する人は直接聞きに来てください。
教科書	なし
参考書	『幼稚園教育要領』文部科学省、2017年 『保育所保育指針』 厚生労働省、2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 内閣府、2017年　（全てウェブ上から無料でダウンロード可能）
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	準備学習は、授業計画を参照のこと。
履修上の注意、条件等	事情により授業に欠席する場合には、あらかじめ連絡する。 シラバスの内容は、履修生のスケジュールや理解度、ゲストスピーカーの都合などにより変更の可能性がある。 授業内容や授業形態などを変更する場合は事前に連絡をします。
オフィスアワー	授業の前後で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	将来保育者として活躍されるときに授業内容を活かせるよう、一緒に楽しく学びましょう！

講義科目名称： 子ども理解と相談・援助　　授業コード：

英文科目名称： Child understanding and consultation, support

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年生	2単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
岡村　泰敬			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：B201
添付ファイル			
子ども理解と相談・援助　ルーブリック様式（2025）.pdf			

講義概要	子ども理解について、子ども観、子どもの発達、遊びと生活の意味と意義を理論と実践から学び、実践者としての基礎力を養う。様々な保育現場における子どもの姿等の事例を用いて、子どもを理解するための知識・技能・態度を身につける。また、近年保育者に子育て支援等の役割が強調される中、相談援助や支援のための基本的な考え方やカウンセリング・マインドをふまえた対応が求められている。そこで、子ども理解に欠かせない保護者との連携や子育て支援の方法について、講義やグループワーク等を通して実践的に学ぶ。 担当教員（岡村）は、保育現場等の経験や研究活動、並びに養成校での実習指導経験を有する。 他の科目との関連：保育内容総論など、保育及び子どもの発達に関するすべての科目に関連する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　「子どもの理解と相談･援助」を学ぶにあたってのガイダンス ・「子どもの理解と相談･援助」の学習の進め方について解説する。 ・保育における子どもの理解の大切さを理解する。 予習：シラバスを読んで、子どもの理解と相談・援助の全体像を把握し、この科目のイメージを持っておくこと。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習･復習　各１時間程度） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第2回　子どもに対する共感的理解 ・子どもの理解にもとづく養護及び教育の一体的展開を理解する。 ・子どもに対する共感的理解と子どもとのかかわりを理解する。 予習：テキストを読んで、養護と教育についてまとめておく。 復習：子どもに対する共感的理解についてまとめる。（予習･復習　各１時間程度） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第3回　子どもの生活と遊び ・子どもの生活や学びの視点から子どもの理解を深める。 ・子ども相互のかかわりと関係づくりに関する理解を深める。 予習：教科書などを読んで、園内の安全の確保について考えておく。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習･復習　各１時間程度） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第4回　人的環境と子どもの発達 ・保育者と子どもとの関係について理解する。 ・環境としての保育者と発達に関する理解を深める。 予習：教科書などを参考に「人的環境」についてまとめる。 復習：人的環境として保育者が配慮する点をまとめる。（予習･復習　各１時間程度） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第5回　子ども相互の関わりと関係づくり ・年齢ごとのかかわりに関する理解を深める。 ・遊びを通した子ども相互のかかわりを理解する。 予習：3歳未満児と3歳以上児の特徴についてまとめる。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習･復習　各１時間程度） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第6回　集団における保育 ・クラス集団の保育について理解をして、保育者の援助・役割を学ぶ。 予習：クラス集団の保育をする上で、必要だと考える配慮点をまとめる。 復習：授業を振り返って、保育者の援助と役割についてまとめる。（予習･復習　各１時間程度） A：少　B：少　E：あり　F：あり　H：多 第7回　子どもの発達における葛藤とつまづき ・子どもの葛藤やつまづきなどについて理解をして、保育者の援助・役割を学ぶ 予習：各年齢の主な発達過程をまとめる。 復習：授業を振り返って、保育者の援助と役割についてまとめる。（予習･復習　各１時間程度） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第8回　保育における環境構成 ・保育における環境の原則と理論を理解する。 予習：これまでに保育における環境構成について学んだことをまとめる。 復習：授業を振り返って、環境構成において保育者が配慮することをまとめる。（予習･復習　各１時間程度） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第9回　環境の変化などについて ・子どもにとっての環境の変化について理解する。 ・保護者にとっての環境の変化について理解する。 予習：子どもたちの環境が変化するときはどのような時なのかをまとめておく。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習･復習　各１時間程度） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第10回　子どもを理解する①（観察・記録・省察・評価）

	・保育における子ども理解と理解する方法を学ぶ。 ・子どもを理解するための観察・記録・省察・評価の方法を理解する。 予習：子どもの気持ちや興味・関心を理解するために必要だと考えることをまとめておく。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習･復習　各１時間程度） A：少　　E：あり　　F：あり　　H：多 第11回　子どもを理解する②（保育者間の対話） ・保育者における対話と協働を理解した上で、地域との協働について考える。 予習：地域の中でどのような機関や人と協働することができるのかをまとめる。 復習：授業を振り返って、地域の社会資源を整理する。（予習･復習　各１時間程度） A：少　　B：少　　E：あり　　F：あり　　H：多 第12回　保護者との情報共有 ・保護者との情報共有の意義や方法について理解をして、保護者と情報を共有する際の配慮をすることなどについて考える。 予習：保育所保育指針と幼稚園教育要領を読んで、保護者との情報共有についてまとめる。 復習：授業を振り返って、保護者と情報を共有する際の配慮をすることを整理する。（予習･復習各１時間程度） A：少　　B：中　　E：あり　　F：あり　　H：多 第13回　子どもの発達に応じた援助とかかわり ・子どもの個人差と発達過程、発達課題に応じた保育実践について理解する。 ・保育の計画からみる発達の課題に応じた援助について学ぶ。 予習：保育の計画にはどのような種類があるのかを整理する 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習･復習　各１時間程度） A：少　　E：あり　　F：あり　　H：多 第14回　特別な配慮を要する子どもの理解と援助 ・特別な配慮を要する子どもとインクルーシブ保育について理解する。 ・特別な配慮を要する子どもを理解する方法、配慮・援助方法を知る。 予習：教科書などを参考にインクルーシブ保育について整理する。 復習：授業を振り返って、授業内容の要点をまとめる。（予習･復習　各１時間程度） A：少　　E：あり　　F：あり　　H：多 第15回　就学に向けた支援　/　学びの振り返り ・子どもの発達と学びの連続性について理解する。 ・第1回～15回までの学びを振り返り、子ども理解のあり方と課題を考える。 予習：第1回～14回までに学んだことの要点をまとめておく。 復習：「子どもの理解と相談･援助」への思いをまとめておくこと。（予習･復習　各１時間程度） A：少　　B：少　　E：あり　　F：あり　　H：多
教育目標との関連	子ども理解について知識を理解し、子ども、同僚、保護者および関係機関と関わる姿勢、技術を身につける。 特に、面接や記録等、実践現場で役立つ知識を構築できるようにする。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.子ども理解の意味と意義、発達を理解し、現状の保育の課題との関係性を考察することができる。 2.子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方で思考・判断することができる。 3.子どもを理解するための具体的な方法を理解し、子ども理解のための様々な言葉・方法を理解することができる。 4.子どもの理解に基づく保育者の援助方法や態度を具体的に理解することができる。 ＊添付資料のルーブリックを参照のこと。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	期末試験（レポート）５５％　　期末テスト（レポート）を課し、授業内容全般についての理解度を評価する。 授業内考査　１５％　　下記課題提出物で、しっかりと授業を振り返っているかを評価する。 課題提出物　３０％　　授業時に毎回振り返り課題をClassroomから配信し、授業参加意欲を評価する。 ＊課題配信は欠席した者にもするので、自習をして提出すること。 評価基準　　添付資料のルーブリックを参照のこと。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	授業内考査：授業中に取り組んだ演習が出来ているかとか、それに関する考察が出来ているかを判断する。 ⇒提出された課題に関しては、更なる学びのために、コメントを返信する。 期末試験（レポート）：Classroomにて各自にフィードバックする。
教科書	「子どもの理解と援助」　清水益治・森俊之　編著　中央法規　2019年　価格2,200円（税込）
参考書	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」他、授業にて提示・紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	予習：該当する教科書の箇所を読んでおくこと。該当する章がない講では、予め参考資料を提示する。 復習：授業を振り返って事後課題に取り組むこと。
履修上の注意、条件等	Classroomを多用してアクティブラーニングを志向するので、積極的に参加することを期待する。
オフィスアワー	質問等は限定コメントで受け付ける。また、研究室にオフィスアワーを掲示する。
備考・メッセージ	授業の理解度により、シラバスの内容を多少変更することがある。全ての回で対面授業を実施する。

講義科目名称： 保育・教職実践演習（幼）　　授業コード：

英文科目名称： Practical Seminar for the Teaching Profession

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年	2単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
間野 百子　　赤松 広美			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり（赤松）	ナンバリング：G207
添付ファイル			
保育・教職実践演習ルーブリック様式 （2025）.pdf			

講義概要	・「良い保育者」とはどのような保育者でしょう。保育者に求められる力とはどのような力でしょう。この授業では、「現場で役立つ実践力」に磨きをかけることを目標に、子どもの姿を実際に想定して保育を行うという意識を持ち、今までの学修と実習の集大成としての演習を行います。園外保育や模擬保育を計画し実際に実践したりします。このような授業に主体的に参加し、仲間と協力しながら計画的に準備を進めます。最後には、これまでの学びを振り返りながら履修カルテの作成に取り組み、専門家としての自覚を持ちます。 ・実務経験（赤松）：障害児、者の特別支援教育他福祉施設での経験があり、その豊富な経験を活かし、現場をイメージできることや実践力が身につくよう具体的な実践を授業の中で伝えていきます。 ・他の科目との関係：すべての科目と重複することを前提としており、実践演習ということでは、特に教育実習、保育実習とは、関係が深い。この科目を通して、実習時の経験も活かし、実際の子どもや保育現場を想定して、集大成の授業であることを意識して学んでほしい。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　保育・教職実践演習のねらい 演習の概要及びねらいについて理解する。 これまでの講義・演習・実習を通して学んだ内容についての分析を通して、自己課題を明らかにし、不足している知識・技能を補完していくために必要な学習に自ら取り組めるようにする。 予習・復習：参考資料などに興味を持ち、関心のあるページに目を通す（各1時間） B:中　E:あり　F:あり 第2回　子ども理解と保育者の援助、役割 保育・子どもの学びの支援者である保育者の役割について学ぶ（事例を通してグループワーク） 予習：事前配布資料に目を通し、各自の考えをまとめておく（1時間） 復習：討議、共通認識されたことの振り返りをする（1時間） B:中　E:あり　F:あり 第3回　子ども主体の保育の在り方と課題 子どもの主体性を活かした保育実践とその課題について検討する。模擬保育の進め方について説明する。 予習：配布資料に目を通す（1時間） 復習：振り返りをする（1時間） B:中　E:あり　F:あり 第4回　保育者に必要な資質能力①模擬保育の準備 実際に園で保育を展開することを考え、子どもの様子を想像しながら模擬保育にについての計画を立てる。 実際に園で保育をすることを念頭に入れて、子どもの様子を想像しながら、模擬保育の発表に向けて、指導案を検討・完成させる。 予習：指導案を考案する（1時間） 復習：振り返りを記載する（1時間） B:中　E:あり　F:あり 第5回　保育者に必要な資質能力②模擬保育の発表・検討会 各自が考案した模擬保育を発表し、その内容について検討しあう。 予習：配布資料に目を通す（1時間） 復習：模擬保育の発表内容に対する見解を記載する（1時間） B:少　D:多　E:あり　F:あり 第6回　保育者に必要な資質能力③模擬保育の発表・検討会 各自が考案した模擬保育を発表し、その内容について検討しあう。 予習：配布資料に目を通す（1時間） 復習：模擬保育の発表内容に対する見解を記載する（1時間） B:少　D:多　F:あり　F:あり 第7回　保育者に必要な資質能力④　模擬保育の発表・検討会 各自が考案した模擬保育を発表し、その内容について検討しあう。 予習：配布資料に目を通す（1時間） 復習：模擬保育の発表内容に対する見解を記載する（1時間） B:少　D:多　E:あり　F:あり 第8回　保育者に必要な資質能力⑤　模擬保育の発表・検討会 各自が考案した模擬保育を発表し、その内容について検討しあう。 予習：配布資料に目を通す（1時間） 復習：模擬保育の発表内容に対する見解を記載する（1時間） B:少　D:多　E：あり　F:あり 第9回　子どもを取り巻く遊び環境の変化 子どもの遊び環境の変化や遊び環境が子どもに及ぼす影響について理解を深める。 予習：自らの幼少期の遊び環境について考えておく（1時間） 復習：子どもにとっての「遊び」の意義について振り返る（1時間） B:中　E:あり　F:あり 第10回　子どもの育ちと行事「園外保育」を考える

	グループに分かれ、実際に保育計画（指導案）の作成を行う。（グループワーク形式） 予習：演習に必要なものを準備する（2時間） 復習：演習を振り返り、まとめる（1時間） A:多　E:あり　F:あり 第11回　園外保育の計画完成 グループで作成したものを発表する。 予習：演習に必要なものを準備する（2時間） 復習：演習を振り返り、まとめる（1時間） A:多　E:あり　F:あり 第12回　園外保育の実践演習（予定：近隣の公園） 計画書を持参し、実際に子どもの活動と照らし合わせて、実践する。（グループで行動） 予習：計画書の点検とシュミレーションを行う、授業を振り返る（1時間） 復習：実践の振り返りを行う A:多　E:あり　F:あり 第13回　実践の振り返り（省察） 振り返りのまとめを行い、発表を行う。お互いに意見を出し合う。 予習：振る返りをまとめる（2時間） 復習：指定用紙に発表を聞いてのまとめをする（1時間） B:多　D:多　E:あり　F:あり 第14回　理想の保育者像についての討論（保護者対応を含む） 理想の保育者とはどのような保育者か、理想の保育環境とはどのような環境か、互いに意見を出し合い、自身の保育観を養う。 予習：今までの授業を振り返り、資料に目を通す（1時間） 復習：指定用紙に講義を聞いての感想と、自身の課題についてまとめる（1時間） B:中　E:あり 第15回　総括、これまでの全体の振り返り、履修カルテの記入 これまでを振り返り、履修カルテにまとめる。さらに、はじめに立てた自己課題と、実際の学修を振り返り比較し、専門職としての保育者を目指す者としての次の課題を設定する。 予習：今までの授業と併せて、2年間に学んだ科目について振り返る（1時間） 復習：履修カルテを清書し提出する（1時間）
教育目標との関連	実習をはじめとするこれまでの学びを振り返り、保育者の求められる資質能力について理解し、自己課題をみつける。 また、模擬保育、グループ討議、グループワーク、演習など現場を意識した学びを通し、保育者としての自覚と実践的な指導力を身につける。
到達目標　（学修成果）　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	1.子どもの発達状況に応じた適切な指導を行うことができるクラスの経営の基礎を理解し、説明できる。 2.「幼稚園教育要領」に対応した教材や保育の的確な指導力・実践的なマネージメント力を身につけ、論理的に考えることができる。 3.保育における教員間の協調性、保護者・地域住民や地域の社会資源との連携の重要性を理解したうえで、対人関係を構築できる。 4.実際の保育現場で自身が教育活動を行うことを想定して課題に向き合い、成長し学び続ける保育者像を具体的に描くことができる。 5.教員に求められる資質・能力・技術に照合して、自己の課題を具体的に明確にしつつ学び続けることができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	期末（まとめ）レポート　30%（授業で学んだことを踏まえたうえで、保育者としての自己の豊富や課題を論述できる） 課題提出　20%（授業メモに新たな学びや課題を記載できる） 演習への取り組み・参加度　20%（学外演習におけるグループ・ワークに、他者と協力しながら参加できている） 発表に向けての取り組み・参加度　30%（模擬保育に向けての準備に取り組み、発表会にも意欲的に参加している） ※評価基準は、添付資料のルーブリックを参照のこと
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	最終授業時に今までの授業内容の振り返り、最終レポート課題についての解説を行う。また個別の質問等を受けて、解説する。
教科書	なし
参考書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業計画の記載の通り
履修上の注意、条件等	子ども達のより具体的な姿を想像することが大切になります。今までの経験を思い出し、集大成としての授業であることに意識を持ちましょう。
オフィスアワー	担当教員の研究室にて質問等を受け付ける。また、時間等は掲示版にて掲示する。限定コメントでも受け付ける。
備考・メッセージ	対面授業。 状況により予定変更もあります。事前に授業内に伝えます。

講義科目名称： 幼児造形Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称： Early Childhood Art ExpressionⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
春学期	1年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修	
担当教員				
久保寺　賀子				
授業形態：演習	担当形態：単独		実務経験：あり	ナンバリング：D105
添付ファイル				
幼児造形Ⅰ.pdf				

講義概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領のなかの「表現」のねらいと内容を踏まえ、造形の位置づけを理解する。さらに幼児の豊かな感性・表現力・創造性を高めるための方策について学びを深める。具体的には様々な素材・用具・技法を用い ながら、造形あそびの体験を通して体得し、保育者としての必要な基礎的な表現技術を習得する。また、担当講師の幼稚園での絵画・工作指導の実務経験を基に、子どもの年齢に応じた造形指導、およびそのための教材研究や指導計画、指導立案に取り組む。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回【対面】　オリエンテーション /　保育内容表現（造形）の意義 ・授業の概要を理解する。 ・保育内容「表現」における造形の位置付けを理解する。 準備学習（計1時間） （予習）教科書「pp.9-18を読んでおく。（30分） （復習）リフレクション・シートの作成。（30分） A：少　B：少　E：あり　F：あり 第2回【対面】　教材の基礎理解 ・描画材（絵の具、クレヨン、色鉛筆、パス）の性質や特徴を理解する。 準備学習（計1時間） （予習）ク教科書pp.50-63を読んでおく。（30分） （復習）リフレクション・シートの作成。（30分） A：少　B：少　E：あり　F：あり 第3回【対面】　教材・技法の基礎Ⅰ ・絵の具を使った技法「ドリッピング」 準備学習（計1時間） （予習）教科書pp.113-114、p.122を読んでおく。（30分） （復習）ポートフォリオの作成。（30分） B：中　E：あり　F：あり 第４回【対面】　教材・技法の基礎Ⅱ ・絵の具を使った技法「にじみ絵」「デカルコマニー」「糸引き」など他 準備学習（計1時間） （予習）教科書pp.120-121／pp.123／p.116を読んでおく。（30分） （復習）ポートフォリオの作成。（30分） B：中　E：あり　F：あり 第5回【対面】　教材・技法の基礎Ⅲ ・絵の具、クレヨンを使った技法「はじき絵」「スクラッチ（引っかき絵）」など他 準備学習（計1時間） （予習）教科書p.114／pp.124-125を読んでおく。（30分） （復習）ポートフォリオの作成。（30分） B：中　E：あり　F：あり 第6回【対面】　教材・技法の基礎Ⅳ ・転写の技法「ステンシル版画」「フロッタージュ」など他 準備学習（計1時間） （予習）教科書pp.152-153／pp.128-129を読んでおく。（30分） （復習）ポートフォリオの作成。(30分) B：多　C：中　E：あり　F：あり 第7回【対面】　共同による制作 ・平面表現による壁面画を製作 準備学習（計1時間） （予習）科書pp.152-153／pp.128-129を読んでおく。（30分） （復習）。リフレクション・シートの作成（30分） A：多　B：多　C：少　E：あり　F：あり 第8回【対面】　教材の基礎理解Ⅱ ・自然素材、生活素材、道具・用具類について 準備学習（計1時間） （予習）教科書pp.82-85,72-81,86-98を読んでおく。（30分） （復習）リフレクション・シートの作成。(30分) A：中　B：中　E：あり　F：あり 第9回【対面】　立体製作Ⅰ

	・粘土 準備学習（計1時間） （予習）教科書pp.158-165を読んでおく。（30分） （復習）ポートフォリオの作成。（3分） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第10回【対面】　立体製作Ⅱ ・張り子の技法をつかって仮面・被り物をつくる－土台－ 準備学習（計1時間） （予習）教科書pp.134-135を読んでおく。（30分） （復習）ポートフォリオの作成(30分) B：少　E：あり　F：あり 第11回【対面】　立体製作Ⅲ ・張り子の技法をつかって仮面・被り物をつくる－装飾－ 準備学習（計1時間） （予習）題材の調査資料をまとめる。（45分） （復習）ポートフォリオの作成（３0分） B：少　E：あり　F：あり 第12回【対面】　立体製作Ⅳ ・ビニール素材を活用した表現活動 準備学習（計1時間） （予習）教科書pp.172-173を読んでおく。（30分） （復習）リフレクション・シートの作成。(45分) A：多　B：多　E：あり　F：あり 第13回【対面】　幼児造形教育の歴史と海外の美術教育 ・今の日本の幼児造形教育を知るための手立てとして、その歴史や海外の動向を知る。 準備学習（計1時間） （予習）教科書pp.233-244を読んでおく。（30分） （復習）リフレクション・シートの作成。（45分） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第14回【対面】　教材研究Ⅰ ・指導計画と指導案の作成について 準備学習（計1時間） （予習）配布資料を読んでおく。（３5分） （復習）リフレクション・シートの作成。（30分） B：多　E：あり　F：あり 第15回【対面】　教材研究Ⅱ／ふりかえり ・指導計画と指導案の作成について 準備学習（計1時間） （予習）ポートフォリオを完成させておく。（45分） （復習）リフレクション・シートの作成。（30分） B：中　分） （復習）D：中　E：中
教育目標との関連	・保育者にとって必要な造形の基礎的な知識と意識を獲得すること。 ・受講生自身の感性を造形で表現できること。 ・子どもの主体的な造形活動における表現を理解し、保育者としての子どもの造形表現における支援を把握できること。
到達目標　（学修成果）　　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L0１．保育内容「表現」における造形の位置付けを理解している。 L0３．材料や用具の特徴や使い方、扱い方を通して造形表現の基礎的な技法を理解している。 L0４．造形表現における子ども理解を深めるとともに、自らの感性を磨いている。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	授業内課題（レポート及び作品）（50%) 到達度評価としてのポートフォリオの提出（期末レポート扱い）（50%) 評価基準は添付資料のルーブリックを参照のこと。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	最終授業において振り返る。
教科書	・『幼児造形の基礎-乳幼児の造形表現と造形教材』樋口一成 編著、萌文書林、2018 ・必要に応じて資料も配布、共有する。
参考書	『幼稚園教育要領』文部科学省、『保育所保育指針』厚生労働省、『幼保連携授型認定こども園教育・保育要領』内閣府他　共にフレーベル館.
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	準備学習の具体的内容および必要な時間については授業計画に記載。
履修上の注意、条件等	教職をめざす学生として、自覚・自律ある態度及び協調性をもって授業に取り組むこと。

オフィスアワー	作品に対するフィードバックは原則として授業中に解説する。 その他の質問等がある場合は、Google Classroomの限定コメントにて受け付ける。
備考・メッセージ	全15回の授業はすべて対面での実施となる。 安全に配慮しながら制作をすること。 準備、後片付けを徹底すること。 授業に必要な道具や材料は忘れずに用意すること。 Google Classroom の掲示やメール通知の確認を怠らないこと。

講義科目名称： 幼児音楽Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称： Musical Study for Child Education Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
グループ学習：大見　由香　　※ピアノ指導担当教員は備考欄参照			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：D106
添付ファイル			
LORubricMusic12.pdf			

講義概要	子どもの生活と遊びの中での音楽について学ぶ。子どもの歌を支える歌唱やピアノの技能を習得しレパートリーを増やす。また打楽器の基礎的な奏法を学ぶ。2つのグループに分かれ、ピアノの個人レッスンとグループ授業を週ごとに交互に受講する。シラバス内容の順序はグループにより異なる。 ピアノ：保育者として必要なピアノの演奏技術を個人レッスンを通して習得する。毎回授業終了時にはレッスンや練習の成果の振り返りを行う。 グループ授業：毎回ピアノの課題曲やテクニック練習を行い、読譜や曲の理解に必要な音楽理論（楽典）を学ぶ。また声楽の演奏技術を学び子どものうたを数多く歌えるようにする。毎回授業開始時にウォームアップ、呼吸、発声練習、音程練習を行う。 他の科目との関連：本科目の理論は「幼児音楽入門（ピアノ）」と内容が重複する部分もあるが、本科目の方がはやく進む。また、実技は「幼児音楽Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」・「声楽Ⅰ、Ⅱ」の基礎となる。 実務経験(大見）：インターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験がある。子どものミュージカルやティータイムショーの企画、監督なども手がけている。海外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイント、また楽器を用いた表現法をなじみやすい方法で紹介できる。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　グループ授業（1）　音の高さ・春のうた ぶんぶんぶん・ちょうちょ・チューリップ・こいのぼり＊（＊ピアノは上級向け） 表現活動の中での保育者のピアノの活用法や歌唱活動と子どもの声域について理解する。発声と呼吸についての基礎を学ぶ。音の高さについて学ぶ。 春のうたを歌いピアノ演奏のポイントを学ぶ。 予習：シラバス、Google Classroom の概要を読んでおく。（15分） 復習：授業で学んだ曲やピアノの課題を練習する。 授業で歌った歌を練習し暗譜で歌えるようにする。（2時間） A：中　D：少　E：あり　F：あり 第2回　ピアノレッスン（1）姿勢と手の形 グループ授業や日程表で提示された課題曲を教員の前で演奏し、アドバイスを受ける。 予習：レッスンを受ける曲を練習しておく（1時間） 復習：ピアノの課題を練習する。（1時間） A：少　D：少　E：あり　F：あり 第3回　グループ授業（2）音の長さ・付点のリズム・子どもの生活のうた あくしゅでこんにちは・おかたづけ・おはようのうた＊ 音の長さ、付点のリズムについて学ぶ。 予習：授業で行う歌をあらかじめYouTubeなどで聞き、歌えるようにしておく（30分） 復習：ピアノの課題を練習する。（90分） A：中　D：少　E：あり　F：あり 第4回　ピアノレッスン（2）譜読みと指づかい 練習してきた曲のレッスンを受ける。１週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習：レッスンを受ける曲を練習しておく（1時間） 復習：ピアノの課題を練習する。（1時間） A：少　D：少　E：あり　F：あり 第5回　グループ授業（3）全音と半音・変化記号・ヘ長調の音階と調号・打楽器の奏法 きらきらぼし・ハッピーバースデー・おはながわらった＊、おべんとう＊ 打楽器（すず、カスタネット、タンブリン）の奏法を学び、「おはながわらった」などの歌に合わせて演奏する。 全音と半音、変化記号の意味と書き方を学ぶ。ハ長調、ヘ長調の音階と調号について学ぶ。 予習：授業で行う歌をあらかじめYouTubeなどで聞き、歌えるようにしておく（30分） 復習：ピアノの課題を練習する。（90分） 宿題：プリント「ヘ長調の練習」を練習する。（2時間） A：少　D：少　F：あり 第6回　ピアノレッスン（3）強弱をつける 練習してきた曲のレッスンを受ける。１週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習：レッスンを受ける曲を練習しておく（1時間） 復習：ピアノの課題を練習する。（1時間） A：少　D：少　E：あり　F：あり 第7回　グループ授業（4）ト長調の音階と調号・拍子記号・子どものうた・外国の子どものうた 前半授業のふりかえりを行い進度の確認をする。 ト長調の調号、音階について学ぶ。拍子と指揮法について学ぶ。 こどもの歌、ふしぎなポケット・おおきな古時計、大きな太鼓、外国の子どものうたを歌う。 強弱記号について学び、打楽器（大太鼓、小太鼓）で演奏する。 予習：授業で行う歌をあらかじめYouTubeなどで聞き、歌えるようにしておく（30分） 復習：ピアノの課題を練習する。（90分） A：少　D：少　E：あり　F：あり 第8回　ピアノレッスン（4）レガートとノンレガート 練習してきた曲のレッスンを受ける。１週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。

	予習：レッスンを受ける曲を練習しておく（1時間） 復習：ピアノの課題を練習する。（1時間） A：少　D：少　E：あり　F：あり 第9回　グループ授業（５）繰り返し記号・表現をつけて歌う 表現をつけてうたう：おつかいありさん＊、あめふりくまのこ＊ 6月のうた「かたつむり」などを歌う。繰り返し記号について学ぶ。 予習：授業で行う歌をあらかじめYouTubeなどで聞き、歌えるようにしておく（30分） 復習：ピアノの課題を練習する。（90分） A：中　D：中　E：中　F：あり 第10回　ピアノレッスン（５）メロディと伴奏のバランス 練習してきた曲のレッスンを受ける。１週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習：レッスンを受ける曲を練習しておく（1時間） 復習：ピアノの課題を練習する。（1時間） A：少　D：少　E：あり　F：あり 第11回　グループ授業（６）こどもの歌と表現 こどものうたを表現を工夫して演奏する。 予習：授業で行う歌をあらかじめYouTubeなどで聞き、歌えるようにしておく（30分） 復習：ピアノの課題を練習する。（90分） D：中　E：あり　F：あり 第12回　ピアノレッスン（６）「おはようのうた」 ピアノ：課題曲のレッスンを受ける。 予習：レッスンを受ける曲を練習しておく（1時間） 復習：ピアノの課題を練習・研究発表の曲を練習する。（1時間） D：中　F：あり 第13回　グループ授業（７）夏のうた・ニ長調の音階と調号・３連音符 おばけなんてないさ・おもちゃのチャチャチャ・おはようのうた ニ長調の調号、音階について学ぶ。３連音符について学ぶ。ハ長調のカデンツを学ぶ。 予習：授業で行う歌をあらかじめYouTubeなどで聞き、歌えるようにしておく（30分） 復習：ピアノの課題を練習する。（90分） A：少　D：少　F：あり 第14回　ピアノレッスン（７）テスト曲の準備 テストで弾く曲の最終確認。課題曲でまだ合格していない曲を完成させる。 予習：レッスンを受ける曲を練習しておく（1時間） 復習：ピアノの課題を練習する。ピアノテスト曲を練習する。（2時間） D：中　E：あり　F：あり 期末試験　実技発表テスト マスタークラス形式でテストを行う。お互いの演奏を聞き合い、教員から講評を受ける。 予習：テスト曲を練習する。（2時間） 復習：ピアノの課題を練習する。（1時間） A：少　D：あり 第15回　幼児音楽Ⅰのまとめ 実技発表テストや課題曲の演奏の振り返りを行い、幼児音楽Ⅱへの課題を見出す。 予習：テスト曲や幼児音楽Ⅰでマスターした曲をいつでも弾けるようにしておく（1時間） 復習：ピアノの課題を練習する。（1時間） A：中　D：中　F：あり
教育目標との関連	保育者に必要なピアノと声楽の演奏技能を身につける。季節のうた、生活のうたなど、さまざまな音楽に触れ、学生自身の感性を豊かにする。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L01．園生活のなかで子どものうたがどのように歌われているか説明できる。 L02．子どもの状況に合った曲を選び、適切な表現で演奏できる。 L03．子どもたちのために『子どものうた』を歌ったり、ピアノで演奏したりすることができる。 L04．保育現場で子どもが楽しく歌えるように工夫できる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	練習課題の取り組み・進度　65% 実技発表（期末試験）ピアノの演奏テスト　20% 提出課題　15% （子どもの歌のピアノ課題曲をすべて合格していない場合は再試験対象となる） 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	期末試験のフィードバックは最終回授業にて行う。
教科書	『選べる３ステップ　保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第1巻』　大海由佳 他　学研プラス　2019年　1,500円（税抜） 『選べる３ステップ　保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第2巻』　大海由佳 他　学研プラス　2019年　1,500円（税抜） 授業中に適宜プリントを配布する。
参考書	改訂『幼児のための音楽教育』神原雅之　編著　教育芸術社　2019年　2,000円（税抜） 『幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省）解説』（フレーベル館、2018年） 『保育所保育指針（平成29年4月告示　厚生労働省）解説』（フレーベル館、2018年） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）解説』（フレーベル館、2018年）
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	ピアノは練習（予習と復習）をしてレッスンに臨むこと。毎日30分4日以上は練習し、毎レッスンで２曲以上は合格するよう取り組むこと。 全授業対面を予定しているが、オンライン課題もあるためGoogle Classroomからの通知を必ず見ること。

履修上の注意、条件等	日々の練習を行って技術を修得する意欲のある者。テキストは各自にあったアドバイスを記入するため、必ず自分の物を持ってくること。楽譜への記入は鉛筆（またはシャープペン）を使用すること。
オフィスアワー	大見：大見研究室（時間は研究室に掲示する）。Google Classroomの質問欄にて受け付ける。 ピアノ担当教員：レッスンの前後、または3階講師室外にて受け付ける。
備考・メッセージ	※ピアノ指導担当教員：宮本眞理子、大平美樹、栗村葉子、小梶由理、原嶋唯、藤澤桐子、矢浪桂子 子どもの歌のピアノ課題曲リストは授業とGoogle Classroom内にて配付する。

講義科目名称： 幼児音楽Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称： Musical Study for Child Education Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
グループ学習：大見　由香　　※ピアノ指導担当教員は備考欄参照			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：D108
添付ファイル			
LORubricMusic12.pdf			

講義概要	子どもの生活と遊びの中での音楽について学ぶ。子どもの歌を支える歌唱やピアノの技能を習得しレパートリーを増やす。また打楽器の基礎的な奏法を学ぶ。2つのグループに分かれ、ピアノの個人レッスンとグループ授業を週ごとに交互に受講する。シラバス内容の順序はグループにより異なる。 ピアノ：保育者として必要なピアノの演奏技術を個人レッスンを通して習得する。毎回授業終了時にはレッスンや練習の成果の振り返りを行う。 グループ授業：毎回ピアノの課題曲やテクニック練習行い、読譜や曲の理解に必要な音楽理論（楽典）を学ぶ。また声楽の演奏技術を学び子どものうたを数多く歌えるようにする。毎回授業開始時にウォームアップ、呼吸、発声練習、音程練習を行う。 他の科目との関連：「幼児音楽Ⅰ」で習得した技術を向上させ、「幼児音楽Ⅲ、Ⅳ」・「声楽Ⅰ、Ⅱ」の基礎となる。 実務経験（大見）：インターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験がある。子どものミュージカルやティータイムショーの企画、監督なども手がけている。海外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイント、また楽器を用いた表現法をなじみやすい方法で紹介できる。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　グループ授業（１）幼児音楽Ⅰの復習・秋のうた 春学期の復習（リズム、くり返し記号）。 秋のうた「まつぼっくり」「山の音楽家」「きのこ」 ヘ長調の調号、主音についての復習。 夏季休暇課題の「ハ長調のカデンツ」のテストを受ける。 予習：シラバスを読んでおく・ハ長調のカデンツをマスターしておく。（手元ビデオ参照）（1時間） 復習：ピアノの課題を練習する（1時間） A：少　D：少　E：あり　F：あり 第2回　ピアノレッスン（１）「山の音楽家」 夏季休暇中に練習してきた曲のレッスンを受ける。練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習：レッスンを受ける曲を練習しておく（1時間） 復習：ピアノの課題を練習する（1時間） A：少　D：少　E：あり　F：あり 第3回　グループ授業（２）臨時記号と調号のルール・秋のうた 臨時記号のルールを学び調号との違いを確認する。 秋のうた「どんぐりころころ」、「やきいもグーチーパー」、合唱曲を歌う。 ニ長調について「おはようのうた」で調号、ポジションを確認する。 予習：授業で行う歌をあらかじめYouTubeなどで聞き、歌えるようにしておく（30分） 復習：ピアノの課題を練習する（90分） A：少　D：少　F：あり 第4回　ピアノレッスン（２）「おべんとう」 練習してきた曲のレッスンを受ける。2週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習：レッスンを受ける曲を練習しておく（1時間） 復習：ピアノの課題を練習する（1時間） A：少　D：少　E：あり　F：あり 第5回　グループ授業（３）生活のうた 「おべんとう」「おかえりのうた」 各調の音階とカデンツ、移調について。 合唱曲を歌い、歌詞の意味に沿った表現をつける。 予習：授業で行う歌をあらかじめYouTubeなどで聞き、歌えるようにしておく（30分） 復習：ピアノの課題を練習する（90分） A：少　D：少　F：あり 第6回　ピアノレッスン（３）「おべんとう」仕上げ 練習してきた曲のレッスンを受ける。１週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習：レッスンを受ける曲を練習しておく（1時間） 復習：ピアノの課題を練習する（1時間） A：少　D：少　E：あり　F：あり 第7回　グループ授業（４）コードと転回形の練習・秋のうた 各調のカデンツと転回形のテストを受ける。カデンツをもとに伴奏をつける。 合唱曲を歌い、響きや声の重なり合いを楽しむ。 また歌詞の意味を味わう。 予習：授業で行う歌をあらかじめYouTubeなどで聞き、歌えるようにしておく（30分） 復習：ピアノの課題を練習する（90分） 宿題：今までの取り組み状況と成果を振り返りアンケートに入力し、今後の課題を見出す。（20分） A：少　D：少　F：あり 第8回　ピアノレッスン（４）「おかえりのうた」 練習してきた曲のレッスンを受ける。１週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。

	予習：レッスンを受ける曲を練習しておく（1時間） 復習：ピアノの課題を練習する（1時間） A：少　D：少　E：あり　F：あり 第9回　グループ授業（５）強弱記号とアーティキュレーション・冬のうた アーティキュレーションについて学ぶ。 冬のうた「ゆき」「あわてんぼうのサンタクロース」「お正月」を歌う。 歌のテストの実施方法、評価の観点（ルーブリック）の説明を受ける。 予習：授業で行う歌をあらかじめYouTubeなどで聞き、歌えるようにしておく（30分） 復習：ピアノの課題を練習する（90分） 宿題：今まで取り組んだうたを練習し、うたのテスト曲を選んでエントリーする。（20分） A：少　D：少　F：あり 第10回　ピアノレッスン（５）「おかえりのうた」仕上げ 練習してきた曲のレッスンを受ける。１週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習：レッスンを受ける曲を練習しておく（1時間） 復習：ピアノの課題を練習する（1時間） A：少　D：少　E：あり　F：あり 第11回　グループ授業（６）復習プリント・冬のうた 冬のうた「まめまき」「うれしいひなまつり」「おもいでのアルバム」を歌う。レポートの説明。 予習：授業で行う歌をあらかじめYouTubeなどで聞き、歌えるようにしておく（30分） 復習：ピアノの課題を練習する。（90分） 宿題：レポートを作成・提出する（1時間） C：多　D：少　F：あり 第12回　ピアノレッスン（６）テストに向けて 練習してきた曲のレッスンを受ける。１週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 ピアノのテスト曲を決める。 予習：レッスンを受ける曲を練習しておく（1時間） 復習：ピアノの課題やテスト曲を練習する（1時間） A：少　D：少　E：あり　F：あり 第13回　グループ授業（７）歌のテスト・まとめと復習 準備してきた曲の中から一曲暗譜で独唱し、その場でフィードバックを受ける。 復習プリントを行う。テスト曲や幼児音楽Ⅱの課題曲を練習し、よりスムーズに演奏できるようにする。 予習：テストで歌う歌を練習し、歌えるようにしておく（30分） 復習：ピアノの課題を練習する（90分） 宿題：Google Classroomよりテスト曲のエントリーをする（30分） A：少　D：中　E：あり　F：あり 第14回　ピアノレッスン（７）まとめと復習 ピアノ：テスト曲のレッスンを受ける。幼児音楽Ⅱで習得した曲を復習し、今後の課題を見出す。 予習：レッスンを受ける曲を練習しておく（1時間） 復習：ピアノの課題を練習する。ピアノテスト曲を練習する。（2時間） A：少　D：中　E：あり　F：あり 期末試験　演奏会形式の実技試験 担当教員と決めた曲を演奏する。 第15回　幼児音楽Ⅱのまとめ 実技発表テストや課題曲の演奏の振り返りを行い、次への課題を見出す。 予習：テスト曲や幼児音楽Ⅱでマスターした曲をいつでも弾けるようにしておく（1時間） 復習：ピアノの課題を練習する（1時間） A：中　D：中　F：あり
教育目標との関連	保育者に必要なピアノと声楽の演奏技能を身につける。また周囲の音に耳を澄ませ、季節のうた、生活のうたなど、さまざまな音楽に触れ、学生自身の感性を豊かにする。
到達目標　（学修成果）　　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L0１．園生活のなかで子どもの歌がどのように歌われているか説明できる。 L0２．子どもの状況に合った曲を選び、適切な表現で演奏できる。 L0３．子どもたちのために『子どものうた』を歌ったり、ピアノで演奏したりすることができる。 L0４．保育現場で子どもが楽しく歌えるように工夫できる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	練習課題の取り組み・進度　50% 実技発表　授業内に行ううたの独唱、ピアノの演奏テスト　20% 提出課題　30% （子どもの歌のピアノ課題曲をすべて合格していない場合は再試験対象となる） 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	期末テストのフィードバックは最終回授業にて行う。
教科書	『選べる３ステップ　保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第1巻』　大海由佳 他　学研プラス　2019年　1,500円（税抜） 『選べる３ステップ　保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第2巻』　大海由佳 他　学研プラス　2019年　1,500円（税抜） 授業中に適宜プリントを配布する。
参考書	改訂『幼児のための音楽教育』神原雅之　編著　教育芸術社　2019年　2,000円（税抜） 『幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省）解説』（フレーベル館、2018年） 『保育所保育指針（平成29年4月告示　厚生労働省）解説』（フレーベル館、2018年） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）解説』（フレーベル館、2018年）

準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	ピアノは練習（予習と復習）をしてレッスンに臨むこと。毎日30分週4日以上は練習し、毎レッスンで２曲以上は合格するよう取り組むこと。全授業対面で行うが、オンライン課題もあるためGoogle Classroomからの通知を必ず見ること。
履修上の注意、条件等	日々の練習を行って技術を修得する意欲のある者。テキストは各自にあったアドバイスを記入するため、必ず自分の物を持ってくること。楽譜への記入は鉛筆（またはシャープペン）を使用すること。カデンツのテストはGoogle Classroom内のビデオ資料を活用して期日内に合格すること。
オフィスアワー	大見：大見研究室（時間は研究室に掲示する）。もしくはGoogle Classroomの質問欄にて受け付ける。 ピアノ担当教員：授業の前後、または3階講師室外にて受け付ける。
備考・メッセージ	※ピアノ指導担当教員：宮本眞理子、大平美樹、栗村葉子、小梶由理、原嶋唯、藤澤桐子、矢浪桂子 子どもの歌のピアノ課題曲リストは授業とGoogle Classroom内にて配付する。

講義科目名称： 幼児音楽Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称： Musical Study for Child Education Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士選択
担当教員			
宮本眞理子（グループ学習）　※ピアノの個人レッスン担当教員は備考欄参照　（※リトミック：栗村葉子）			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり（宮本）	ナンバリング：D203
添付ファイル			
幼児音楽Ⅲルーブリック.pdf			

講義概要	この授業では、ピアノ演奏の技術や幼児の音楽指導に必要なことを学び、『こどものうた』のレパートリーを増やしていく。グループ学習で『こどものうた』の譜読みに取り組み、ピアノの個人レッスンで完成させる。グループ学習のトーンチャイムの演奏では、一つの音楽を作り出す喜びを味わう。（1年次の「幼児音楽Ⅰ・Ⅱ」の内容を引き続いて学ぶ。） グループ学習の担当者（宮本）は、音楽大学附属の音楽教室、高等学校音楽科での高度な音楽教育に携わって来た実務経験を生かし、効果的で分かりやすい練習方法を取り入れた授業を行う。 他の科目との関連：「幼児音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ」「声楽Ⅰ・Ⅱ」などの音楽科目全般と、「幼児と表現」「保育内容（表現）の指導法Ⅰ・Ⅱ」に関連がある。また、実習で弾くピアノの課題も学ぶので実習とも関連がある。 ☆授業方法　クラスを２つのグループに分け、グループ学習とピアノの個人レッスンを交互に受ける形で授業を行う。 初級と上級では課題曲のレベルを変えている。　（同じ課題曲を学ぶこともある。）
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　グループ　授業内容について・春のうた・夏のうた 初級・上級： 授業の内容と進め方について説明を受ける。 「せんせいとおともだち」（テキスト Ⅰ P.23 ステップ2）の譜読みをする。 初級：「かたつむり」（プリント　コード伴奏） 上級：「かたつむり」（テキスト Ⅰ P.34 ステップ2）の譜読みをする。 予習・復習　「せんせいとおともだち」「かたつむり」を練習する。 春休みの課題「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」を練習する。（毎日30分） A：中　F：あり 第2回　ピアノ　春休みの課題 初級・上級： 春休みの課題の生活のうた3曲「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」をピア ノ担当教員の前で演奏し、アドバイスを受ける。 予習・復習　生活のうた3曲を実習で弾けるように練習を重ねる。 「せんせいとおともだち」「かたつむり」を練習する。（毎日30分） D：少　F：あり 第3回　グループ　春のうた・夏のうた・生活のうた 初級・上級：「せんせいとおともだち」「かたつむり」の要点を学ぶ。 初級：「はをみがきましょう」（テキスト Ⅱ P.33 ステップ2 あるいはP.32 ステップ1） 上級：「はをみがきましょう」（テキスト Ⅱ P.33 ステップ2）の譜読みをする。 予習・復習　「せんせいとおともだち」「かたつむり」「はをみがきましょう」を練習する。（毎日30分） A：中　F：あり 第4回　ピアノ　春のうた・夏のうた・生活のうた 初級・上級：「せんせいとおともだち」「かたつむり」を仕上げる。 「はをみがきましょう」の練習の仕方を学ぶ。 予習・復習　「はをみがきましょう」を練習する。（毎日30分） F：あり 第5回　グループ　生活のうた・夏のうた 初級・上級：「はをみがきましょう」を仕上げる。 初級：「たなばたさま」（テキスト Ⅰ P.51　ステップ1）「とんぼのめがね」（プリント） 上級：「たなばたさま」（テキスト Ⅰ P.52 ステップ2）「とんぼのめがね」（テキスト Ⅰ P.61 ステップ2）の 譜読みをする。 予習・復習　「たなばたさま」「とんぼのめがね」を練習する。（毎日30分） A：中　F：あり 第6回　ピアノ　夏のうた 初級・上級：「たなばたさま」「とんぼのめがね」の練習の仕方を学ぶ。 予習・復習　「たなばたさま」「とんぼのめがね」を練習する。（毎日30分） F：あり 第7回　グループ　行進曲・夏のうた 初級：「みつばちのマーチ」（プリント） 上級：「ミッキーマウス・マーチ」（プリント）の譜読みをする。 初級・上級：「たなばたさま」「とんぼのめがね」を仕上げる。 予習・復習　「みつばちのマーチ」（初級）、「ミッキーマウス・マーチ」（上級）を練習する。（毎日30分）

	A：中　F：あり 第8回　ピアノ　行進曲・実習の課題 初級・上級： 実習の課題の譜読みをする。 初級：「みつばちのマーチ」 上級：「ミッキーマウス・マーチ」の練習の仕方を学ぶ。 予習・復習　実習の課題と行進曲を練習する。（毎日1時間） F：あり 第9回　グループ　実習に向けて（子どもたちの前で弾くには･･･）・行進曲 初級・上級： 子どもたちの前にいると想定して弾く練習をする。弾き歌いと先歌いの練習をする。 初級：「みつばちのマーチ」 上級：「ミッキーマウス・マーチ」の要点を学ぶ。 予習・復習　実習の課題と行進曲を練習する。（毎日1時間） A：中　F：あり 第10回　ピアノ　実習の課題・行進曲 初級・上級： 実習の課題を中心にレッスンを受ける。 初級：「みつばちのマーチ」 上級：「ミッキーマウス・マーチ」の練習の仕方を学ぶ。 予習・復習　実習の課題と行進曲を練習する。（毎日1時間） F：あり 第11回　グループ　リトミック 初級・上級：クラスごとにリトミックについて学び、実際に動いて指導を受ける。 予習・復習　行進曲を練習する。（毎日45分） A：中　F：あり 第12回　グループ　教育実習の振り返り・ペダル奏法 初級・上級： 教育実習におけるピアノの取り組みについて振り返りをする。 初級：「おじぎの和音」（プリント）でペダル奏法を学ぶ。 上級：「シューベルトの子守歌」（プリント）でペダル奏法を学ぶ。 予習・復習　行進曲を練習する。ペダル奏法を復習する。（毎日45分） A：中　E：あり　F：あり 第13回　ピアノ　行進曲 初級：「みつばちのマーチ」 上級：「ミッキーマウス・マーチ」の細かいレッスンを受ける。 予習・復習　実技発表の課題（行進曲）を中心に練習する。（毎日1時間） F：あり 第14回　グループ　トーンチャイム 初級・上級：トーンチャイムの演奏法を学び、「ちいさな世界」を演奏して楽しむ。 予習・復習　実技発表の課題（行進曲）を中心に練習する。（毎日1時間） A：中　D：少　F：あり 第15回　ピアノ　行進曲 初級：「みつばちのマーチ」 上級：「ミッキーマウス・マーチ」を仕上げる。 予習・復習　実技発表の課題（行進曲）を練習する。（毎日1時間） F：あり
教育目標との関連	ピアノにおいては『こどものうた』を数多く知ること、グループ学習のトーンチャイムにおいては心を合わせて一つの音楽を作り出す喜びを味わうことが大切である。どちらも保育者として実践できる力をつけることで、豊かな感性と愛の心を育てることができる。
到達目標　（学修成果）　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	L03　技能・表現　子どもたちのために『こどものうた』を歌ったり、ピアノで演奏したりすることができる。 L03　技能・表現　保育者としての音楽的センスと音楽の基礎技能を持ち、現場で子どもたちを指導することができる。 L05　人間性・社会性　心を合わせて一つの音楽を作り出すことに喜びを見いだすことができ、聴く人達にも喜びを伝えることができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	ピアノの個人レッスンの課題に対する取り組みと進度を評価する。　50% 期末試験として実技発表を評価する。　20% グループ学習（リトミックを含む）での取り組みを評価する。　30% 【期末試験】実技発表として、初級は「みつばちのマーチ」（プリント）、上級は「ミッキーマウス・マーチ」（プリント）を クラスの中で発表し、お互いに聴き合う。 ＊レベルにより担当教員が認めた場合に限り、初級は課題の中から1曲、上級はテキストからステップ2の「ミッキーマウス・マーチ」を演奏しても良い。 成績評価は添付資料のルーブリックを参照
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	期末試験の実技発表後に個人レッスンの担当教員よりアドバイスを受け、振り返りを行う。

教科書	『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第1巻』　大海由佳 他　学研パブリッシング　2023　1,500円（税抜） 『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第2巻』　大海由佳 他　学研パブリッシング　2023　1,500円（税抜）
参考書	適宜プリントを配付する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	ピアノの練習は積み重ねが大事であるので、必ず毎日（30分～45分、実習前と実技発表前は1時間）練習すること。 レッスンを受けた内容をその日のうちに復習することで、大きな成果が得られる。
履修上の注意、条件等	保育士選択となっているが、『こどものうた』のレパートリーを増やすことができるので履修することを勧める。
オフィスアワー	曜日・時間は、研究室に掲示する。ピアノについてはレッスン時に担当教員に質問すること。
備考・メッセージ	※ピアノの個人レッスン担当教員：大見由香,大平美樹,栗村葉子,小梶由理,原嶋唯,藤澤桐子,矢浪桂子 ・全回を対面授業で行う。

講義科目名称： 幼児音楽Ⅳ　　授業コード：

英文科目名称： Musical Study for Child Education Ⅳ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年	1単位	卒業選択、幼免選択、保育士選択
担当教員			
ピアノレッスン： 宮本眞理子・大見由香　　グループ学習（トーンチャイム）： 宮本眞理子			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり（宮本）	ナンバリング：D207
添付ファイル			
「幼児音楽Ⅳ」ルーブリック.pdf			

講義概要	この授業では、ピアノ演奏の技術や幼児の音楽指導に必要なことを学び、『こどものうた』のレパートリーを増やしていく。グループレッスンや個人レッスンで『こどものうた』の譜読みに取り組み完成させる。グループ学習のトーンチャイムの演奏では、一つの音楽を作り出す喜びを味わう。 主担当者（宮本）は、音楽大学附属の音楽教室、高等学校音楽科での高度な音楽教育に携わって来た実務経験を生かし、効果的で分かりやすい練習方法を取り入れた授業を行う。 他の科目との関連：「幼児音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「声楽Ⅰ・Ⅱ」などの音楽科目全般と、「幼児と表現」「保育内容（表現）の指導法Ⅰ・Ⅱ」に関連がある。また、実習で弾くピアノの課題も学ぶので実習とも関連がある。 ☆授業方法　ピアノのグループレッスンと個人レッスンを繰り返し行う形で授業を進める。 初級と上級では課題曲のレベルを変えている。　（同じ課題曲を学ぶこともある。）
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　グループ　授業内容について・秋のうた 初級・上級： 授業の内容と進め方について説明を受ける。 初級：「どんぐりころころ」（テキスト Ⅰ P.76 ステップ2 あるいはP.75 ステップ1） 上級：「きのこ」（テキスト Ⅰ P.90 ステップ2） の譜読みをする。 予習・復習　「どんぐりころころ」（初級）、「きのこ」（上級）を練習する。（毎日30分） A：中　F：あり 第2回　グループ　秋のうた 初級・上級：「やきいもグーチーパー」（テキスト Ⅰ P.87 ステップ2）の譜読みをする。 初級：「どんぐりころころ」 上級：「きのこ」の練習の仕方を学ぶ。 予習・復習　「やきいもグーチーパー」（初級・上級）と 「どんぐりころころ」（初級）、「きのこ」（上級）を練習する。（毎日30分） A：中　F：あり 第3回　ピアノ　秋のうた・子どものうた 初級・上級：「やきいもグーチーパー」の練習の仕方を学ぶ。 初級：「どんぐりころころ」を仕上げる。 「ちいさな世界」（テキスト Ⅱ P.104 ステップ1）の譜読みをする。 上級：「きのこ」を仕上げる。 「ちいさな世界」（テキスト Ⅱ P.105 ステップ2 あるいはP.106 ステップ3）の譜読みをする。 予習・復習　「やきいもグーチーパー」と「ちいさな世界」を練習する。（毎日30分） F：あり 第4回　ピアノ　秋のうた・子どものうた 初級・上級：「やきいもグーチーパー」を仕上げる。 「ちいさな世界」の練習の仕方を学ぶ。 初級：「手をたたきましょう」（プリント） 上級：「さんぽ」（テキスト Ⅱ P.109 ステップ2 あるいはP.110 ステップ3）の譜読みをする。 予習・復習　「ちいさな世界」（初級・上級）と 「手をたたきましょう」（初級）、「さんぽ」（上級）を練習する。（毎日30分） F：あり 第5回　グループ　子どものうた・秋のうた・冬のうた 初級・上級：「ちいさな世界」を仕上げる。 初級：「手をたたきましょう」の練習の仕方を学ぶ。 「ジングルベル」（プリント）の譜読みをする。 上級：「さんぽ」の練習の仕方を学ぶ。 「くだものれっしゃ」（プリント）の譜読みをする。 予習・復習　「手をたたきましょう」「ジングルベル」（初級）、 「さんぽ」「くだものれっしゃ」（上級）を練習する。（毎日30分） A：中　F：あり 第6回　ピアノ　子どものうた・秋のうた・冬のうた 初級：「手をたたきましょう」を仕上げる。 「ジングルベル」の練習の仕方を学ぶ。 「ゆき」（テキスト Ⅰ P.95 ステップ2）の譜読みをする。 上級：「さんぽ」を仕上げる。 「くだものれっしゃ」の練習の仕方を学ぶ。 「にじ」（プリント）の譜読みをする。 予習・復習　「ジングルベル」「ゆき」（初級）、 「くだものれっしゃ」「にじ」（上級）を練習する。（毎日30分）

F：あり
第7回　ピアノ　子どものうた・秋のうた・冬のうた
初級：「ジングルベル」を仕上げる。
「ゆき」の練習の仕方を学ぶ。
「まめまき」（テキスト Ⅰ P.107 ステップ2 あるいはステップ1）の譜読みをする。
上級：「くだものれっしゃ」を仕上げる。
「にじ」の練習の仕方を学ぶ。
「バスごっこ」（プリント）の譜読みをする。

予習・復習　「ゆき」「まめまき」（初級）、
「にじ」「バスごっこ」（上級）を練習する。（毎日30分）
F：あり
第8回　グループ　トーンチャイム（1）
初級・上級：トーンチャイムの演奏法を学ぶ。
クリスマスソング「あわてんぼうのサンタクロース」「聖しこの夜」を演奏して楽しむ。
練習を重ねることで美しい曲に仕上がるという喜びを味わう。

予習・復習　「ゆき」「まめまき」（初級）、
「にじ」「バスごっこ」（上級）を練習する。（毎日30分）
A：中　D：少　F：あり
第9回　ピアノ　子どものうた・冬のうた
初級：「ゆき」を仕上げる。
「まめまき」の練習の仕方を学ぶ。
「思い出のアルバム」（テキスト Ⅰ P.119 ステップ2）の譜読みをする。
上級：「にじ」を仕上げる。
「バスごっこ」の練習の仕方を学ぶ。
「思い出のアルバム」（プリント）の譜読みをする。

予習・復習　「思い出のアルバム」（初級・上級）と
「まめまき」（初級）、「バスごっこ」（上級）を練習する。（毎日30分）
F：あり
第10回　グループ　トーンチャイム（2）
初級・上級：クリスマスソング「あわてんぼうのサンタクロース」「聖しこの夜」
「ジングルベル」の3曲を演奏して美しい音色を楽しむ。
曲が出来上がった達成感や喜びを味わう。

予習・復習　「思い出のアルバム」（初級・上級）と
「まめまき」（初級）、「バスごっこ」（上級）を練習する。（毎日30分）
実技発表に演奏する2曲を選ぶ。
A：中　D：少　F：あり
第11回　ピアノ　子どものうた・冬のうた・実技発表の曲
初級・上級：「思い出のアルバム」の練習の仕方を学ぶ。
実技発表の2曲を決めて練習する。
初級：「まめまき」を仕上げる。
上級：「バスごっこ」を仕上げる。
「いちねんせいになったら」（テキスト Ⅰ P.124 ステップ3）の譜読みをする。

予習・復習　「思い出のアルバム」と実技発表の2曲（初級・上級）を練習する。
「いちねんせいになったら」（上級）を練習する。（毎日1時間）
F：あり
第12回　ピアノ　実技発表の曲・冬のうた
初級・上級：「思い出のアルバム」を仕上げる。
実技発表の2曲を練習し、細かいレッスンを受ける。
上級：「いちねんせいになったら」の練習の仕方を学ぶ。
「うれしいひなまつり」（テキスト Ⅰ P.110 ステップ2）の譜読みをする。

予習・復習　実技発表の2曲（初級・上級）を練習する。
「いちねんせいになったら」「うれしいひなまつり」（上級）を練習する。（毎日1時間）
F：あり
第13回　ピアノ　実技発表の曲・冬のうた
初級・上級：　実技発表の2曲を練習し、細かいレッスンを受ける。
上級：「いちねんせいになったら」を仕上げる。
「うれしいひなまつり」の練習の仕方を学ぶ。

予習・復習　実技発表の2曲（初級・上級）を練習する。
「うれしいひなまつり」（上級）を練習する。（毎日1時間）
F：あり
第14回　ピアノ　実技発表の曲・冬のうた
初級・上級：　実技発表の2曲を練習し、細かいレッスンを受ける。
上級：「うれしいひなまつり」を仕上げる。

予習・復習　実技発表の2曲を練習し、しっかり仕上げる。（毎日1時間）
F：あり
第15回　グループ　トーンチャイム（3）
初級・上級：トーンチャイムを使った遊びを学ぶ。
・音の高低を楽しむ　・リズム遊び

予習・復習　実技発表の2曲を練習し、しっかり仕上げる。（毎日1時間）
A：中　D：中　F：あり

教育目標との関連	ピアノにおいては『こどものうた』を数多く知ること、グループ学習のトーンチャイムにおいては心を合わせて一つの音楽を作り出す喜びを味わうことが大切である。どちらも保育者として実践できる力をつけることで、豊かな感性と愛の心を育てることができる。
到達目標　（学修成果）　　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	L03技能・表現　　子どもたちのために『こどものうた』を歌ったり、ピアノで演奏したりすることができる。 L03技能・表現　　保育者としての音楽的センスと音楽の基礎技能を持ち、現場で子どもたちを指導することができる。 L05人間性・社会性　心を合わせて一つの音楽を作り出すことに喜びを見いだすことができ、聴く人達にも喜びを伝えることができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	ピアノのレッスンの課題に対する取り組みと進度を評価する。　50% 期末試験として実技発表を評価する。　20% グループ学習での取り組みを評価する。　30% 【期末試験】実技発表として、初級・上級それぞれの課題から2曲を選んでクラスの中で発表し、お互いに聴き合う。 成績評価は添付資料のルーブリックを参照
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	期末試験の実技発表後にレッスンの担当教員よりアドバイスを受け、振り返りを行う。
教科書	『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第1巻』　大海由佳 他　学研パブリッシング　2023　1,500円（税抜） 『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第2巻』　大海由佳 他　学研パブリッシング　2023　1,500円（税抜）
参考書	適宜プリントを配付する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	ピアノの練習は積み重ねが大事であるので、必ず毎日（30分、実技発表前は1時間）練習すること。 レッスンを受けた内容をその日のうちに復習することで、大きな成果が得られる。
履修上の注意、条件等	幼免選択・保育士選択となっているが、秋・冬の『こどものうた』を学ぶことができるので履修することを勧める。
オフィスアワー	曜日・時間は研究室に掲示する。ピアノについてはレッスン時に担当教員に質問すること。
備考・メッセージ	全回を対面授業で行う。

講義科目名称： 英語コミュニケーションⅠ（国際コース）　　授業コード：

英文科目名称： English Communication Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	１年	１単位	卒業必修　幼免必修　保育士必修
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E103
添付ファイル			
ルーブリック評価　English Communication I.pdf			

講義概要	As students of the Global Early Childhood Education course, you will have several chances to study abroad. For your first general English course, we will focus on basic English needed to live comfortably in an English-speaking country. We will learn basic phrases that are useful for many situations, while learning the vocabulary to deal with certain situations from talking about rules to shopping. Mary Jones has over 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students' communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	Class 1　Introducing Yourself -Talk about your university and major -Talk about your club -Talk about your free-time activities A:多　B:少　E:あり　F:あり Review vocabulary (Page 14) and complete writing homework (handout). (1 hour) Class 2　A Geography Lesson -Talk about geographical location -Talk about climate -Explain your travel schedule A:多　B:少　E:あり　F:あり Review vocabulary (Page 20) and complete writing homework (handout). (1 hour) Class 3　Arriving -Talk about travel experiences -Fill out arrival cards -Understand instructions and advice A:多　B:少　E:あり　F:あり Review vocabulary (Page 26) and complete writing homework (handout). (1 hour) Class 4　People -Introduce people -Talk about jobs and personality -Talk about present activities A:多　B:少　E:あり　F:あり Review vocabulary (Page 32) and complete writing homework (handout). (1 hour) Class 5　House Rules -Describe the location of things -Understand house rules -Understand how to use your room A:多　B:少　E:あり　F:あり Review vocabulary (Page 38) and complete writing homework (handout). (1 hour) Class 6　Orientation -Explain using "If" sentences -Talk about your schedule -Ask about meaning A:多　B:少　E:あり　F:あり Review vocabulary (Page 44) and complete writing homework (handout). (1 hour) Class 7　First Lesson Day -Talk about self-study activities -Understand directions -Talk about location A:多　B:少　E:あり　F:あり Review vocabulary (Page 50) and complete writing homework (handout). (1 hour) Class 8　Activities and Trips -Say what you want to do -Express necessity -Express obligation

	A:多 B:少 E:あり F:あり Review vocabulary (Page 56) and complete writing homework (handout). (1 hour) Class 9 Housework -Make requests -Ask permission -Offer to help A:多 B:少 E:あり F:あり Review vocabulary (Page 62) and complete writing homework (handout). (1 hour) Class 10 Food and Drink -Describe food and drink -Ask for and offer food -Give your impression of food A:多 B:少 E:あり F:あり Review vocabulary (Page 68) and complete writing homework (handout). (1 hour) Class 11 Money and Shopping -Shop for clothes -Compare shopping items -Talk about size A:多 B:少 E:あり F:あり Review vocabulary (Page 74) and complete writing homework (handout). (1 hour) Class 12 Safety on Campus -Talk about an incident -Give details about an incident -Describe lost property A:多 B:少 E:あり F:あり Review vocabulary (Page 80) and complete writing homework (handout). (1 hour) Class 13 Talking about Your Hometown -Talk about your hometown -Explain what you can do there -Talk about places of interest A:多 B:少 E:あり F:あり Review vocabulary (Page 86) and complete writing homework (handout). (1 hour) Class 14 Information -Understand notices and messages -Explain the content of notices and messages -React to notices and messages A:多 B:少 E:あり F:あり Review vocabulary (Page 92) and complete writing homework (handout). (1 hour) Class 15 Farewell -Say Goodbye -Thank people -Talk about future hopes and plans A:多 B:少 E:あり F:あり Review handouts for final exam. (2 hours) Class 16 Final Exams Final Exam
教育目標との関連	Student will learn the basic English skills needed to study abroad.
到達目標 (学修成果) 1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	1. Students will gain a new understanding and appreciation of foreign cultures. 2. Students will acquire a greater understanding of cultural differences. 3. Students will acquire the English skills needed to live and study abroad.
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法 2.ルーブリックによる評価基準	40% Final Exam 30% Vocabulary Quizzes 20% Homework 10% Participation
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	The final exam will be returned via Google classroom. All questions will be accepted by email.
教科書	Ready for Takeoff!! English for Study Abroad Alan Jackson 内田ひろ子 著 金星堂 出版
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	There will be a vocabulary test and short writing assignment every week.

履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	The instructor will take questions before and after each class.
備考・メッセージ	This class will be conducted in person.

講義科目名称： 英語コミュニケーションⅡ（国際コース）　　授業コード：

英文科目名称： English Communication Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	１年	１単位	卒業必修　幼免必修　保育士必修
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E104
添付ファイル			
ルーブリック評価　English Communication II.pdf			

講義概要	In English Communication I, you learned the basic English skills you will need to live abroad. In this course, you will gain the basic English skills required to talk about Japan and Japanese culture. Many foreigners are interested in Japan and Japanese culture, so it is good to be prepared. Mary Jones has over 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students' communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	Class 1　Ramen - Origins of Ramen - Different kinds of ramen - Ramen around the world - Ordering ramen A:多　B:少　E:あり　F:あり Complete conversation on page 10. (10 minutes) Do the reading and answer questions on page 11. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (30 minutes) Class 2　Animal Cafe - Origins of animal cafes - Types of animal cafes - Reasons people go to animal cafes - Using an animal cafe A:多　B:少　E:あり　F:あり Complete conversation on page 14. (10 minutes) Do the reading and answer questions on page 15. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (30 minutes) Class 3　Stand-Up Eatery - Origins of Stand-up eateries - Stand-up eateries nowadays - Reasons for popularity of stand-up eateries - Ordering at a stand-up eatery A:多　B:少　E:あり　F:あり Complete conversation on page 18. (10 minutes) Do the reading and answer questions on page 19. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (30 minutes) Class 4　Convenience Store - History of convenience stores in Japan - Popular convenience stores - Common products at a convenience store - Buying ready-made food at a convenience store A:多　B:少　E:あり　F:あり Complete conversation on page 22. (10 minutes) Do the reading and answer questions on page 23. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (30 minutes) Class 5　Japanese Fast Food, Gyudon - Describing gyudon - Origins of gyudon - Gyudon restaurants in Japan - Ordering at a gyudon restaurant A:多　B:少　E:あり　F:あり Complete conversation on page 26. (10 minutes) Do the reading and answer questions on page 27. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (30 minutes) Class 6　Japanese Spa - Describing a spa - Services offered at a spa - Checking in at a spa A:多　B:少　E:あり　F:あり Complete conversation on page 30. (10 minutes) Do the reading and answer questions on page 31. (20 minutes)

		Review vocabulary list handout. (30 minutes)
	Class 7	Flour Dishes - Describing Flour dishes - Types of flour dishes - Flour dishes and foreign tourists - Ordering at an okonomiyaki restaurant A:多 B:少 E:あり F:あり Complete conversation on page 34. (10 minutes) Do the reading and answer questions on page 35. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (30 minutes)
	Class 8	Karaoke - History of Karaoke - Describing karaoke - Karaoke around the world - Using a karaoke shop A:多 B:少 E:あり F:あり Complete conversation on page 38. (10 minutes) Do the reading and answer questions on page 39. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (30 minutes)
	Class 9	Seating Charges at Japanese Restaurants - Explaining seating charges - History of seating charges - Seating charges and foreign tourists - Ordering at an izakaya A:多 B:少 E:あり F:あり Complete conversation on page 42. (10 minutes) Do the reading and answer questions on page 43. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (30 minutes)
	Class 10	Second-hand Store - Second-hand stores in Japan - Things you can find at a second hand store - Reasons for popularity - Shopping at a second-hand store A:多 B:少 E:あり F:あり Complete conversation on page 46. (10 minutes) Do the reading and answer questions on page 47. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (30 minutes)
	Class 11	Kawaii Culture - Explaining kawaii culture - Origins of kawaii culture - Kawaii culture around the world - Shopping at a kawaii goods store A:多 B:少 E:あり F:あり Complete conversation on page 50. (10 minutes) Do the reading and answer questions on page 51. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (30 minutes)
	Class 12	Soba - Explaining soba - Origins of soba - Soba's popularity - Ordering at a soba restaurant A:多 B:少 E:あり F:あり Complete conversation on page 54. (10 minutes) Do the reading and answer questions on page 55. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (30 minutes)
	Class 13	Bento - Explaining Bento - Origins of bento - Kinds of bentos - Buying a bento A:多 B:少 E:あり F:あり Complete conversation on page 58. (10 minutes) Do the reading and answer questions on page 59. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (30 minutes)
	Class 14	Shrine - Explaining a shrine - What to do at a shrine - Buying charms at a shrine A:多 B:少 E:あり F:あり Complete conversation on page 62. (10 minutes) Do the reading and answer questions on page 63. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (30 minutes)
	Class 15	Onsen

	- Describing an onsen - Famous onsens - Using an onsen A:多　B:少　E:あり　F:あり Review handouts for final exam. (2 hours) Final Exam　Final Exams Final Exam will be held.
教育目標との関連	Students will gain the ability to talk about and explain Japanese culture.
到達目標　(学修成果)　　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	1. Students will gain a new understanding and appreciation of Japanese culture. 2. Students will acquire a greater understanding of cultural differences. 3. Students will acquire the English skills needed to talk about and explain different aspects of Japanese culture.
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	Final Exam: 40% Vocabulary quizzes: 20% Writing assignments: 20% Homework: 20%
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	Final Exam will be returned via Google classroom with details explaining score.
教科書	「Glances of Japan 日本文化とおもてなし英語」 坂部敏行・岡島徳昭・Howard Tarnoff 著者　南雲堂版社出版
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	Every week there will be a writing assignment and vocabulary quiz. (1 hour)
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	Office hours will be posted on the instructor's door.
備考・メッセージ	This class will be conducted in person.

講義科目名称： 教育実習指導　　授業コード：

英文科目名称： Instruction for Teaching Practices in Kindergarten

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	２年	１単位	幼免必修
担当教員			
織壁 佐和子　間野 百子			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：G202
添付ファイル			
教育実習指導ルーブリック（2025）.pdf			

講義概要	教育実習に向け、これまで学んできた理論や技術を教育実習でどのようにいかしていくか具体的に考え、自己課題を設定する。実習生として有るべき姿、実習に臨む姿勢について考え、準備を整える。また、保育を計画することの重要性に気づき、実践力につなげていく。 他科目との関連：保育実習指導Ⅰ（保）で、保育実習に向けた事前事後指導において学んだ心構えや、実践的な保育技能の修得の上に、さらに幼稚園教諭として望ましい教師像を形成できるようにする。 担当教員は幼稚園教諭として20年以上の保育者経験があるなど教育に関する知識及び技術を有している。これを活かして、様々な角度から保育現場において求められる知識と技能を身につけ、実践について学びを深めていく。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション　「教育実習指導」の授業内容について 教育実習の概要と、学内で定めた実習の履修基準について理解する。 幼稚園教諭の多様な役割について理解する。 課題：保育者に求められる資質についてレポート作成 復習：シラバスと手引きを読み返し、大切な箇所に下線を引く。（約１時間） Ｂ：少　Ｆ：あり 第2回　保育実習と教育実習の違い 保育実習と比較し、教育実習の内容を理解する。実習に向けての目的意識をもつ。また実習生としての責任と役割を自覚する。幼稚園教諭に求められる知識と態度について考え、現在の自分と比較することによって教育実習前の自己課題を明確化する。 課題：授業内で視聴するDVDついてレポート作成 予習：手引き内、保育実習と教育実習のページを読み、違いについて書き出す（約1時間） 復習：本日のノートで大切な箇所に下線を引く。授業内で視聴したワークに取り組む（約1時間） Ｂ：少　Ｆ：あり 第3回　記録すること、計画することの意義 指導力、技術力の大切さについて、自身の力を振り返り、次の課題を考えるきっかけとする。また、幼児理解を基に記録をとることの大切さを確認する。 課題：授業内でワークに取り組む 予習：保育実習の日誌で大変だったこと、困ったこと、工夫したことを挙げておく（約1時間） 復習：教科書内、日誌の書き方のページと指導計画の立て方のページを読む（約１時間） Ｂ：少　Ｆ：あり 第4回　記録の書き方のポイント 日誌についての書き方を確認し、これからの自身の課題について考えるきっかけとする。 課題：授業内でワークに取り組む 予習：教科書の日誌の書き方について読み、わからないところにチェックしておく（約1時間） 復習：本日のワークに取り組み、大切と思う箇所に下線を引く（約１時間） Ｂ：少　Ｆ：あり 第5回　実習に向けて、自己課題の設定 個人票の作成を主な活動とする。 その中で、各々の実習に向けての目的や目標を明確にし、達成のための具体的手立てを考える。 課題：授業内で仲間の意見を聞きながら各自の目標を考える。 予習：教科書を読み、前回の保育所実習を思い出しながら次の実習について期待を持つ（1時間） 復習：教育実習前の自己課題について考える。（約１時間） Ｄ：多　Ｆ：あり 第6回　日誌の書き方①－１ 日誌の書き方を再確認し、実際に動画を視聴しながら日誌にまとめてみる 課題：DVDを視聴し、ワークに取り組む 「実習の課題」を作成する。 予習：日誌の書き方のページを読み、不安な点や、保育所実習でうまくできなかった場面を記しをしておく（1時間） 復習：ワークに取り組む（約１時間） Ｄ：多　Ｆ：あり 第7回　日誌の書き方①－２ 日誌の書き方を修得し、実際に動画を視聴しながら日誌にまとめる練習をする。 課題：授業内ワークに取り組む 予習：教科書の日誌のページを読み、書き方の確認をする（1時間） 復習：ワークに取り組む（約１時間） Ｂ：少 第8回　日誌の書き方②－１ 違った形での日誌の書き方（エピソード記述式）について理解する 課題：日誌の書き方ワークに取り組む 予習：教科書のエピソード記述のページを読み、わかりづらい箇所に記しをする（1時間） 復習：本日のワークに取り組む（１時間） Ｂ：少　Ｆ：あり

	第9回　日誌の書き方②ー２ エピソード記述式の日誌について理解を深める 予習：前回のプリントを見直す（1時間） 復習：ワークに取り組む（１時間） Ａ：多　Ｆ：あり 第10回　学内オリエンテーション グループごとに教育実習をイメージし、実習に向けての目標を確認する 予習：手引きの教育実習について書かれたページを読む（1時間） 復習：実際の実習に向けて、目標と、自身の成長のための具体的手立てをまとめる（約１時間） Ａ：多　F:あり 第11回　指導計画の立て方 指導計画の立て方、書き方を確認する 予習：教科書の指導計画についてのページを読む（1時間） 復習：ねらいと内容についての書き方を確認する（１時間） Ａ：多　F:あり 第12回　幼児理解と指導計画の関連について 実際の保育の様子を一部見て、指導案におこす 課題：自分なりに考えた保育者の配慮などを書き込み、指導案を完成させる 予習：教科書の指導計画についてのページを読む（1時間） 復習：指導案の作成。（１時間） Ａ：多　F:あり 第13回　模擬保育 前回に書いた指導案を、仲間と相互添削し、新たな学びを得る 予習：指導案のページを読み、書き方やポイントを確認する（1時間） 復習：仲間からももらったコメントを読み返し、次の課題について考える（1時間） Ｂ：多 第14回　直前オリエンテーション 今までの学びの確認を行う 予習：今までの授業で使用した資料（教科書やプリント）を見直す（２時間） 復習：実習に向けて、必要なものを整理し、支度を整える（１時間） B:少　H：少ない　E：多 第15回　実習事後指導、実習を振り返り、自己課題について考える 実習を通した気付きや学びについてのプレゼンテーションを行う。 幼稚園教諭として必要な知識と態度を身につけるために、教育実習の自己評価と今後の学びについて課題を明確にする。 予習：実習日誌を振り返り、また、実習中の経験を思い出し、授業内で省察する準備をする（1時間） 復習：1回目～14回目までの授業ノートを読み返し、振り返る（１時間） その後、訪問指導教員と評価票面談を行う。 Ｄ：多 第16回　実習報告会 実習での学びや、今後の課題について、1年生やクラスメートに報告し、情報・意見交換の時間とする。 予習：実習を振り返り、発表準備をする（1時間） 復習：他者の学びをまとめ、次の自身の課題を検討する（1時間） A：中　B：多　D：少
教育目標との関連	保育者として、理論に基づいた確かな知識を身につける。実技指導は、授業内で学んだものを模擬保育などの実践を通して保育技術修得を目指す。 また実習生としての立場を理解し謙虚にかつ前向きに参加し、愛情をもって人と関わることができるよう、日頃の立ち振る舞いから指導を行うことで、社会生活に必要な教養を身に付ける。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L01.幼稚園の役割や機能を具体的に説明できる。 L02.保育を計画・実践・評価し、改善に必要な方法を判断することができる。 L03.これまでに獲得した保育の知識と技術を適切に活用することができる。 L04.実習の目的・意義を理解し、自ら立てた実習課題に主体的に取り組む。 L05.実習生として保育者としてふさわしい人間性をを身につけ、他者と協調することができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	実習関連の書類作成と諸手続き　30% 授業への取り組み及び提出物　70% 授業内でルーブリックを示し評価方法を解説する。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	実習後、実習訪問指導担当教員と個別に面談を行う。
教科書	『幼稚園・保育所・認定こども園実習　パーフェクトガイド』小櫃智子他　わかば社 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館
参考書	なし
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回、予習復習は上記の通り。
履修上の注意、条件等	教育実践力を身につけるために、指導案の作成と模擬保育を行う。
オフィスアワー	限定コメント及び対面授業の際に受け付ける。

備考・メッセージ	授業内容は、学生の理解度などにより、変更の可能性がある。

講義科目名称： 教育実習　　授業コード：

英文科目名称： Teaching Practices in Kindergarten

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	２年	４単位	幼免必修
担当教員			
織壁 佐和子　間野 百子			
授業形態：実習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：G201
添付ファイル			
教育実習ルーブリック　(2025) .pdf			

講義概要	各幼稚園での指導を受ける。保育観察・保育参加・責任実習などを通して、幼児理解をはじめ、記録や計画の大切さに気付く。実際の保育を経験することにより、使命感や責任感を持って教育実践できる能力を身につけることを目的とする。また事前に立てた各々実習課題を追究する。幼稚園では子どもの命を預かり、かけがえのない日々を過ごしていることを十分認識し、常に学ぶ姿勢をもち、体調に留意しながら実習に臨む。 担当教員は幼稚園教諭としての保育者経験があるなど、豊かな知識及び技術を有している。これを活かして、様々な角度から保育現場において求められる知識と技能を身につけ、実践について学びを深めていく。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	幼稚園の機能と役割 １．実習園の概要を知る ２．幼稚園の1日の流れを把握する ３．保育室の環境構成について理解する ４．園と家庭・地域・小学校との連携の意義と方法について理解する 幼児理解と援助方法 １．幼児の遊びに参加し、こどもの実態について理解する ２．遊びや生活における発達段階の違いを理解する ３．配属クラスの特徴及び個々のこどもの特徴について理解する ４．保育における保育者の援助の在り方を理解する ５．特別な配慮を必要とする子どもへの関わり方について理解をする 保育計画の作成・実践・記録・評価 １．実習記録の取り方、省察について学ぶ ２．月案・週案を参考に、こどもの実態に応じた指導計画を作成する ３．指導計画の立案、保育実践、評価、改善を通してカリキュラムマネジメントについて理解する 幼稚園教諭の役割と職業倫理 １．幼稚園教諭の職務内容を理解する ２．教員間の役割分担や連携について理解する ３．幼稚園教諭の職業倫理を学ぶ ※以上の内容について、３週間の実習を行う。教員が訪問指導を行う。
教育目標との関連	幼稚園での実習を通して、幼児と愛情を持って接するなかで、幼児の心身の発達についての具体的な知識と確かな保育技術を修得する。また、保育現場に自ら身を置くことにより、社会生活に必要な教養を身につける。 実習体験は、保育者としての使命感や倫理観を養うとともに、保育者への適性を見直すこととなり、自己理解を深めることに繋がる。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L01．実習園の特色及び、幼稚園の役割や機能を具体的に説明できる。 L02．幼児理解に基づいた保育を計画・実践・評価し、改善に必要な方法を判断することができる。 L03．これまでに獲得した保育の知識と技能を保育現場において適切に活用することができる。 L04．幼稚園教諭の職務や専門性を理解し、自ら立てた実習課題に主体的に取り組む。 L05．幼稚園において教職員と協働し、深い愛情をもってこどもたちに接することができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	原則として以下の基準で評価を行う。 実習園が与えた評価　　40% 実習日誌など　　60%（期末レポートを含む） 授業内でルーブリックを示し評価方法を解説する。 ※詳細については、保育・教職の手引きを参照すること。

期末試験・期末レポートのフィードバック方法	実習後、実習訪問指導担当教員と個別に面談を行う。
教科書	『幼稚園・保育所・認定こども園実習　パーフェクトガイド』小櫃智子他　わかば社
参考書	『幼稚園教育要領』フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	教育実習指導の授業内容の復習をしておくこと。 実習について省察を繰り返し行うこと。
履修上の注意、条件等	本実習科目を履修するにあたっては、併せて教育実習指導を履修しなければならない。 本科目を修得できない場合は、教育実習指導も修得できない。
オフィスアワー	質問は授業の前後に受け付ける。また、実習中の質問は実習センターまで電話またはGoogleクラスルームの限定コメントにて受け付ける。
備考・メッセージ	より良い教育実習を実施できるよう、自ら努力する姿勢が求められます。主体的、積極的な態度で実習に臨みましょう。

講義科目名称： 保育原理　　授業コード：

英文科目名称： Principles of Early Childhood Care and Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	２年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
石見　容子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A105
添付ファイル			
ルーブリック保育原理（2025）.pdf			

講義概要	前半では、保育の意義・目的や制度および保育の思想や歴史的変遷を学ぶことによって保育について広く捉えていくことを目指す。続いて、保育の内容や方法について「養護と教育」「保育の環境」「子ども理解」を中心に、主に保育所保育指針に拠りながら理解していく。終盤では、保育者としての専門性に関する理解を深め、現代の保育や子どもをめぐる状況を多角的に捉える視点を養い、現在とこれからの保育を考えていく力を養うことをめざす。また、保育現場の経験より保育の現状、子どもの様子を具体的に話し授業を進めていく。授業担当者は保育・幼児教育の現場での経験を有している。実務経験を活かし、様々な立場を想像しながら学びを深め、実践力を身につけられるよう授業を展開する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　保育者の資格と保育の法令・制度【対面】 保育者の資格と、保育所・幼稚園・認定こども園に関する法令や制度を理解する。 予習：シラバスとテキスト第1章第１節を読む。（約30分） 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。（約1時間） B：少　E：あり 第2回　保育の理念・目的と社会的意義【配信】 保育の理念や目的・目標等について、理解する。特に現代における保育の社会的意義について考える。 予習：テキスト第１章を読み、概要を理解する。（約1時間） 復習：授業内容を振り返り、自身の考えを深める。（約1時間） E：あり F：あり 第3回　子ども理解と遊び【配信】 子どもの発達について理解を明確にし、遊びから子どもの理解を深める。 予習：テキスト第２章を読み、概要を理解する（約1時間） 復習：授業内容を振り返り、重要事項を確認しつつ、理解を深める。（約1時間） E：あり F：あり 第4回　海外の保育思想【対面】 ルソー、ペスタロッチ、モンテッソーリ、フレーベルの考える幼児教育について、その思想や実践の特徴を学ぶ。 予習：テキスト第３章を読み、概要を理解する。（約1時間） 復習：授業内容を振り返り、重要事項を確認しつつ理解を深める。（約1時間） A：少 B：少 E：あり F：あり 第5回　日本の保育の歴史【配信】 明治期に、幼稚園や託児所が誕生した背景や特徴を知る。また、社会の変化に伴う保育の変化に気づく。 予習：テキスト第4章を読み、重要事項を整理する。（約1時間） 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。（約1.5時間） E：あり F：あり 第6回　日本の保育思想【配信】 倉橋惣三と小原國芳の教育観にふれ、それぞれの思想や実践を学ぶ。 予習：倉橋惣三と小原國芳について調べ、重要事項を整理する。（約1時間） 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。（約1時間） E：あり F：あり 第7回　保育の方法と計画【対面】 保育を展開する際の、発達に応じた計画とその方法について、経験を基に学びを深める。 予習：テキスト第８章を読み、要点を捉える。（約1時間） 復習：授業内容を振り返り、これまでの自身の実践も振り返りながら理解を深める。（約1時間） B：中 E：あり F：あり 第8回　保育者の専門性①養護と教育【配信】 養護と教育を一体に行う保育について、自身の実践経験をもとに考え、学ぶ。 予習：テキスト第6章を読む。（約0.5時間） 復習：授業内容を振り返り、理論と実践に対する理解を深める。（約１時間） E：あり F：あり 第9回　保育者の専門性②環境を通して行う保育【配信】 環境を通して行う保育について、自身の実践経験をもとに考え、学ぶ。 予習：テキスト第7章第1節を読む。自身の経験と結びつけながら理解する。（約0.5時間） 復習：授業内容を振り返り、理論と実践に対する理解を深める。（約1時間）

	E：あり F：あり 第10回　保育者の専門性③子育て支援【配信】 保育所保育指針に則り、保育所保育の基本事項を学ぶ。 予習：テキスト第９章、第５章一第1節を読む。（約1時間） 復習：授業内容を振り返り、新たに学んだ事項を中心に、理解を深め定着させる。（約1時間） E：あり F：あり 第11回　子育て支援と連携【配信】 保育者のチームワークと同時に、地域との連携について考える。 予習：テキスト第１０章を読む。（約30分） 復習：授業内容を振り返り、考えを深める。（約1時間） E：あり F：あり 第12回　初めの１００か月の育ちビジョン【配信】 現代の子どもと未来の子どもについて想像し、保育者としてこれからの私たちにできることについて考える 予習：テキスト第５章第３節と配信資料を読み、関心のあるテーマについて考える。（約1時間） 復習：授業を振り返り、自分の意見をまとめる（約１時間） E：あり F：あり 第13回　現代の子どもと保育をめぐる問題【対面】 最近のニュースを基に、グループ内で意見交換をする。 予習：テキスト第１２章を読む。（約30分） 復習：自身と他者の発表を振り返り、内容に対する理解を深める。（約1時間） A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり 第14回　諸外国の保育【対面】 諸外国の保育について知り、日本との相違点を見つけ、保育についてのイメージを膨らませる 予習：テキスト第１１章を読む。（約30分） 復習：授業を振り返り、内容に対する理解を深める。（約1時間） A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり 試験　期末試験 第15回　本科目のまとめ【対面】 期末試験のフィードバック これまでの学習を振り返り、成果を確認するとともに、今後の自己課題を明確にする。 予習：第1回から第14回までの学習を確認する。（約1時間） 復習：これまでの授業内容を振り返り、学びの定着を高める。（約1時間） E：あり
教育目標との関連	保育についての知識や保育者の専門性について理解を深めるとともに、保育者をめざす自己を見つめることを目標とする。
到達目標　（学修成果）　　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L01：保育の意義・制度・思想・歴史等について理解している。 L02：保育の基本に基づき、保育者としてふさわしい考え方を身に付けている。 L04：子どもや保育について広く関心をもち、向上心や課題意識を持って取り組むことができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	１．課題等の提出物…50%（各回の授業振り返りレポート　積極的な授業参加） 試験…50% ２．添付の評価基準を参照のこと
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回目の授業時に期末試験のフィードバックを行う。
教科書	・『保育原理　はじめて保育の扉をひらくあなたへ　第2版』咲間まり子監修　中野明子・林悠子編　みらい　2019年 ・『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年
参考書	・『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018年 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業計画欄を参照のこと
履修上の注意、条件等	様々な期限に遅れないようにすることは、社会に出てからの基本です。しっかり自分のスケジュール管理をしましょう。
オフィスアワー	研究室に掲示する。

	質問等はオフィスアワー・Googleクラスルーム限定コメントにて受けつける。
備考・メッセージ	今までの机上の学びや現場での経験を十分に発揮して授業に参加してほしい。

講義科目名称： 保育者論　　授業コード：

英文科目名称： General Theory of Early Childhood Caregivers

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年生	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
森下匡子			
授業形態：対面	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A201
添付ファイル			
2025ルーブリック保育者論.xlsx			

講義概要	「保育者論」は、保育者としての意義、役割及び専門職としての資質について学ぶ。多種多様な時代を生き抜いていく子どもたちが最初に経験する社会生活に関わる中で、保育者の重要性を考え、求められる保育者像を明確にする。保育職を目指すものとして、自己の振り返り、自身に必要となる専門的な学びを深める。 他の科目との関連：「保育原理」で学ぶ保育に必要な基礎的事項や、保育全般の理念など、保育者としての角度から学ぶ。 「保育実習Ⅰ」「教育実習」での経験をもとに、保育現場での実践から、保育者の資質能力について学びを深める。 講師は私立幼稚園での担任教諭、保育園での保育士経験、親子教育研究センターでの子育て支援スタッフ、公共ホールでの託児事業担当、公立小学校での支援員などの経験から、子どもの成長発達に合わせた保育の事例を基に、保育現場での実践につながる内容を授業に取り入れている。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　保育者とは 保育者とはどのような人のことをいうのか。保育者の仕事の本質・特性について考える。また、授業ガイダンスにおいて、授業の内容を確認する。ワークシートあり。 予習:教科書Ｐ１～４を読む（30分） 復習：授業内容のノートをまとめる(30分) 第2回　保育者の社会的意義・制度的位置づけ 現代社会における保育の重要性を、社会変容と併せて学ぶ。また、こども家庭庁の示す保育の制度について理解し、保育者としての倫理について各自の課題を明確にする。Eあり 予習:教科書P8～18を読む(30分) 復習：授業内容に合わせて教科書の内容をまとめる(30分) F：あり 第3回　保育所保育指針・教育要領にみる保育者の役割 養護的側面と教育的側面から、こどもの成長発達に合わせて適切な保育者としての役割について学びを深める。また、幼保小連携の重要性について架け橋プログラムの実践について事例から理解する。　Eあり。 予習：教科書P34～45を読む　(30分) 復習：授業内容のノートをまとめる(30分) F：あり 第4回　保育環境の意義と保育者の役割 こどもの成長発達に合わせた環境設定の重要性を学ぶ。さらに、豊かな保育環境を構成する保育者の役割について正しく理解する。　Eあり 予習：教科書P50～P61を読む。(30分) 復習：授業内容のノートをまとめる(30分) F:あり 第5回　こどもの主体的な遊びを支える保育者の役割 どの年齢のこどもにも、遊びが園生活の中で最も重要であることを学ぶ。また、こどもが主体的に遊びが発展するために必要な保育者の役割について理解する。ワークシートあり　Eあり 予習：教科書P63～72を読む（30分） 復習：授業内容のノートをまとめる（30分） F：あり 第6回　こどもの権利を保障する保育者の役割 子どもの権利条約における、子どもの最善の利益について正しく理解する。また、現代社会における持続可能な保育について、その実践法をグループで考える。 A：多B：多　　Eあり 予習：教科書P75～82を読む。 復習：授業内容のノートをまとめる(30分) グループワークでの意見を基に、自分の考えをまとめる 第7回　保育者の職務内容について・保護者との関わり、地域との連携の重要性 現代における家庭での子育ての状況を理解し、保護者に温かく寄り添うことができる保育者を目指す。そのために必要な役割について学ぶ。さらに、地域に開かれた園として、関係機関や地域との連携の重要性を考える。 予習：教科書P98～108 を読む(30分) 復習：授業内容のノートをまとめる(30分) 第8回　多様性と包括性を意識した保育者 現代社会における多様性について正しく理解する。・合理的配慮・医療的ケア児の基礎を学び、さらに、インクルーシブ保育の重要性について、保育現場での実践につなげる方法を事例から考える。 予習：教科書P111～119を読む。(30分) 復習：授業内容をノートにまとめておく(30分) F:あり 第9回　国際的な幼児教育・保育の現状 現代の保育現場での多様性から、各国の保育の現状について理解する。文化の違いによる保育の違いなどを学び、保育現場で実践できる多国籍のこどもの保育について考える。Eあり

	予習：教科書P123～134 復習：授業内容をノートにまとめておく(30分) 第10回　保育者の連携と協働 園で働く職員間のより良い連携が、子どもたちの安心安全につながることを理解し、保育者以外の職員との連携の重要性について学ぶ。また、こどもを育てる適切な環境として地域との協働について考える。 予習：教科書P138～148を読む。(30分) 復習：授業内容のノートをまとめておく(30分) F：あり 第11回　保育の中の安全と危機管理 DVD『東日本大震災の検証』を視聴し、保育現場での災害対策、避難訓練の重要性を学ぶ。また、日頃の保育の中での危険を検討し、より安全な保育とは何かについて理解を深める。 B:多 予習：保育現場で想定される危険について考える（30分）ワークあり　30分 復習：講義内容から学んだ危機管理についてまとめる（1時間） 第12回　教材研究　遊び体験　恩物で遊ぼう① フレーベ考案の教育玩具　恩物について学ぶ。第5恩物～第9恩物を実際に使って遊びを体験する。ワークシートあり 予習：フレーベルについて今までに学んだ事をまとめる（30分） 復習：講義内容から恩物の重要性についてまとめる（30分） 第13回　教材研究　遊び体験　恩物で遊ぼう② グループワークによる遊び体験。第5恩物から第9恩物の中から1種類をグループで使い、作品を作る。個人の発想を合わせて1つの物を作る楽しさを体験する。他のグループの作品を見ることで、恩物の種類による遊びの発展を学ぶ。 A：多・B：多　ワークシートあり 予習：恩物の重要性を理解し、現代の玩具とのつながりを考える 復習：作品つくりにおいて工夫したところ、課題となった事をまとめる 第14回　保育者の専門的成長と求められる資質 保育者として専門性の向上のために学び続けることの重要性を理解する。また、社会に求められる保育者の資質について、各自の課題を明白にし、保育現場での課題の取り組み方について考える。 予習：教科書P150～170　を読む　30分　教科書ワークあり　(30分) 復習：授業内容のノートをまとめる(1時間) F:あり 第15回　振り返り 試験の振り返りをし、１４回の授業をまとめる。 予習：試験について自己評価をしておく（1時間） 復習：試験結果について、理解が十分ではない内容を授業内容からまとめておく
教育目標との関連	保育者の職務の意義や内容について知識を深め理解し、保育者としての基本を身につける。また、保育者の職務の意義や内容について自身が考察し、保育者としての適切な判断ができることが重要と考える。そのうえで保育現場で必要となる環境構成や、子どもの遊びを支える技術を確実に身につける学びを深め、実践力へとつなげる。さらに保育に関わる視聴覚資料や参考資料により、子どもの育ちに興味関心を持ち保育者に対する意欲を高める。保育者論の学びを通して、保育者としての責任感を持ち、自覚しながら行動することは保育現場でも求められる。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１、保育者としての本質を理解し、保育の専門性を深める知識を身につける ２、保育内容の向上を目指し、保育現場での実践につながる方法を理解する
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	割合　評価基準 筆記試験　70% 14回目終了後に筆記試験を実施 課題　20% 各授業毎に出された課題の提出期限と内容を評価する。 授業態度　10% 毎回の授業態度　授業中の約束の厳守などを評価する。 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	15回目の講義内で、試験問題を基に解答を確認し、自己の学びの結果を振り返る。
教科書	新・保育シリーズ15『保育者論　』　中坪史典・請川滋太　監修・上村晶　編　学術図書出版社　2024年10月25日出版　定価2000円（税別）
参考書	保育所保育指針　厚生労働省 編　フレーベル館　2018年3月23日発行　定価320円(税別) 幼稚園教育要領　文部科学省編　フレーベル館　2018年3月23日発行　定価240円(税別) 幼保連携型認定こども園保育要領　内閣府　文部科学省　厚生労働省編　フレーベル館　2018年3月29日発行　定価350円(税別)
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	教科書の指定ページをよく読み予習をすること。 毎回の授業記録をノートにまとめ、授業内容を復習する。
履修上の注意、条件等	保育者を目指す学生としての自覚を持ち、授業に取り組むこと。
オフィスアワー	授業の前後に質疑応答の時間を設ける
備考・メッセージ	全て対面授業とする 各回、授業内容をノートに記録し、毎回の授業に教科書　ノートを用意すること

講義科目名称： 社会福祉　　授業コード：

英文科目名称： Social Welfare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	１年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
岡村　泰敬			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A101
添付ファイル			
ルーブリック様式　社会福祉（2025）.pdf			

講義概要	本科目は、社会福祉系科目の入り口であり、後続する社会福祉系科目を学修し、実習や就職後に活用できるようにするために、社会福祉系科目の共通概念を捉えることが極めて重要といえる。一方、社会福祉課題は常に変化し、制度・実施体制を理解・活用することは子どもの成長に対して日々直接的に関わっている保育者にとっては苦手分野であることが多い。こうしたことを鑑みて、本科目では社会福祉の普遍的な概念を意識し、「子どもの最善の利益」を追求する社会福祉の専門職の在り方の全体像を把握できることを志向する。 担当教員（岡村）は、保育現場等の経験や研究活動、並びに養成校での実習指導経験を有する。 【他科目との関連】「子ども家庭福祉」、「社会的養護Ⅰ・Ⅱ」、「子ども家庭支援論」等の科目を学修する上での基本的な概念を学ぶ。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　社会福祉を学ぶにあたってのガイダンス ・「社会福祉」の授業を円滑に受講できるようにする。 ・現代社会の動向および社会福祉の理念と概念について学ぶ 予習：教科書p.2-12を読んで、社会福祉の学習領域を捉える。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習　各1時間程度） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第2回　子ども家庭支援と社会福祉 ・社会福祉の専門職としての保育士を理解する。 ・子どもの最善の利益を尊重する子ども家庭支援を知る。 予習：教科書p.1を読んで子ども家庭支援について知る。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習　各1時間程度） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第3回　社会福祉の制度と法体系 ・日本の社会福祉における法律と制度を理解する。 ・事例から社会福祉の法制度の活用について考える。 予習：日本にてどのような社会福祉の法律があるのかを整理する。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習　各1時間程度） A：少　B：少　E：あり　F：あり　H：多 第4回　社会福祉行財政と社会福祉施設などについて ・社会福祉行政の体制と財政について理解する。 ・社会福祉施設の種類について理解する。 予習：教科書を読んで社会福祉施設の種類について知る。 復習：社会福祉施設での保育士の役割をまとめる。（予習・復習　各1時間程度） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第5回　社会福祉の専門職について ・児童福祉施設に配置される専門職について理解する。 ・多職種および地域住民との連携・協働について考える。 予習：教科書を読んで児童福祉施設に配置される専門職について知る。 復習：多職種等との連携・協働に関する課題をまとめる。（予習・復習　各1時間程度） A：少　B：少　E：あり　F：あり　H：多 第6回　社会保障および関連制度の概要 ・日本の社会保障制度について理解する。 ・日本の子育て家庭の現状を知る。 予習：教科書を読んで社会保障制度について知る。 復習：授業を振り返って、子育て家庭の課題をまとめる。（予習・復習　各1時間程度） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第7回　第１～6回の振り返り・相談援助の理論について ・第1～6回までの学びを振り返り、授業内課題やグループディスカッション等で補強する。 ・相談援助の理論と保育所及び児童福祉施設における相談援助について理解する。 予習：第1～6回までの学びを振り返っておく。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習　各1時間程度） A：少　B：少　E：あり　F：あり　H：多 第8回　相談援助の意義と機能について ・相談援助の意義と機能を理解する。 ・相談援助の特徴や原則を知る。 予習：教科書を読んで社会福祉における相談援助の概要を知る。 復習：授業を振り返って、相談援助の原則をまとめる。（予習・復習　各1時間程度） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第9回　相談援助の対象と過程 ・相談援助の過程と進行を知る。 ・保育における相談援助を考える。 予習：教科書を読んで保育における相談援助を知る。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習　各1時間程度） A：少　E：あり　F：あり　H：多

	第10回　相談援助の方法と技術 ・保育の専門性を活かした相談援助について理解する。 ・相談援助の方法と技術について理解する。 予習：教科書を読んで保育における相談援助の方法と技術を知る。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習　各1時間程度） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第11回　社会福祉における利用者の保護について ・利用者の権利擁護と苦情解決について理解する。 ・保育所における苦情対応について考える。 予習：教科書を読んで利用者の権利擁護を知る。 復習：授業を振り返って保育所における苦情対応の方法をまとめる。（予習・復習　各1時間程度） A：少　B：中　E：あり　F：あり　H：多 第12回　少子高齢化社会における子育て支援 ・少子化の現状を知る。 ・少子化対策としての保育所の役割と課題について理解する。 予習：教科書を読んで保育所の子育て支援について知る。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習　各1時間程度） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第13回　障害児・者福祉 ・障害児・者に対する福祉を理解する。 ・障害児に関する動画を視聴して、障害児・者福祉を知る。 予習：教科書を読んで障害児・者福祉を知る。 復習：自分が住んでいる地域（自治体）にて障害児・者に対してどのような施設があるのかを調べる。（予習・復習　各1時間程度） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第14回　地域福祉 ・地域福祉の概念や実践内容について理解する。 ・保育所における子育て支援の機能と特性を理解した上で、保育士の役割について考える。 予習：教科書を読んで地域福祉を知る。 復習：自分が住んでいる地域（自治体）にてどのような子育て支援が行われているのかを調べる。（予習・復習　各1時間程度） A：中　B：中　E：あり　F：あり　H：多 第15回　諸外国の社会福祉について ・諸外国の保育システムと課題を理解する。 ・諸外国の保育システムを理解した上で、日本の保育システムの課題と今後について考える。 予習：教科書を読んで諸外国の保育システムを知る。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習　各1時間程度） A：中　B：中　E：あり　F：あり　H：多
教育目標との関連	・社会福祉の概念及び理念、法制度・しくみや社会福祉施設の概要などについて理解し、社会福祉の専門職の保育士として相談援助等の知識や技術を養う。 ・現代社会における社会福祉に関する事項（少子高齢化・障害者福祉　等）の概要を理解し、保育士として支援のあり方を検討するための知識・技術を養う。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.社会福祉の概念を理解し、社会福祉系科目に繋げる。 3.社会福祉的視点をもって地域および家庭に接することができる。 4.社会福祉の理論と各種技術の基本を理解し、他者と円滑なｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを志向できる。 4.社会や福祉に広く関心を持ち、積極的に貢献しようとする意欲を持つ。 5.子どもの最善の利益を追求する福祉専門職として、何を成すべきかを考え実践できる素地を身につける。 ＊添付資料のルーブリックを参照のこと。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	期末試験　６０％　持ち込み不可の試験を実施して、授業内容全般についての理解度を評価する。 授業内試験　１０％　数回実施するもの各5%で､該当範囲の理解度を評価する。 課題提出物　３０％　授業時に毎回振り返り課題をClassroomから配信し、その提出状況を評価する。 ＊課題配信は欠席した者にもするので、自習をして提出すること。 評価基準　添付資料のルーブリックを参照のこと。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	授業内試験：試験後に答案用紙のみ回収し、模範解答をClassroomから配信する。 期末試験：Classroomにて各自にフィードバックする。
教科書	「社会福祉」　松原康雄・坪洋一・金子充　編著　中央法規　2023年　価格2,200円（税込）
参考書	授業中に適宜指示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	予習：該当する教科書の箇所を読んでおくこと。該当する章がない講では、予め参考資料を提示する。 復習：授業を振り返って事後課題に取り組むこと。
履修上の注意、条件等	Classroomを多用してアクティブラーニングを志向するので、積極的に参加することを期待する。
オフィスアワー	質問等は限定コメントで受け付ける。また、研究室にオフィスアワーを掲示する。
備考・メッセージ	授業の理解度により、シラバスの内容を多少変更することがある。全ての回で対面授業を実施する。

講義科目名称： 子ども家庭福祉　　授業コード：

英文科目名称： Welfare for Families and Children

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	2単位	卒業選択、幼免選択、保育士必修
担当教員			
赤松　広美			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A102
添付ファイル			
「子ども家庭福祉」ルーブリック.pdf			

講義概要	【授業概要】近年、家族や日常生活の多様化･地域の繋がりの希薄化から、日々の子育てに対する助言や協力を得難くなり、子育ての負担や不安･孤立感等を抱えている養育者への支援のあり方が問われている。子ども虐待やＤＶ、外国につながりのある家族が抱える困り感等も大きな社会問題となっており、保育者は専門的知識・技術・倫理観を備えた専門職として実践力を発揮することが求められる。そこで、本講義では保育者に必要な子ども家庭福祉に関する基本的事項を網羅的に教授する。 【他科目との関連】「子ども家庭福祉」は「社会福祉」の一分野で、保育者にとって必要不可欠な基礎知識である。本講義で学んだ事柄を土台として、翌年度に「子育て支援」､「社会的養護Ⅰ・Ⅱ」､「子ども家庭支援論」等の授業にてさらに学びを掘り下げていく。 【実務経験】児童発達支援センターや市福祉事務所の勤務経験などをもとに、子ども家庭福祉の現状や課題等を教授する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　ガイダンス、現代社会と子ども家庭福祉 少子高齢社会から見える子どもと家庭を取り巻く現状、子どもと家庭を取り巻く環境の変化と生活問題について理解する。自分自身のライフプラン（キャリアプラン）について考え、他学生と意見交換する。 予習：シラバス全体を読み、教科書の目次に目を通し、授業の流れを把握する。（約1時間） 復習：授業内容を振り返り、宿題に取り組む。（約1時間） 宿題：ライフプラン（キャリアプラン）シートを完成させる。 B：少　E：あり　F:あり 第2回　子どもの人権 子どもへの視点の変化と子どもの権利運動の先駆者たち、近代の子どもの権利の動向と子どもの権利条約、日本における子どもの権利の動向について理解し、子どもの権利に関するワークシートを用いて意見を調整するグループ活動を通して、自分の意見を伝え、相手の意見を理解し、個々の違いを尊重する。 予習：テキストChapter2を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：テキスト、授業プリントを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） 宿題：ワークシートを完成させる。 B：少　E：あり　F:あり 第3回　イギリスとアメリカにおける子ども家庭福祉の成立と展開 イギリスの子ども家庭福祉の歩み（①中世から第一次世界大戦前まで、②第一次世界大戦後から近代まで）、アメリカの子ども家庭福祉の歩み（①植民地時代から第一次世界大戦前まで、②世界恐慌から近代まで）を知る。 予習：テキストChapter3（前半）を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：テキスト、授業プリントを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） 宿題：トインビーホール（Toynbee,A.）またはハルハウス（Addams,J.）のどちらかを選択し、施設概要をまとめる。 B：少　E：あり　F：あり 第4回　我が国における子ども家庭福祉の成立と展開 日本の子ども家庭福祉の歩み（①古代から明治期以前までの児童保護、②明治期から昭和初期までの児童保護、③第二次世界大戦後から高度経済成長期までの児童福祉、④第二次ベビーブーム期から近代まで―児童福祉から子ども家庭福祉への転換期―、⑤児童福祉法改正と子ども家庭福祉のこれから）を知る。 予習：テキストChapter3（後半）を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：テキスト、授業プリントを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） 宿題：岡山孤児院（石井十次）、滝乃川学園（石井亮一）、家庭学校（留岡幸助）の中から一つを選択して施設概要をまとめる。 B：少　E：あり　F：あり 第5回　子ども家庭福祉の法体系、行財政、機関・施設 法体系、子ども家庭福祉に関する法律、行政、財政と費用負担、機関、児童福祉施設について理解し、居住地域の児童福祉施設について調べる。 予習：テキストChapter4を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：テキスト、授業プリントを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） 宿題：テキストp.77～78の児童福祉施設の中から居住地域にある施設を一つ探し、施設概要をまとめる。 B：少　E：あり　F：あり 第6回　子育て支援・次世代育成支援と保育施策 子育て支援施策、子どもの健全育成施策、新制度における保育施策、教育・保育の場の現状と待機児童問題について理解する。 予習：テキストChapter5を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：テキスト、授業プリントを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） A：中　E：あり 第7回　母子保健施策とひとり親家庭への福祉施策 母子保健の概要、健やか親子21、ひとり親家庭のへの福祉施策（①子どもの貧困とその対策、②子どもの貧困とひとり親家庭、③ひとり親家庭と就労支援、④ひとり親家庭に対する所得保障）について理解し、他学生とひとり親家庭が抱える問題について意見交換し、保育者としてどのような実践をしたいか考える。居住地域のひとり親家庭への福祉施策を調べる。

	予習：テキストChapter6を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：テキスト、授業プリントを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） 宿題：居住地域におけるひとり親家庭への福祉施策を調べてまとめる。 B：少　E：あり　F：あり
第8回	子ども虐待と防止施策
	子どもへの虐待問題、虐待防止対策について知り、他学生と今日における子ども虐待問題について意見交換し、保育者としてどのような実践をしたいか考える。 予習：テキストChapter7（Sec.1と3）を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：テキスト、授業プリントを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） 宿題：子ども虐待が疑われる家庭に対し、保育者としてどのような実践をしたいか自分の考えをまとめる。 A：少　E：あり　F：あり
第9回	DV問題と防止施策、貧困家庭の子どもの学習支援
	DV問題、DV防止施策、貧困家庭の子どもの学習支援について知り、他学生と今日におけるDV問題について意見交換する。 予習：テキストChapter7（Sec.2と3）、コラム⑦を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：テキスト、授業プリントを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） 宿題：家庭内DV問題に対し、保育者としてどのような実践をしたいか自分の考えをまとめる。 A：少　E：あり　F：あり
第10回	社会的養護を必要とする子どもへの福祉施策
	社会的養護における施設養護と家庭養護について学び、現状と今後の課題について理解する。 予習：テキストChapter8を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：テキスト、授業プリントを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） 宿題：コラム⑦または⑧のどちらかを選択し、自分の考えをまとめる。 B：少　E：あり　F：あり
第11回	「障害観」の変遷、障害・障害児の定義
	「障害観」の歴史的変遷（ノーマライゼーション、インクルージョン、ICIDH、ICF、新型出生前診断NIPT）、障害・障害児の定義（障害者基本法に示される定義）について学び、理解する。 予習：テキストChapter9（Sec.1と2）を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：テキスト、授業プリントを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） 宿題：新型出生前診断NIPTまたは相模原障害者殺傷事件のどちらかを選択し、自分の考えをまとめる。 A：少　E：あり　F:あり
第12回	障害のある子どもへの福祉施策、保育・教育
	障害のある子どもへの福祉施策やサービス（早期療育、児童福祉法や障害者総合支援法に基づくサービス、経済的支援、医療的ケア児に対する支援）、障害のある子どもの保育（児童発達支援、加配保育士）や教育（特別支援教育）を知り、障害のある子どもへのアプローチ（子どもの最善の利益の追求）について動画教材を用いながら理解する。 予習：テキストChapter9（Sec.2と3）、コラム⑨を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：テキスト、授業プリントを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） B：少　E：あり
第13回	心理治療の必要性や非行問題を抱える子どもへの支援
	心理治療を必要とする子どもへのこれまでの支援の変遷、児童心理治療施設における支援、非行問題を抱える子どもの少年法・児童福祉法による位置付け、非行傾向のある子どもへの対応について知り、「トー横キッズ」が抱える問題を解決するためにはどのようなアプローチが有効であるか他学生と意見交換する。 予習：テキストChapter10を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：テキスト、授業プリントを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） 宿題：「トー横キッズ」が抱える問題を解決するためにはどのようなアプローチが有効であるか、自分の考えをまとめる。 A：少　E：あり　F：あり
第14回	子ども家庭福祉の専門職と連携
	子ども家庭福祉を担う専門職、子ども家庭福祉の専門性、連携について学ぶ。 予習：テキストChapter11を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：テキスト、授業プリントを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） B：少　E：あり
第15回	子ども家庭福祉の総括
	・期末試験を振り返り、授業内試験やグループディスカッション等で補強する。 ・子ども家庭福祉にかかるアセスメント、ストレス･アンガーマネジメントを学ぶ。 予習：子ども家庭福祉への思いをまとめておくこと。（約1時間） 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（約1時間） Ｃ：少、Ｅ：あり、Ｈ：多
教育目標との関連	保育士や幼稚園教諭は、子どもの養育･教育に携わるだけでなく、子どもの家庭や地域の子育て家庭への養育支援等の役割も求められている。さらに、各種課題をもつ子育て家庭と直接的な関わりをもつことから、専門的な知識や技術に加え、子どもの最善の利益のために、家庭のみならず各種関係機関と連携する力量も求められる。本講義を通じて、児童福祉の専門職としての基礎知識や倫理意識を身につけることを目標とする。

到達目標　（学修成果）　　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L01.現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解し、説明することができる。 L02.子どもの人権擁護について理解し、子どもや子どもを取り巻く人々に対し、個々に合った適切な法制度や社会資源を判断できる。 L03.子ども家庭福祉の制度や実施体系等を使用できる。 L04.子ども家庭福祉の現状と課題について問題意識を持ち、自らの考えを述べることができる。 L04.子ども家庭福祉の動向と展望について関心を持ち、自らの考えを述べることができる。 ＊添付資料のルーブリックを参照のこと。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	1.試験等の評価方法 期末試験　　50%：期末試験を実施。授業内容全般についての理解度を評価する。 提出課題　　20%：与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価する。 平常点評価　　30%：グループワークへの貢献度や授業内での発言など、授業への取り組み態度を評価する。 2.ルーブリックによる評価基準 成績評価は添付資料のルーブリックを参照
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回目の授業時に期末試験を返却して解説・振り返りを行う。その後答案用紙は回収する。
教科書	『子ども家庭福祉【第2版】（みらい×子どもの福祉ブックス』　喜多一憲（監修）堀場純矢（編集）みらい　2024年　2,640円
参考書	授業中に適宜、資料を配布する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記の通り。 教科書・レジュメ・GoogleClassroomで配信された資料等を有効に活用し、授業内容の理解に努めること。
履修上の注意、条件等	・子育て世帯を取り巻く社会情勢に対して積極的に興味・関心を持つこと。 ・ディスカッションやグループワークに積極的に参加し、自らの意見や考えを臆することなく他者へ述べること。 ・教員や他履修学生が話している際には最後まで聴き、急な発言等で相手の話を遮らないこと。質問等は教員の指示に従って行うこと。
オフィスアワー	研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。また、GoogleClassroomの限定コメントでも受け付ける。
備考・メッセージ	授業の理解度により、シラバスの内容を多少変更することがある。

講義科目名称： 子育て支援　　授業コード：

英文科目名称： Child care support

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年生・専攻科	1単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
中村麻衣子　阿部佳典			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：F210
添付ファイル			
ルーブリック子育て支援.pdf			

講義概要	現代社会における多様化する家族の形の中で、子育てを楽しみ、保護者自身が積極的に子どもへ関わることができるよう、保育者が専門的に支援することの重要性が問われている。この状況に対応できる保育者になるために、保護者との関わり方、支援方法の実践を学ぶ。子どもを通して関わる保護者との関係を理解し、適切な支援への重要性を理解する。また、現代では家庭での養育力（子育て力）の低下が社会的に大きな課題となっている。保育所・幼稚園・認定こども園は、地域での子育て支援にも積極的に実践することが求められている中で、保育者としての専門性を活かした適切な対応とその責任を学ぶ。さらに、SDGｓにかかわる課題より、世界の子育て支援環境についても理解を深める。 主担当講師は虐待加害者グループのファシリテーターの経験、副担当講師は公立発達支援事業および民間の発達支援センターでの子育て支援の経験を有するため、保護者のニーズに合わせた支援の重要性を実践事例として授業に取り入れる。 他の科目との連携：「子ども家庭支援論」や「子ども家庭支援の心理学」での学びと併せて保護者への理解を深める。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　子育て支援とは 保護者が必要とする子育て支援における保育者の役割と、保育相談支援の重要性を考える。また、授業ガイダンスにおいて、授業内容・授業進行・評価方法・評価基準を確認する 予習：教科書P1～5を読んでおく　60分 復習：授業の内容を振り返る　60分 A：中　B：中　E：あり 第2回　保護者との相互理解と信頼関係の形成 子育て支援において基本となる、保護者との相互理解と信頼関係の構築について学ぶ。バイステックの７原則を理解し、支援の際の保育者の基本的態度を身につける 予習：教科書P14～16 教科書ワーク①を読んでおく　60分 復習：授業の内容を振り返る　60分 A：中　B：中　E：あり 第3回　保護者の抱える支援ニーズのへの気づき 保護者の抱える子育ての不安や、悩みなどに気付き、その背景や家庭環境から適切な支援とつなげていく。国の子育て支援に対する施策と現状について学び、そのうえで、それぞれに適した支援を考える。また、諸外国における子育て支援の状況について理解する。 予習：教科書P26～29を読んでおく　60分 復習：授業の内容を振り返る　60分 A：中　B：中　E：あり 第4回　社会資源とは何か、また関係機関との連携について理解する 現代の社会ではなぜ子育てを社会で取り組むことが重要となるのか？保育現場と社会との関係性など、地域との連携について学ぶ。また、子育て支援に必要な社会資源についてまとめる。 予習：教科書P84～85　教科書ワーク②を読んでおく　60分 復習：授業の内容を振り返る　60分 A：中　B：中　E：あり 第5回　園における子育て支援　① 在園児の保護者に向けて設定される子育て支援の実際を、教科書の事例から学ぶ。特に、通常の保育の中で実践できる保護者支援について、その技術・方法を学び、適切な保育者対応について考えを深める。 予習：教科書P96～98を読んでおく　60分 復習：授業の内容を振り返る　60分 A：中　B：中　E：あり 第6回　園における子育て支援　② 保育現場の環境設定から保護者支援につながる要因について考える。保護者支援につながるための適切な環境設定について学ぶ。 予習：教科書P104～105 教科書ワーク③を読んでおく　60分 復習：授業の内容を振り返る　60分 A：中　B：中　E：あり 第7回　地域における子育て支援 地域における“子育て支援の拠点”とは何かを考え、現代社会における、子育て家庭への支援の重要性と、保護者の適切な子ども理解への援助を、園全体の役割として担うことを学ぶ。特に、一時預かり・子育てひろば・子育て相談の実施の重要性について事例から考えを深める。 予習：教科書P108～113　教科書ワーク④を読んでおく　60分 復習：授業の内容を振り返る　60分 A：中　B：中　E：あり 第8回　特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援 複雑な家庭環境、障害のある子どもの家庭、多様化する家庭に対する支援について学ぶ。それぞれの子育ての課題を適切に判断し、より安心して子育てが出来る環境設定の提案など、保育者の責任ある対応を理解する。特に近年の課題となっている外国籍の保護者家庭における支援や、文化の違いにおける子育て事情を学ぶ。 予習：教科書P120 P132 P156 を読んでおく　60分

	復習：授業の内容を振り返る　60分 A：中　B：中　E：あり 第9回　子どもの虐待予防と対応 児童虐待における原因、保護者の背景、子育ての環境について学ぶ。保育者として適切な行動から虐待防止への基本姿勢を学ぶ。また、実際の事例から虐待について把握することが重要となる。 予習：教科書P144～147　を読んでおく　60分 復習：授業の内容を振り返る　60分 A：中　B：中　E：あり 第10回　子ども及び保育者の状況把握 保育相談支援における、ケースワークの展開・計画案について学ぶ。保護者の状況を把握し、課題を明確化し、実際の支援へつなげる流れを理解する。 予習：教科書P36～38　p48～49　を読んでおく　60分 復習：授業の内容を振り返る　60分 A：中　B：中　E：あり 第11回　子育て支援における個別支援計画について①　支援計画の作成について 園における個別支援の計画の作成について学ぶ。支援方法等事例を通して理解する 予習：教科書P60～63　P72～74　教科書ワーク⑥を読んでおく　60分 復習：授業の内容を振り返る　60分 A：中　B：中　E：あり 第12回　子育て支援における個別支援計画について②　環境の構成（記録・評価・カンファレンス　） 個別支援の構成について学ぶ。また、記録の重要性と、評価について事例を通して理解する 予習：配布資料を読んでおく　60分 復習：授業の内容を振り返る　60分 A：中　B：中　E：あり 第13回　子育て支援における個別支援計画について③　支援計画の実践 事例を通してグループ毎に支援計画の作成を行う。 予習：教科書P168～171を読んでおく　60分 復習：次回の発表の準備をする　60分 A：多　E：あり　F：あり 第14回　子育て支援における個別支援計画について④　グループ発表 他のグループ発表からそれぞれの課題を共有する。　14回までの授業全体を振り返る 予習：13回目の内容をまとめ、発表の準備をする　80分 復習：授業の内容を振り返り、試験に備える　60分 A：中　B：中　D：多　E：あり 第15回　まとめ　振り返り 試験内容を振り返る。今までの授業についてまとめる。 予習：試験内容を自己評価しておく　60分 復習：授業全体を振り返る　60分 A：中　B：中　E：あり
教育目標との関連	本講義では、現代における子育て支援の重要性を正しく理解し、保育者としての知識を身につけるとともに、子育て支援に対する適切な対応を保育者自身が考えることにより、保育現場での適切な判断力を養う。 また、授業内容の中でも重要とされる、個別相談の技術を身につけ、保護者に伝わりやすい表現を用いて子育て支援に携わる。現代における多様な社会変化による子育ての課題に対して積極的に関心を持ち、保育現場での適切な対応に意欲的に取り組むことが重要である。そのためにも、保育者として、直接保護者と関わり、多様化する保護者を尊重することができるよう学びを深める。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	LO2：社会における子育て支援の重要性を理解し、保育者としての適切な判断ができる LO4：保育現場で行われる子育て支援に関心を持ち、保護者との適切な関わりを持つことに意欲的である
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	筆記試験　50%　14回目終了後に筆記試験を実施する 課題等の提出物　25%　ワークシートや教科書ワークなどの課題（内容や提出期限）について評価する 平常点　25%　授業態度、グループワークでの積極性や貢献度、課題実践の態度などから評価する 評価基準は添付のルーブリックを参照のこと。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	15回目の講義で、試験問題を用いて振り返りをする。自身の回答を見ながら、理解できている内容と学びが到達していない事項を確認する。（解答用紙は授業後回収する）
教科書	新基本保育シリーズ19　「子育て支援」 監修　公益財団法人児童育成協会　編集 西村重稀　青井夕貴　出版：中央法規　2019年2月20日発行　定価2,000円(税別)
参考書	保育所保育指針解説　厚生労働省編　フレーベル館　2018年3月23日発行　定価320円(税別) 幼稚園教育要領解説　文部科学省編　フレーベル館　2018年3月23日発行　定価240円(税別) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　内閣府　文部科学省　厚生労働省編　フレーベル館　2018年3月29日発行　定価350円(税別)
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業前：前回の授業内容の振り返り、教科書の指定されたページをよく読んでおく。 授業後：授業内容の復習を通して理解を確認する。 具体的な準備学習の内容は授業計画に記載の通り。 また、授業で配布する資料やレジュメはファイリングしておき、必要に応じて予習復習において活用すること。
履修上の注意、条件等	日頃からニュース等における保育や子育ての問題に関心を持ち、現代の社会状況や多様な子育て環境を理解すること。
オフィスアワー	講義の前後に教室で質問を受ける。またGoogle Classroomの限定コメントでも随時受け付ける。

備考・メッセージ	全て対面授業で行う。 普段の園生活を通して、子ども・保護者に寄り添うことが何よりも重要となり、その中から子育て支援につなげることができる保育者を目指す。現代の子ども理解や多様な家庭環境への対応の学びを深め、保育現場での保護者支援の実践に丁寧に取り組む姿勢を身につけましょう。

講義科目名称： 社会的養護Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称： Care of Society Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年生	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
岡村　泰敬			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A202
添付ファイル			
ルーブリック様式　社会的養護Ⅰ　(2025).pdf			

講義概要	子どもが児童虐待等の理由で、家庭における養育が受けられない場合、社会が代わってその子を養育する。これが社会的養護である。この授業では、社会的養護の社会的背景・制度・施設を理解した上で、各施設で行われている子どもたちへの支援内容を学ぶ。「子どもの最善の利益」を常に考えながら社会的養護の原理を実践できる保育士の育成を目標として、全体の学びの中で、この授業を位置付けるものである。 担当教員（岡村）は、保育所等の現場経験や研究活動、並びに養成校での実習指導経験を有する。 他の科目との関連：この科目を学ぶ前提の知識として社会福祉論・児童家庭福祉などがある。２年次の子ども理解と相談援助、社会的養護Ⅱを学ぶ上での基本となる科目であると同時に保育実習Ⅰ（施設）においても実習を遂行する上で基本的な知識となる。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　社会的養護の理念と概念 ・社会的養護とは何かをテーマに、親元で生活できない子どもたちの背景についてイメージした上で、今後の学習の進め方について解説する。 予習：シラバスを読んで、社会的養護の全体像を把握しこの科目のイメージを持っておくこと。（約１時間） 復習：社会的養護の言葉の意味について、授業資料から考える。（約１時間） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第2回　社会養護の歴史的変遷 ・社会的養護について福祉が制度化される過程で、これまでどのように歩んできたか理解した上で現状を概観する基礎を学ぶ。 予習：社会福祉の制度化の歴史について整理する。（約1時間） 復習：授業資料から社会的養護の歴史的事実を整理する。（約1時間） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第3回　児童の権利と社会的養護 ・子どもの権利とはどのようなものかを理解して、子どもの権利の保障方法について考える。 予習：子どもの権利とはどのようなものか整理する。（約1時間） 復習：権利と義務について授業資料から整理する。（約1時間） A：少　B：少　E：あり　F：あり　H：多 第4回　社会的養護の基本原則について ・児童福祉法における社会的養護を学び、日本国内の社会的養護に関する取り組みを知る 予習：児童福祉法についてまとめる。 復習：日本国内の社会的養護の取り組みについて整理する。 A：少　E：あり　F：あり　H：多 第5回　保育士等の倫理の確立 ・倫理とは社会生活上の行動規範ということを理解したうえで、社会的養護の専門職としての倫理について考える。 予習：テキストなどを参考にワークシートを作成する。（約2時間） 復習：授業資料から現実の課題と専門職倫理について整理する。（約1.5時間） A：少　B：中　E：あり　F：あり　H：多 第6回　社会的養護の制度と法体系 ・社会的養護の根幹にある「パレンスパトリエ」の考え方を理解した上で、それぞれの法律の目的や対象が何かを理解する。 予習：未成年犯罪の事例を読み、その背景について整理する。（約1時間） 復習：「パレンスパトリエ」の考え方について授業資料やテキストから整理する（約1時間） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第7回　社会的養護の仕組みと実施体制 ・社会的養護の基本的な仕組みについて理解をして、日本国内の社会的養護の現状と今後について考える。 予習：東京都のホームページから社会的養護の体制を調べ、ワークシートを使って整理する。（約1時間） 復習：授業資料から、社会的養護の仕組みについて整理する。（約1時間） A：少　B：少　E：あり　F：あり　H：多 第8回　社会的養護におけるソーシャルワークについて ・ソーシャルワークの定義を理解して、ソーシャルワークの視点からのアプローチについて学ぶ。 予習：ソーシャルワークの定義について調べてまとめる。（約２時間） 復習： クラスルームの資料から本日の授業の要約を作成する（GoogleDocumentなどで）（約1.5時間） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第9回　施設養護とソーシャルワーク１ ・社会的養護の対象者を理解する。 ・施設においてソーシャルワークの視点がどのように展開されるかを学ぶ。（アドミッジョンケアからインケアに向けて、入所時の児童の課題について） 予習：事例シートの事例を熟読して、各自でアセスメントをしておくこと。（約1時間） 復習：授業資料から入所児の児童の課題について整理する。（約1時間）

	A：少　E：あり　F：あり　H：多 第10回　施設養護とソーシャルワーク２ ・施設においてソーシャルワークの視点がどのように展開されるかを学ぶ。 （リービングケアからアフターケアに向けて、退所時の児童の課題について） ・施設養護とソーシャルワークについての振り返りを行う。 予習：事例シートの事例を熟読して、各自でアセスメントをしておくこと。（約1時間） 復習：授業資料からアフターケアにおける課題を整理する。（約1時間） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第11回　家庭養護と施設養護について ・施設養護と家庭養護の内容について理解する。 ・児童福祉施設の役割と家庭養護の実践について理解する。 予習：施設で生活する子どもたちの課題についてワークシートにキーワードを記入する。（約1時間） 復習：授業資料から、現代の児童養護施設の役割について整理する。（約1時間） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第12回　社会的養護にかかわる専門職 ・児童福祉施設で働く専門職の種類と役割を理解して、児童養護施設での保育士の役割について考える。 予習：児童養護施設で働く専門職を整理する。（約1時間） 復習：授業資料やテキストなどから、各専門職の役割について整理する。（約1時間） A：少　B：中　E：あり　F：あり　H：多 第13回　社会的養護に関する社会的状況と施設等の運営管理 ・現代の養育問題と社会的養育のビジョンを理解する。 ・施設等の運営管理の現状と課題を理解する。 予習：テキストなどから社会的養育ビジョンについて整理する。（約1時間） 復習：授業資料やテキストなどから、施設等の運営管理の課題を整理する。（約1時間） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第14回　被措置児童等の虐待防止の現状と課題 ・被措置児童等の虐待の現状と虐待防止について理解して、被措置児童等の虐待防止の課題について保育士の視点で考える。 予習：被措置児童等の虐待の発生要因について整理する。（約1時間） 復習：被措置児童等の虐待防止の課題について整理する。（約1時間） A：少　B：中　E：あり　F：あり　H：多 第15回　地域福祉の現状と課題について/学びの振り返り ・施設の地域福祉と地域貢献について理解する。 ・養護の観点から専門職（保育士）としての強みと課題を客観的に理解する。 予習：養護の観点から保育士に必要な専門性について整理する。（約1時間） 復習：専門職として、強みを伸ばす方法と課題点を整理する（GoogleDocumentなどで）。（約1時間） A：少　E：あり　F：あり　H：多
教育目標との関連	１．いかなる環境の子どもであっても、その人格を尊重し、その健やかな育ちを保障する為の基礎力を養う。 ２．個々の子どものニーズや背景を受容し、養育支援を行える基礎力を養う。 ３．子どもの気持ちに寄り添う支援、子どもたちが自立するために必要な支援を実施する為の基礎力を養う。 ４．社会的養護の実現に向けて、職場や関係機関との連携の為に必要な基本的な知識とコミュニケーション力の基礎を養う
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．社会的養護の制度や実施体制、施設の種別について説明できる。 ２．社会的養護の形態と、その原理について理解し、保育士としてその原理に基づいた思考・判断ができる。 ４．社会的養護の現状とその課題について把握し、問題意識を持つことができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	＜評価方法＞ 期末試験：60%　定期試験を実施します。授業全般の理解度を評価します。 授業内課題：10%　数回実施するもので各5%で、該当範囲の理解度を評価する。 課題提出物等（授業態度を含む）：30%　授業時に毎回振り返り課題をClassroomから配信し、その提出状況を評価する。 ＜評価基準＞ 別途、ルーブリックに従う
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	Classroomにて各自にフィードバックする
教科書	新・基本保育シリーズ６「社会的養護Ⅰ」、相沢仁他編著、中央法規、2023年発行、価格2,200円（税込）
参考書	授業中に適宜指示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	予習：該当する教科書の箇所を読んでおくこと。該当する章がない講では、予め参考資料を提示する。 復習：授業を振り返って事後課題も取り組むこと。
履修上の注意、条件等	Classroomを多用してアクティブラーニングを志向するので、積極的に参加することを期待する。
オフィスアワー	質問等は限定コメントで受け付ける。また研究室にオフィスアワーを掲示する。
備考・メッセージ	授業の理解度により、シラバスの内容を多少変更することがある。全ての回で対面授業を実施する。

講義科目名称： 社会的養護Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称： Care of Societ Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年生	1単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
岡村　泰敬			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F204
添付ファイル			
ルーブリック様式　社会的養護Ⅱ（2025）.pdf			

講義概要	社会的養護に関する基本的な重要（必要）事項の学習とそれに関する演習課題への考察を通して、児童福祉施設の保育士が行う児童ケア（のあり方）を的確にとらえるための基本的視点を学ぶと同時に、施設の保育士に求められる倫理・資質を学ぶ。 担当教員（岡村）は、保育所等の現場経験や研究活動、並びに養成校での実習指導経験を有する。 【他の科目との関連】 「社会的養護Ⅰ」における社会的養護の制度と実施体系、施設養護の基本原理、児童の権利擁護等に関する基本的な学びを、演習課題への考察等を通してさらに深めていく。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　子どもの権利擁護 ・社会的養護における子どもの権利擁護について理解し、その基本的なあり方について学ぶ。 予習：権利擁護とは何か、社会福祉と社会的養護Ⅰの教科書を読んで理解しておく。（1時間） 復習：子どもの権利擁護の基本的なあり方について整理する。（1時間） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第2回　保育士の倫理と責務 ・社会的養護における子どもの理解　〈演習・事例検討〉 ・社会的養護のもとで生活する子どもの理解の方法やその家庭環境について理解を深める。 予習：施設入所児童の入所理由や措置理由を調べる（1時間） 復習：「あたりまえの生活」の「あたりまえ」とは何か考える（1時間） A：少　B：少　E：あり　F：あり　H：多 第3回　施設養護の内容１ 社会的養護の内容　①日常生活支援　〈演習〉 ・日常生活のもつ意味、日常生活を支えるとは具体的に何をすることなのかを学ぶ。 予習：日常生活を過ごすために、どのような知識や技能が必要か（生活能力）、児童の年齢に応じて具体的にまとめる（1時間） 復習：日常生活支援がなぜ必要なのかを考える（1時間） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第4回　施設擁護の内容２ 社会的養護の内容　②心理的支援　〈演習〉 ・社会的養護で行われる基本的な心理的支援について事例を通して学ぶ。 予習：愛着障害、パーソナリティ障害について調べる（1時間） 復習：被虐児童の被害的世界観について考える（1時間） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第5回　施設養護の内容３ 社会的養護の内容　③自立支援　〈演習〉 ・自立支援について事例を通して「自立」とは何かを学ぶ。 予習：自立とは何か、社会福祉並びに児童家庭福祉の教科書を読んでまとめておく（1時間） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第6回　施設養護の特性と実際① 施設養護の特性と対象者　①乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設　〈演習〉 ・施設養護の中で、乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設について、それぞれの施設の支援対象や特性を確認した上で、施設における援助内容について演習を通して学ぶ。 予習：乳児院の法的根拠ならびにケアについて児童家庭福祉並びに社会的養護Ⅰの教科書を読み理解する（1時間） 復習：各施設の保育士の役割についてまとめる。（1時間） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第7回　施設養護の特性と実際② 施設養護の生活特性および実際　②障害児施設等　〈演習〉 ・児童心理治療施設や障害児施設の特性を確認した上で、施設における援助内容について演習を通して学ぶ。 予習；法律で定義される障害の種類について理解する（1時間） 復習：障害児（者）のケアや社会参加について、どのような課題があるかまとめる（1時間） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第8回　家庭養護の特性と実際 家庭養護の生活特性および実際　〈演習〉 ・家庭養護について確認し、一般家庭との違い、保育士に求められる役割、里親家庭の抱える課題について演習を通して学ぶ。 予習；社会的養護Ⅰなどの教科書を参考に里親の種別を理解する（1時間） 復習：里親養育を推進するにあたってどのような社会的課題があるか考える（1時間） A：少　B：少　E：あり　F：あり　H：多 第9回　個別支援計画の作成 ・アセスメントと個別支援計画について理解した上で、事例を用いて個別支援計画を作成する。〈演習〉 予習：社会的養護Ⅰなどの教科書を参考にして、アセスメントについてまとめる。（1時間） 復習：事例を用いて個別指導計画を作成する。（1時間）

	A：少　B：少　E：あり　F：あり　H：多 第10回　記録と自己評価 ・社会的養護における記録の種類と内容、自己評価の目的と方法を理解する。〈演習〉 ・個人情報の保護と守秘義務について理解する。 予習：記録の意義についてまとめる（1時間） A：少　B：少　E：あり　F：あり　H：多 第11回　社会的養護における保育の専門性に関わる知識・技術者とその実際 ・社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践　〈演習〉 ・社会的養護における保育士の行動と対応について事例を用いて学ぶ　〈演習・事例検討〉 予習：保育所保育指針の「養護」に関わる部分を読み理解を深める（1時間） 復習：保育所保育士と施設保育士の専門性の共通点と違いについてまとめる（1時間） A：少　B：少　E：あり　F：あり　H：多 第12回　社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術と実践 ・ソーシャルワークの定義と体系などを理解して上で、ソーシャルワークの視点を学ぶ。 予習：社会福祉や社会的養護Ⅰのテキストなどからソーシャルワークの定義についてまとめる。（1時間） 復習：ソーシャルワークの体系についてまとめる。（1時間） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第13回　ソーシャルワークに関する知識・技術とその応用 ・社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用）について理解する。〈演習〉 予習：ソーシャルワークのプロセスについて理解する（1時間） 復習：ソーシャルワークの原理やプロセスが、実際にどのように活用されるか考える（1時間） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第14回　社会的養護における家庭支援 社会的養護における家庭支援と社会的資源　〈演習〉 ・社会的養護の支援対象には保護者や家庭も含まれる事を確認した上で、演習を通して家庭支援のための前提である総合的なアセスメントについて学ぶ。 予習：あなたがイメージする「幸せな子育て家庭」について文章、イラストなどでまとめる（1時間） 復習：家庭が抱える課題とどのような支援が必要かを考える（1時間） A：少　E：あり　F：あり　H：多 第15回　社会的養護の展望と課題　/　学びの振り返り ・第1回～15回までの学びを振り返り、今後の社会的養護のあり方と課題を考える。 予習：第1回～14回までに学んだことの要点をまとめておく。（1時間） 復習：社会的養護の課題のため取り組むべきことを保育士の視点からまとめる。（1時間） A：少　B：中　E：あり　F：あり　H：多
教育目標との関連	（要保護児童とその家族への支援を行う）施設の保育士の児童ケアにおける基本姿勢やそこで求められる倫理・資質の理解は、そのまま（施設・保育所等を問わず）保育士に広く求められる倫理・資質に直結するものと考えられる。授業や演習課題に主体的に取り組むことが、保育士としての「豊かな感性と愛の心」を育てることにつながる。
到達目標　（学修成果）　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	1．社会的養護の対象児童と子どもの権利擁護の目的、機能、役割について説明できる。 2．施設の保育士が行う児童ケア（のあり方）を的確にとらえるために養護の基本原理に基づいた思考や判断ができる。 5．施設の保育士に必要なケースカンファレンスの基本的な技術として他者の意見を尊重し協調することができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	＜評価方法＞ 期末レポート（試験）　４０％　授業内容全般についての理解度を評価する。 課題提出物等（授業態度含む）　６０％　授業内またはClassroomから配布・配信し、その提出状況を評価する。 授業に対する関わり方（積極性や協調性など）も総合的に評価する。 ＜評価基準＞ 別途、ルーブリックに従う。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	Classroomにて各自にフィードバックする
教科書	新・基本保育シリーズ１８「社会的養護Ⅱ」、相沢仁他編著、中央法規、2019年発行、価格2,200円（税込）
参考書	適宜、プリントを配布する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	予習：該当する教科書の箇所を読んでおくこと。該当する章がない講では、予め参考資料を提示する。 復習：授業を振り返って事後課題に取り組むこと。
履修上の注意、条件等	Classroomを多用してアクティブラーニングを志向するので、演習課題などに積極的に参加することを期待する。
オフィスアワー	質問等は限定コメントで受け付ける。また、研究室にオフィスアワーを掲示する。
備考・メッセージ	授業の理解度によりシラバスの内容を多少変更することがある。全ての回で対面授業を実施する。

講義科目名称： 子ども家庭支援の心理学　　授業コード：

英文科目名称： Psychology of Child and Family Support

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年生	2単位	卒業選択、幼免選択、保育士必修
担当教員			
中村麻衣子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：B202
添付ファイル			
ルーブリック子ども家庭支援の心理学.pdf			

講義概要	乳幼児期から老年期までの生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得した上で、各時期における発達課題や初期経験の重要性を理解する。また、現代社会における家族・家庭の意義や機能を理解し、子どもとその家庭を包括的にとらえる視点を習得する。そして、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題、および、子どもの心身の健康に関わる課題について考える。スクールカウンセラーや発達相談の実務経験を有する教員による具体的な家庭支援の事例を通して、子どものいる家庭にとって一番身近な保育士がどのような役割を担うべきなのか考えていく。 他の科目との関連：「保育の心理学」で学んだ子どもの発達に関わる心理学の基礎を踏まえ、本講義では子どもをめぐる家族関係について発達的な観点から理解し、包括的に捉える視点を養う。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　ガイダンス、乳幼児期から学童期前期の発達 基本的信頼感や自己肯定感はどのように形成されるのか、乳幼児期の発達の概要を理解する。 予習：シラバス全体を読み、教科書の目次に目を通し、授業の流れを把握する。（約1時間） 復習：テキスト第1章を読み、授業内容を振り返る。（約1時間） B：少　E：あり　F：あり 第2回　学童期後期から青年期の発達 ピアジェやエリクソンの発達理論を基に、学童期後期から青年期の発達の概要を理解する。 予習：テキスト第2章を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） A：少　B：少　E：あり　F：あり 第3回　成人期・老年期の発達と生涯発達 成人期・老年期の発達の概要を理解する。また生涯発達心理学の考え方を学ぶ。 予習：テキスト第3章・第4章を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） B：少　E：あり 第4回　家族・家庭の意義と機能 家族・家庭の機能の変容と子育てへの影響、家庭支援の必要性について考える。 予習：テキスト第5章を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） E：あり　F：あり 第5回　現代の家庭における人間関係 親子関係及び夫婦関係の時代的変化と子どもの発達への影響を考える。 予習：テキスト第7章を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） E：あり　F：あり 第6回　子育て経験と親としての育ち 親としての成長、家庭教育の重要性について考える。 予習：テキスト第8章を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） B：少　E：あり 第7回　子育てを取り巻く社会的状況 子育て家庭をとりまく社会環境はどのように変化しているのか学ぶとともに、その変化が子育てにどのような影響を及ぼしているのか考える。 予習：テキスト第6章を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） B：少　E：あり 第8回　ワークライフバランスと子育て 仕事と子育てのバランス、個々の家族メンバーの自己実現について考える。 予習：テキスト第9章を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） A：多　B：多　E：あり 第9回　多様な家庭環境と子どもの育ち 家庭環境の多様化と複雑化と子どもの育ちへの影響を学ぶ。 予習：テキスト第10章を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） E：あり 第10回　特別な支援を必要とする家庭 ゲストスピーカー（障害当事者等）の講演から周囲の理解が得にくい特殊な状況を抱えた当事者とその家庭への支援・配慮について考える。また、状況把握、情報提供、他機関との連携の仕方について知る。 予習：テキスト第11章を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） A：多　B：多　E：あり 第11回　地域社会における家庭支援

	家庭支援を支える社会資源、家庭と地域の連携について考える。 予習：テキスト第12章を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） D：多　E：あり 第12回　子どもの身体発育、こどもの生活環境とその影響 子どもの身体発育を理解する。また、生活環境と育ちへの影響について考える。 予習：テキスト第13章・第14章を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） B：少　E：あり 第13回　子どもの心の健康と課題 心身症、精神疾患、児童虐待等の子どもの心の健康について理解する。 予習：テキスト第15章を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） A：多　B：多　E：あり　F：あり 第14回　現代社会と保育者の役割、まとめ 子どもと家庭をめぐる現代の社会状況と課題を整理しながら、子どものいる家庭にとって一番身近な保育者がどのような役割を担うべきなのか、これまでの授業を振り返りながら考える。 予習：子どものいる家庭の支援という観点から、保育者の役割について自分なりの意見を考えておく。（約1時間） 復習：テキストやレジュメ、GoogleClassroomに配信された資料などを整理し、これまでの授業の総復習をする。（約2時間） E：あり 第15回　期末試験のフィードバックと学習成果の振り返り 試験のフィードバック、および、シラバスに書かれている到達目標を達成できたか各自振り返る。 予習：これまでの授業全体を通して、習得できたこと、課題などを考えて授業に臨むこと。（約2時間） E：あり
教育目標との関連	子どもは社会に生まれ社会の中で育つが、子どもにとって最初に出会う最も身近な社会が家庭であるといえる。家庭の中での保護者やきょうだいなどとのやり取りを通して子どもは発達していく。家庭における子どもの発達と家族の役割について理解し、目の前の家族のニーズに合わせた支援ができる保育者になることを目指す。また、自らの将来像を思い描きながら、ワークライフバランスについて自分なりに考えられるようにする。
到達目標　（学修成果）　　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	L01：家庭における子どもの発達と家族の役割について、説明することができる L03：子どもの発達や家庭環境を理解し、子どもや子どもを取り巻く人々への支援について、論理的な考えに基づいて、論じることができる
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	期末試験　　50%：授業内容全般を理解し、自分の言葉で説明できているかを評価する。 提出課題　　20%：授業内で行う課題への取組みを評価する。 授業への参加度　30%：グループワークへの貢献度や、授業内での発言など、授業への取組み態度を評価する。 ＊評価基準は添付資料のルーブリックを参照
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回目の授業時に期末試験の返却して解説、振り返りを行う。その後答案用紙は回収する。
教科書	保育士を育てる②　『子ども家庭支援の心理学』　谷田貝公昭（監修）藤田久美・瀧口綾（編著）　一藝社　2020年　2,100円
参考書	授業中に適宜、資料を配布する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記の通り。教科書・レジュメ・GoogleClassroomで配信された資料等を有効に活用し、授業内容の理解に努めること。
履修上の注意、条件等	子どもを取り巻く社会情勢について関心を持ち、自分なりの意見・考えを持つよう心掛けること。授業内でしばしば意見を求める。
オフィスアワー	研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。また、Google Classroomの限定コメントでも随時受け付ける。
備考・メッセージ	授業形態はすべて対面で実施する。シラバスの内容は履修学生の理解度等により変更する場合もある。

講義科目名称： 子どもの保健　　授業コード：

英文科目名称： Pediatric Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
三浦　由美			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：なし	ナンバリング：B102
添付ファイル			
ルーブリック.pdf			

講義概要	保育の本質である、子どもの命を育む「養護」のための知識と、その方法ををを具体的に学ぶのが「子どもの保健」である。子どもは、絶えず発達・成長していく特性があり、先天的な条件や環境の影響を受けやすさを考慮し、その子なりに健やかに育つような働きかけと実践活動について学ぶ。子どもが自立した生活が送れるよう、保健的側面から適切な対応について理解を深める。 担当教員の専門は、公衆衛生学（社会医学）と解剖生理学（基礎医学）である。更に、精神医学（児童精神医学も含む）、整形外科などの臨床医学も長年教授した経験をもつ。子どもの健康を衛（まもる）にはどうしたらよいのか？、子どもの疾病をメカニズムから理解するにはどうしたらよいのか？公衆衛生学と解剖学的見地から、「子どもの命」を深く理解できるよう授業を展開していく。加えて、「子どもの命を護れる保育者」としての素養を身につけられるよう、現場力（保育現場での疾病対応や応急処置）も養っていく。 他の科目との関連：子どもの命を護るための予防と、その対応策を学ぶ「子どもの保健と安全」を理解するための基礎的な知識・技術を、この「子どもの保健」で習得していく。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的とは　健康の概念とは 生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的について知る。 世界保健機関（WHO)における健康の概念について学ぶ。 第1章1節①② 予習（1.5 時間）：子どもの保健のシラバス全体をよく読んでおく　復習（1.5時間）健康の定義についてまとめておく B:少 第2回　健康の概念とは　健康指標とは ヘルスプロモーションおよび健康指標ついて理解する。 子どもの健康ついて学ぶ。 第1章1節③ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書を読んでおくこと（各1.5時間） 保育所保育指針の第1章、第3章に目を通しておくこと。（15分） B:少　E:あり（振り返り問題） 第3回　現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策 現代社会と子どもの健康に関する現状を知る。 母子保健・子どもの健康にかかわる統計について学ぶ。 母子保健法、母子保健対策について理解する。 第1章③ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。今回習う場所の教科書を読んでおくこと（各1.5時間） B:中　E:あり（振り返り問題）　F:あり 第4回　身体的発育および運動機能の発達と保健 子どもの正しい身体計測の仕方を知る。 我が国の子どもの身体発育の標準と評価の仕方について知る。 子どもの身体発育や運動発達に影響するものを理解する。 第2章1節 予習時間（1.5時間）：自身の母子健康手帳に何が記入されているのかを見ておくこと。復習時間（1.5時間）：家族の母子手帳に何が記入されているのか見ておくこと B:少　E:あり（振り返り問題） 第5回　生理機能の発達と保健 呼吸器系、循環器系、消化器系、腎・泌尿器系の生理機能を理解する。 中枢神経、内分泌系、免疫系、水分代謝、体温調節の生理機能を理解する。 睡眠のリズム、排泄機能、皮膚機能を理解する。 第2章2節・4節 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 風邪や腹痛など、日常よく起こる体調不良について調べておくこと。（各1.5時間） B:少　E:あり（振り返り問題） 第6回　健康状態の観察 子どもの健康状態の把握の方法について学ぶ。 子どものバイタルサインの特徴と正常値について学ぶ。 脱水の症状とその対応について学ぶ。 第2章4節 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 体調不良時の観察ポイントをまとめておくこと。（各1.5時間） B:中　E:あり（振り返り問題） 第7回　心身の不調等の早期発見　脱水の対応 子どもの体調不良時の主な症状とその評価、対応について学ぶ。 子どもの預かり時、引き継ぎ時の健康状態をきちんと伝えることについて学ぶ。 普段と様子が違う時に、検温し、経過を把握することについて学ぶ。 第2章4節

	予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 健康診断をするメリットについてまとめておくこと。（各1.5時間） A:中　E:あり（振り返り問題） 第8回　発育・発達の把握と健康診断 子どもの健康診断と関連機関との連携を学ぶ。 検診を通じた子育て支援を理解する。 第6章1節 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 子どもに関連する障害児施設などについて調べておくこと。（各1.5時間） B:中　E:あり（振り返り問題） 第9回　子どもの主な疾病の特徴（1）免疫　感染症と予防 子どもの免疫の発達について理解する。 世界の動向を踏まえつつ、感染症の種類と感染経路を知る。 子どものかかりやすい感染症の特徴を知る。 第6章1節 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 出席停止など、学校の出欠に関わる疾患について調べておくこと。（各1.5時間） B:中　E:あり（振り返り問題） 第10回　子どもの主な疾病の特徴（2）救急対応 感染経路による予防方法と、感染者が集団生活を控えるべき期間を理解する。 予防接種について理解する。 救急疾患とその対応について学ぶ。 第6章2節 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 予防接種をする意義について、昨今問題になっていることについて調べること。（各1.5時間） B:中　E:あり（振り返り問題） 第11回　子どもの主な疾病の特徴（3）先天性疾患 新生児の病気、先天性疾患と対応を知る。 第2章・6章3節 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 先天性疾患について調べておくこと。（各1.5時間） B:中　E:あり（振り返り問題） 第12回　子どもの主な疾病の特徴（4）アレルギーと適切な対応 アレルギー疾患の特徴と対応を知る。 第5章3節・第6章1節 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 アレルギー対応食について調べておくこと。（各1.5時間） B:中　E:あり（振り返り問題） 第13回　保護者との情報共有　子育て支援 保護者との情報共有の具体的な方法について学ぶ。 慢性疾患や障害児など様々な健康状況と支援について学ぶ。 子育てをする家族への支援や子育て支援の実際を理解する。 第8章2節 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 地域にどのような子育て支援があるか行政について調べておくこと。（各1.5時間） B:中　E:あり 第14回　地域における保健活動と子どもの虐待防止 地域の子どもの健康支援において、どのような活動を行なっているか理解する。 子どもの虐待の現状を理解し、虐待防止の取り組みを考える。 子どもは社会のものなのか、家族のものなのか、グローバルな視点で思考する。 第2章4節・第6章3節 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 第2章の身体の発育や発達に関する項目を見ておくこと。(各1.5時間) B:中　E:あり（振り返り問題） 期末試験 第15回　保育所における感染症ガイドラインおよびアレルギーガイドラインの理解 保育所における疾病予防の鍵となるものには、アレルギー疾患と感染症である。 既に習った各疾患をベースに、ガイドラインの視点から現場で必要な知識をについて学ぶ。 習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 保育所における各ガイドラインに目を通しておくこと(各1.5時間) B:中　E:あり（振り返り問題）
教育目標との関連	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、子どもの発育・発達の特性に応じた対応に関する知識、技法、態度を修得する。 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下で幼児教育者として適切な対応ができるための知識、技法、態度を習得する。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を説明できる。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について自分なりに判断することができるようになる。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解し、効果的な対処が表現できるようになる。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について、問題意識をもつことができる。 5. グローバルな視野を持ち、子どもの保健に関する情報を積極的に取り入れ、学び続ける態度をもつことができるようになる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	講義内容の理解度の評価：振り返り問題（20%）、期末試験（70%） 授業参加の（関心度　意欲　受講態度）の評価：10%

期末試験・期末レポートのフィードバック方法	Googleクラスルームに回答を配信
教科書	上野奈初美編著　健やかな育ちを支える領域「健康」ミネルヴァ書房　2023　2,200円
参考書	授業中、適宜紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	講義までに授業計画を確認して事前学習をしておくこと。テキストをよく読んで、キーワードを用いてまとめておくと良い。復習は、授業の振り返りをし、教科書やプリント類をよく読んで知識をしっかり定着できるようにする。予習復習は2時間程度が望ましい。
履修上の注意、条件等	授業におけるICTの準備を整えることが望ましい。ニュースやインターネットなどは、出典先が確かな情報元から最新情報を入手しておくこと。子どもだけでなく保護者に関する支援なども重要な課題なので、関心を持って情報を得ておくとよい。
オフィスアワー	質問などは、原則、授業日に受け付ける。ICTを活用し個別にを受け付ける。
備考・メッセージ	保育の基盤となるのが「子どもの保健」です。「子どもたちの命を護れる保育者」になるため、一緒に学びを深めていきましょう。 全て対面授業で行います。

講義科目名称： 子どもの健康と安全　　授業コード：

英文科目名称： Child Health and Safety

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年	1単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
三浦　由美			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：なし	ナンバリング：F209
添付ファイル			
ルーブリック.pdf			

講義概要	「子どもの健康と安全」は、子どもたちの心と身体の健康を増進することを目的とした分野である。一年生で学んだ「子どもの保健」を基礎として、子どもが疾病にならないよう保健衛生を保ち看護するといった医療的な側面を、演習を通して更に理解を深める。子どもは、絶えず発達・成長していく特性がある。先天的な条件や養育、環境の影響を受けやすい面を考慮し、その子なりに順調に健やかに育つような働きかけと実践活動について演習を通して学ぶ。子どもが自立した生活が送れるように、社会における周囲の大人の適切な対応について、実践例をふまえ理解を深める。 演習では、チームとして情報を共有し協働活動できる保育者を目指し、グループワークやディスカッションを行う。 保育実践における健康観察のポイントや健康に過ごすための育児支援について、具体例から理解を深める授業を行う。保育における園内施設・設備（遊具等）玩具などの安全性についての知識と考察を行う。また、様々な自然災害（地震・大雨など）世界的な規模で発生するウイルスによる疾病対策の理解を深める。 他の科目との関連：乳幼児教育の原理から実践に必要な技能まで、「乳児保育」「保育の心理学」「子どもの保健」など、子どもの「健康」に深く関連する。「教職概論」をもとに幼児教育者としてより深く子どもの保健を理解する資質、社会から求められる役割について習得する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　学校における危機管理および安全管理①（学校安全） 園における安全対策（安全教育・安全管理）を理解する A:少　予習時間（15分）：習う箇所について教科書を読んでおく　復習（15分）：習った箇所について過去にあったニュースと関連づける 第2回　学校における危機管理および安全管理②（ケガ・事故実態の把握要因分析） 園におけるケガなどの実態を理解し、その原因を理解する A:多　予習時間（15分）：習う箇所について教科書を読んでおく　復習（15分）：習った箇所について過去にあったニュースと関連づける 第3回　学校における危機管理および安全管理③（チャイルドビジョンを用いたハザードマップ作成） 幼児の視野を体験することで危機予知を発見する。それを基にハザードマップを作成する（グループ活動） 予習時間（予習）：ハザードマップとは何か調べておくこと、復習時間（15分）自宅の洪水ハザードマップについて調べる A:多　B:多　E:あり 第4回　学校における危機管理および安全管理④（チャイルドビジョンを用いたハザードマップ作成および発表） ハザードマップの作成と発表（グループ活動） 保育現場で発生する「注意義務（予見可能性＋結果回避可能性）」を果たしているかでグループ発表を各自評価する。 予習時間（15分）：危険予見方法および危機回避方法について調べておくこと　復習時間（15分）：教員に 求められる「安全配慮義務」についてまとめておく A:多　B:多　E:あり 第5回　事例から学ぶ危機管理：5大事故および災害対策 事例をもとに事故予防力と事故発生対応力を学ぶ。 予習時間（15分）：自身が通っていた学校での災害訓練の種類と何を学んだのかまとめておくこと　復習時間（15分）：不審者に対する訓練について調べる A:多　B:多　E:あり 第6回　スタンダードプリコーションの理解と実践（標準的感染予防策）－手洗い演習およびグローブ着脱法－ 感染予防策を演習によって手技を学ぶとともに衛生管理の理解を深める。 予習時間（15分）：身近にある「手洗いポスター」を探し、そこにはどんな教えがあるのか調べておくこと　復習時間（15分）：習ったグローブの外し方を練習する A:多　B:多　E:あり 第7回　意識急変対応の理解①（アレルギー疾患：食物アレルギー、アナフィラキシーショック） 慢性疾患でもあるアレルギー疾患の基本的知識と意識急変対応が求められるアナフィラキシーショック（特に食物アレルギー）の理解を深める。 予習時間（15分）：保育園で対応が求められるアレルギー疾患を調べておくこと　復習時間（15分）：特殊型食物アレルギーについて調べる A:多　B:多　E:あり 第8回　意識急変対応の実践①（シュミレーション実習：アナフィラキシーショック） シュミレーション実習を通して、アレルギー重症度の判断力、重症に対する対応（エピペン、第１次救命処置）を会得する。第１次救命処置は振り返りとして学び直す。 予習時間（15分）：エピペンとは何か調べておくこと　復習時間（15分）：習ったエピペン手技を復習する A:多　B:多　E:あり 第9回　意識急変対応の理解②（窒息：誤嚥・誤飲、溺水）

	乳幼児死因の上位を占める「窒息」を引き起こす、誤嚥・誤飲そして溺水について学ぶ。 予習時間（15分）：窒息の病態について調べておくこと　復習時間（15分）窒息予防についてまとめておく A:多　B:多　E:あり 第10回　意識急変対応の実践②（シュミレーション実習：窒息対応　） 第1次救命処置である「乳児そして小児における異物除去法」を会得する。第１次救命処置は振り返りとして学び直す。 復習・予習：乳児および小児における異物除去法の手技を振り返り予習しておくこと（30分） A:多　B:多　E:あり 第11回　慢性疾患児への対応①（喘息） 気管支喘息の病態とその対応について（服用される薬や予防法）学ぶ。 予習時間（15分）：喘息の病態について調べておくこと　復習時間（15分）治療薬についてまとめておく A:多　B:多　E:あり 第12回　慢性疾患児への対応②（アトピー性皮膚炎） アトピー性皮膚炎のとその対応について（服用される薬や予防法）学ぶ。 予習時間（15分）：アトピー性皮膚炎の病態について調べておくこと　復習時間（15分）治療薬についてまとめておく A:多　B:多　E:あり 第13回　ケガの応急処置（シュミレーション実習：外傷） 外傷（骨折、捻挫、打撲）の応急処置（止血法、包帯法、三角巾固定法）について理解と手技を会得する。 予習・復習：自身でガーゼ、包帯、三角巾を用意し、外傷手当について調べておくこと、習った手技をめとめておく（30分） A:多　B:多　E:あり 第14回　保健計画・評価 各自の母子手帳をもとに自身（または子ども）発育状況を把握する。発達相談の事例をもとに発育アドバイスをグループごと話し合う。 予習・復習：自身で母子手帳を用意し、発育評価項目と評価法を調べておく、習った評価法の意義を考える（30分） A:多　B:多　E:あり 期末試験 第15回　総括　学びの振り返り 子ども達の命を守れる力が養ったか学習到達点を確認する。 予習・復習：授業内で配布された「総括資料」を確認し、まとめること（30分） A:多　B:多　E:あり
教育目標との関連	保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について、ガイドラインや近年のデータを踏まえ、理解する。 衛生管理、事故防止、危機管理、災害対策、感染症対策について、具体的に理解する。 子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的取り組みや保健活動の計画、評価等について具体的に理解する。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の知識を衛生管理、事故防止、危機管理、災害対策、感染症対策等の観点から習得しその意義を説明できる。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について根拠に基づいて判断できる。 3. 保育における保健的観点を踏まえたガイドラインや近年のデータをもとに、保育環境や援助方法について理解し効果的な対処が表現できる。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について、問題意識をもつことができる。 5.グローバルな視野を持ち、根拠に基づいた保健情報を子どもとその保護者に提供できるようになる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	定期試験70%、授業内のグループ発表および課題・演習に取り込んだ態度30%。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	Googleクラスルームに回答を配信
教科書	谷川知美編　知のゆりかご　子どもの保健　みらい　2025　2,600円
参考書	上野奈初美編著　健やかな育ちを支える領域「健康」ミネルヴァ書房　2023　2,200円
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業で提示された資料や扱った内容について、ネットや新聞から関連した話題を見つけ、ノート等にメモること（予習・復習各15分）
履修上の注意、条件等	ニュースやインターネットなどは、出典先が確かな情報元から最新情報を入手しておくこと。子どもだけでなく保護者に関する支援なども重要な課題なので、関心を持って情報を得ておくとよい。
オフィスアワー	火曜日（授業日）またはICTを活用し個別に対応
備考・メッセージ	子どもの健康と安全といった保健に関する知識や技能は、子どもの健やかな発達や成長を支援するために欠かせないものです。演習を含めた対面授業を通して一緒に学びを深めていきましょう。

講義科目名称： 子どもの食と栄養　　授業コード：

英文科目名称： Infant Nourishment

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期または秋学期	２年	２単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
田中　芳子・大西　智子（補助）			
授業形態：ハイブリッド型＋調理実習	担当形態：単独	実務経験：なし	ナンバリング：B203
添付ファイル			
子どもの食と栄養ルーブリック.pdf			

講義概要	人は適切な食事により、健全な生活を営むことが出来る。小児期は、発育・発達という特性も加わるので、栄養摂取は特に重要である。更に小児期は食生活の基礎が作られる時期でもあり、この時期の食環境がその後の生涯にわたる心身の健康を大きく左右する。以上を理解し、子どもの成長に即して「食」を実践してゆく力を養う。 他の科目との関連：「子どもの保健」で学ぶ、乳汁栄養、離乳、幼児期の栄養をより実践的に学び、体験する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　子どもの健康と食生活の意義（対面・配信） 1－1食と栄養を学ぶ上で、『子ども』とはどのような存在か理解し、何を学ぶべきか確認する。 子どもの身体発育と栄養状態の把握の仕方を学ぶ。 1－2食に関する体の構造、消化・吸収のしくみを確認する。 F：あり 予習：P1-P8を読み、どのような科目か大まかにつかむ（30分） 復習：P11-P19を読み課題に取り組む（1時間） 第2回　食に関する器官の発育と発達　栄養の基礎知識①（対面・配信） 2－1子どもの食べる機能と消化吸収機能の発育・発達を理解し、食事内容の関係を知る。 食と心の発育・発達の関係について理解を深める。 2－2栄養素の種類と働きを理解する。（五大栄養素・炭水化物・脂質） F：あり 予習：消化と吸収について再確認する（30分） 復習：P32-P34を読み課題に取り組む（1時間） 第３回　乳児期の食生活①乳汁栄養　栄養の基礎知識②（配信） 3－1乳汁栄養について理解する。 3－2栄養素の種類と働きを理解する。（たんぱく質・無機質・ビタミン） F：あり 予習：五大栄養素について説明できるようにする（30分） 復習：自身の乳汁期の聞き取りをする（1時間） 第4回　乳児期の食生活②調乳（実習１）（対面） 実習：正しく調乳出来るようになる。色々な殺菌法を学ぶ。 A：多　E：あり　F：あり 予習：調乳方法を確認しておく（30分） 復習：栄養素のキャラクター作り（１時間） 第5回　栄養の基礎知識③食事摂取基準　食育①食の問題点（配信） 7－1日本人の食事摂取基準から必要な食事量を知る。 食品の基礎知識を学ぶ。 7－2現代の日本人が抱える食の問題を知り、食の在り方を考察する。（含：学齢期・思春期の食生活） F：あり 予習：栄養素の概要を復習しておく（1時間） 復習：自身の推定エネルギー必要量を調べる（1時間） 第6回　乳児期の食生活③離乳とは（配信） 離乳の意義とその必要性を理解し、離乳の進め方、調理の特徴等を学ぶ。 C：多　F：あり 予習：ベビーフードの試食を通して、離乳食の味や形状を体験する（２時間） 復習：教科書カラーページP1-P13を観る（10分） 第7回　乳児期の食生活④離乳食の基礎（実習２）（対面） 実習：離乳食の基礎となる「おかゆ」、和食の基本「だし①」を体験する。 A：多　E：あり　F：あり 予習：動画を参照し野菜を切ってみる（１時間） 復習：P100を読み、おかゆの種類を再確認する（30分） 第8回　食育②今なぜ食育か　栄養の基礎知識④食事構成（配信） 8－1食育の必要性を理解し、家庭や児童福祉施設における食生活を通しての支援の仕方を考える。 8－2バランスの良い食事とはどのようなものかを知り、実践の仕方を学ぶ。 F：あり 予習：現代の食の問題点を考える（30分） 復習：食事バランスガイドを用いて自身の食生活を評価する（1時間） 第9回　幼児期の食生活①幼児食　（配信） 幼児期の栄養の特徴を理解し、食事の留意点を考察する。 日本食への理解を深めると共に、諸外国の食文化を知る。 F：あり 予習：P106-P108を読む（30分） 復習：幼児用の弁当を考える（1時間）

	第10回　幼児期の食生活②和食（実習３）（対面） 実習：和食の基本や調理技術を学ぶ。和食の基本「だし②」を体験する。 A：多　E:あり　F:あり 予習：前回の幼児食の授業内容を確認する（30分） 復習：「食」が生活や文化とどのように関わっているか考える。（1時間） 第11回　配慮の必要な子ども①食物アレルギー　食育③食育を伝える（配信） 11－1食物アレルギー（アレルギーガイドライン）を理解し、その対応を学ぶ。 11－2実際の食育の仕方を知る。 F：あり 予習：身近な食物アレルギーの事例を思い出す（30分） 復習：課題に沿ってアレルギー対応をまとめる（１時間） ：食育啓蒙ポスターの構想を練る。（30分） 第12回　配慮の必要な子ども②アナフィラキシー対応（実習４）　食育④食育運営（対面） 実習：食物アレルギー（アナフィラキシー)対応を体験する。 ：調理保育準備を体験する。 A：中　B：中　H：中　E：あり　F：あり 予習：前回の授業内容を見返しておく（1時間） 復習：アレルギー対応を振り返る（１時間） 第13回　幼児期の食生活③間食（演習）（配信） 演習：おやつ作りを通して、間食の意義と内容を考える。 C：多　E:あり　F：あり 予習：課題添付の動画を視聴する（30分） 復習：ドキュメントにまとめる（30分） 第14回　幼児期の食生活④調理保育（実習５）（対面） 実習：調理保育を想定した調理を体験、考察する。 A：多　H：中　E：あり　F：あり 予習：調理実習手順を再確認する（30分） 復習：食育啓蒙ポスターを作る（2時間） 第15回　配慮の必要な子ども③　生涯発達と食生活　学習到達度の確認・解説　振り返り（配信） 15－1疾病及び体調不良の子どもへの対応を理解する。障がいを持つ子どもの食生活を理解する。 15－2生涯を通して健康に生活するために必要なことを考える。母体と胎児の関係を知る。 15－3理解度到達テストの設問について解説を行う。 F：あり 予習：P131-P134を読む（30分） 復習：今までの授業及び確認テストの振り返りをする（1時間）
教育目標との関連	子どもの食生活は大人の作り出す食環境の影響を強く受ける。子どもにとって望ましい食環境・食生活とはどのようなものか常に考え、実践・提供できる力を身につける。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．健康な生活の基となる食に関する基礎的知識を理解し、子どもの発育・発達と関連付けて説明できる。 ３．発達段階に合わせた、正しい食事を選択、準備できる。 ３．子どもを取り巻く食の現状から、食育の必要性を理解し、日々の生活の中で｢食｣の大切さを伝えることができる。 １．特別な配慮の必要な子どもの食に関わる対処法を理解、実践できる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	●期末試験　50% ・期末試験を14回と15回の間に実施する。授業の内容全般について理解度の評価を行う。 ●平常点評価　50% １、配信時：授業理解を補う課題を提出してもらい、参加姿勢を評価する。 （提出課題用のルーブリックは最初の授業で配布する。） ２、実習時：服装（エプロン、三角巾、ハンドタオル、上履き）を評価の対象とする。 ：実習中の態度、協力度を評価する。 ：実習の内容のまとめ、感想等提出してもらい、参加姿勢を評価する。 成績評価は添付資料のルーブリックを参照
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回目の配信授業内で試験の解説を行う。
教科書	子どもの食生活 第７版　上田 玲子　編著　　赤石 元子著　他　ななみ書房　2.400円＋税
参考書	授業中に、適宜、資料を配布する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	予習・復習は宿題課題として指示する。復習課題はその回の授業を補う内容、予習課題は次の授業で活用する内容となるので、きちんと学習すること。 常日頃、新聞やニュース等の食に関する記事に関心を持って、生活すること。
履修上の注意、条件等	・保育士志望者を念頭に授業を展開するので、保育士にならないからと勝手な言動をし他学生の妨げにならないこと。 ・調理実習時には、エプロン・三角巾・ハンドタオル・上履きが必要。
オフィスアワー	講義前後に教室で受け付ける。 講義以外の時間はGoogleclassroomの限定コメントにより受け付ける。
備考・メッセージ	・ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄで授業を行なう。 ・調理実習の都合により、授業の順番はクラス毎に変わる。 対面と配信の授業が混在し、変更の可能性もあるのでその都度確認すること。 （クラス毎の授業計画は最初の授業で配布する。）

講義科目名称： 子ども家庭支援論　　授業コード：

英文科目名称： Child and family support theory

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年生	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
石見　容子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A204
添付ファイル			
ルーブリック子ども家庭支援論（2025）.pdf			

講義概要	少子高齢化、核家族化、地域社会とのつながりの希薄化など、現代は子どもを育てる上で様々な障壁が生じやすい。保育者はこのような家庭に対する支援も重要な役割を担っている。子ども家庭支援論では、子ども家庭支援の理論と方法を踏まえ、様々な事例について共に検討し、意見発表することによって、身近なものとして捉え、学生個々の実践力へとつなげていく。 授業担当者は、保育・幼児教育の現場での経験を有している。また、自身の子ども達も保育園と幼稚園に通わせていた。そのような実務経験を活かし、様々な立場を想像しながら学びを深め、実践力を身につけられるよう授業を展開する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　イントロダクション・子ども家庭支援とは 家族形態の変遷や家庭の社会的機能の変化を理解する。 予習：シラバスを読む。教科書を見て、どのようなことを学ぶのかイメージをつかむ。（約1時間） 復習：授業で学んだ内容を整理しノートにまとめる。（約1時間） A：少 B：少 E：あり F：あり 第2回　子ども家庭支援の目的と機能 現代の子育てについて視野を広げる。 予習：教科書第2章を読む。（約1時間） 復習：授業で学んだ内容を整理しノートにまとめる。（約1時間） A：少 E：あり F：あり 第3回　保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義（対面） 福祉の専門職としての専門性を活かした支援、保育の専門性を活かした支援、生活の場としての特性を活かした支援、地域の施設としての専門性を活かした支援について理解する。 予習：教科書第3章を読む。（約1時間） 復習：授業で学んだ内容を整理しノートにまとめる。（約1時間） A：少 E：あり F：あり 第4回　子育てと子育ち、親育ち 様々な家庭について知る。 予習：教科書第4章を読む。（約1時間） 復習：授業で学んだ内容を整理しノートをまとめる。（約1時間） B：中 E：あり F：あり 第5回　様々な家庭について知る 現代における様々な家族形態を知り、その営みについて考える。 予習：教科書第5章を読む。（約1時間） 復習：授業で学んだ内容を整理しノートにまとめる。（約1時間） B：中 E：あり F：あり 第6回　保育士に求められる基本的態度、家庭の状況に応じた支援 様々な専門機関があることを知り、子どもと家族をさせるということを考える。 予習：教科書第6章を読む。（約1時間） 復習：授業で学んだ内容を整理しノートにまとめる。（約1時間） A：中 E：あり F：あり 第7回　地域の資源の活用と関係諸機関の連携・協力、子育て家庭の福祉を図るための社会資源（対面） 子どもや子育て家庭の支援を行う機関や施設について理解する。地域の資源にはどのようなものがあるか理解し自分が居住する地域の資源に関心を持つ。保育士としてどのような実践をしたいか考える。 居住地域の子育て支援の内容と対象について調べる。 予習：教科書第7章を読む。（約1時間） 復習：授業で学んだ内容を整理しノートにまとめる。（約1時間） A：多 B：多 E：あり F：あり 第8回　特別な対応を要する支援について

	特別な対応が必要な支援について、その状況について知る。 予習：教科書第8章を読む。（約1時間） 復習：授業で学んだ内容を整理しノートにまとめる。（約1時間） A：中 D：中 E：あり F：あり 第9回　地域の子育て支援について 保育所を利用している家庭への支援・地域の子育て家庭への支援・幼稚園の子育て家庭への支援など様々な支援の方法を取り上げ考察する。 予習：教科書第9章を読む。（約1時間） 復習：授業で学んだ内容を整理しノートにまとめる。（約1時間） A：中 E：あり F：あり 第10回　様々な家庭と子育て支援 家庭の状況に応じた支援とはどのようなものがあるのか理解を深める。 予習：教科書第10章を読む。（約1時間） 復習：授業で学んだ内容を整理しノートにまとめる（約1時間） E：あり F：あり 第11回　子ども家庭支援に対する保育の専門性とは 子どもの貧困、児童虐待への対応、障害への早期対応、外国にルーツをもつ子どもと家族への支援、施設に入所する子どもとその家庭への支援について理解する。 予習：教科書第11章を読む。（約1時間） 復習：授業で学んだ内容を整理しノートにまとめる（約1時間） E：あり F：あり 第12回　保育士という専門職 保育士という仕事に求められる基本的事項について学びを深める。 予習：教科書第12章を読む。（約1時間） 復習：授業で学んだ内容を整理しノートにまとめる（約1時間） A：少 B：少 E：あり F：あり 第13回　子ども家庭支援に関する現状と課題① 実際の子育て家庭に働きかけ、その現状について知る。 予習：教科書第13章を読む。（約1時間） 復習：授業で学んだ内容を整理しノートにまとめる（約1時間） A：多 B：多 E：あり F：あり 第14回　子ども家庭支援に関する現状と課題② 子育ち・子育てに対する社会の意識を学び理解する。グループワークを通し社会の意識を考える。 予習：自身の調べ作業した結果をまとめ、授業内で紹介できるようにする。（約1時間） 復習：授業で学んだ内容を整理しノートにまとめる（約1時間） A：多 B：多 E：あり F：あり 試験　期末試験 第15回　授業総括 これまでの授業を振り返り、子ども家庭支援における保育士等の役割を確認する。 期末試験の解説をし、今後の課題を考える。 予習：教科書、資料、ノートを見直す。（約1時間） 復習：整理した資料やノートを確認する。（約1時間） E：あり F：あり
教育目標との関連	社会変動が家族関係や養育システムに影響を及ぼし、個々の家庭生活の質を大きく変化させていることを認識することで、決められた一通りの支援を行う保育士ではなく、目の前の家族のニーズに合わせた支援を行える保育士になることを目指す。また、自らの将来像を思い描きながら、働き方や子育てのあり方について考えられるようにする。
到達目標　（学修成果）　　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L01．各家庭のニーズに合わせて家族や地域と連携することの大切さを説明できる。 L02．支援に関する基本的原則や手順を踏まえ、子育て支援に向けて適切な判断ができる。 L03．支援が必要な状況を分析し、論じることができる。 L04．支援が必要な人の気持ちに寄り添いながら、子どもの最善の利益を追求することができる。 L05．多様性を尊重し、望ましい解決策に導くことができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	授業参加度・課題等提出物：50% 試験：50% （添付の評価基準を参照のこと）

期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回の授業時にフィードバックを行う
教科書	「子ども家庭支援論」　教育情報出版　￥2000
参考書	「保育所保育指針解説」厚生労働省　フレーベル館　2018年 「幼稚園教育要領解説」文部科学省　フレーベル館　2018年 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習、復習は授業計画の通り。
履修上の注意、条件等	子どもに限定せず、子どもを取り巻く社会全体が抱える問題を取り上げていきます。 様々な立場を想像しながら学習を進めることが望ましい。
オフィスアワー	研究室に掲示 質問はオフィスアワー、またはGoogleクラスルーム限定コメントにて受けつける。
備考・メッセージ	保育士資格のための必須科目であることの意味をしっかり考えて取り組みましょう。

講義科目名称： 乳児保育Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称： Infant Care Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	2単位	卒業選択、幼免選択、保育士必修
担当教員			
石川　卓磨			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F102
添付ファイル			
乳児保育Ⅰルーブリック.pdf			

講義概要	乳児期は、人生の出発点であり、人間が一生のうちで最も著しく成長する時期である。この時期に、乳児が「安心感」を抱いて毎日を過ごすことが、将来の健全な心と身体を形成するうえで非常に重要である。全ての子どもが、安全な環境のもとで安心感を抱き、自尊感情を高くもちながら生活できる保育のあり方が求められている。保育所保育指針の最新の改訂では、乳児保育の位置付けが一層重視されている。保育者にも、乳児保育を行ううえでの様々な専門性が必要とされている。 一方で、日常生活で乳児に接する場面は非常に限られている（だからこそ乳児の専門家としての保育士の活躍が福祉や子育て支援の場で期待されている）。そこで、この授業では動画による視覚的なイメージの形成を重視し、グループディスカッションによる洞察や深い学びを展開する。授業者は保育所における実務経験と、乳児を中心とした乳幼児期全般の研究実績があり、その事例やデータに基づくポイントや資料を示した上で、学生が提出する小レポートに対するフィードバックを授業内で行う。 また特別支援教育（障害児保育）の科目との関連として、乳児期における育てにくさや保育困難感により事後的に発覚し得る障害についても紹介し、乳児期からの早期発見・支援の方策についても紹介していく。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション ＆ ３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育①６か月未満児について ・講師の自己紹介と授業の進め方の説明をする。 ・６か月未満児の発育、発達、生活、遊び、環境について学ぶ。 ・６か月未満児の適切な援助、関わり、配慮について学び議論する。 予習：６か月未満児の動画等（映像や実物）を見て、どのような発達段階でどんな生活を送っているのか、イメージを持っておく(1時間）。 復習：本日の議論の内容について、授業の内容を踏まえて小レポートにまとめる(1時間)。 A：少　B：少　F：あり 第2回　３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育②６か月から１歳３か月未満児について ・６か月から１歳３か月未満児の発育、発達、生活、遊び、環境について学ぶ。 ・６か月から１歳３か月未満児の適切な援助、関わり、配慮について学び議論する。 予習：６か月未満児の動画等（映像や実物）を見て、どのような発達段階でどんな生活を送っているのか、イメージを持っておく(1時間）。 復習：本日の議論の内容について、授業の内容を踏まえて小レポートにまとめる(1時間）。 A：少　B：少　F：あり 第3回　３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育③１歳３か月から２歳未満児について ・１歳３か月から２歳未満児の発育、発達、生活、遊び、環境について学ぶ。 ・１歳３か月から２歳未満児の適切な援助、関わり、配慮について学び議論する。 予習：１歳３か月から２歳未満児の動画等（映像や実物）を見て、どのような発達段階でどんな生活を送っているのか、０歳児との違いのイメージを持っておく(1時間）。 復習：本日の議論の内容について、授業の内容を踏まえて小レポートにまとめる(1時間）。 A：少　B：少　F：あり 第4回　３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育④２歳児について ・２歳児の発育、発達、生活、遊び、環境について学ぶ。 ・２歳児の適切な援助、関わり、配慮と３歳以上児の保育に移行する時期の保育について学び議論する。 予習：２歳児の動画等（映像や実物）を見て、どのような発達段階でどんな生活を送っているのか、１歳児との違いのイメージを持っておく(1時間）。 復習：本日の議論の内容について、授業の内容を踏まえて小レポートにまとめる(1時間）。 A：少　B：少　F：あり 第5回　乳児保育の意義・目的と役割①１歳以上３歳未満児 ・保育所保育指針の「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」について確認していく。 ・３歳未満児の保育の歴史的変遷について学ぶ。 ・１～３歳児の生態や認知の発達段階を理解し、適切な養護や教育の在り方を議論する。 予習：1～３歳児の動画等を見て、保育所での適切な養護や教育の在り方は各年齢で同じでよいのか、よくないのであればどう変えるべきか自分なりの意見を持っておく(1時間）。 復習：本日の議論の内容について、授業の内容を踏まえて小レポートにまとめる(1時間）。 A：少　B：少　F：あり 第6回　乳児保育の意義・目的と役割②乳児 ・保育所保育指針の「乳児保育に関わるねらい及び内容」について確認していく。 ・乳児保育の歴史的変遷について学ぶ。 ・０歳児の生態や認知の発達段階を理解し、適切な養護や教育の在り方を議論する。 予習：０歳児の動画等を見て、保育所での適切な養護や教育の在り方について自分なりの意見を持っておく(1時間）。 復習：本日の議論の内容について、授業の内容を踏まえて小レポートにまとめる(1時間）。 A：少　B：少　F：あり 第7回　乳児保育の現状と課題①乳幼児健診と保育巡回相談 ・乳幼児健康診査の制度や現状と、検診の結果を踏まえた保護者との連携について学ぶ。 ・乳児保育に対する支援者として保育巡回相談とキンダーカウンセリングや保育カウンセリングについて把握する ・乳児保育における気になる子の特徴や支援について学び、議論する。 予習：自閉症の赤ちゃんの動画を見て、その特徴や適切な支援の在り方について自分なりの意見

	を持っておく(1時間）。 復習：本日の議論の内容について、授業の内容を踏まえて小レポートにまとめる(1時間）。 A：少　B：少　F：あり
	第8回　乳児保育の現状と課題②児童福祉施設（乳児院等） ・児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育について理解する。 予習：乳児院など保育所以外で乳児保育が行われている様子の動画等を見て、その特徴を把握する。また自身のキャリアの選択肢となり得るかどうか考えておく（授業内で考えた結果を聞きます）(1時間）。 復習：本日の議論の内容について、授業の内容を踏まえて小レポートにまとめる(1時間）。 A：少　B：少　F：あり
	第9回　乳児保育の現状と課題③家庭的保育等 ・家庭的保育等における乳児保育について理解する。 予習：家庭的保育が行われている様子の動画等を見て、その特徴を把握する。また自身のキャリアの選択肢となり得るかどうか考えておく（授業内で考えた結果を聞きます）(1時間）。 復習：本日の議論の内容について、授業の内容を踏まえて小レポートにまとめる(1時間）。 A：少　B：少　F：あり
	第10回　乳児保育の現状と課題④子育て支援（1）と海外の子育て文化 ・３歳未満児の保護者が感じる育てにくさの要因について子ども、保護者自身、親子関係、環境の面から理解する。 ・ヨーロッパの子育て文化について解説し、日本の子育てとの違いやそれによる乳児への影響について考える。 予習：自身の母親などの保護者に直接または電話等で赤ちゃんのときに子育てで抱いた悩みについて聞いておく（授業内で聞いた結果について伺います）(1時間）。 復習：本日の議論の内容について、授業の内容を踏まえて小レポートにまとめる(1時間）。 A：少　B：少　F：あり
	第11回　乳児保育の現状と課題④子育て支援（2） ・３歳未満児の子育て支援の場と子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題を把握する。 ・児童福祉や子育て支援における乳児保育の位置づけについて学び、その意義について議論する。 予習：3歳未満児が保育所に通う割合を年齢ごとに調べ、保育所に通わせることによる子どもへの影響と通わせないことによる子どもへの影響の両者について自分なりの意見を持っておく(1時間）。 復習：本日の議論の内容について、授業の内容を踏まえて小レポートにまとめる(1時間）。 A：少　B：少　F：あり
	第12回　乳児保育における連携・協働について ・職員間の連携や協働、保護者との連携や協働、自治体や地域の関係機関等との連携や協働について学ぶ。 予習：①乳児に障害が疑われる場合、②虐待が疑われる場合、における保育所外部の連携・協働先についてどんなところがあるか調べておく(1時間）。 復習：本日の議論の内容について、授業の内容を踏まえて小レポートにまとめる(1時間）。 A：少　B：少　F：あり
	第13回　乳児保育における計画・記録・評価とその意義 ・乳児保育における記録の種類と意義について学ぶ。 予習：乳児保育における記録の種類と３歳以上児における記録の種類と共通点や相違点、それぞれの意義について、保育所で実習をしたり、働いたりした経験を持つ先輩や社会人に聞いておく。聞くのが難しい場合は自分で調べてもよい（授業内で聞いた結果について伺います）(1時間）。 復習：本日の議論の内容について、授業の内容を踏まえて小レポートにまとめる(1時間）。 A：少　B：少　F：あり
	第14回　学びの振り返りⅠ ・振り返り：これまでの授業の内容について総まとめをする。 予習：第1回～13回までに学んだ内容のプリントを見返し、授業内で問われる質問や問題に答えれるようにしておく(1時間）。 復習：授業内で配布するプリントを十分に見返しておく(1時間）。 E：あり　F：あり　H：中 乳児保育Ⅰ　試験
	第15回　学びの振り返りⅡ ・試験の解説をして、これまでの授業を振り返る。 ・育児不安と保育所・保育士の役割について再確認し、乳児保育の在り方について意見交換をする。 予習：第1回～13回までに学んだ内容を見返しておく(1時間）。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める(1時間）。 E：あり
教育目標との関連	乳児保育の歴史はまだ浅く、保育現場で試行錯誤しつつ創り上げていかなければならない部分も少なくない。家庭と保育所・こども園、二つの文化の中で生きる乳児にとって、日中の保護者である保育士の存在は極めて大きい。乳児の発育発達の理解はもとより、実践に必要な知識やコミュニケーション能力をしっかり身につけた上で現場に立ちたい。 主体的に行動し、職種間の連携を大切にし、保護者からの信頼を獲得できるよう、常に自己研鑽を怠らず、課題意識を持ち探求し続けることが求められる。
到達目標　（学修成果）　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	L01. 乳児保育の意義及び乳児の発育発達について、月齢、年齢に合わせた保育実践について理解する。 L04. 育児不安の背景、乳児保育の今日的課題について知り、在園児の保護者だけでなく地域の保護者への支援について意欲を持つ。 L05. 保育者に求められる社会的マナー（挨拶、提出期限厳守、時間厳守など）を授業を通して身に着ける。

評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	期末試験　　50%（授業全体の理解度、それらを踏まえた論理的な説明など） 授業態度　　25%（授業での聞く姿勢や発表、グループディスカッションでの進行などの貢献度など） 振り返りシート、課題　25%（その日の授業の理解度や工夫、前回からの改善、次回への意欲など） （具体的には添付資料のルーブリックを参照すること）
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	試験後の授業内で解説を行う。
教科書	・保育所保育指針 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
参考書	・保育所保育指針解説 ・「育児担当制による乳児保育 実践編：一人ひとりへの生活・発達・遊びの援助」中央法規出版，西村真実，2021年，2200円（＋税）
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習、復習は授業計画の通り。
履修上の注意、条件等	DVDやビデオ視聴時には、その内容と授業内で説明するポイントを基に少レポートの提出を求める(その都度指示)。 提出物の提出期限厳守のこと。また授業開始時間までに授業準備をし着席していること。 毎回必ず、『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を持参すること。 シラバスの内容は履修学生の理解度などにより変更もあります。
オフィスアワー	質問等は、授業の前後、オフィスアワー、またはメールにて受け付ける。
備考・メッセージ	乳児保育の大切さ、楽しさをみなさんと共有できる授業にしたいと思います。講義、演習を毎回行い、また、授業の最後に小レポートを記入してもらいますので、必ず提出してください。理解度を確認します。 シラバスの内容は履修学生の理解度によって変更もあります。

講義科目名称： 乳児保育Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称： Infant Care Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年	１単位	卒業選択、幼免選択、保育士必修
担当教員			
石川　卓磨			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F108
添付ファイル			
乳児保育Ⅱルーブリック.pdf			

講義概要	この科目はⅠ・Ⅱで構成される乳児保育Ⅱにあたる。乳児期は人が生涯で最も急激に発達する時期であり、幼児と乳児が大きく違うのはもちろん、同じ乳児でも新生児と1歳児では全く行動や生態が異なる。そのため乳児期の各発達段階における保育上のニーズを理解した上で、乳児保育の実際に関する全般的な内容を考え学ぶ。 　乳児の扱いは保育士が高い専門性を持つ分野であるが、日常生活では乳児に接する場面が非常に限られている（だからこそ保育士の活躍が社会的に期待されている）。そこで、この授業では動画による直感的な理解を重視し、グループディスカッションによる学生の主体的な洞察や深い学びを展開する。また授業者は保育所における実務経験と、乳児を中心とした乳幼児期全般の研究実績があり、その事例やデータに基づくポイントや資料を示した上で、学生のディスカッションに対する振り返りを行いながら授業を実施する。 　また特別支援教育（障害児保育）の科目との関連として、乳児期における育てにくさや保育困難感により事後的に発覚し得る障害についても紹介し、乳児期からの早期発見・支援の方策についても紹介していく。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション＆乳児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際①生後2か月頃までについて ・最も早ければ保育所に入園する可能性のある２か月（生後５７日）頃までの乳児の発達と発育を、早産を含めた出生後の様子や新生児期からの連続性の中で理解する。 予習：新生児（生後２８日未満）の動画を検索して、どのような発育・発達段階にあるかを観察し、具体的にできることできないことのイメージをつかんでおく(1時間）。 復習：授業の内容について振り返り要点をまとめる(1時間）。 A：少　B：少　D：少 第2回　乳児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際②３～５か月頃について ・３～５か月頃の発育と発達について理解する。 ・３～５か月頃の発育・発達を踏まえた生活や遊び、それらを支える環境構成や援助、子ども同士の関わりとその援助、の実際について学んだり議論したりする。 予習：３～５か月頃の赤ちゃんの動画を検索して、どのような発育・発達段階にあるかを観察し、具体的にできることできないことのイメージをつかんでおく(1時間）。 復習：授業の内容について振り返り要点をまとめる(1時間）。 A：少　B：少　D：少 第3回　乳児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際①６～９か月頃について ・６～９か月頃の発育と発達について理解する。 ・６～９か月頃の発育・発達を踏まえた生活や遊び、それらを支える環境構成や援助、子ども同士の関わりとその援助の実際について学んだり議論したりする。 予習：６～９か月頃の赤ちゃんの動画を検索して、どのような発育・発達段階にあるかを観察し、具体的にできることできないことのイメージをつかんでおく(1時間）。 復習：授業の内容について振り返り要点をまとめる(1時間）。 A：少　B：少　D：少 第4回　乳児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際②１０か月～満１歳頃について ・１０か月～満１歳頃の発育と発達について理解する。 ・１０か月～満１歳頃の発育・発達を踏まえた生活や遊び、それらを支える環境構成や援助、子ども同士の関わりとその援助の実際について学んだり議論したりする。 予習：１０か月～満１歳頃の赤ちゃんの動画を検索して、どのような発育・発達段階にあるかを観察し、具体的にできることできないことのイメージをつかんでおく(1時間）。 復習：授業の内容について振り返り要点をまとめる(1時間）。 A：少　B：少　D：少 第5回　乳児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際③１歳３か月から２歳未満児について ・１歳３か月から２歳未満児の発育と発達について振り返る。 ・１歳３か月から２歳未満児の発育・発達を踏まえた生活や遊び、それらを支える環境構成や援助、子ども同士の関わりとその援助の実際について学んだり議論したりする。 予習：１歳３か月から２歳未満児の動画を検索して、どのような発育・発達段階にあるかを観察し、０歳児と比べてできるようになること、２歳児と比べてまだできないことの具体的なイメージをつかんでおく(1時間）。 復習：授業の内容について振り返り要点をまとめる(1時間）。 A：少　B：少　D：少　E：あり 第6回　乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際④２歳児について ・２歳児の発育と発達について振り返る。 ・２歳児の発育・発達を踏まえた生活や遊び、それらを支える環境構成や援助、子ども同士の関わりとその援助の実際について学んだり議論したりする。 予習：２歳児の動画等を検索して、どのような発育・発達段階にあるかを観察し、１歳児と比べてできるようになること、３歳児と比べてまだできないことの具体的なイメージをつかんでおく(1時間）。 復習：授業の内容について振り返り要点をまとめる(1時間）。 A：少　B：少　D：少　E：あり 第7回　乳児保育の基本①保育所保育指針 ・『保育所保育指針』や『保育所保育指針解説』を基に、「子どもと保育士等との関係の重要性」「個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり」など、乳児保育の基本を振り返る。 予習：保育所保育指針の、乳児保育や1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容の関連す

		る部分を読んでおく(1時間）。 復習：授業の内容について振り返り要点をまとめる(1時間）。 A：少　B：少　D：少
	第8回	乳児保育の基本②愛着理論 ・ボウルビィの愛着理論やエインスワースが提唱した安全基地といった概念に基づき、子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮、子どもと保育士等との関係の重要性、個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり、子どもの主体性の尊重と自己の育ちについて学ぶ。 ・これまで家庭で保護者によって養育されてきた乳児に対し、保育所や保育者がどのように、そしてどこまで代わりになれるのかについて、家庭生活との連続性を踏まえて議論する。 予習：ボウルビィの「愛着理論（アタッチメント理論）」「施設病（ホスピタリズム）」「愛着障害」の3つのキーワードについて調べ、要約を説明できるようにしておく（授業内で要約してもらいます）(1時間）。 復習：授業の内容について振り返り要点をまとめる(1時間）。 A：少　B：少　D：少
	第9回	乳児保育の基本③子どもの体験と学びの芽生え、海外の手遊び歌や乳児向けの遊び ・遊びを通した子どもの体験と学びの芽生えや子ども同士の関わりとその援助の実際とその援助についての視点を身につける。 ・海外の手遊び歌や乳児向けの遊びを紹介する。 予習：乳児向けの英語の手遊び歌を聞いて、みんなの前で発表する（個人発表または5名までのグループ発表）(1時間）。 復習：授業の内容について振り返り要点をまとめる(1時間）。 A：少　B：少　D：少
	第10回	乳児保育における配慮の実際①生活の流れ ・保育所における子どもの１日の生活の流れと、それに対する家庭生活や保護者の養育スタイルの影響について把握する。 ・子どもの心身の健康と情緒の安定を図るための配慮について理解する。 予習：1日の生活の中で乳児が泣くのはどんな場面かについて自分なり調べたり考えたりしておく（授業内でその結果を聞きます）(1時間）。 復習：授業の内容について振り返り要点をまとめる(1時間）。 A：少　B：少　D：少
	第11回	乳児保育における配慮の実際②病気・障害・虐待 ・乳児期における気になる子や育てにくい子の特徴について学ぶ。 ・先天性の疾病やアレルギーについて学ぶ。 ・乳児期から認められる障害やその早期発見やスクリーニングについて学ぶ。 ・児童虐待の早期発見について学ぶ。 ・SIDS（乳幼児突然死症候群）について学ぶ。 予習：①生まれた直後に診断が出る病気や疾患と、②生まれた直後はわからないが乳児期に診断が出る可能性のある障害について調べたり考えたりしておく（授業内でその結果を聞きます）(1時間）。 復習：授業の内容について振り返り要点をまとめる(1時間）。 A：少　B：少　D：少
	第12回	乳児保育における配慮の実際③集団生活や環境の変化 ・集団での生活における配慮や環境の変化や移行に対する配慮について理解する。 ・特別な理由はないのに乳児の泣きぐずりが頻発する乳児期特有のコリック的ぐずり期について把握する。 予習：①集団生活の中で周りの園児の影響で乳児が泣く場面、②乳児の泣きを誘発する環境変化について自分なり調べたり考えたりしておく（授業内でその結果を聞きます）(1時間）。 復習：授業の内容について振り返り要点をまとめる(1時間）。 A：少　B：少　D：少
	第13回	乳児保育における計画の実際 ・長期的な指導計画と短期的な指導計画について理解する。 ・個別的な指導計画と集団の指導計画について理解する。 予習：長期的な指導計画、短期的な指導計画、個別的な指導計画、集団の指導計画にはそれぞれどんなものがあるか先輩や知り合いの保育者から聞いたり、自分なりに調べたりしておく（授業内で考えた結果を聞きます）(1時間）。 復習：授業の内容について振り返り要点をまとめる(1時間）。 A：少　B：少　D：少
	第14回	学びの振り返りⅠ ・振り返り：これまでの授業の内容について総まとめをする。 予習：第1回～13回までに学んだ内容のプリントを見返し、授業内で問われる質問や問題に答えれるようにしておく(1時間）。 復習：授業内で配布するプリントを十分に見返しておく(1時間）。 E：あり　F：あり　H：中 乳児保育Ⅰ　試験
	第15回	学びの振り返りⅡ ・試験の解説をして、これまでの授業を振り返る。 ・育児不安と保育所・保育士の役割について再確認し、乳児保育の在り方について意見交換をする。 予習：第1回～13回までに学んだ内容を見返しておく(1時間）。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める(1時間）。 E：あり
教育目標との関連	近年、保育所に通う子どもは低年齢化しその乳児の数は増加している。また、共稼ぎの増加、片親や外国籍の子どもの増加などそのニーズも多様化しながらも質の高い保育が求められている。社会に常に目を向けて多様性に対応しながら子ども一人一人の気持ちに寄り添って現場に立てるプロフェッショナルとして、必要な知識や技術、また、子ども達が健全に育つことができるように地域との連携や家庭とのコミュニケーションスキルの習得を目標とする。	

到達目標　（学修成果）　　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L01. 愛着の重要性について理解し、保護者へアドバイスができる。また、個人差に配慮した指導計画が作成できる。 L03. 乳児の発達段階を踏まえた保育の実践や計画について、自ら考え、論じ合うことができる。 L05. 保育者として求められる基本的態度を身につけるよう努力し続ける。 添付資料のルーブリック（到達目標）を参照
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	1.試験　50%　総まとめとして期末試験を指定された日に実施する。授業全般から総合的な理解を確認する。 2.平常点評価　50%　授業を聞く態度、グループディスカッションでの進行・参加姿勢・発表等を評価する。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回目の授業に期末試験のフィードバックとまとめを行う。
教科書	・保育所保育指針 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
参考書	・保育所保育指針解説 ・「育児担当制による乳児保育 実践編: 一人ひとりへの生活・発達・遊びの援助」中央法規出版, 西村真実, 2021年, 2420円
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習、復習は授業計画の通り。
履修上の注意、条件等	提出物の提出期限厳守のこと。また授業開始時間までに授業準備をし着席していること。 毎回必ず、『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を持参すること。 シラバスの内容は履修学生の理解度などにより変更もあります。
オフィスアワー	質問等は、授業の前後、オフィスアワー、またはメールにて受け付ける。
備考・メッセージ	全ての回で対面授業とする。

講義科目名称： 特別支援教育（障害児保育）Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称： Special support education (childcare for children with disabilities) II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
春学期	2年	1単位	卒業選択、幼免選択、保育士必修	
担当教員				
石川　卓磨				
授業形態：演習	担当形態：単独		実務経験：あり	ナンバリング：F201
添付ファイル				
特別支援教育（障害児保育）Ⅱルーブリック.pdf				

講義概要	この科目はⅠ・Ⅱで構成される特別支援教育（障害児保育）Ⅱにあたる。本教科では、昨年度主に学んできた障害自体についての学びを基礎に、子どもの保育上のニーズを理解し、効果的に支援していくために必要な具体的な方法を考え学ぶ。さらに、障害児だけでなく特別な支援を要する子どもたちへの支援について事例を通して考えていく。また、親や関係機関等とどのように共同・協働して切れ目のない支援を行っていくかについても学ぶ。 特別支援教育（障害児保育）は高い専門性を要し、現代の保育者には欠かせない分野である。一方で、障害の種類は多種多様にあり、それらの具体的なイメージや区別がついている保育者は少ないのが実態である。また障害のある方に対する福祉や教育を支える施設について馴染みのある学生も少ない。そこで、この授業では動画による直感的な理解を重視しつつ、グループディスカッションによる学生の主体的な洞察や学びを展開する。 その際、保育所でダウン症などの障害を持つ子どもを保育した実務経験や、乳幼児期の発達障害に関する研究実績がある授業者が、その事例やデータに基づくポイントやコメントを示し、フィードバックする。 乳児保育Ⅰ・Ⅱとの関連として、乳児期からの発達障害のスクリーニングについても学ぶ。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション & 知的障害・ダウン症の理解と援助 ・講師の自己紹介と授業の進め方の説明をする。 ・知的障害やダウン症のある子どもの理解について振り返り、具体的な援助の方法を議論する。 予習：昨年の特別支援教育（障害児保育）Ⅰの授業の内容について復習し、授業に臨む(1時間)。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める(1時間)。 A：少　B：少　D：少　E：あり 第2回　発達障害の理解と援助 ・自閉症、ADHD、学習障害やその他の発達障害のある子どもの理解について振り返り、具体的な援助の方法を議論する。 ・それぞれの障害の併発の可能性について把握する。 予習：前回の授業の内容について復習し、授業に臨む(1時間)。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める(1時間)。 A：少　B：少　D：少　E：あり 第3回　視覚障害・聴覚障害・言語障害・肢体不自由の理解と援助 ・視覚障害・聴覚障害・言語障害・肢体不自由のある子どもの理解について振り返り、具体的な保育の方法を議論する。 予習：前回の授業の内容について復習し、授業に臨む(1時間)。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める(1時間)。 A：少　B：少　D：少　E：あり 第4回　重症心身障害や医療的ケアの要する子どもの理解と援助 ・重症心身障害のある子ども、医療的ケアの要するの理解について振り返り、具体的な援助の方法を議論する。 予習：前回の授業の内容について復習し、授業に臨む(1時間)。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める(1時間)。 A：少　B：少　D：少　E：あり 第5回　家庭との連携① ・障害その他の特別な配慮の必要がある子どもの保護者や家族に対する理解について学ぶ。 予習：前回の授業の内容について復習し、授業に臨む(1時間)。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める(1時間)。 A：少　B：少　D：少 第6回　家庭との連携② ・保護者や家族に対する支援について学び、具体的な支援方法を議論する。 ・保護者間の交流や支え合いの意義とその支援について理解する。 予習：前回の授業の内容について復習し、授業に臨む(1時間)。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める(1時間)。 A：少　B：少　D：少 第7回　障害児保育や特別支援教育に関する理念や制度① ・障害児保育や特別支援教育に関する理念を理解する。 ・障害児・者に関する福祉や教育に対する制度や体制の歴史的変遷について学ぶ。 ・アメリカで出版された精神疾患の国際的な診断基DSM-5や、世界保健機関（WHO）が定める国際疾病分類ICDがもたらしてきた日本の制度や障害区分への影響について学ぶ。 ・インクルーシブ教育やインクルシーブ保育及び合理的配慮の理解と障害児保育の基本を身につける。 予習：前回の授業の内容について復習し、授業に臨む(1時間)。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める(1時間)。 A：少　B：少　D：少 第8回　障害児保育や特別支援教育に関する理念や制度② ・インクルーシブ教育やインクルーシブ保育及び合理的配慮の理解と障害児保育の基本を身につける。

	・子ども同士の関わりと育ち合いについて理解する。 予習：前回の授業の内容について復習し、授業に臨む(1時間）。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める(1時間）。 A：少　B：少　D：少
	第9回　自治体・関係者/関係機関との連携 ・障害児支援の制度の理解と地域における自治体や関係機関との連携・協働について学ぶ。 ・児童発達支援センター、保育巡回相談、キンダー/保育カウンセリング、特別支援教育コーディネーターについて把握する。 ・小学校との連携について把握する。 予習：前回の授業の内容について復習し、授業に臨む(1時間）。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める(1時間）。 A：少　B：少　D：少
	第10回　特別の支援を要する子どもの早期発見とアセスメント ・知的障害や各種発達障害の症状が顕著になったり、診断が出たりする年齢を把握する。 ・障害の早期発見と早期支援の重要性について学ぶ。 ・発達障害等に伴う二次障害や診断が出ているか否かによるメリットデメリットについて把握する。 ・知的障害や発達障害のアセスメントや心理検査について学ぶ。 予習：前回の授業の内容について復習し、授業に臨む(1時間）。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める(1時間）。 A：少　B：少　D：少
	第11回　障害児施設 ・重症心身障害児施設や知的障害児施設など、障害のある子どもが住んでいたり通っていたりする施設について把握する。 予習：前回の授業の内容について復習し、授業に臨む(1時間）。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める(1時間）。 A：少　B：少　D：少
	第12回　特別支援教育に関する教育課程の枠組み ・特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、及び自立活動について理解する。 ・個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解する。 予習：前回の授業の内容について復習し、授業に臨む(1時間）。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める(1時間）。 A：少　B：少　D：少
	第13回　指導計画及び個別の支援計画の作成 ・保育所における指導計画及び個別の支援計画の作成について学び、その意義を理解する。 予習：前回の授業の内容について復習し、授業に臨む(1時間）。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める(1時間）。 A：少　B：少　D：少
	第14回　障害児とその他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題 ・保健・医療における現状と課題、福祉・教育における現状と課題、支援の場の広がりとつながりについて学ぶ。 予習：前回の授業の内容について復習し、授業に臨む(1時間）。 復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める(1時間）。 A：少　B：少　D：少　E：あり
	試験　期末試験
	第15回　授業総括 ・試験の解説をしてこれまでの授業を振り返り、資料、ノートを整理する。今後の自己課題を明確にする。 予習：授業での学びを振り返る(1時間）。 復習：関連個所を資料などで確認する。授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める(1時間）。 B：少　E：あり
教育目標との関連	障害児保育についてⅠから更に学びを深め、主体的に障害児保育の理論と実践について考え、議論することで知識・思考力を身につけ、支援者としての感性を磨く。
到達目標　（学修成果）　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	L01.　個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について説明することができる。 L02.　障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について説明することができる。 L03.　障害児とその他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について適切な判断ができる。 L04.　障害児とその他の特別な配慮を要する子どもの人権を尊重し、保育に関する現状と課題について問題意識を持つことができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	授業態度：50%（授業を聞く態度、グループディスカッションでの発表および参加姿勢） 試験：50%（授業全体の理解度、それらを踏まえた論理的な説明など） 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回目の授業時に期末試験のフィードバックを行う。
教科書	①幼稚園教育要領 ②保育所保育指針 ③『よくわかる障害児保育［第2版］』（ミネルヴァ書房、2018）編集：尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子、2,750円（税込）
参考書	・保育所保育指針解説 ・幼稚園教育要領解説 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習、復習は授業計画の通り。
履修上の注意、条件等	シラバスの内容は履修学生の理解度により変更もある。
オフィスアワー	授業の前後に教室で質問を受け付ける。また、Google Classroomの限定コメントやEメールでの質問も随時受け付ける。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 保育実習指導Ⅰ（保）　　授業コード：

英文科目名称： Practical Training Instruction I(Nursery School)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	１年	１単位	保育士必修
担当教員			
舟生 直美、間野 百子			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：有	ナンバリング：G103
添付ファイル			
ルーブリック保育実習指導Ⅰ（保）（2025）.pdf			

講義概要	本科目を通して学生は、保育実習の意義・目的及び内容を理解し、自らの課題を明確にする。また、実習に際しての留意事項（実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務）について理解し、実習生としての心構えを養う。さらに、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容などを理解した上で、具体的な準備を進めてゆく。実習終了後には、事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 他の科目との関連：本科目を通して、学生は保育実習Ⅰ（保育所）の事前準備や事後の振り返りをする。 担当教員は、保育所での保育者経験があり、それを活かして、より現場をイメージできるような説明をしながら実習に向けての準備をすることができるよう、授業を展開する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　保育実習指導Ⅰ（保）の授業の概要について（学内オリエンテーション①） 保育実習Ⅰ（保）の概要と、学内で定められた履修基準について理解する。 ・保育実習Ⅰ（保）に臨むにあたっての心構えについて理解を深める。 ・実習の流れを知る。 ・実習におけるマナーなど、立ち居振る舞いの確認をする。 B：中 予習・復習：「保育・教職の手引き」を読んでおくこと。（約1時間） 第2回　保育所について学ぶ ・保育所及び保育所保育について理解する。 ・保育所に求められていることについて学ぶ。 ・保育実習での学びを考える。 B:中　E:あり　F:あり 予習：保育所保育指針、テキストに目を通す。(1時間) 復習：授業内で学んだ保育所、及び保育所保育について整理しノートにまとめる。(1時間) 第3回　子ども理解と保育実習 ・子どもの発達について理解する。 ・子どもの発達に応じた生活及び遊びを学ぶ。 ・保育実習における子ども観察の視点について考える。 B:少　E:あり 予習：子どもの発達について確認する(テキスト、保育所保育指針の読む個所については授業内で伝える)。 (1時間) 復習：授業内で学んだ子どもの発達について整理しノートにまとめる。（1時間） 第4回　実習課題の明確化 ・観察の視点、参加について理解する。 ・実習園を調べる。 ・実習課題を考える。 A：少　B:少　E:あり 予習：実習における観察の視点、参加についてテキストを読む。（1時間） 復習：実習課題を完成させる。（1時間） 第5回　実習に向けての教材研究 ・保育における教材について学ぶ。 ・自己紹介に向けての教材を考える。 ・自己紹介の練習をする。 A:中　B:少　D:少　E:あり 予習：自己紹介の練習をする。(1時間) 復習：自己紹介の実践を通し修正する箇所をまとめノートに記述する。(1時間) 第6回　指導案の立案① ・子どもの発達に応じた指導案を立案する。 ・子どもの発達に応じた絵本、手遊びを知る。 A:少　B:中 予習：絵本、手遊びを考える(授業内で指示を出す)。(2時間) 復習：指導案を立案する。(1時間) 第7回　指導案の立案② ・立案した指導案を実際に実践し実習の課題を明確にする。 ・実践を通し演じ方、声の出し方、伝え方を学ぶ。 A:中　D:少　E:あり 予習：絵本の読み聞かせ、手遊びを練習する。(1時間) 復習：実践を通し指導案の加筆修正をする。指導案を完成させる。（2時間） 第8回　実習日誌の記録方法① ・日誌記述の内容を確認する。 ・観察記録の書き方についてメモの取り方やメモのまとめ方等具体的に学び、理解する。 ・観察の視点の捉え方について理解する。

	B：少、E：あり 予習：日誌の記述についてテキストを読む。実習日誌に目を通す。(1時間) 復習：授業の内容を整理しノートにまとめる。 (2時間) 第9回　実習日誌の記録方法② ・写真及び映像を視聴し実際に日誌の記述をする。 ・考察、考察の書き方について理解する。 ・日々の目標と考察の関連について理解する。 B：少　E：あり　F:あり 予習：考察についてテキストを読む。(1時間) 復習：日誌の記述について整理しノートにまとめる。視聴して記述した日誌を完成させる。 (2時間) 第10回　実習日誌の記録方法③ ・１日の流れを通し日誌の記述について理解する。 ・実習のまとめ、今後に向けての課題について学ぶ。 ・日誌の提出等について流れを理解する。 B:少　E:あり　F:あり 予習：実習日誌の記録方法①、②を振り返り疑問点をまとめる。(1時間) 復習：実習日誌の記録方法について整理しまとめる。(1時間) 第11回　自己課題の設定 ・実習期間にわたる実習課題を明確にする。 ・実習の流れについて自己課題を設定することを確認する。 ・日誌の記述、指導案を確認し自己課題を設定する。 B:中　E:あり　F:あり 予習：実習期間にわたる自己課題について考えてくる。(1時間) 復習：実習期間にわたる自己課題を明確にし記録する。(1時間) 第12回　先輩の実習体験報告から学ぶ（実習への理解を深める） ２年生から実習体験の話しを聞き、実習に対する理解を深める。 B:中　E:あり 予習・復習：あらかじめ実習について質問したいことを考えたうえで参加する。 (2時間) 第13回　実習直前準備 ・実習オリエンテーションの受け方、電話の掛け方などの指導を行う。 ・実習日誌の事前記入欄について教員の指導を受ける。 A:少　B:少　E:あり 予習・復習：各自で実習日誌の記入欄を完成させておく。 (2時間) 第14回　学内オリエンテーション② ・実習前の心構えと諸注意事項について理解する。 ・実習後の流れについて理解する。 A:少　B:少　E:あり 予習・復習：実習日誌、実習の手引き、実習園の資料を読み直しておく。 (2時間) 第15回　実習の振り返りと自己評価 ・実習を振り返り、自己課題を明確にする。 ・今後に向けての学びを考える。 ・自己評価レポート（最終レポート）に取り組み全員提出する。 A:少　B:少　E:あり 予習・復習：実習日誌、実習園の資料を読み直しておく。 (2時間)
教育目標との関連	保育実習Ⅰ（保育所）に向けて行われる準備や振り返りを通して、学生は、社会生活に必要な教養や保育者としての確かな知識および実践的技能を身につけてゆく。また、豊かな感性と愛の心を持った保育者を目指して、実習に向けての努力を日々重ねていくことが求められる。
到達目標　(学修成果)　　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L01. 保育実習の意義・目的を理解する。 L02. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 L03. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について理解し、実習に必要な保育技能を習得する。 L04. 子どもの人権と最善の利益について考えて、一人ひとりの子どもに配慮する心を養う。 L05. 実習を振り返り今後の課題や学習目標を明確にすることで、誠実に学ぶ態度を身に付ける。 ※添付資料のカリキュラムマップ(到達目標)を参照
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	提出課題　60% 受講態度　20% 実習課題の最終レポート　20% ※成績評価は添付資料のルーブリック参照
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	指導案、実習課題の最終レポートについて、授業内で解説し実習に向かう準備を整える。 実習指導の最終授業において実習の振り返りを実施する。 実習園の評価をもとに個別に面談を行い実習の振り返りを行う。
教科書	『幼稚園・保育所・認定こども園実習　パーフェクトガイド』　小櫃智子他　わかば社
参考書	「保育所保育指針解説」　平成30年　フレーベル館　厚生労働省/編 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」　平成30年、フレーベル館　内閣府/著　文部科学省/著　厚生労働省/著」
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な	各回の予習・復習は上記の通り。（2時間程度は取り組むこと）他の科目との関連が深いため復習、テキストなどを読み返すなどが必要である。

時間	
履修上の注意、条件等	原則、遅刻、欠席はできない。シラバスの変更あり。 保育者を目指すことの意識を持つこと。
オフィスアワー	質問等は各教員の研究室で、オフィスアワーに受け付ける。
備考・メッセージ	夏休みの宿題あり。基本対面授業で実施。

講義科目名称： 保育実習Ⅰ（保育所）　　授業コード：

英文科目名称： Practical Training 1 (Nursery School)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	１年	２単位	保育士必修
担当教員			
舟生 直美、間野 百子			
授業形態：実習	担当形態：複数	実務経験：有	ナンバリング：G102
添付ファイル			
ルーブリック保育実習Ⅰ（保育所） （2025）.pdf			

講義概要	本科目は保育所における実習である。実習を通して以下の5つの到達目標を達成することを目指す。 1. 保育所の役割や機能を具体的に理解し、説明できる。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者の支援について学び、基本的なものを説明できる。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価などについて具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に説明できる。 他の科目との関連：1年生で学んだ科目を保育実習と結び付け理論及び技術を整理し身に付ける
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:ＰＢＬ（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	１．保育所の役割と機能 （１）保育所の生活と一日の流れ （２）保育所保育指針の理解と保育の展開 ２．子ども理解 （１）子どもの観察とその記録による理解 （２）子どもの発達過程の理解 （３）子どもへの援助やかかわり ３．保育内容・保育環境 （１）保育の計画に基づく保育内容 （２）子どもの発達過程に応じた保育内容 （３）子どもの生活や遊びと保育環境 （４）子どもの健康と安全 ４．保育の計画、観察、記録 （１）保育課程と指導計画の理解と活用 （２）記録に基づく省察・自己評価 ５．専門職としての保育士の役割と職業倫理 （１）保育士の業務内容 （２）職員間の役割分担や連携 （３）保育士の役割と職業倫理 以上の内容について、約11日間の実習を行う。教員が訪問指導を行い、スーパービジョンを実施する。
教育目標との関連	保育所での実習を通して、本学の目標である幼児の心身の発達についての広範な知識と豊かな保育技術を習得する。また、保育現場で実習をすることにより、社会生活に必要な教養を身につける。実習体験を経て、保育者への適性を見直すことにより、自己理解を深める。
到達目標 （学修成果） １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L01. 保育所の役割や機能を具体的に理解し、説明できる。 L02. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 L03. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者の支援について学び、基本的なものを説明できる。 L04. 保育の計画、観察、記録及び自己評価などについて具体的に理解する。 L05. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に説明できる。 ※添付資料のルーブリックを参照
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法 2.ルーブリックによる評価基準	原則として以下の基準に従う。 実習園が与えた評価　40% 実習日誌などの評価　60%（最終レポートとしての実習自己評価表を含む） ※詳細については、保育・教職の手引きを参照すること ※成績評価は添付資料のルーブリック参照

期末試験・期末レポートのフィードバック方法	実習指導の最終授業において実習の振り返りを実施する。また、実習園の評価をもとに個別に面談を行い実習の振り返りを行う。
教科書	幼稚園・保育所・認定こども園実習　パーフェクトガイド　わかば社　小櫃智子(代表)
参考書	『保育所保育指針解説』平成30年　フレーベル館　厚生労働省/編 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』平成30年、フレーベル館　内閣府/著　文部科学省/著　厚生労働省/著
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	保育実習指導Ⅰ（保）の授業内容の復習をしておくこと。実習について省察をすること。
履修上の注意、条件等	本科目を履修するにあたっては、あわせて保育実習指導Ⅰ（保）を履修しなければならない。 本科目を修得できない場合は、保育実習指導Ⅰ(保）も修得できない。
オフィスアワー	実習中の質問等についてはGoogleクラスルームまたは実習センターで受け付ける
備考・メッセージ	

講義科目名称： 保育実習指導Ⅰ(施)　　授業コード：

英文科目名称： Practical Training Instruction I (Welfare Facilities)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	２年	1単位	保育士必修
担当教員			
赤松 広美、安田 真紀子			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：G204
添付ファイル			
「 保育実習指導Ⅰ （施設）」ルーブリック.pdf			

講義概要	本科目は保育実習Ⅰ(施設)に対する事前・事後指導である。事前指導では、実習の手引きやテキストを参照しながら、施設実習の意義・目的・内容を理解し、自らの実習課題を明確にする。さらに、既習科目である社会福祉、子ども家庭福祉、特別支援教育Ⅰ、保育実習Ⅰ（保）などを踏まえ、施設における実習内容の理解、実習の具体的な計画・観察・記録の方法について学ぶと共に、個々に実習へ向けた準備を行う。事後指導においては、自らの実習を振り返り、今後の自己課題や改善点を明らかにし、保育実習Ⅱ・Ⅲへと繋げる。 授業担当者は、障害者支援施設、児童発達支援センター、市福祉事務所での勤務経験を有している。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　ガイダンス、「保育実習Ⅰ（施設）」「保育実習指導Ⅰ（施設）」の授業概要について 保育実習Ⅰ（保育所）の振り返りに基づき、次のステップである保育実習Ⅰ（施設）の概要および学内で定めた実習の履修基準について理解する。 保育実習指導Ⅰ（施設）の授業概要について把握する。 予習：シラバス、実習の手引、学生ハンドブックの実習に関するページに目を通し、ポータルより自身のGPAを確認しておく。（1時間） 復習：シラバスと手引きを読み返し、大切な箇所に下線を引く。（1時間） 宿題：授業課題を完成し、授業に必要な物品を準備して次回授業に忘れずに持参する。 Ｂ：中　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第2回　保育実習（施設）の意義、実習内容と課題の明確化 施設実習の意義（目的と概要）と実習内容を学び、保育実習Ⅰ（施設）のイメージを具体的に理解する。 子どもや利用者の生活を支えるということを理解する。 実習先や養成校が実習生に求めているものが何かを理解し、自己課題を明らかにする。 予習：テキストp.8～p.11、p.40～p.43を読み、疑問点等を整理しておく。（1時間） 復習：テキスト、授業プリントを読み返し、大切な箇所に下線を引く。（1時間） 宿題：誓約書に書かれていることをよく読み、すべて理解して同意した後にサインする。 Ｂ：少　Ｅ：あり　Ｆ:あり 第3回　実習に際しての留意事項 実習に際しての留意事項（子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務、実習生としての心構え）を知り、実習で求められる生活技術を身につける。 予習：テキストp.16～p.21を読み、疑問点等を整理しておく。（1時間） 復習：テキスト、授業プリントを読み返し、大切な箇所に下線を引く。（1時間） 宿題：授業課題を完成する。 Ａ：中　Ｆ：あり 第4回　施設の役割と機能について、養護系施設での実習 保育実習Ⅰ（施設）の対象とな施設の役割と機能、施設における子ども及び利用者の生活と保育士の援助や関わりについて理解する。 児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設等の施設概要・実習内容を理解する。 予習：授業内で配付したプリントを読み、疑問点等を整理しておく。（1時間） 復習：テキスト、授業プリントを読み返し、大切な箇所に下線を引く。（1時間） 宿題：授業課題を完成する。 Ａ：少　Ｆ：あり 第5回　障害系施設での実習 障害児入所施設、児童発達支援センター、障害福祉サービス事業所、障害者支援施設、国立のぞみの園等の施設概要・実習内容を理解する。 予習：授業内で配付したプリントを読み、疑問点等を整理しておく。（1時間） 復習：テキスト、授業プリントを読み返し、大切な箇所に下線を引く。（1時間） 宿題：保Ⅰ（保）の個人票を読み返し、加筆修正点があればメモをとり、次回授業時に直ぐに反映できるよう準備しておく。 Ｂ：少　Ｆ：あり 第6回　実習個人票の作成、実習の記録（時系列） 実習日誌を購入し、実習個人票を完成する。 日誌の書き方（時系列）について授業プリントをもとに学ぶ。 予習：日誌（時系列）を書く際に苦労した点、苦労した理由について思い出して書き出す。（1時間） 復習：テキスト、授業プリントを読み返し、大切な箇所に下線を引く。（1時間） 宿題：授業課題を完成する。 Ｂ：少　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第7回　実習の記録（１日の学び） 日誌の書き方（1日の学び）について授業プリントをもとに学ぶ。 予習：日誌（1日の学び）を書く際に苦労した点、苦労した理由について思い出して書き出す。（1時間） 復習：テキスト、授業プリントを読み返し、大切な箇所に下線を引く。（1時間） 宿題：授業課題を完成する。 Ｂ：少　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第8回　実習における計画と実践①

		配属先の所在地と自宅からの経路について確認する。通勤定期購入の有無について検討する。 実習施設より特別に求められている事柄がないか配属表をよく確認する。施設より指示、提出を求められている書類等がある場合はすぐに行動に移す。 実習施設の沿革および理念を調べて記入する（必ず下書きを済ませてから清書する）。 オリエンテーション日時を調整し、GoogleFormsにて期限内に報告する。 予習：実習日誌に目を通す。(1時間) 復習：通常時の通勤経路、災害時等の通勤経路を決めておく。施設の電話番号を携帯電話に登録する。(1時間) 宿題：授業課題を完成する。 Ｂ：少　Ｆ：あり
	第9回	実習における計画と実践② 実習目標を設定するために、施設の法的根拠と目的、自分自身の関心、実習内容、実習施設の概要を整理して書き出す。授業内で仲間の意見を聞きながら各自で目標を考える。 予習：実習施設について情報収集する。授業内で発表できるようにしておく。(1時間) 復習：実習施設についてさらに情報収集する。(1時間) 宿題：授業課題を完成する。 Ｄ：中　Ｆ：あり
	第10回	施設職員による講話 施設職員による講話を聞き、実習目標や自己課題を明確化する。 予習：実習に向けて不安なことについて文章化しておく。(1時間) 復習：課題レポートに取り組む。(1時間) 宿題：授業課題を完成する。 Ｂ：少　Ｆ：あり
	第11回	実習目標の立案 実習目標と日々のねらい（具体的達成課題）を決定する。 グループワークを通して、各々が施設実習に向けて自己課題を改めて認識し、目標や日々のねらいに反映させる。 予習：実習目標と日々のねらいについて凡そ決めておく。(1時間) 復習：実習目標と日々のねらいについて再度確認する。(1時間) 宿題：授業課題を完成する。
	第12回	「困った場面」と対応のポイント、施設保育士に求められる人間性・専門性、健康チェック表・細菌検査容器配付 実習施設の子どもや利用者との関わりの中で困った際に、どのように対応すれば良いのかグループワークを通じて考え、検討し、ポイントを理解する。 施設で働く保育士に求められる人間性、専門性についてグループワークを通じて考え、検討し、ポイントを理解する。 予習：実習施設で出会う子ども、利用者を想像し、どのようにコミュニケーションを図れば良いか考える。(1時間) 復習：テキスト、授業プリントを読み返し、大切な箇所に下線を引く。(1時間) 宿題：授業課題を完成する。健康チェック表に必要事項を記入する。 Ａ：多　Ｅ：あり　Ｆ：あり
	第13回	部分実習レクリエーション、お礼状作成の練習 テキストに示されているレクリエーションを実際に体験し、一人でも実践できるようにする。 お礼状の書き方を復習し、実際に練習する。 予習：テキストp.102～p.111、p.124～p.125を読み、疑問点等を整理しておく。（1時間） 復習：お礼状の下書きを読み返し、適切であるか確認する。（1時間） 宿題：授業課題を完成する。健康チェックを怠らず、健康チェック表に記入する。 Ａ：中　Ｆ：あり
	第14回	直前ガイダンス これまでの授業内容を総括し、実習に向けた疑問点等を解決する。 予習：実習に向けた疑問点等を整理しておく。（1時間） 復習：直前ガイダンスのプリント2枚を再度読み返す。（1時間） 宿題：実習が終了したら、自己評価票と実習報告書を完成させ、自己評価票と実習日誌は決められた期限までに実習センターへ提出する。 Ｅ：あり　Ｆ：あり
	第15回	実習事後指導（実習の総括と自己評価、課題の明確化） 実習を通した気付きや学びについて実習報告書をもとにプレゼンテーションを行う。 保育実習Ⅱ・Ⅲに必要な知識と態度を身につけるために、保育実習Ⅰ（施設）の自己評価と今後の学びについて課題を明確にする。 実習報告書は授業終了時に回収する。 予習：実習報告書を完成させ、授業内のグループワークで5分程度の発表を行えるよう準備しておく。（1時間） Ｄ多
教育目標との関連		保育所を除く児童福祉施設等の役割や機能、施設保育士の職務内容、実習で出会う子ども・利用者が抱える課題と関わり方について正しい知識を身につける。 読み手に伝わる記録を残すことができるよう、正しい日本語を用いてポイントを絞りながら記述できるようにする。 実習生としての立場を理解し、謙虚にかつ前向きに参加し、愛情をもって人と関わることができるよう、日頃の立ち振る舞いから指導を行うことで、社会生活に必要な礼節とマナーを身につける。
到達目標　（学修成果） １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性		L01：保育実習Ⅰ（施設）の意義・目的や心構え・法的根拠を理解し説明できる L02：実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確に説明することができる。 L03：実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解し、実習日誌に適切に記述・表現することができる。 L04：実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標について自ら進んで掲げることができる。 L05：実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解し、相手を尊重することができる。

評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	1.試験等の評価方法 授業関連の書類作成と諸手続き　30% 授業への取り組み及び提出物（期末レポートを含む）70% 2.ルーブリックによる評価基準 添付資料のルーブリックを基準
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	実習指導の最終授業において実習の振り返りを実施する。 各実習後、実習訪問指導担当教員と個別に面談を行い、実習の振り返りを行う。
教科書	『改訂版 施設実習パーフェクトガイド』　守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵　わかば社　2023年　1,650円
参考書	授業内で適宜紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記の通り。 教科書・レジュメ・GoogleClassroomで配信された資料等を有効に活用し、授業内容の理解に努めること。
履修上の注意、条件等	保育実習指導Ⅰ(保育所)、保育実習Ⅰ(保育所)、社会福祉、子ども家庭福祉、特別支援教育Ⅰの単位を取得済であること。 原則、欠席・遅刻・早退は認められない。
オフィスアワー	各担当教員研究室の掲示参照 質問は各研究室またはGoogleClassroomの限定コメントで受け付ける。
備考・メッセージ	授業の理解度により、シラバスの内容を多少変更することがある。 富士フイルム社のICT日誌を利用する学生については別途指導時間を設ける。 外部講師の都合により授業回が前後する可能性がある。

講義科目名称： 保育実習Ⅰ（施設）　　授業コード：

英文科目名称： Nursery Practical TrainingⅠ (Welfare Facilities)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	２年	２単位	保育士必修
担当教員			
赤松 広美、安田 真紀子			
授業形態：実習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：G203
添付ファイル			
「保育実習Ⅰ（施設）」ルーブリック.pdf			

講義概要	厚生労働省「指定保育士養成施設の指定基準について」にて定められた保育所以外の福祉施設における実習を通して、福祉施設の役割や機能を理解するとともに、利用児・者への理解を深める。施設保育士の業務内容や職業倫理、他職員との連携や生活環境の整備について実践を通じて学ぶ。また、既習の社会福祉、子ども家庭福祉、社会的養護Ⅰ、特別支援教育（障害児保育）Ⅰについて掘り下げて考える力を養う。 授業担当者（赤松）は、障害者支援施設、児童発達支援センター、市福祉事務所の勤務経験を有している。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	以下の内容について、約11日間の実習を行う。教員が訪問指導を行い、スーパービジョンを実施する。 １．施設の役割と機能 （１）施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり （２）施設の役割と機能 ２．子ども・利用者の理解 （１）子ども・利用者の観察とその記録 （２）個々の状態に応じた援助や関わり ３．施設における子ども・利用者の生活と環境 （１）計画に基づく活動や援助 （２）子ども・利用者の心身の状態に応じた生活と対応 （３）子ども・利用者の活動と環境 （４）健康管理、安全対策の理解 ４．計画と記録 （１）支援計画の理解と活用 （２）記録に基づく省察・自己評価 ５．専門職としての保育士の役割と倫理 （１）保育士の業務内容 （２）職員間の役割分担や連携 （３）保育士の役割と職業倫理
教育目標との関連	本実習では、保育所を除いた児童福祉施設等での実習を通して、保育者としての実践的な技能や倫理を身につけることができる。 保育・支援の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に学ぶことができるほか、施設の子ども・利用者の生活支援に直接関わることで、施設保育士の業務内容を理解し、子ども・利用者への理解を深めることができる。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L01：児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 L02：観察や子ども・利用者との関わりを通して子ども・利用者への理解を深める。 L03：既習の教科目の内容を踏まえ、子ども・利用者への保育・支援及び保護者・家族への支援について総合的に理解する。 L04：保育・支援の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 L05：保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	1.試験等の評価方法 実習施設が与えた評価　40% 実習日誌や評価票面談等による評価　60% 2.ルーブリックによる評価基準 成績評価は添付資料のルーブリックを参照

期末試験・期末レポートのフィードバック方法	実習指導の最終授業において実習の振り返りを実施する。また、実習後に訪問指導担当教員と個別に面談を行い、実習の振り返りを行う。
教科書	『改訂版 施設実習パーフェクトガイド』　守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵　わかば社　2023年　1,650円
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	保育実習指導Ⅰ（施設）の授業内容について十分に復習しておくこと。 実習について省察を繰り返し行うこと。
履修上の注意、条件等	本実習科目を履修するにあたっては、あわせて保育実習指導Ⅰ（施設）を履修しなければならない。 本科目の単位が認定されない場合は、あわせて保育実習指導Ⅰ（施設）の単位も認定されない。 原則、欠席・遅刻・早退は認められない。
オフィスアワー	質問については実習センターまたはGoogleClassroomで受け付ける。
備考・メッセージ	保育実習生として謙虚で誠実な態度、美しい言葉を心がけること。

講義科目名称： 保育実習指導Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称： Iustruction for Practical Training Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	２年	１単位	保育士選択必修
担当教員			
岡村 泰敬　 織壁 佐和子			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：G206
添付ファイル			
保育実習指導Ⅱ　ルーブリック様式 （2025） .pdf			

講義概要	これまでの実習における学びを踏まえ、保育実習Ⅱに向けての保育実習の意義・目的・内容を理解し、自己課題を明らかにする。 子ども理解に基づいた指導計画を立案し、模擬保育を通して実践する力・省察する力を養う。 また事後指導では、総括、評価を行い、今後の保育活動に活かせるよう、自己課題を明確にする。 他教科との関連：保育実習指導Ⅰ（保）・教育実習指導及び保育実習・教育実習において学んだ保育者としての心構えや保育技術の習得の上に、望ましい保育者像を追求する。 担当教員（岡村）は、現場経験や研究活動、並びに養成校での実習指導経験を有する。 担当教員（織壁）は20年以上の現場経験がある。これを活かして、様々な角度から”保育現場”に出るにあたって必要な知識と技能について、学生と共に考えていきたい。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション　保育士の仕事と役割 学内オリエンテーション①「実習参加に向けての準備」 これまでの実習を振り返り、実習生としての心構え・実習生に求められるものについて考えて、本学の実習の在り方について改めて理解を深める。 B:中　E:あり　F:あり 予習：シラバスを熟読しておく（30分） 復習：次の実習に向かうにあたり、どのような準備が必要であるか、各自で考える（30分） 第2回　こども理解と日誌の書き方① こども理解に基づいた日誌の書き方を学ぶ。（流れ記録） 流れ記述式の記録の取り方についてそのポイントを確認する。 B:中　E:あり　F:あり 予習：今までに行った実習の日誌を見返す（1時間） 復習；授業内でのVTRを思い出しながら、流れをまとめる（1時間） 第3回　こども理解と日誌の書き方② こども理解に基づいた日誌の書き方を学ぶ。（エピソード記録） エピソード記述式の記録の取り方についてそのポイントを確認する。 B:中　E:あり　F:あり 予習：今までに行った実習の日誌を見返す（1時間） 復習：授業内でのVTRを思い出しながら流れをまとめる（1時間） 第4回　乳児の指導計画 ０・１・２歳児指導計画の立案の仕方について学ぶ。生活場面における個別配慮事項について理解する。 実際に計画を立てる練習をする。 B:中　E:あり　F:あり 予習：乳児の発達について教科書を見て復習する（1時間） 復習：授業内で立てた計画を見直す（1時間） 第5回　乳幼児の活動提案① ０・１・２・３・４・５歳児の発達の理解に基づいた活動の提案を行う。活動内容が発達を踏まえたものであるか、またこどもたち自らが工夫を加えることができる発展性のある教材となっているか意見交換をし検討する。 B:中　E:あり　F:あり 予習：幼児の発達について教科書を見て復習する（1時間） 復習：授業内に出た他者からの意見をまとめておく（1時間） 第6回　乳幼児の活動提案② ０・１・２・３・４・５歳児の活動の提案を行う（続き）。 責任実習を想定し、改良を加える。 B:多　F:あり 予習：活動案を決めシミュレーションする（1時間） 復習：授業内でまとめた計画を見直す（1時間） 第7回　学内オリエンテーション 学内オリエンテーション② 実習前の心構えと諸注意について 予習：保育実習Iを振り返り実習前の心構えを各自まとめる（1時間） 復習：実習園についてまとめたうえで、実習前オリエンテーションの質問事項をまとめる（1時間） 第8回　全日指導案の作成 活動提案型の全日指導案を作成する。 課題：全日指導案の作成 A:多　E:あり　F:あり 予習：各自の選択した歳児の発達について十分理解しておく（1時間） 復習：授業内で決めた計画の詳細をシミュレーションする（1時間） 第9回　模擬保育の準備 乳児グループ、幼児グループに分かれて、模擬保育に向けた準備をする。 A:多　E:あり　F:あり

	予習：主活動（模擬保育）に向けての準備物をまとめる（1時間） 復習：その活動に参加する実際の子どもをイメージする（30分） 第10回　模擬保育① グループごとに、保育実習Ⅱをイメージし、幼児理解に基づいた模擬保育を行う。 また振り返りでは、自らの模擬保育を評価し、互いの評価も行う。 A:多　F:あり 予習：模擬保育の準備をする（1時間） 復習：自身の振り返りをまとめる（1時間） 第11回　模擬保育② グループごとに、保育実習Ⅱをイメージし、幼児理解に基づいた模擬保育を行う。 また振り返りでは、自らの模擬保育を評価し、互いの評価も行う。 A:多　F:あり 予習：模擬保育の準備をする（1時間） 復習：自身の振り返りをまとめる（1時間） 第12回　日誌点検 実習に向け、日誌の在り方について再確認し、内容の点検を行う。 F:あり 予習：保育実習Iの日誌を見返す（1時間） 復習：実習日誌を書く際のポイントをまとめる（1時間） 第13回　保育実習Ⅱに向けての討議 保育実習Ⅱでの期待される学びについて討議を以下の観点で行う。 ・今までの実習から、今回の実習に向けての課題の確認 ・各自の実習課題 ・相互の不安について ・自分の保育観 B:多　F:あり 予習：今までの実習指導の授業・課題を振り返る（1時間） 復習：自身の保育観について考える（1時間） 第14回　実習直前オリエンテーション 今までの学びの確認を行う B:少　E：あり　H：少 予習：今までの授業で使用した資料（教科書やプリント）を見直す（2時間） 復習：実習に向けて、必要なものを整理し、支度を整える（1時間） 第15回　実習事後指導、実習を振り返り、自己課題について考える 仲間の実習と自身の実習をそれぞれ振り返り、相互の学びの時間とする。 専門職としての保育士に必要な知識、態度、技能を身につけるために、保育実習Ⅱの自己評価と今後の学びについて課題を考える。 D:多 予習：実習を振り返り、プレゼンの下準備をする（1時間） 復習：次のステップに向けての自身の課題をまとめる（1時間） 第16回　実習報告会 1年生やクラスメートに向けて自身の経験を話し、実習を振り返る中で次の課題を明確にする。 A:中　B:多　D:少 予習：実習日誌を振り返り、自身の省察をすることで、発表の準備をする（1時間） 復習：クラスでの相互の発表からの新たな気づきをまとめ次の課題について整理する（1時間）
教育目標との関連	保育者として、理論に基づいた確かな保育技術を身につける。また実習生としての立場を理解し、謙虚に誠実に、かつ前向きに参加し、愛情をもって人と関わることができるよう、日頃の立ち振る舞いから指導を行う。 社会生活に必要な教養を身につける。
到達目標　（学修成果）　　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	1.保育所の役割や機能を具体的に説明できる 2.保育を計画・実践・評価し、改善に必要な方法を判断することができる。 3.これまでに獲得した保育の知識と技術を適切に使用することができる。 4.実習の目的・意義を理解し、自ら立てた実習課題に主体的に取り組む。 5.実習生として保育者としてふさわしい人間性を身につけ、他者と協調することができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	実習関連の書類作成と諸手続き　30% 授業への取り組み及び提出物　70%（期末レポートを含む） 授業内でルーブリックを示し評価方法を解説する。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	各実習後、実習訪問指導教員との面談をする
教科書	『幼稚園・保育所・認定こども園実習　パーフェクトガイド』小櫃智子他　わかば社　1400円 『保育所保育指針解説』　フレーベル館　250円＋税 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』　フレーベル館　350円＋税
参考書	『保育学生のための実践国語表現』原田留美　おうふう　1100円 『保育所保育指針』　フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』　フレーベル館
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各授業前にはシラバスを確認し、授業に向けての準備を整えておく。その他、具体的な予習内容は各授業回に記載している。 最後の実習としての意識をもち、就職を視野に入れて心身の準備を整え、子どもの手本となる保育者を意識した授業態度となるように。
履修上の注意、条件等	保育実践力を身につけるために、指導案の作成と模擬保育を行う。
オフィスアワー	質問等は限定コメントで受け付ける。また、研究室にオフィスアワーを掲示する。

備考・メッセージ	原則として全て対面授業でおこなう。

講義科目名称： 保育実習Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称： Nursery Practical TrainingⅡ (Nursery School)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	２年	２単位	保育士選択必修
担当教員			
岡村 泰敬　織壁 佐和子			
授業形態：実習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：G205
添付ファイル			
保育実習Ⅱ　ルーブリック様式　(2025).pdf			

講義概要	本科目は保育所における実習である。 各保育所での指導を受け、保育観察・保育参加・責任実習などを行い、乳幼児理解をはじめ、実習記録の取り方、保育指導案の作成など保育の実際を学ぶことにより、使命感や責任感を持って教育実践できる能力を身につけることを目的とする。また事前に立てた個々の実習課題を追究する。保育所実習においては子どもの命を預かり、かけがえのない日々を過ごしていることを十分認識し、常に学ぶ姿勢を持ち、体調に留意しながら実習に臨む必要がある。 他の科目との関連：保育実習指導Ⅱ 担当教員（岡村）は、現場経験と研究活動、並びに養成校での実習指導経験を有する。 担当教員（織壁）は20年以上の現場経験がある。それを活かして、より現場をイメージできるような説明をしながら実習に向けての準備をすることができるよう、授業を展開する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	以下の内容について、約11日間の実習を行う。教員が訪問指導を行う。 １．保育所の役割や機能の具体的展開 （１）養護と保育が一体となって行われる保育 （２）保育所の社会的役割と責任 ２．観察に基づく保育理解 （１）子どもの心身の状態や活動の観察 （２）保育士等の動きや実践の観察 （３）保育所の生活の流れや展開の把握 ３．子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 （１）環境を通して行う保育、生活や遊びを通じて総合的に行う保育の理解 （２）入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 （３）地域社会との連携 ４．指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 （１）保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価とカリキュラムマネジメントの理解 （２）作成した指導計画に基づく保育実践と評価 ５．保育士の業務と職業倫理 （１）多様な保育の展開と保育士の業務 （２）多様な保育の展開と保育士の職業倫理 ６．自己課題の明確化
教育目標との関連	保育実習を通して学生は、本学の目標である幼児の心身の発達について広範な知識と豊かな保育技術を習得する。また、保育現場という社会で実習をすることにより、社会生活に必要な教養を身に着けることができる。さらに、自分の体調を管理しながら乳幼児と共に過ごすことにより、豊かな感性と愛の心を育む。
到達目標　(学修成果)　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.実習園の特色及び、保育園の役割や機能を具体的に説明できる。 2.幼児理解に基づいた保育を計画・実践・評価し、改善に必要な方法を判断することができる。 3.これまでに獲得した保育の知識と技能を保育現場において適切に活用することができる。 4.保育士の職務や専門性を理解し、自ら立てた実習課題に主体的に取り組む。 5.保育士として教職員と協働し、深い愛情をもってこどもたちに接することができる。

評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	原則として以下の基準で評価を行う。 実習園が与えた評価　　40% 実習日誌など　　60%（期末レポートを含む） 授業内でルーブリックを示し評価方法を解説する。 ※委細については、保育・教職の手引きを参照すること。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	各実習後、実習訪問指導教員と個別に面談を行う。
教科書	『保育所保育指針解説』フレーベル館　320円 『幼稚園・保育所・認定こども園実習　パーフェクトガイド』小櫃智子他　わかば社　1400円
参考書	『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	保育実習Ⅰ（保育所）の指導内容、さらには保育実習指導Ⅱの授業内容を復習しておくこと。実習日誌に毎日記録をおこなう。（約2時間）提出された日誌は園でのチェックを受け、実習後に教員との評価票面談を通して振り返りをおこなう。また、実習中には必要に応じて指導計画を作成する（1案2時間程度）と共に、保育実施後には省察をし、すべて記録に残す。
履修上の注意、条件等	保育実習Ⅰ(保育所および施設）を修了し、かつ保育実習指導Ⅱを履修しなければならない。 保育実習生として謙虚で誠実な態度であること。また、子どもの手本となる言動を心がけること。
オフィスアワー	実習中の質問等は実習センターで受け付ける。（メール、電話）
備考・メッセージ	すべて対面（園における実習）

講義科目名称： 保育実習指導Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称： Instruction for Practical Training Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年	1単位	保育士選択必修
担当教員			
赤松　広美			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：G206
添付ファイル			
「保育実習指導Ⅲ」ルーブリック.pdf			

講義概要	保育実習Ⅲの事前授業として児童福祉施設（保育所を除く）の機能と利用児者の状況、保育士の役割について学ぶ。 保育実習I（施設）で学んだ内容を踏まえて、さらに理解を深めると共に、児童福祉施設における家庭支援について学ぶ。 実習事後指導では、実習体験から学んだ事柄について振り返り、自己の専門性の向上へと繋げる。 授業担当者は、障害者支援施設、児童発達支援センター、市福祉事務所での勤務経験、並びに現場においての実習指導経験を有する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　ガイダンス、「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」の授業概要について 実習の手引きを参照し、保育実習Ⅲの全体像を掴み、その意義と目的を理解する。 個人票を作成する。誓約書3通を作成し、第2回授業にて提出する。 予習：シラバスを読んで、保育実習Ⅲの全体像を把握するとともに、保育実習Ⅰとの違いを意識して施設実習のイメージを持つ。(1時間) 復習：授業記録を読み返し、保育実習Ⅲの意義について理解する。（1時間） B少 第2回　子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 保育実習Ⅰ（施設）を振り返り、教員が提示した事例及び学生が提示した事例についてグループワークを通じて意見を出し合い、「子どもの最善の利益を考慮した保育」を具体的に理解する。 予習：保育実習Ⅰ（施設）を振り返り、「子どもの最善の利益を考慮した保育」の事例を5分程度で発表できるよう準備する。(1時間) 復習：授業で各グループが発表した内容について振り返り、自分なりに「私が考える子どもの最善の利益を考慮した保育とは」をテーマにレポート課題に取り組む。(1時間) 宿題：授業課題を完成する。 Ａ：多　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第3回　子どもの保育と保護者支援 教員が提示した事例についてグループワークを通じて意見を出し合い、「子どもの保育と保護者支援」を具体的に理解する。 予習：第2回授業終了時に配付されたプリントを読み、疑問点等を整理しておく。(1時間) 復習：授業で各グループが発表した内容について振り返り、自分なりに「子どもの保育と保護者支援において常に大切にしたいこと」をテーマにレポート課題に取り組む。(1時間) 宿題：授業課題を完成する。 Ａ：多　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第4回　実習施設の概要 配属施設の概要を日誌に記入する。 予習：配属先の施設について情報収集する。（1時間） 復習：ホームページ等を参考にして施設の概要等を記入する。（1時間） 宿題：授業課題を完成する。 Ｂ：少　Ｆ：あり 第5回　実習目標の立案 実習の目標を日誌に記入し、日々のねらい（具体的達成課題）について考える。 予習：実習目標の下書きを済ませる。（1時間） 復習：日々のねらい（具体的達成課題）を決定する。（1時間） 宿題：授業課題を完成する。 Ｂ：少　Ｆ：あり 第6回　保育・支援の観察と記録（時系列・エピソード記録） 保育実習における適切な記録のあり方、日々のねらい（具体的達成課題）に呼応した観察と記録のあり方を学ぶ。グループワークを通じて、実習生としてふさわしい記録について考える。 予習：保育実習Ⅰ（施設）の実習日誌を振り返り、自己課題を明確にする。（1時間） 復習：第6回授業終了時に配付されたプリント①に取り組み、保育用語・漢字を正しく用いることができるようにする。（1時間） 宿題：授業課題を完成する。 Ａ：中　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第7回　保育・支援の観察と記録（1日の学び） 日々のねらい（具体的達成課題）に呼応した観察・省察・記録のあり方を学ぶ。グループワークを通じて、実習生としてふさわしい記録について考える。 予習：第6回授業終了時に配付されたプリント②に取り組み、保育用語・漢字を正しく用いることができるようにする。（1時間） 復習：第7回授業終了時に配付されたプリント③に取り組み、保育用語・漢字を正しく用いることができるようにする。（1時間） 宿題：授業課題を完成する。 Ａ：中　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第8回　保育士の専門性と職業倫理 児童福祉法、全国保育士会倫理綱領等をもとに「保育士の専門性と職業倫理」について学ぶ。 予習：自分なりに「保育士の専門性と職業倫理とは何か」について考え、疑問点等を整理しておく。（1時間）

	復習：「私に必要な保育士としての専門性と職業倫理とは何か」をテーマにレポート課題に取り組む。（1時間） 宿題：授業課題を完成する。 Ｂ：少　Ｆ：あり　Ｇ：あり 第9回　保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 家庭の状況と支援方法、他専門機関・施設との連携の実際、個別支援計画について学ぶ。 予習：第8回授業終了時に配付されたプリントを読み、疑問点等を整理しておく。（1時間） 復習：授業プリントを読み返し、大切な箇所に下線を引く。（1時間） 宿題：授業課題を完成する。 第10回　保育の知識・技術を活かした保育実践① 部分実習指導案を立案する。 予習：これまでの実習と既習教科を復習し、実習施設に適切な部分実習について考える。（1時間） 復習：指導案を作成する。（1時間） 宿題：授業課題を完成する。 Ｂ：中　Ｆ：あり 第11回　模擬保育発表① 部分実習指導案を完成し、模擬保育の発表を行う（前半組）。 予習：部分実習に必要な準備物を確認する。 復習：発表者の良かった点・工夫していた点・改善点について記録する。（1時間） 宿題：授業課題を完成する。 Ｂ：中　Ｄ：多　Ｆ：あり 第12回　模擬保育発表② 模擬保育の発表を行う（後半組）。発表全体の振り返りを行う。 予習：部分実習に必要な準備物を確認する。 復習：発表者の良かった点・工夫していた点・改善点について記録する。（1時間） 宿題：授業課題を完成する。 Ｂ：中　Ｄ：多　Ｆ：あり 第13回　実習直前指導 保育実習Ⅲに向けた実習計画と課題を再確認する。 予習：実習日誌や関係書類をよく読み、提出忘れの書類や日誌に記入漏れがないか確認し、疑問点等を整理しておく。（1時間） 復習：実習日誌や関係書類をよく読み、オリエンテーションで指示された内容を正しく理解しているか確認し、持ち物等が揃っているか確認する。（1時間） 宿題：授業課題を完成する。 Ｂ：少　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第14回　実習直前ガイダンス 保育実習Ⅲにおける心得や態度、また実習中の事務連絡等の方法について確認する。 予習：学内オリエンテーション資料2枚に目を通し、疑問点等を整理しておく。（1時間） 復習：直前ガイダンスのプリント2枚を再度読み返す。（1時間） 宿題：実習が終了したら、自己評価票と実習報告書を完成させ、自己評価票と実習日誌は決められた期限までに実習センターへ提出する。 Ｂ：少　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第15回　実習事後指導（実習の総括と自己評価、課題の明確化） 実習を通した気付きや学びについて実習報告書をもとにプレゼンテーションを行う。 卒業後に必要な知識と態度を身につけるために、保育実習Ⅲの自己評価と今後の学びについて課題を明確にする。 実習報告書は授業終了時に回収する。 予習：実習報告書を完成させ、授業内のグループワークで5分程度の発表を行えるよう準備しておく。（1時間） Ｄ多
教育目標との関連	福祉現場で働く保育士に求められる倫理観や専門的知識を修得し、社会で活躍できる保育者としての資質を身につける。 既習教科に基づいて子ども・利用者への具体的な支援のあり方を模索し、同時に生活支援の技術を学ぶことで、施設保育士に必要な実践的知識と技能を身につける。 実習生としての立場を理解し、謙虚にかつ前向きに参加し、愛情をもって人と関わることができるよう、日頃の立ち振る舞いから指導を行うことで、社会生活に必要な礼節とマナーを身につける。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L01：保育実習の意義と目的を理解し、保育・支援について総合的に理解できる。 L02：保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解し、必要な方法を判断できる。 L03：実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得し、適切に使用できる。 L04：実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にし、説明できる。 L05：保育士の専門性と職業倫理について理解し、保育者としてふさわしい人間性を身につけ、他者と協調できる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	1.試験等の評価方法 授業関連の書類作成と諸手続き　30% 授業への取り組み及び提出物（期末レポートを含む）70% 2.ルーブリックによる評価基準 添付資料のルーブリックを基準
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	実習指導の最終授業において実習の振り返りを実施する。 また、実習後に訪問指導担当教員と個別に面談を行い、実習の振り返りを行う。
教科書	『改訂版 施設実習パーフェクトガイド』　守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵　わかば社　2023年　1,650円
参考書	授業内で適宜紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的	各回の予習・復習は上記の通り。 教科書・レジュメ・GoogleClassroomで配信された資料等を有効に活用し、授業内容の理解に努めること。

内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	保育実習Ⅰ(保育所) 並びに保育実習Ⅰ (施設)の単位を取得済であること。 原則、欠席・遅刻・早退は認められない。
オフィスアワー	質問は研究室またはGoogleClassroomの限定コメントで受け付ける。
備考・メッセージ	授業の理解度により、シラバスの内容を多少変更することがある。 富士フイルム社のICT日誌を利用する学生については別途指導時間を設ける。

講義科目名称： 保育実習Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称： Nursery Practical Training Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	２年	２単位	保育士選択必修
担当教員			
赤松　広美			
授業形態：実習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：G205
添付ファイル			
「保育実習Ⅲ」ルーブリック.pdf			

講義概要	「保育実習I(施設)」を踏まえ、保育所を除いた児童福祉施設等における実習内容をより深めることを目標とし、90時間以上の実習を行う。実践現場での体験を通して、施設保育士として必要な資質・能力・技術を学び、感性を磨くことを目指すと同時に、家庭と地域の実際を知る。 さらに、既習の教科と関連付けて、施設保育士が子ども・利用者に対して、具体的にどのような点に配慮をしつつ個別に支援を展開しているか理解し、自ら実践を試みる。 授業担当者は、障害者支援施設、児童発達支援センター、市福祉事務所での勤務経験、現場においての実習指導経験を有する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	以下の内容について、約11日間の実習を行う。教員が訪問指導を行い、スーパービジョンを実施する。 １．児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 ２．施設における支援の実際 （１）受容し、共感する態度 （２）個人差や生活環境に伴う利用児(者)のニーズの把握と利用児(者)理解 （３）個別支援計画の作成と実践 （４）利用児(者)の家族への支援と対応 （５）各施設における多様な専門職との連携・協働 （６）地域社会との連携・協働 ３．施設保育士の多様な業務と職業倫理 ４．施設保育士としての自己課題の明確化
教育目標との関連	施設で生活する子ども・利用者を受容し、共感する態度を養う。 個人差や生活環境に伴う子ども・利用者の潜在的ニーズを把握し、理解を深め、子ども・利用者及び家族への支援と対応を学ぶ。 さらに、社会的スキルを身につけ、他の専門職と円滑なコミュニケーションができる力を養う。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L01.　既習の教科や保育実習Ⅰ（施設）の経験を踏まえ、保育所以外の児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して理解し、自ら掘り下げて考えることができる。 L02.　家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養うことができる。 L03.　保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて説明できる。 L04.　実習における自己課題を明確にし、その評価を行うことができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	1.試験等の評価方法 実習施設が与えた評価　40% 実習日誌や評価票面談等による評価　60% 2.ルーブリックによる評価基準

期末試験・期末レポートのフィードバック方法	実習指導の最終授業において実習の振り返りを実施する。 また、実習後に訪問指導担当教員と個別に面談を行い、実習の振り返りを行う。
教科書	『改訂版 施設実習パーフェクトガイド』　守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵　わかば社　2023年　1,650円
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	保育実習指導Ⅲの授業内容について十分に復習しておくこと。 実習について省察を繰り返し行うこと。
履修上の注意、条件等	保育実習Ⅰ（保育所）並びに保育実習Ⅰ（施設）を修了していること。 本実習科目を履修するにあたっては、あわせて保育実習指導Ⅲを履修しなければならない。 本科目の単位が認定されない場合は、あわせて保育実習指導Ⅲの単位も認定されない。 原則、欠席・遅刻・早退は認められない。
オフィスアワー	質問は実習センターまたはGoogleClassroomで受け付ける。
備考・メッセージ	保育実習生として謙虚で誠実な態度、美しい言葉を心がけること。

講義科目名称： コンピューターサイエンス　　授業コード：

英文科目名称： Computer science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
秋学期	1年	１単位	卒業選択	
担当教員				
福田 尚子・本間美重子（補助）				
授業形態：演習	担当形態：単独		実務経験：あり	ナンバリング：H109
添付ファイル				
コンピュータサイエンスルーブリック.pdf			コンピュータサイエンスルーブリック	

講義概要	コンピュータサイエンスとは、１）コンピュータの仕組みやソフトウェアの動作原理、２）データの処理方法、３）アルゴリズム、４）プログラミング、５）ネットワーク、６）人工知能などを体系的に学ぶ学問です。単なるパソコンの使い方ではなく、コンピュータやICTを活用して問題を解決する力を養う学問です。近年、デジタル技術はあらゆる分野で活用されており、幼児教育においてもICTを取り入れる機会が増えています。そのため、幼児教育を学ぶ学生がコンピューターサイエンスの基礎を理解することは、次のような重要な意義があると考えています。 ①デジタルリテラシーの向上：未来の保育者として、ICTを適切に活用し、子どもたちに安全で効果的なデジタル教育を提供するためには、コンピュータの仕組みや基本操作を理解することが重要です。 ②プログラミング的思考の体得：日本の小学校では、すでにプログラミング教育が必修化されています。幼児期から「論理的に考える力」や「試行錯誤しながら学ぶ力」を育むことが大切であり、その指導を担う保育者にはコンピュータサイエンスの知識が求められます。 ③教育現場でのICT活用：タブレット端末やデジタル絵本、プログラミング玩具など、幼児向けのデジタル教材が増えています。これらを適切に活用し、遊びの中で学びを深める環境を整えるために、コンピュータサイエンスの基礎知識が必要になります。 【教員の実務経験】 外資系IT企業にて、コンサルティング、システム開発業務に従事。 その後、WEB制作会社にて、WEBディレクター職に従事。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとF	第1回　情報社会と保育におけるICTリテラシー～ロジカルシンキングの視点も加えて～ 情情報社会の影響を理解しICTリテラシーを高めるために、ICTの役割や幼児向けメディアの活用、保育現場での実践事例を紹介しながら、グループディスカッションを通して学びを深めます。また、ICT活用の基礎となるロジカルシンキング（論理的思考）についても簡単なワークを通じて体験し、今後のプログラミング的思考の土台を築きます。 予習：自分の暮らしの中でのICTの役割、幼児向けメディア活用の事例、保育現場でのICT活用の事例を調べる。（1時間） 復習：授業内容を踏まえ、社会におけるICTの役割、幼児向けメディア活用、保育現場でのICT活用について整理する。（1時間） A:多　B:中　E:有 第2回　viscuitで簡単プログラミングの体験 保育におけるプログラミング教育（viscuit）の導入事例について紹介するとともに、プログラミング言語viscuitの基本操作を体験しながら学ぶ。 予習：プログラミングとは何か、viscuitとは何か調べる。（1時間） 復習：viscuitのサイトを参考に、どのようなプログラミング例があるか調べ整理する。（1時間） A:中　B:中　E:有 第3回　viscuitでオリジナルアニメーションの作成 viscuitを使って、自分で考えたストーリーに合わせた動きをプログラミングによって表現し、オリジナルの短編アニメーションを作成します。 予習：物語の骨子を考える（コンセプトワーク）。（1時間） 復習：保育の現場でviscuitがどのように活用できそうか検討する。また、講義内で完成しなかった場合には期日までに仕上げて指定された方法で提出する。（1時間以上） A:中　B:中　E:有 第4回　Scratchによる基礎プログラミング Scratchの基本的な操作方法を学び、簡単なプログラムを作成します。 予習：Scratchとは何か調べ整理する。（1時間） 復習：プログラムを完成させる中でScratchの操作方法について復習する。（1時間） A:中　B:中　E:有 第5回　Scratchでゲーム作成（基礎編）

の宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。		Scratchを使って、シンプルなゲームの仕組みを理解し、制作します。 予習：ゲームコンセプト・構成について考える（1時間） 復習：ゲームを完成させ、指示された方法で提出する。（1時間） A:中　B:中　E:有
	第6回	Scratchで保育教材を作成（応用編） 第5回授業で制作したゲームを幼児向け教材として再設計し、制作します。ゲームやアニメーションの対象となる子どもの発達段階に応じた配慮・工夫をしながら取り組みます。 予習：教材のコンセプト・構成を考える。（1時間） 復習：教材を完成させ、指示された方法で提出する。（1時間） A:中　B:中　E:有
	第7回	人口知能（AI）を体験 AIでアイデアを広げる方法について、実際にAIを用いて考えていきます。 予習：AIが自分の身近でどのように使われているか調べる。（1時間） 復習：AIを使うことのメリット・デメリットについて年齢層に分けて、考えてみる。（1時間） A:中　B:中　E:有
	第8回	画像生成AIを体験 画像生成AIを用い、表現の幅を広げていきます。 予習：画像生成AIとは何かを調べる。（1時間） 復習：画像生成AIが得意なこと、不得意なことについて調べる。（1時間） A:中　B:中　E:有
	第9回	Scratchで”遊び”をデザイン 保育現場で活用できるインタラクティブ教材を一からデザインします。具体的には、図鑑教材をScratchを用いて制作します。ある条件下で、音声を出したり、動きを付けたりして、インタラクティブな教材作りを目指します。 予習：どのような教材にするかコンセプト・構成を考える。（1時間） 復習：教材を完成させて、指示された方法で提出する。（1時間） A:中　B:中　E:有
	第10回	Scratchでデザインした教材の発表会 Scratchでデザインした教材を1人ずつ発表していきます。教材に対する、ねらい・工夫した点、課題をクラス内で発表します。また、他者の教材に対して、フィードバック（良い点・改善点）をします。他者の教材を見ることで、新しいアイデアを得ることもできます。 予習：発表の準備をする。（1時間） 復習：自分の教材の改善点についてまとめ、指示された方法で提出する。（1時間） A:中　B:中　E:有
	第11回	KOOVでロボット制作～組み立てと基本プログラム～ LED点灯/モーター動作など基本機能を理解し、プログラム（ソフトウェア）とブロック（ハードウェア）のつながりを知ります。 予習：KOOVとは何か、Web検索を使って調べる。（1時間） 復習：制作したプログラム内容、KOOVブロックの動きをまとめて指示された方法で提出する。（1時間） A:中　B:中　E:有
	第12回	KOOVでロボット制作～遊べるおもちゃを作る～ 組み立てたブロックに、プログラム（動く・音を鳴らず・光らせる）を取り入れた動きをつけていきます。 予習：KOOVでどのようなおもちゃを作ることができるかアイデアをまとめる。（1時間） 復習：制作したプログラム内容、KOOVロボットの動きをまとめて指示された方法で提出する。（1時間） A:中　B:中　E:有
	第13回	KOOVでロボット制作～遊びをデザイン～ 保育場面を想定したKOOVを用いた遊びをデザインします。 予習：遊びのコンセプト・構成を考える。（1時間） 復讐：デザインした遊びの内容をまとめ、指示された方法で提出する。（1.5時間） A:中　B:中　E:有
	第14回	KOOVを用いた遊びの発表準備 第13回授業で考えた、KOOVを用いた遊びについてクラス内で発表する準備を行います。遊びに対する、ねらい・工夫した点、課題をプレゼン資料にまとめます。 予習：遊びのデザインを完成させる。（1時間） 復讐：次回発表に向けて、準備する。（2時間） A:中　B:中　E:有
	第15回	成果発表会と振り返り KOOVを用いた遊びの内容を発表します。遊びに対する、ねらい・工夫した点、課題をクラス内で

	発表します。また、他者の遊びに対して、フィードバック（良い点・改善点）をします。他者の制作物を見ることで、新しいアイデアを得ることもできます。 予習：発表準備をする。（1時間） 復讐：改善点をまとめて、指示された方法で提出する。（2時間） A:中　B:中　E:有
教育目標との関連	Society 5.0（ソサエティ5.0）に向っている情報社会に必要な教養を身につけ、その中で保育者として働くための確かな知識と教育方法を身につける。
到達目標　（学修成果）　　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．システム思考・プログラミング思考に基づいた考え方や判断ができる。 ２．プログラミングの基礎理論を理解した上で初等教育における指導の基本的な実践ができる。 ３．STEAM教育など情報社会の課題に関心を持ち、その課題に対して積極的に関わることができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	＜評価方法＞ 期末レポート　　４０％ 演習課題　　６０％ 演習課題は、授業中に行い演習（ワークシート・プログラミング課題など）で評価する。 ＜評価基準＞ 別途、ルーブリックに従う。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	Google classroomにてフィードバックする
教科書	教科書については特に指定しない。 必要な授業資料はGoogle classroomにて提示します。
参考書	viscuit https://www.viscuit.com/ Scratch https://scratch.mit.edu/ KOOV https://www.koov.io/
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	予習並びに復習はネット環境が必要です。 復習においては、課題で製作したプログラムをアレンジするものもあります。
履修上の注意、条件等	本科目のGoogle classroomに必ず登録してください。
オフィスアワー	月曜日から木曜日
備考・メッセージ	初心者からのプログラミング入門になります。プログラミングやシステムの学習を通して、論理的・プログラミング的な思考ができるようにしましょう。

講義科目名称： 児童文化　　授業コード：

英文科目名称： Children's Culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年	1単位	卒業選択
担当教員			
相澤京子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：なし	ナンバリング：H203
添付ファイル			
「児童文化」ルーブリック2025.pdf			

講義概要	現代社会では様々な場面において「文化」が伝承の危機を迎えている。こどもに関しても例外ではなく、都市部の開発による環境の変化や少子化等により、こどもが自由に遊ぶことが困難となり、「児童文化」が伝承しにくい状態になって久しい。しかし、こどもたちの発達を助け、感性を豊かにするためには児童文化財は欠かせないものであることから、乳幼児にかかわる保育者を目指す者として「児童文化」の理解は必要不可欠である。そこで、本講義では、絵本はじめとする様々な児童文化財を取り上げ、実践してみることにより、保育環境の中でどのように活用できるのかを体験的に学ぶことを目的とする。 他の科目との関連：「幼児と言葉」「保育内容（言葉）の指導法」などの授業で学んだ絵本の知識や言語表現技術の実践をさらに深化・発展させる。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション―児童文化とは何か― シラバスを用いて、本演習のねらいと内容、及び受講上の注意と約束を説明する。 児童文化の種類を学生自身の経験を振り返ることによってまとめる。 予習：シラバスをよく読み、科目の全体像を把握しておく。（約1時間） 復習：配布したプリントの内容を踏まえ、こどもにとっての遊びの意義について自身の考えをまとめる。（約1時間） D:中　E:あり 第2回　保育教材としての絵本 絵本の絵の法則やこども特有の見方について学ぶ。さらに、図書館で実際の絵本を使って絵の法則を確認する。 予習：こどもの発達段階にふさわしい絵本について調べておく。（約1時間） 復習：絵本の絵の法則について、実際の絵本で確認しておく。（約1時間） A:中 第3回　絵本作家研究 指定した絵本作家の人生と作品について学ぶ。さらに、図書館にある作品を読み、その絵本作家の特徴と魅力について分析する。 予習：指定した絵本作家について調べておく。（約1時間） 復習：指定した絵本作家の作品を探して読む。（約1時間） A:中 第4回　日本と外国の昔話 日本と外国の代表的な昔話の内容を確認する。さらに、昔話絵本の比較を行った上で、保育現場での活用方法についてグループディスカッションを行う。 予習：自身の知っている昔話をまとめておく。（約1時間） 復習：授業で取り上げた以外の昔話絵本を探して読む。（約1時間） B:中 第5回　保育教材の製作と実践 くつした人形の製作と実演を行う。 予習：自身の製作する作品をイメージしながら材料を準備する。（約1時間） 復習：保育現場におけるくつした人形の活用方法を考える。（約1時間） A:多　D:中 第6回　伝承遊びの歴史と意義 伝承遊びの種類と歴史を知る。さらに、折り紙・あやとり等の伝承遊びを実践した上で、伝承遊びの魅力とこどもにとっての意義を考える。 予習：自分の知っている伝承遊びについてまとめておく。（約1時間） 復習：授業で取り上げなかった伝承遊びを調べ、実践する。（約1時間） A:多 第7回　伝承遊びの実践 お正月に関する伝承遊びを実践する。 予習：お正月に関する伝承遊びについてまとめておく。（約1時間） 復習：授業で取り上げなかったお正月に関する伝承遊びを調べ、実践する。（約1時間） A:多 第8回　学びの振り返り 授業の総括を行うとともに、本科目の到達目標を振り返ることにより今後の学習課題を明確にする。 予習：これまでの授業のノート・プリント類を整理し、見直す。（約2時間） E:あり
教育目標との関連	様々な児童文化財を知り、実践することは、保育者として必要な知識と実践力を身につけることにつながる。その中で、こどもが生きる地域や社会、文化に関心を持つとともに、多様な他者との協調性を図れるようになる。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現	L01.こどもの育ちにとっての児童文化財の意義を理解し、説明できる。 L03.こどもの発達段階に適した児童文化財を選択し、実践できる。

４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	期末試験　50%　・授業の内容全般を理解し、自分の言葉で説明できるかを評価する 授業における取り組み　40%　・授業内での主体的な取り組み、作品の理解度、表現力を評価する 課題等の取り組み　10%　・授業内容を理解した上で教材研究を行っているかを評価する 成績評価は添付資料のルーブリックを参照すること。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第8回の授業で期末試験の解説と振り返りを行う。
教科書	必要に応じてプリントを配布する。授業スライドはGoogleクラスルームに掲載する。
参考書	『保育における子ども文化』松本峰雄編（わかば社、2014）1,980円（税込）
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の準備学習は上記の通りである。授業で取りあげた以外にも、児童文化財に触れる機会を意識的に増やしてもらいたい。
履修上の注意、条件等	保育教材の製作のため、材料費が100円程度かかる。 シラバスの内容は履修学生の人数等によって変更の可能性もある。
オフィスアワー	103研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。また、Googleクラスルームの限定コメントでも受け付ける。
備考・メッセージ	すべて対面授業で行う。 授業中に遊びを実践したり、作品を演じたりする機会があるため、意欲的に参加することが求められる。

講義科目名称： 幼児音楽入門（ピアノ）Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称： Introduction to Musical Study for Child Education(piano)Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	卒業選択
担当教員			
宮本　眞理子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：D101
添付ファイル			
「幼児音楽入門(ピアノ)」Ⅰルーブリック.pdf			

講義概要	幼い頃の歌いたいという体験や、リズムに合わせて身体が揺れるという体験を誰もが思い出すことができるだろう。そのような感性豊かな乳幼児期に音楽の楽しさを伝えることは、保育者の大切な役目である。 この授業は、ピアノ初心者のための入門のコースである。ピアノが弾ける・歌える保育者になるために、楽譜を読む・書く・歌う・弾く、また音を聴き取るなどの基礎的な訓練を重ねて実践力をつけていく。 担当教員(宮本)は、音楽大学附属の音楽教室、高等学校音楽科での高度な音楽教育に携わって来た実務経験を生かし、初心者向けの読譜力アップの授業に力を入れている。またピアノ実技については効果的で分かりやすい練習方法を取り入れた授業を行なっている。 他の科目との関連：「幼児音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「声楽Ⅰ・Ⅱ」などの音楽科目全般と、「幼児と表現」「保育内容（表現）の指導法Ⅰ・Ⅱ」に関連がある。また、実習で弾くことになる『こどものうた』も学ぶので、実習とも関連がある。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　音楽の基礎を学ぶ（1）　授業内容について 授業の内容と進め方について説明を受ける。 理論：譜表（五線と加線）・音部記号 読む：ピアノの中央と低い方のドレミファソ（10音）を覚える。10枚の音符カードを読み、ピアノで鳴らす。 書く：短いメロディーを高さをかえて書く。（プリントA1） 弾く：ピアノを弾く時の姿勢や手の形について説明を受ける。左右の手の指番号を覚える。 聴き取る：2音の高さの違いを聴き分ける。。（プリントA1） 予習・復習　ピアノの中央と低い方のドレミファソ（10音）を覚える。左右の手の指番号を確実に覚える。　（毎日20分） A：中　F：あり 第2回　音楽の基礎を学ぶ（2） 理論：音の並びについて知る。（上行ドレミファソラシド・下行ドシラソファミレド） 上行・下行共どの音からでも言えるようにする。 読む：10枚の音符カードを読み、ピアノで鳴らす。 「ぶんぶんぶん」（ステップ1）にドレミをふる。 歌う・弾く：「ぶんぶんぶん」の右手をドレミで歌いながら弾く。 聴き取る：聴いた音をラララで歌う。 プリント学習　：　B1 予習・復習　10音をピアノで確認し覚える。 「ぶんぶんぶん」（ステップ1）の右手を練習する。　（毎日20分） A：中　F：あり 第3回　音楽の基礎を学ぶ（3） 理論：音符と休符①（単純音符・単純休符の長さ） 読む：中央から下のドシラを覚える。（13音）　ピアノで鳴らして確認する。 「ぶんぶんぶん」（ステップ2）の左手部分にドレミをふる。 歌う・弾く：「ぶんぶんぶん」（ステップ1）を弾く。 「ぶんぶんぶん」（ステップ2）の練習の仕方を学ぶ。 バイエルNo.44を歌いながら弾き、音符の長さを確認する。 プリント学習　：　B2 予習・復習　13音をピアノで確認し覚える。 「ぶんぶんぶん」（ステップ1･2）とバイエルNo.44を練習する。　（毎日30分） A：中　F：あり 第4回　音楽の基礎を学ぶ（4） 理論：音符と休符②（付点音符・付点休符の長さ） 読む：13枚の音符カードを読み、ピアノで鳴らす。 知っているこどものうた（プリントA2）にドレミをふる。 書く：ト音記号・ヘ音記号を正しく書く。（プリントA2） 歌う・弾く：フランスのソルフェージュ教材より。 「ぶんぶんぶん」（ステップ1・2）を弾く。 バイエルNo.44を弾き、音符の長さについて復習する。 プリント学習　：　B3 予習・復習　13音をピアノで確認し覚える。 「ぶんぶんぶん」（ステップ1・2）を練習する。　（毎日30分）

A：中　F：あり

第5回　音楽の基礎を学ぶ（5）
理論：リズムと拍子（拍と拍子・拍子記号）
読む：高い方のドレミファソを増やす。（18音）　ピアノで鳴らして確認する。
線のところの音（ドミソシレファラド　ドラファレシソミド）を楽譜を見ながら言えるようにする。（プリントA2）
「チューリップ」（ステップ2）にドレミをふる。
書く：ピアノの中央の音域のメロディーを高い方と低い方に書きかえる。（プリントA2）
弾く：「チューリップ」（ステップ1・2）の練習の仕方を学ぶ。
プリント学習　：　B4

予習・復習　18音をピアノで確認し覚える。
線のところの音を言えるようにする。
「チューリップ」（ステップ1・2）を練習する。　（毎日30分）
A：中　F：あり

第6回　音楽の基礎を学ぶ（6）
理論：和音
読む：ピアノの中央と高い方・低い方のドレミファソを復習する。（15音＋3音）
モーツァルトの「メヌエット」（プリントA3）にドレミをふる。
書く：問題の音の上に2つの音を重ねて和音にする。
大譜表で音をさがす。（プリントA3）
歌う：フランスのソルフェージュ教材より。
弾く：「チューリップ」（ステップ1・2）を弾く。

予習・復習　18音をピアノで確認し覚える。
「チューリップ」（ステップ1・2）を練習する。　（毎日30分）
A：中　F：あり

第7回　音楽の基礎を学ぶ（7）
理論：　音符の棒の付け方について
読む：ピアノの中央と高い方のドレミファソの間のラシを増やす。（20音）　ピアノで鳴らして確認する。
「おおきなたいこ」（プリントA4）にドレミをふる。
和音を下から読むことを覚える。（プリントA5）
書く：問題のドレミの音をリズム通りに書く。（プリントA3）
歌う・弾く：フランスのソルフェージュ教材より。　ヘ音記号のメロディーを左手で弾いて歌う。
「チューリップ」（ステップ1・2）を弾く。

予習・復習　20音をピアノで確認し覚える。
フランスのソルフェージュ教材を復習する。　（毎日30分）
A：中　F：あり

第8回　音楽の基礎を学ぶ（8）
理論：調（調子記号）
読む：これまでの20音を復習する。ピアノで鳴らして確認する。
「ちょうちょ」（ステップ2）にドレミをふる。
書く：問題の音の上に2つの音を重ねて和音にする。（プリントA4）
歌う・弾く：フランスのソルフェージュ教材より。　ヘ音記号のメロディーを左手で弾いて歌う。
「ちょうちょ」（ステップ1・2）の練習の仕方を学ぶ。

予習・復習　20音をピアノで確認し覚える。
「ちょうちょ」（ステップ1）を練習する。
「ちょうちょ」（ステップ2）の左手の伴奏形を練習する。　（毎日30分）
A：中　F：あり

第9回　音楽の基礎を学ぶ（9）
読む：ヘ音記号の低いシラソファを増やす。（24音）ピアノで鳴らして確認する。
こどものうた3曲（プリントA5）にドレミをふる。
書く：問題の音の上に2つの音を重ねて和音にする。（プリントA5）
歌う・弾く：フランスのソルフェージュ教材より。　ヘ音記号のメロディーを左手で弾いて歌う。
「ちょうちょ」（ステップ1・2）を弾く。
プリント学習　：　B5

予習・復習　24音をピアノで確認し覚える。
「ちょうちょ」（ステップ1・2）を練習する。　（毎日30分）
A：中　F：あり

第10回　音楽の基礎を学ぶ（10）
読む：これまでの24音を復習する。ピアノで鳴らして確認する。
「スワニー河」（プリントA6）にドレミをふる。
書く：問題のドレミの音をリズム通りに書く。（プリントA4）
歌う　・弾く：「あくしゅでこんにちは」のメロディーをピアノで弾きながらドレミで歌う。
フランスのソルフェージュ教材より。　ヘ音記号のメロディーを左手で弾いて歌う。
「ちょうちょ」（ステップ2）を弾く。

	予習・復習　24音をピアノで確認し覚える。 「あくしゅでこんにちは」のメロディーをドレミで歌う。 「ちょうちょ」（ステップ2）を練習する。　（毎日30分） A：中　F：あり 第11回　音楽の基礎を学ぶ（11） 理論 ： 調子記号と臨時記号　＃シャープと♭フラットについて学ぶ。　鍵盤の上で位置を確認する。 読む：大譜表の外側の加線2本の音ドを覚える。知っているドの位置をピアノで確認する。 レミ・ラシの読み方も知る。 「楽しいね」（プリントA7）にドレミをふる。 書く：問題の音の上に2つの音を重ねて和音にする。（プリントA6） 歌う・弾く：「きらきら星」のメロディーをピアノで弾きながらドレミで歌う。 フランスのソルフェージュ教材より。 「ぶんぶんぶん」を復習する。 予習・復習　24音と加線2本のドをピアノで確認し覚える。 「きらきら星」のメロディーをドレミで歌う。 「ぶんぶんぶん」を練習する。　（毎日30分） A：中　F：あり 第12回　音楽の基礎を学ぶ（12） 理論：これまでの復習をする。① 読む ： 大譜表の内側の加線の音の読み方を知る。　楽譜の音の重なり具合を確認する。 モーツァルトの「メヌエット」（プリントA8）にドレミをふる。 歌う・弾く ：「おかたづけ」のメロディーをピアノで弾きながらドレミで歌う。 フランスのソルフェージュ教材より。 「チューリップ」を復習する。 プリント学習 ： B6・B7 予習・復習　24音をピアノで確認し、確実に覚える。 五線の外側・内側の音も理解する。 「おかたづけ」のメロディーをドレミで歌う。 「ぶんぶんぶん」「チューリップ」を練習する。　（毎日30分） A：中　F：あり 第13回　音楽の基礎を学ぶ（13） 理論 ： これまでの復習する。② 読む ： 音符カードを使って24音をピアノで確認する。 加線の音の読み方を復習する。 「エチュード　メロディーク」（プリントA9）にドレミをふる。 歌う・弾く：「ハッピー　バースデー」のメロディーをピアノで弾きながらドレミで歌う。 「ちょうちょ」を復習する。 プリント学習 ： B8 予習・復習　ドレミファソラシド　ドシラソファミレド ドミソシレファラド　ドラファレシソミドを復習し、途中からも言えるようにする。 「ハッピー　バースデー」のメロディーをドレミで歌う。 「ぶんぶんぶん」「チューリップ」「ちょうちょ」を練習する。　（毎日30分） A：中　F：あり 第14回　音楽の基礎を学ぶ（14） 読む ： これまでの音符カードから3枚を読み、続けてピアノで鳴らす。 弾く ：「ぶんぶんぶん」「チューリップ」「ちょうちょ」を練習する。 プリント学習 ： B 9・B10 予習・復習　これまでに学んだことをプリントを見ながら復習する。 「ぶんぶんぶん」「チューリップ」「ちょうちょ」を練習する。　（毎日30分） A：中　F：あり 第15回　音楽の基礎を学ぶ（15） 理論：これまでに学んだことをプリントを見ながら復習する。 読む ： これまでの音符カードから3枚を読み、続けてピアノで鳴らす。 歌う・弾く ： 「ぶんぶんぶん」「チューリップ」「ちょうちょ」をドレミで歌いながら弾く。 遊びを工夫する： トーンチャイムを使った遊びを学ぶ。　・音の高低を楽しむ。　・リズム遊びを楽しむ。 A：中　D：少　F：あり
教育目標との関連	この科目は、音楽の基礎技能や現場で役に立つ音楽指導力を身につける科目の準備段階になる。次の段階では、音楽の喜び・楽しさを知ることにより、これから関わる子どもたちにも音楽の喜び・楽しさを伝えられるようになる。保育者としての実践的な技能と共に、豊かな感性と愛の心を育てることにつながる。
到達目標　（学修成果）　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会	L01知識・理解　基礎的な知識を理解し、楽譜を見て歌ったりピアノで演奏したりすることができる。 L02思考・判断　子どもたちにどのように音楽の楽しさを伝えるかを様々な角度から考えることができる。 L04関心・意欲　歌ってみよう弾いてみようと意欲的に取り組むことができる。

性	
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	プリント課題　60%　　毎回プリント学習により理解度の確認を行い、その成果を評価する。 期末試験としてのまとめテスト　20%　　授業の内容全般についての理解度を評価する 平常点評価　20%　　音楽の基礎力アップのための取り組みと成果を評価する。（ピアノ実技、音符カード等） 成績評価は添付資料のルーブリックを参照
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	期末試験（まとめテスト）後に解説を行い、理解を深め今後に生かして行く。
教科書	『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第1巻』 大海由佳 他　学研パブリッシング　2023　1,500円（税抜） 『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第2巻』 大海由佳 他　学研パブリッシング　2023　1,500円（税抜）
参考書	大学所有のものを貸与して使用する。 ・フランスのソルフェージュ教材 その他適宜プリントを配付する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	小さな積み重ね（くり返し）の努力が大きな成果となる。 「幼児音楽」の授業で使用する楽譜を身近に置き、読んだり歌ったり弾いたりすると良い。ピアノの練習をドレミで歌いながらすると読譜も早くなり歌も上達する。 準備学習の音符カードとピアノの課題は必ず行うこと。（毎日20分～30分）
履修上の注意、条件等	入学時の音楽調査により読譜力アップが必要と思われる者に履修を勧める。
オフィスアワー	質問等に関しては授業後に受け付ける。
備考・メッセージ	全回を対面授業で行う。

講義科目名称： Intensive Listening　　授業コード：

英文科目名称： Intensive Listening

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
春学期	1年・専攻科	1単位	卒業選択	
担当教員				
Mary　Jones				
授業形態：演習	担当形態：演習		実務経験：あり	ナンバリング：E108
添付ファイル				
ルーブリック評価　Intensive Listening.pdf				

講義概要	Many Japanese students say listening is the most difficult skill for them when it comes to studying English.　Although, they have studied English since elementary school, Japanese education often does not spend enough time on native pronunciation of English. By the time they enter university, the often frustrated and don't understand why they can't understand native speakers. In this course, we will be focusing on improving listening skills.　We will learn about syllables, intonation and how English sounds compared to how it is written. We will also use this information to improve their pronuncation. Mary Jones has over 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students' communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	Class 1　Where's the hot spring on this map? ・Gain awareness of the vowel at the end of most Japanese words ・Prevent that vowel from intruding into your English ・Focus on sounds: F & V ・Rhythm pattern English/Japanese: Vehicles and transportation A: 少　B:少　E: あり　F:あり Practice, then record yourself reading the sentences on page 16. (20 min) Do listening comprehension on page 15. (20 min) Record yourself reading the sentences on page 18 for the next class. (5 min) Class 2　Exercise more regularly to stay healthy. ・Focusing on differences in pronunciation of English katakana words in Japanese and English ・Learning about syllables ・Focus on sounds: Th ・Rhythm pattern English/Japanese: Sports A: 少　B:少　E: あり　F:あり Practice, then record yourself reading the sentences on page 23. (20 min) Do listening comprehension on page 22. (20 min) Record yourself reading the sentences on page 25 for the next class. (5 min) Class 3　We have three children and two dogs. ・Focusing on intonation in English words ・Comparing intonation in katakana words English and Japanese ・Focus on sounds: a/e ・Rhythm pattern English/Japanese: People/Family A: 少　B:少　E: あり　F:あり Practice, then record yourself reading the sentences on page 30. (20 min) Do listening comprehension on page 29. (20 min) Record yourself reading the sentences on page 32 for the next class. (5 min) Class 4　Enjoy the rest of your stay in Hawaii! ・Focusing on the accent of katakana words in English ・Focus on sounds: L ・Rhythm pattern English/Japanese: Place Names/Countries A: 少　B:少　E: あり　F:あり Practice, then record yourself reading the sentences on page 37. (20 min) Do listening comprehension on page 36. (20 min) Record yourself reading the sentences on page 39 for the next class. (5 min) Class 5　i'm an assistant manager.

		・Focusing on intonation in longer English words ・Focus on sounds: R ・Rhythm pattern English/Japanese: Jobs A: 少　B:少　E: あり　F:あり Practice, then record yourself reading the sentences on page 44. (20 min) Do listening comprehension on page 43. (20 min) Record yourself reading the sentences on page 46 for the next class. (5 min)
	Class 6	We're looking for a drug store. ・Focusing on sounds made of two combined consonants ・Focus on sounds: a/u/o ・Rhythm pattern English/Japanese:Buildings A: 少　B:少　E: あり　F:あり Practice, then record yourself reading the sentences on page 51. (20 min) Do listening comprehension on page 50. (20 min) Record yourself reading the sentences on page 53 for the next class. (5 min)
	Class 7	Go straight down this street ・Focusing on sounds made of three combined consonants ・Focus on sounds: i/u/oo ・Rhythm pattern English/Japanese: Verbs 1 A: 少　B:少　E: あり　F:あり Practice, then record yourself reading the sentences on page 58. (20 min) Do listening comprehension on page 57. (20 min) Record yourself reading the sentences on page 60 for the next class. (5 min)
	Class 8	You should always help each other ・Focusing on changes in speech: Words linking ・Focus on sounds:p/t/k ・Rhythm pattern English/Japanese: Words related to time A: 少　B:少　E: あり　F:あり Practice, then record yourself reading the sentences on page 65. (20 min) Do listening comprehension on page 64. (20 min) Record yourself reading the sentences on page 67 for the next class. (5 min)
	Class 9	I won't let you down. ・Focusing on changes in speech: Sounds combining ・Focus on sounds: s/sh ・Rhythm pattern English/Japanese: Verbs 2 A: 少　B:少　E: あり　F:あり Practice, then record yourself reading the sentences on page 72. (20 min) Do listening comprehension on page 71. (20 min) Record yourself reading the sentences on page 74 for the next class. (5 min)
	Class 10	Did you have a good time? ・Focusing on changes in speech: Dropped consonants ・Focus on sounds:w/j ・Rhythm pattern English/Japanese: Clothing A: 少　B:少　E: あり　F:あり Practice, then record yourself reading the sentences on page 79. (20 min) Do listening comprehension on page 78. (20 min) Record yourself reading the sentences on page 81 for the next class. (5 min)
	Class 11	What kind of sports do you like? ・Intonation in sentences: Content words and function words ・Focus on sounds: aer/ur ・Rhythm pattern English/Japanese: Adjectives A: 少　B:少　E: あり　F:あり Practice, then record yourself reading the sentences on page 86. (20 min) Do listening comprehension on page 85. (20 min) Record yourself reading the sentences on page 88 for the next class. (5 min)
	Class 12	What do you think of his plan? ・Intonation in sentences: Chunking ・Focus on sounds: ei/ou

	・Rhythm pattern English/Japanese: Verbs 3 A: 少　B:少　E: あり　F:あり Practice, then record yourself reading the sentences on page 93. (20 min) Do listening comprehension on page 92. (20 min) Record yourself reading the sentences on page 95 for the next class. (5 min) Class 13　Would you like another one? ・Intonation in questions ・Focus on sounds: m/n ・Rhythm pattern English/Japanese: Animals A: 少　B:少　E: あり　F:あり Practice, then record yourself reading the sentences on page 100. (20 min) Do listening comprehension on page 99. (20 min) Record yourself reading the sentences on page 102 for the next class. (5 min) Class 14　Let me have a look. ・Review of units 1-7 using daily conversation ・Focus on sounds: t+n / d+n ・Rhythm pattern English/Japanese: School A: 少　B:少　E: あり　F:あり Practice, then record yourself reading the sentences on page 107. (20 min) Do listening comprehension on page 106. (20 min) Record yourself reading the sentences on page 109 for the next class. (5 min) Class 15　It's a pleasure to meet you. ・Review of units 8-13 using daily conversation ・Focus on sounds: たたき音 ・Rhythm pattern English/Japanese: Stationary A: 少　B:少　E: あり　F:あり Practice, then record yourself reading the sentences on page 16. (20 min) Do listening comprehension on page 15. (20 min) Review for the final exam (2 hours) Final Exam　Final Exam Final Exam
教育目標との関連	In this class, the students will markedly improve their English skills.
到達目標　(学修成果)　　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	LO2: Students will gain the English listening skills needed to understand short speeches and simple conversations LO1: Students will show a better understanding and appreciation of native English pronunciation and intonation LO3: Students will show a marked improvement in their pronunciation.
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	Final Exam: 40% Listening Quizes: 20% Listening homework: 20% Pronunciation homework: 20%
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	After the final exam, detailed feedback will be given through google classroom.
教科書	「Rhythm Pattern Listening」Yoshiki Takayama 著　金星堂出版社
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	There will be listening and pronunciation homework every week through google classroom. (30 min)
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	I will take questions before and after each class.
備考・メッセージ	This class will be conducted in person on online.　Approximately 10 classes will be in person and 5 classes will be available on demand through google classroom.

講義科目名称： 異文化体験Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称： Intercultural Experience Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年	1単位	卒業選択
担当教員			
Mary Jones、大見由香、八木真祈			
授業形態：演習	担当形態：オムニバス	実務経験：あり	ナンバリング：H205
添付ファイル			
異文化Ⅱ Rubric2025.pdf			

講義概要	グローバルな時代において日本国内でも多様な文化社会がある。本科目では体験を通して、異文化を理解し、多様な物の見方ができるようになることを目指す。前半はそのためのツールとなる英語力の向上を目指した内容であり、留学先での授業の受講や英語社会で通用するための英語力アップのための内容を含む。後半はEnglish Campがメインとなる。英語オンリーの環境の中、収穫祭やクリスマスの制作などを通してアメリカの文化を体験する。本授業は特別授業期間に実施する。 実務経験 ジョーンズは20年間英語を教えた経験があります。保育園から小学校、大学生と社会人まで教えた経験から、コミュニケーションに自信が付くように授業を行います
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　留学英語準備1 リスニングの模擬テストを受けてみて各自の課題を見出す。 復習：授業で行った課題を復習する。（1時間） A: 中　B:少　D:少　E:あり　F:あり 第2回　留学英語準備2 文法の演習を行う。 予習・復習：授業で提示された課題を復習する。（1時間） A: 中　B:少　D:少　E:あり　F:あり 第3回　留学英語準備3 リーディングの演習を行う。 予習・復習：授業で提示された課題を復習する。（1時間） A: 中　B:少　D:少　E:あり　F:あり 第4回　留学英語準備4 Vocabularyの演習を行う。 予習・復習：授業で提示された課題を復習する。（1時間） A: 中　B:少　D:少　E:あり　F:あり 第5回　留学英語準備5 模擬テストを受けて各自の課題を見出す。 予習・復習：授業で提示された課題を復習する。（1時間） A: 中　B:少　D:少　E:あり　F:あり 第6回　留学英語準備6 各自の課題の分野を向上させる。 予習・復習：授業で提示された課題を復習する。（1時間） A: 中　B:少　D:少　E:あり　F:あり 第7回　English Event 1 ネイティブの英語教員と英語のみの環境で会話を学ぶ。 復習：授業で行った会話を復習し、身につけておく。（1時間） A：中 第8回　English Event 1　季節の製作1 Thanksgivingについて学び、製作を行う。 予習：Thanksgivingについて調べておく（30分） 復習：授業で制作を行った際の英語表現を振り返る。（30分） C：多 第9回　English Event 1　季節の製作2 Christmas について学び、製作を行う。 予習：Christmasの習慣について調べておく（30分） 復習：授業で制作を行った際の英語表現を振り返る。（30分） C：多 第10回　English Event 2　感謝祭について学ぶ1 Thanksgivingについて学び、ターキーの調理を行う。 予習・復習ターキー調理の際の英語表現を振り返る。（1時間） C：多 第11回　English Event 2　English Conversation1 ネイティブの英語教員と英語のみの環境で会話を学ぶ。 復習：ネイティブの英語教員の会話について、ビデオなどで課題点を振り返り、練習する。（1時間） C：多 第12回　English Event 2　感謝祭について学ぶ2 感謝祭のディナーの説明を受け、テーブルセッティングを行いディナーを体験する。 予習・復習：感謝祭のディナーの風習について振り返る。（1時間） C：多 第13回　English Event 3　English Conversation2 ネイティブの英語教員と英語のみの環境で会話を学ぶ。

	復習：ネイティブの英語教員の会話について、ビデオなどで課題点を振り返り、練習する。（1時間） C：多 第14回　English Event 3　英語の歌や手遊びを学ぶ 英語の歌や手遊びを学び、実際に歌う。 復習：授業で覚えた歌を練習する。（1時間） C:あり　E:あり　F：あり 第15回　English Event 3　まとめ English Camp で経験したことを各自でまとめ、英語で発表する。 宿題：期末レポート「異文化体験Ⅱの授業で学んだこと」（1時間） D：多 E：あり F:あり
教育目標との関連	国内における異文化体験を通して、他者や多様性を理解し、豊な感性と愛の心を育てる。グローバル市民として自らの視野を広げ、共感性や豊な表現力を身につけ、さらに自身の生き方について考えることができる。
到達目標　（学修成果）　　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	L01.国内外での専門職としての保育者として必要な多文化・多様性について理解する。 L02.グローバルの視点において求められている役割について考え、問題解決に向けて適切に判断することができる。 L03.他者に傾聴し、自らコミュニケーションを実践・表現する。 L04.広い世界に関心をもち、自ら積極的に学びを深めることができる。 L05.他者および多様性を尊重し、深い愛情と共感性をもって他者に接したり、社会に貢献したりできる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	参加状況　30%　授業への参加と課題への取組状況（貢献度・事前準備を含む） 提出課題　30%　提出課題と発表 期末レポート　40%
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	フィードバックはGoogle Classroomにて配信する。
教科書	授業時間内に提示する。
参考書	なし
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	予習：授業のテーマについてあらかじめ考え、調べておくこと。 復習：授業で学んだことは必ず何度も復習し、身につけること。 合計最低1時間。
履修上の注意、条件等	積極的に取り組もうとする姿勢が求められる。
オフィスアワー	Google Classroomにて受け付ける
備考・メッセージ	

講義科目名称： 国際理解Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称： Basics of International Understanding1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	卒業選択
担当教員			
Mary　Jones			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：H111
添付ファイル			
ルーブリック評価　国際理解.pdf			

講義概要	As students of the International Early Education Course, you will have multiple opportunities to study abroad in different countries. While it is important to have English skills before studying abroad, it is also important to have a basic understanding of world cultures and history and how they affect the world today. In this class, you will learn basic world geography and history with a focus on English-speaking countries. We will also cover world religions and languages. The first four classes will be an overview, including basic world history, major world religions and language. We will then spend each of the next five classes focusing on one continent. The last four classes will focus on English speaking countries. Mary Jones has 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	Class 1　Introduction ・About this class - textbooks, folders ・Using Wikipedia to research ・About maps ・How to read ・Kinds of maps ・Continents・Oceans・Hemispheres・Time-Zones ・Size Vs Population ・United Nations・NATO・G7・G20 A: 中　B:少　E:あり　F:あり Writing Homework time: 1 hour Quiz Study time: 1 hour Class 2　World History ・Eras of world history ・Major empires through history ・Major world events A: 中　B:少　E:あり　F:あり Writing Homework time: 1 hour Quiz Study time: 1 hour Class 3　Religions of the World ・Major Religions of the world ・Christianity / Islam / Buddhism / Hinduism / Judaism / Shintoism ・Basic tenants ・Date founded / Major figures ・Rules and forbidden food ・Important dates and events ・Ancient Religions and Mythologies ・Norse / Greek / Roman ・Dates ・Examples of effects on English and cultures now A: 中　B:少　E:あり　F:あり Writing Homework time: 1 hour Quiz Study time: 1 hour Class 4　Language ・Most spoken languages in the world ・Writing systems ・Language Families ・Relationship of Japanese to English ・Japanese words in English ・Foreign words in Japanese that are not English ・Brief history of the English language A: 中　B:少　E:あり　F:あり Writing Homework time: 1 hour Quiz Study time: 1 hour Class 5　Continents - Europe

		・Major physical features (seas, rivers, mountains, desert,etc) ・Regions ・Major countries and cities ・Major historical events ・Famous buildings and sightseeing sites A: 中　B:少　E:あり　F:あり Fact sheet preparation time: 2 hours Quiz Study time: 1 hour
	Class 6	Continents - Asia ・Major physical features (seas, rivers, mountains, desert,etc) ・Regions ・Major countries and cities ・Major historical events ・Famous buildings and sightseeing sites A: 中　B:少　E:あり　F:あり Fact sheet preparation time: 2 hours Quiz Study time: 1 hour
	Class 7	Continents - North America ・Major physical features (seas, rivers, mountains, desert,etc) ・Regions ・Major countries and cities ・Major historical events ・Famous buildings and sightseeing sites A: 中　B:少　E:あり　F:あり Fact sheet preparation time: 2 hours Quiz Study time: 1 hour
	Class 8	Continents - South America ・Major physical features (seas, rivers, mountains, desert,etc) ・Regions ・Major countries and cities ・Major historical events ・Famous buildings and sightseeing sites A: 中　B:少　E:あり　F:あり Fact sheet preparation time: 2 hours Quiz Study time: 1 hour
	Class 9	Continents - Africa ・Major physical features (seas, rivers, mountains, desert,etc) ・Regions ・Major countries and cities ・Major historical events ・Famous buildings and sightseeing sites A: 中　B:少　E:あり　F:あり Presentation preparation time: 3 hours Quiz Study time: 1 hour
	Class 10	Presentations Each student will give a 3-5-minute presentation on one country, including culture and traditions. A: 中　B:少　E:あり　F:あり Quiz Study time: 1 hour
	Class 11	English Speaking Countries - United States ・Government ・Geography ・Major historical events ・Significant landmarks ・Indigenous Peoples ・Major cities ・Indigenous Peoples A: 中　B:少　E:あり　F:あり Fact sheet preparation time: 2 hours Quiz Study time: 1 hour
	Class 12	English Speaking Countries - Great Britain ・Government ・Geography ・Major historical events ・Major cities ・Significant Landmarks A: 中　B:少　E:あり　F:あり

	Fact sheet preparation time: 2 hours Quiz Study time: 1 hour Class 13 English Speaking Countries - Canada and South Africa ・Government ・Geography ・Major historical events ・Significant landmarks ・Major cities ・Indigenous Peoples A: 中 B:少 E:あり F:あり Fact sheet preparation time: 2 hours Quiz Study time: 1 hour Class 14 English Speaking Countries - Australia and New Zealand ・Government ・Geography ・Major historical events ・Major cities ・Significant landmarks ・Indigenous Peoples A: 中 B:少 E:あり F:あり Fact sheet preparation time: 2 hours Quiz Study time: 1 hour Class 15 Presentations and Review Each student will give a 3-5 minute PowerPoint presentation about a topic related to the previous four classes. We will then have a review of the course material.
教育目標との関連	Students will gain a basic understanding of world history and geography.
到達目標 （学修成果） 1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	LO1. Students will show basic knowledge of world facts including geography and history LO2. Students will gain ability to see how culture affects thinking and world events LO4. Students will gain more appreciation of other cultures and peoples
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法 2.ルーブリックによる評価基準	30% Presentations (期末テスト) 30% Weekly Quizzes 30% Writing Assignments 10% Notebook
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	After presentations, a detailed evaluation will be passed out to each student describing their strengths and weaknesses.
教科書	「ベーシックアトラス 世界地図帳」平凡社出版
参考書	「英語の歴史 過去から未来への物語」寺澤 盾 著 中央公論新社 出版 「読むだけですっきりわかる 世界地理」後藤 武士 著 宝島社 出版 「エリア別だから、ながれがつながる世界史」 朝日新聞 出版
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	Review notes before next class(1 hour each)
履修上の注意、条件等	If you miss a class, you must come to the instructor's office and get the notes you missed before the next class.
オフィスアワー	Office hours will be posted on the instructor's door.
備考・メッセージ	This class will be conducted in person.

講義科目名称： English Conversation Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称： English Conversation Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	卒業選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E101
添付ファイル			
ルーブリック評価 English Conversation I.pdf			

講義概要	In order to gain confidence and fluency speaking English it is vital to practice as much as possible. Therefore this class will be divided into separate classes spreading across 3 levels. This is to give each student time to use English and ask questions as necessary. This class will be continued through English Conversation II. Also, as preparation for study abroad, there will be weekly vocabulary tests. It is necessary for the students to become accustomed to British English pronunciation as well as difference between British English and American English, so a textbook focused on British English will be used. Mary Jones has over 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students' communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:ＰＢＬ（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回 Class One Elementary: Welcome to the Class Be Verb, Subject Pronouns Saying Hello, Saying Goodbye Complete Grammar exercises on page 124. (30 minutes) Review phrases for self-introduction (10 minutes) Read vocabulary for next class on page 148 (20 minutes) Pre-Intermediate: Are you? Can you? Do you? Did you? Word Order in Questions Exchanging Information Intermediate: Eating in...and out Present Simple and Continous Food and Cooking Talking about Preferences A:多い B:中 E:あり F:あり 第2回 Class Two Elementary: One World Vocabulary: Days of the week/ Numbers 1 to 20 Review listening on page 7. (10 minutes) Review vocabulary on page 149. (15 minutes) Pre-Intermediate: The Perfect date? Present Simple Describing People, appearance and personality Intermediate: Eating in...and out Action and non-action verbs Agreeing and disagreeing Predicting content using visual clues A:多い B:中 E:あり F:あり 第3回 Class Three Elementary: Where is it from? Where are you from? Grammar: Be verb, negative sentences and questions Numbers 21-100 Complete grammar exercises on page 124 for 1B. (30 min) Review vocabulary on page 148 part three. (10 min) Pre-Intermediate: The Remake Project Present Continuous Clothes, prepositions of place Describing a picture, talking about preferences Intermediate: Modern Families Future Forms: present continuous, be going to Family Talking about the future

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第4回 Class Four

Elementary: Things in the classroom
Vocabulary: Things in a classroom
Using Classroom language

Review vocabulary on page 150. (20 minutes)

Pre-Intermediate: OMG! Where's my passport?
Past simple: regular and irregular verbs
Talking about your last holiday
Understanding the key events in a story

Intermediate: Modern families
Future forms: will/won't
Retelling a story
Identifying reasons

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第5回 Class Five

Elementary: What's your email?
Giving basic information
Asking questions about people.

Complete grammar exercises on page 124 for 1C. (30 min)
Review all vocabulary for Unit 1, pages 6-10. (30 min)

Pre-Intermediate: That's me in the picture!
Past continuous
Prepositions of time and place
Talking about preferences

Intermediate: Spending Money
Present Perfect
Talking about money
Listening for facts

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第6回 Class Six

Elementary: Are you Tidy or Untidy
Vocabulary: Things in a room
Grammar: Singular and plural nouns

Review vocabulary on page 151. (10 min)
Complete grammar exercises on page 126 part 2A. (20 minutes)

Pre-Intermediate: One dark October evening
Time sequencers and connectors
Retelling a story
Listening for specific information

Intermediate: Spending Money
Present perfect & past simple
Talking about experiences

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第7回 Class Seven

Elementary: In, on, under
Describing where things are
Vocabulary: colours, adjectives

Review vocabulary on page 152. (10 min).
Read the reading exercise on page 17 for the next class. (20min)

Pre-Intermediate: TripAside
Be going to (plans and predictions)
Planning a tour

Intermediate: Changing Lives
Present perfect, for/since
Talking about extremes

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第8回 Class Eight

Elementary: Made in America
Grammar: Adjectives in sentences
Reading: British and American English

Complete grammar exercises on page 126 for 2B (20 min)
Do vocabulary exercises on page 18 for the next class. (15 min)

Pre-Intermediate: Put it in your calendar!
Present Continuous: future arrangements
Making arrangements
Understanding times, dates and appointments

Intermediate: Changing Lives
Present perfect continuous
How long....?
Understanding the order of events

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第9回　Class Nine

Elementary: Slow Down
Vocabulary: Feelings
Grammar: Imperatives, Let's

Complete the grammar exercises on page 126 for 2C. (20 min)
Review the conversation on page 19. (10 min)

Pre-Intermediate: Word games
Defining relative clauses
Describing and paraphrasing
Guessing words from definitions

Intermediate: Survive the Drive
Comparatives
Being a tourist
Confirming predictions

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第10回　Class Ten

Elementary: Traffic Signs
Meanings on common traffic signs
Pronunciation: Linking
Units 1 and 2 Listening

Complete review exercises on pages 20-21. (45 min)

Pre-Intermediate: Who does what?
Present perfect & yet, just, alreadyFamily Photos
Possessive 's, Whose...?
Talking about family
Identifying the main/supporting information

Pre-Intermediate: Who does what?
Present perfect & yet, just, already
Talking about housework
Understanding text cohesion - connectors

Intermediate: Survive the Drive
Comparatives and Superlatives
Transport
Giving opinions

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第11回　Class Eleven

Elementary: Britain: The good and the Bad
Vocabulary: Verb phrases
Grammar: Present simple, positive and negative sentences

Complete grammar exercises on page 128. (20 min)
Read "What Foreigners who live in Britain think" on page 23 for next class. (20 min)

Pre-Intermediate: In your basket
Present perfect or past simple
Talking about shopping experiences
Understanding a theory

Intermediate: Men, women, and children
Articles:a/an, the, no article
Generalizing
Understanding the main point in a paragraph

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第12回　Class Twelve

Elementary: Likes and dislikes
Speaking: what you like and dislike about your country

		Read "He works at night, but she works during the day" on page 24 for next class. (30min) Pre-Intermediate: #greatweekend Something, anything, nothing, etc Adjectives ending -ed and and -ing Describing your weekend Intermediate: Men, women and children Collocation: verbs/ adjectives & prepositions Talking about childhood A:多い B:中 E:あり F:あり
	第13回	Class Thirteen Elementary: Jobs Grammar: Present simple, questions Vocabulary: Jobs Complete grammar exercises on page 128 for 3B. (20 min) Review vocabulary on page 154. (10 min) Pre-Intermediate: I want it NOW! Comparatives adjectives and adverbs, as...as Comparing habits: present and past Scanning for data Intermediate: Bad manners? Obligation and prohibition: have to, must, should Talking about annoying habits and manners A:多い B:中 E:あり F:あり
	第14回	Class Fourteeen Elementary: Do you work outside? Listening and Speaking: Talking about jobs in detail Review listening on page 25. (10 min) Read conversation on page 26 for next class. (10 min) Pre-Intermediate: Twelve lost wallets Superlatives Describing a city or town Talking about memorable experiences Intermediate: Bad Manners? Phone language Understanding problems and advice Assessing a point of view A:多い B:中 E:あり F:あり
	第15回	Class Fifteen Elementary: Love me, Love my dog Grammar: Word order in questions Vocabulary: Question words Pronunciation: Sentence stress Review grammar and vocabulary for units 1 to 3 for speaking exam. Pre-Intermediate: How much is enough? Quantifiers, too, not enough Health and the body Talking about your lifestyle Intermediate: Yes, I can! Ability and possibility: can, could, be able to Talking about ability Understanding tips and examples A:多い B:中 E:あり F:あり
	Final Exam	Final Exam Individual speaking tests will be conducted. 10 minutes per student.
教育目標との関連		The goal of this class is that each student gains confidence and fluency using English.
到達目標 （学修成果） 1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性		LO1. Understanding of British English vocabulary and idioms has improved. LO2. Listening ability has improved. LO3. Able to communicate effectively in English and use English grammar compentently

評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	Homework　　30%　Short writing assignments Participation　30%　Participation in group work Speaking test　20%　2 short speaking tests (期末テスト) Quizzes　　20%　Short weekly test なお、提出課題についてはルーブリックの表を別途配布し、各項目のパフォーマンス評価を行います。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	After each speaking test, feedback will be conducted through google classroom. Students will learn their strengths and how they can improve their speaking.
教科書	This course will use the English File series. 「IELT　必ず出る単　スピードマスター」島津幸樹　著　Jリサーチ　出版
参考書	「マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）」　Raymond Murphy　著　Cambridge University Press 出版
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	Review new vocabulary from the previous week and be sure to do homework every week.　Average time need: 90-120 minutes.
履修上の注意、条件等	Level will be decided within the first two weeks. Levels are Elementary, Pre-intermediate, and Intermediate.
オフィスアワー	授業前後に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	This class will be conducted in person.

講義科目名称： English Conversation Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称： English Conversation Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
秋学期	1年	1単位	卒業選択	
担当教員				
Mary Jones				
授業形態：演習	担当形態：単独		実務経験：あり	ナンバリング：E107
添付ファイル				
ルーブリック評価 English Conversation II.pdf				

講義概要	In order to gain confidence and fluency speaking English it is vital to practice as much as possible. Therefore this class will be divided into separate classes spreading across 3 levels. This is to give each student time to use English and ask questions as necessary. This class is continued from English Conversation I in the first semester. Also, as preparation for study abroad, there will be weekly vocabulary tests. It is necessary for the students to become accustomed to British English pronunciation as well as difference between British English and American English, so a textbook focused on British English will be used. Mary Jones has over 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students' communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:ＰＢＬ（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回 Class One Elementary: Family photos Vocabulary: Family Listening: Who is that? Review vocabulary on page 155. (10 minutes) Read "I'm not famous..." on page 30 for next class. (20 minutes) Pre-Intermediate: Think positive...or negative? will/won't: predictions Making predictions Using existing knowledge to predict content Intermediate: Yes, I can! -ed/-ing adjectives Assessing advice Making inferences A:多い B:中 E:あり F:あり 第2回 Class Two Elementary: Whose is this? Grammar: Possessives, Whose...? Speaking: Talking about your family. Complete grammar exercises for 4A on page 130. (20 min) Read "Busy Lives" on page 32 for next class. (20 min) Pre-Intermediate: I'll always love you will/ won't / shall : other uses Giving examples and reasons Understanding specific details Intermediate: Sporting superstitions Past tense: simple, continuous Relationships Talking about sports A:多い B:中 E:あり F:あり 第3回 Class Three Elementary: From Morning to night Vocabulary: Daily routine Pronunciation: Linking in sentences Review listening on page 33. (10 min) Read questions on page 33 for next class. (20 min) Pre-Intermediate: The meaning of dreaming Review: present, past and future Talking about the past, present, and future Checking hypotheses Intermediate: Sporting Superstitions

Past tenses: simple, perfect
Telling an anecdote
Understanding how examples support main points

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第4回　Class Four

Elementary: Daily life
Grammar: Prepositions of time and place
Speaking: Asking questions about your daily life

Complete grammar exercises for 4B on page 130. (20 min)
Read ″ Teenagers in trouble″ on page 34 for the next class. (15 min)

Pre-Intermediate: First day nerves
Uses of the infinitive
Retelling a article
Understanding content words

Intermediate: #thewaywemet
Past and present habits and states
Talking about present and past habits
Understanding facts and supporting information

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第5回　Class Five

Elementary: How often do you....
Vocabulary: Months, adverbs and expressions of frequency
Grammar: Position of adverbs, expressions of frequency

Complete grammar exercises for 4C on page 130. (15 min)
Complete review exercises on page 36. (30 min)

Pre-Intermediate: Happiness is...
Uses of the gerund
Describing feelings
Understanding how something works

Intermediate: #thewaywemet
Relationships
Presenting an opinion
Predicting the end of a story

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第6回　Class Six

Elementary: Vote for me!
Modal Verbs: Can
Verb phrases

Review Vocabulary on page 158. (10 minutes)
Complete 5A grammar exercises on page 132. (20 minutes)

Pre-Intermediate: Could you pass the test?
Have to, don't have to, must, mustn't
Talking about language learning
Using topic sentences

Intermediate: Behind the scenes
Passive: All tenses
Listening for content films
Understanding the main point in a paragraph

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第7回　Class Seven

Elementary: What's your talent?
Pronunciation: sentence stress
Speaking: Can you ~?
Vocabulary: Noise

Review vocabulary on page 40. (10 minutes)
Do you the reading and answer the questions on page 40. (20 minutes)

Pre-Intermediate: Should I stay or should I go?
Should
Discussing habits and preferences
Understanding opinions

Intermediate: Behind the scenes
Passive: all tenses
Cinema
Talking about films

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第8回　Class　Eight

Elementary: A quiet life?
Grammar: present continuous.
Listening: What's the woman doing?

Do the 5B grammar exercises on page 132. (20 minutes)
Review the conversation on page 41. (10 minutes)
Pre-Intermediate: Murphy's Law
If + present tense, will, first conditional
Using the right word in a conversation
Scanning for specific information

Intermediate: Every picture tells a story
Modals of deduction: might, can't, must
Talking about profile pictures
Checking assumption

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第9回　Class Nine

Elementary:　A City for All Seasons
Vocabulary: Weather and Seasons
Listening: Talking about the weather

Review vocabulary on page 159. (10 minutes)
Do the reading activity on page 43. (20 minutes)

Pre-Intermediate: Who is Vivienne?
Possessive Pronouns
Reacting to a story
Using information to interpret a story

Intermediate: Every picture tells a story
Modals of deduction: might, can't, must
Making deductions
Understanding humor

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第10回　Class Ten

Elementary: Places in London
Grammar: Present simple or present continuous?
Pronunciation: places in London
Speaking: What do you do? What are you doing?

Do the 5C grammar exercises on page 132.
Review vocabulary on page 43.

Pre-Intermediate: Beware of the dog
If +past, would: second conditional
Would you know what to do?
Animals and insects

Intermediate: Live and Learn
First conditional and future time clauses & when, until, etc
Education
Assessing opinions
Understanding points of view

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第11回　Class Eleven

Elementary: A North African story
Reading: The Glass Bottle Part 1
Grammar: Object pronouns

Do 6A grammar exercises on page 134. (20 minutes)
Read part 2 of the Glass Bottle and answer the questions on page 46. (20 minutes)

Pre-Intermediate: Fearof.net
Present perfect + for and since
How long...?
Taking notes

Intermediate: Live and learn
First conditional and future time clauses
Talking about school
Understanding points of view

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第12回　Class Twelve

Elementary: Words in a Story

	Listening: Glass Bottle Conclusion Vocabulary: Words in a story Speaking: Telling a story Review grammar exercises on page 134. (10 minutes) Complete vocabulary exercises on page 159 (20 minutes) Pre-Intermediate: Scream queens Present perfect or past simple? Biographies Talking about life events Intermediate: The hotel of Mum and Dad Second conditional Houses Discussing pros and cons A:多い　B:中　E:あり　F:あり
第13回	Class Thirteen Elementary: The third Friday in June Vocabulary: Months and dates Listening: What was the date? Do the reading on page 48. (20 minutes) Review the vocabulary on page 159. (10 minutes) Pre-Intermediate: Into the net Expressing movement Responding to opinions Intermediate: The hotel of Mum and Dad Choosing between conditionals Describing ideal situations Using prediction to understand content A:多い　B:中　E:あり　F:あり
第14回	Class Fourteeen Elementary: Good times, bad times Grammar: Like and gerunds Speaking: Likes and dislikes Do the grammar exercises on page 134 (20 minutes) Do the vocabulary exercises on page 50. (10 minutes) Pre-Intermediate: Early birds Word order of phrasal verbs Retelling a person's day Understanding reasons Intermediate: The right job for you Choosing between gerunds and infinitives Work Listening and making notes A:多い　B:中　E:あり　F:あり
第15回	Class Fifteen Elementary: Making music Grammer: Review of be and do Speaking: My music Review grammar and vocabulary for speaking test. (1 hour) Pre-Intermediate: International inventions Passive Passives quiz Understanding historical information Intermediate: The right job for you Choosing between gerunds and infinitives Making a presentation Predicting from evidence A:多い　B:中　E:あり　F:あり
Final Exam	Speaking tests Individual speaking tests will be conducted with each student. Ten minutes per student.
教育目標との関連	The goal of this class is that each student gains confidence and fluency using English.
到達目標　(学修成果)　　1．知識・理解 2．思考・判断	LO1. Understanding of British English vocabulary and idioms has improved. LO2. Listening ability has improved. LO3. Able to communicate effectively in English and use English grammar compentently

３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	Homework　30%　Short writing assignments Participation　30%　Participation in group work Speaking test　20%　2 short speaking tests (期末テスト) Quizzes　20%　Short weekly quizzes なお、提出課題についてはルーブリックの表を別途配布し、各項目のパフォーマンス評価を行います。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	After each speaking test, feedback will be conducted through google classroom. Students will learn their strengths and how they can improve their speaking.
教科書	This course will use the English File series. 「IELT　必ず出る単　スピードマスター」島津幸樹　著　Jリサーチ　出版
参考書	「マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）」　Raymond Murphy　著　Cambridge University Press 出版
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	Review new vocabulary from the previous week and be sure to do homework every week.　Average time need: 90-120 minutes.
履修上の注意、条件等	Levels will continue from English Conversation 1. Any new students will be given a level check test to determine level. Levels are Elementary, Pre-intermediate, and Intermediate.
オフィスアワー	授業前後に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	This class will be conducted in person.

講義科目名称： English Conversation Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称： English Conversation Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年	１単位	卒業選択
担当教員			
Mary　Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E201
添付ファイル			
ルーブリック評価　English Conversation III.pdf			

講義概要	In order to gain confidence and fluency in speaking English, it is vital to practice as much as possible. Therefore this class will be divided into separate classes spreading across 3 levels. This is to give each student time to use English and ask questions as necessary. This class is continued from English Conversation II in the first year. Also, as preparation for study abroad, there will be weekly vocabulary tests. It is necessary for the students to become accustomed to British English pronunciation as well as the difference between British English and American English, so a textbook focused on British English will be used. Mary Jones has over 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students' communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　Class One Elementary: Selfies Grammar: Past simple of be Listening: Art guide Pronunciation: Sentence stress Do the 7A grammar exercises on page 136. (20 minutes) Do the reading exercise on page 54. (20 minutes) Pre-Intermediate: Are you? Can you? Do you? Did you? Word Order in Questions Exchanging Information Intermediate: Eating in...and out Present Simple and Continous Food and Cooking Talking about Preferences A:多い　B:中　E:あり　F:あり 第2回　Class Two Elementary: Self-portrait Reading: Self-portraits Vocabulary: Word formation Speaking: Do you take selfies? Do the reading on page 56. (20 minutes) Review new vocabulary on pages 54-55. (10 minutes) Pre-Intermediate: The Perfect date? Present Simple Describing People, appearance and personality Intermediate: Eating in...and out Action and non-action verbs Agreeing and disagreeing Predicting content using visual clues A:多い　B:中　E:あり　F:あり 第3回　Class Three Elementary: Wrong Name, Wrong place Reading: Problem with a flight Grammar: Past simple, regular verbs Vocabulary: Past time expressions Do the 7B grammar exercises on page 136. (20 minutes) Review page 57. (10 minutes) Pre-Intermediate: The Remake Project Present Continuous Clothes, prepositions of place Describing a picture, talking about preferences

Intermediate: Modern Families
Future Forms: present continuous, be going to
Family
Talking about the future

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第4回　Class Four

Elementary: Did you book some tickets?
Speaking: When was the last time?
Grammar: Past simple, irregular verbs
Pronunciation: Sentence stress

Do the 7C grammar exercises on page 136. (20 minutes)
Do the reading exercises on page 58. (20 minutes)

Pre-Intermediate: OMG! Where's my passport?
Past simple: regular and irregular verbs
Talking about your last holiday
Understanding the key events in a story

Intermediate: Modern families
Future forms: will/won't
Retelling a story
Identifying reasons

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第5回　Class Five

Elementary: Happy New Year?
Reading: New Year's Eve
Vocabulary: Verb phrases with go, have, get
Listening: A Memorable New Year's Eve

Review the vocabulary on page 160. (10 minutes)
Do the reading exercise on page 62. (20 minutes)

Pre-Intermediate: That's me in the picture!
Past continuous
Prepositions of time and place
Talking about preferences

Intermediate: Spending Money
Present Perfect
Talking about money
Listening for facts

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第6回　Class Six

Elementary: A Murder Mystery
Reading: The Travers Murder
Listening: Interviewing subjects
Grammar: Past simple: regular and irregular

Do the 8A grammar exercises on page 138. (20 minutes)
Review irregular verbs on page 165. (10 minutes)

Pre-Intermediate: One dark October evening
Time sequencers and connectors
Retelling a story
Listening for specific information

Intermediate: Spending Money
Present perfect & past simple
Talking about experiences

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第7回　Class Seven

Elementary: A House with a history
Pronunciation: Past simple verbs
Vocabulary: The house
Listening: To rent

Review the Vocabulary on page 161. (10 minutes)
Do the listening on page 65. (20 minutes)

Pre-Intermediate: TripAside
Be going to (plans and predictions)
Planning a tour

Intermediate: Changing Lives
Present perfect, for/since
Talking about extremes

		A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第8回	Class　Eight Elementary: Is it a house or a flat? Grammar: There is/are, some any Speaking: Talking about your house Do the 3B grammar exercises on page 138. (20 minutes) Do the reading on page 66. (20 minutes) Pre-Intermediate: Put it in your calendar! Present Continuous: future arrangements Making arrangements Understanding times, dates and appointments Intermediate: Changing Lives Present perfect continuous How long....? Understanding the order of events A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第9回	Class Nine Elementary: Room 333 Reading: Haunted hotel Listening: What happened? Grammar: There was/ were Do the 8C grammar exercises on page 138. (20 minutes) Do the vocabulary exercises on page 162. (20 minutes) Pre-Intermediate: Word games Defining relative clauses Describing and paraphrasing Guessing words from definitions Intermediate: Survive the Drive Comparatives Being a tourist Confirming predictions A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第10回	Class Ten Elementary: A Haunted Castle Vocabulary: Prepositions: place and movement Speaking: What is in the room? Listening: A haunted castle Do review exercises on page 68-69. (60 minutes) Pre-Intermediate: Who does what? Present perfect & yet, just, already Talking about housework Understanding text cohesion - connectors Intermediate: Survive the Drive Comparatives and Superlatives Transport Giving opinions A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第11回	Class Eleven Elementary: #mydinnerlastnight Vocabulary: Food and drink Grammar: Countable and uncountable nouns Reading: Why I eat the same thing every day? Do the 9A grammar exercises on page 140. (20 minutes) Review the vocabulary on page 163. Pre-Intermediate: In your basket Present perfect or past simple Talking about shopping experiences Understanding a theory Intermediate: Men, women, and children Articles:a/an, the, no article Generalizing Understanding the main point in a paragraph A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第12回	Class Twelve Elementary: A food diary Listening: My dinner

	Speaking: Talking about your diet Vocabulary: food containers Do the reading on page 73. (30 minutes) Review vocabulary on page 72. Pre-Intermediate: #greatweekend Something, anything, nothing, etc Adjectives ending -ed and and -ing Describing your weekend Intermediate: Men, women and children Collocation: verbs/ adjectives & prepositions Talking about childhood A:多い B:中 E:あり F:あり
第13回	Class Thirteen Elementary: White gold Grammar: Quantifiers Reading: Sugar and Salt Speaking: How much salt and sugar do you have a day? Do the 9B grammar exercises on page 140. (20 minutes) Do the vocabulary exercises on page 148. (20 minutes) Pre-Intermediate: I want it NOW! Comparatives adjectives and adverbs, as...as Comparing habits: present and past Scanning for data Intermediate: Bad manners? Obligation and prohibition: have to, must, should Talking about annoying habits and manners A:多い B:中 E:あり F:あり
第14回	Class Fourteeen Elementary: Facts and Figures Vocabulary: High numbers Listening: Quiz night Grammar: Comparative adjectives Do the grammar exercises on page 140. (20 minutes) Do the reading on page 75. (20 minutes) Pre-Intermediate: Twelve lost wallets Superlatives Describing a city or town Talking about memorable experiences Intermediate: Bad Manners? Phone language Understanding problems and advice Assessing a point of view A:多い B:中 E:あり F:あり
第15回	Class Fifteen Elementary: Pub quizes Reading: Pub Quizes Pronunciation: Sentences stress Speaking: Quiz night Review all grammar and vocabulary for units 7-9 for speaking exam. (60 minutes) Pre-Intermediate: How much is enough? Quantifiers, too, not enough Health and the body Talking about your lifestyle Intermediate: Yes, I can! Ability and possibility: can, could, be able to Talking about ability Understanding tips and examples A:多い B:中 E:あり F:あり
Final Exam	Final Exam Individual speaking tests will be conducted. 10 minutes per student.
教育目標との関連	The goal of this class is that each student gains confidence and fluency using English.
到達目標 (学修成果) 1．知識・理解 2．思考・判断	LO1. Understanding of British English vocabulary and idioms has improved. LO2. Listening ability has improved. LO3. Able to communicate effectively in English and use English grammar competently

３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	Homework　30%　Short writing assignments Participation　30%　Participation in group work Speaking test　20%　2 short speaking tests (期末テスト) Quizzes　20%　Short weekly test なお、提出課題についてはルーブリックの表を別途配布し、各項目のパフォーマンス評価を行います。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	After each speaking test, feedback will be conducted through google classroom. Students will learn their strengths and how they can improve their speaking.
教科書	This course will use the English File series. 「IELTS　必ず出る単　スピードマスター」島津幸樹　著　Jリサーチ　出版
参考書	「マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）」　Raymond Murphy　著　Cambridge University Press 出版
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	Review new vocabulary from the previous week and be sure to do homework every week.　Average time need: 90-120 minutes.
履修上の注意、条件等	Level will be carried over from English Conversation II.　All new students will be given a level check test to determine level. Levels are Elementary, Pre-intermediate, and Intermediate.
オフィスアワー	授業前後に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	Students will be notified beforehand in the event that the method of class delivery is altered.

講義科目名称： English Conversation Ⅳ　　授業コード：

英文科目名称： English Conversation Ⅳ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	２年	１単位	選択
担当教員			
Mary　Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E202
添付ファイル			
ルーブリック評価　English Conversation IV.pdf			

講義概要	In order to gain confidence and fluency in speaking English, it is vital to practice as much as possible. Therefore this class will be divided into separate classes spreading across 3 levels. This is to give each student time to use English and ask questions as necessary. This class is continued from English Conversation III in the first semester. Also, as preparation for study abroad, there will be weekly vocabulary tests. It is necessary for the students to become accustomed to British English pronunciation as well as the difference between British English and American English, so a textbook focused on British English will be used. Mary Jones has over 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students' communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　Class One Elementary: The Most Dangerous place... Vocabulary: Places and buildings Grammar: Superlative adjectives Do the 10A grammar exercises on page 164. (20 minutes) Do the reading exercise on page 79. (20 minutes) Pre-Intermediate: Think positive...or negative? will/won't: predictions Making predictions Using existing knowledge to predict content Intermediate: Yes, I can! -ed/-ing adjectives Assessing advice Making inferences A:多い　B:中　E:あり　F:あり 第2回　Class Two Elementary: I'm a tourist Speaking: Asking for information Reading: Cross the road Write an advertisement for your town for tourists. (45 minutes) Pre-Intermediate: I'll always love you will/ won't / shall : other uses Giving examples and reasons Understanding specific details Intermediate: Sporting superstitions Past tense: simple, continuous Relationships Talking about sports A:多い　B:中　E:あり　F:あり 第3回　Class Three Elementary: Five Continents in a day Grammar: Be going to (plans) Listening: Five Continents in a day Do the 10B grammar exercises on page 142. (20 minutes) Do the vocabulary exercises on page 81. (20 minutes) Pre-Intermediate: The meaning of dreaming Review: present, past and future Talking about the past, present, and future Checking hypotheses Intermediate: Sporting Superstitions Past tenses: simple, perfect Telling an anecdote Understanding how examples support main points

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第4回　Class Four

Elementary: City holidays
Vocabulary: City holidays
Listening: Planning a holiday
Vocabulary: Verb phases

Do the reading on page 83, part 1. (20 minutes)
Review the vocabulary on 82.

Pre-Intermediate: First day nerves
Uses of the infinitive
Retelling an article
Understanding content words

Intermediate: #thewaywemet
Past and present habits and states
Talking about present and past habits
Understanding facts and supporting information

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第5回　Class Five

Elementary: The fortune teller
Grammar: Be going to
Listening: It's written in the cards
Speaking: Fortune telling

Do the 10C grammar exercises on page 142. (20 Minutes)
Do the review exercises on page 84. (30 minutes)

Pre-Intermediate: Happiness is...
Uses of the gerund
Describing feelings
Understanding how something works

Intermediate: #thewaywemet
Relationships
Presenting an opinion
Predicting the end of a story

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第6回　Class Six

Elementary: Culture Shock
Reading: Things I didn't know
Grammar: Adverbs

Review the adverbs and adjectives on page 86. (15 minutes)
Do the 11A grammar activities on page 144. (20 minutes)

Pre-Intermediate: Could you pass the test?
Have to, don't have to, must, mustn't
Talking about language learning
Using topic sentences

Intermediate: Behind the scenes
Passive: All tenses
Listening for content films
Understanding the main point in a paragraph

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第7回　Class Seven

Elementary: Your country
Listening: Life in Costa Rica
Pronunciation: Connected speech
Vocabulary: Common adverbs

Do the reading exercises on page 88. (20 minutes)
Review vocabulary on page 87. (10 minutes)

Pre-Intermediate: Should I stay or should I go?
Should
Discussing habits and preferences
Understanding opinions

Intermediate: Behind the scenes
Passive: all tenses
Cinema
Talking about films

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第8回　Class　Eight

Elementary: Experiences or things?

Reading: About me
Speaking: My dreams
Grammar: verb plus infinitive

Do the 11B grammar exercises on page 144. (20 minutes)
Review any new vocabualary on page 88. (10 minutes)

Pre-Intermediate: Murphy's Law
If + present tense, will, first conditional
Using the right word in a conversation
Scanning for specific information

Intermediate: Every picture tells a story
Modals of deduction: might, can't, must
Talking about profile pictures
Checking assumption

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第9回　Class Nine

Elementary: Want to do
Vocabulary: Verbs that take the infinitive
Speaking: Talking about your future
Pronunciation: Sentence stress

Do the reading exercises on page 91. (20 minutes)

Pre-Intermediate: Who is Vivienne?
Possessive Pronouns
Reacting to a story
Using information to interpret a story

Intermediate: Every picture tells a story
Modals of deduction: might, can't, must
Making deductions
Understanding humor

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第10回　Class Ten

Elementary: How smart is your phone?
Vocabulary: Phones and the internet
Reading: Life before the internet
Grammar: Definite article

Do the 11C grammar exercises on page 144. (20 minutes)
Review the vocabulary on page 90. (10 minutes)

Pre-Intermediate: Beware of the dog
If +past, would: second conditional
Would you know what to do?
Animals and insects

Intermediate: Live and Learn
First conditional and future time clauses & when, until, etc
Education
Assessing opinions
Understanding points of view

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第11回　Class Eleven

Elementary: I've seen it ten times!
Grammar: Present perfect
Listening: Favorite movies
Pronunciation: Sentence stress

Do the 12A grammar activities on page 146. (20 minutes)
Do the vocabulary exercises on page 95. (10 minutes)
Pre-Intermediate: Fearof.net
Present perfect + for and since
How long...?
Taking notes

Intermediate: Live and learn
First conditional and future time clauses
Talking about school
Understanding points of view

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第12回　Class Twelve

Elementary: Have you ever ~?
Vocabulary: Irregular past participles
Listening: Have you ever?
Speaking: Talking about your experiences.

		Write answers to 6 of the 12 questions on page 95. (20 minutes) Pre-Intermediate: Scream queens Present perfect or past simple? Biographies Talking about life events Intermediate: The hotel of Mum and Dad Second conditional Houses Discussing pros and cons A:多い B:中 E:あり F:あり
	第13回	Class Thirteen Elementary: He's been everywhere! Listening: Foreign restaurants Grammar: Present perfect or past simple? Vocabulary: Learning irregular verbs Do the 12B grammar exercises on page 146. (20 minutes) Review irregular verbs on page 165. (15 minutes) Pre-Intermediate: Into the net Expressing movement Responding to opinions Intermediate: The hotel of Mum and Dad Choosing between conditionals Describing ideal situations Using prediction to understand content A:多い B:中 E:あり F:あり
	第14回	Class Fourteeen Elementary: Have you? Did you? Speaking: Talking about your past Grammar: Revision: Question formation Do the revision exercises on page 100. (30 minutes) Do the reading on page 98. (20 minutes) Taking notes Pre-Intermediate: Early birds Word order of phrasal verbs Retelling a person's day Understanding reasons Intermediate: The right job for you Choosing between gerunds and infinitives Work Listening and making notes A:多い B:中 E:あり F:あり
	第15回	Class Fifteen Elementary: The English File Interview Reading: An interview Speaking: Interviewing someone Review grammar and vocabulary for units 9 to 12 for the speaking exam. Pre-Intermediate: International inventions Passive Passives quiz Understanding historical information Intermediate: The right job for you Choosing between gerunds and infinitives Making a presentation Predicting from evidence A:多い B:中 E:あり F:あり
	Final Exam	Final Exam Individual speaking tests will be conducted. 10 minutes per student.
教育目標との関連		The goal of this class is that each student gains confidence and fluency using English.
到達目標 (学修成果) 1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会		LO1. Understanding of British English vocabulary and idioms has improved. LO2. Listening ability has improved. LO3. Able to communicate effectively in English and use English grammar compentently

性	
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	Homework　　20% Participation　30% Speaking quizzes 30% (期末テスト) Written assignment　20% なお、提出課題についてはルーブリックの表を別途配布し、各項目のパフォーマンス評価を行います。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	After each speaking test, feedback will be conducted through google classroom. Students will learn their strengths and how they can improve their speaking.
教科書	This course will use the English File series. 「IELTS　必ず出る単　スピードマスター」島津幸樹　著　Jリサーチ　出版
参考書	「マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）」　Raymond Murphy　著　Cambridge University Press 出版
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	Review new vocabulary from the previous week and be sure to do homework every week. Average time need: 90-120 minutes.
履修上の注意、条件等	Level will be carried over from English Conversation III. Any new students will be given a level check test to determine level. Levels are Elementary, Pre-intermediate, and Intermediate.
オフィスアワー	授業前後に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	Students will be notified beforehand in the event that the method of class delivery is altered.

講義科目名称： 国際こども教育概論　　授業コード：

英文科目名称： Introduction to Global Early Childhood Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年専攻科	２単位	1年選択　　専攻科必修
担当教員			
長谷山康一			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：C101
添付ファイル			
rubric-GECE-1.pdf			

講義概要	国際的な保育を学ぶ上での基礎となる事柄をさまざまな角度から取り上げ、内容の理解を促す授業を展開する。海外における保育の潮流、研究の動向、子どもの権利の尊重、多文化共生社会における多様性の尊重等について、受講生が主体的に学び、保育実践に活かすことのできる知識と方法を授業を通して獲得できるようにする。 担当教員らはイングリッシュプレスクールの教員経験があり、長期に渡る海外在住経験がある。 他の科目との関連性：本科目では、今後の学位プログラムでのこども教育に関する学びの多くを国際的視点から独自に考察できる姿勢を養うものでもある。よって、本学で履修する全ての科目での学びにおいて、本科目との関連性自体を熟慮すること求める。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　イントロダクション：本授業の概要と目的を理解する 科目説明（目的、内容、評価などについて） 担当教員の紹介 ※課題の説明 予習：シラバスを読み、本授業の概要と目的を知る（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間） A：少 B：中 D：少 E：あり F：あり 第2回　もしカナダで保育士になる将来があるとしたら？ 外国の保育士像を考える 予習：明示された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことについて調べる（1時間） 課題(1)に取り組む（30分） A：中 B：多 E：あり F：あり 第3回　国際条約「子どもの権利条約」 国際条約「子どもの権利条約」の内容を理解し、子どもの権利への考え方を学ぶ 予習：明示された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間） 課題（1）に取り組み、発表準備をする（1時間） A：中 B：多 E：あり F：あり 第4回　「世界の子どもの暮らし」の課題発表 課題(1)「世界の子どもの暮らし」の課題発表 予習：発表資料の作成と練習（1時間） 復習：自分と他者の発表を振り返り、そこから学び、自身の保育にどのようにつなげることが出来るかについて自分の考えをまとめる（30分） 発表から生じた疑問点などについて書籍やインターネットで調べて文字化する（1時間） B：中 D：多 E：あり F：あり 第5回　国際的視点から見る保育者の専門性 国内外の事例から、国際的保育者の専門性についての理解を深める 予習：明示された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間） A：中 B：多 E：あり F：あり 第6回　国際的視点から見る保育者の勤務環境 国内外の保育者の勤務環境についての理解を深める。 予習：明示された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間） A：中 B：多 E：あり F：あり 第7回　保育者、こども、保護者間のプロセスの国際比較

		保育者、こども、保護者間のプロセスについて国際比較をし、理解を深める。 予習：明示された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間） A：中 B：多 E：あり F：あり
	第8回	多文化共生保育について 多文化共生教育・保育の概要についての理解を深める 予習：明示された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間） A：中 B：多 E：あり F：あり
	第9回	SDGsとESD(1)「持続可能な開発のための教育」 ESD（持続可能な開発のための教育）の概要について理解し、環境と子どもに関する国際的潮流を知る 予習：明示された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間） 課題（2）について考える（30分） A：中 B：多 E：あり F：あり
	第10回	SDGsとESD(2)「持続可能な開発のための教育」の実践 ESDの概念を保育に活かすための方法を考える 予習：明示された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間） 課題（2）の資料作成と練習（1時間） A：中 C：多 E：あり F：あり
	第11回	「私が考えるESDの実践」の課題発表 課題（2）「私が考えるESDの実践」の課題発表 予習：課題（2）に取り組み、発表準備をする（1時間） 復習：自分と他者の発表を振り返り、そこから学び、自身の保育にどのようにつなげることが出来るかについて自分の考えをまとめる（30分） 発表から生じた疑問点などについて書籍やインターネットで調べて文字化する（1時間） B：中 D：多 E：あり F：あり
	第12回	「私にとっての国際的な保育実践」について 課題（3）「私にとっての国際的な保育実践」についてクラスメイトと意見交換をし、自分の目指すべき保育について理解を深める。 予習：今までの授業内容を踏まえ、自分の感想と意見をまとめておく（1時間） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間） 「私にとっての国際的な保育」についてまとめ、発表資料を作成する（1時間） A：中 B：多 E：あり F：あり
	第13回	個人テーマによる国際的な保育のプレゼンテーション 「私にとっての国際的な保育」を発表し、クラスメイトと考えを共有する 個人的な関心を魅力的に人に伝える技術を学ぶ 予習：発表準備と練習（1時間30分） 復習：自分の発表について振り返り、他の人の関心を自らの関心につなげ、学びを広げる（30分） A：中 D：多 E：あり F：あり
	第14回	個人テーマによる国際的な保育のプレゼンテーションの共同分析 「私にとっての国際的な保育」の発表内容を共同で分析する 個人的な関心を魅力的に人に伝える技術を学ぶ 予習：発表準備と練習（1時間30分） 復習：自分の発表について振り返り、他の人の関心を自らの関心につなげ、学びを広げる（30分） A：中 D：多 E：あり F：あり
	第15回	授業の総括（2）授業全体を通して学んだことと今後の課題 本科目を通して学んだことを振り返り、理解度チェックを行う。 国際的な保育を学ぶ意味と今後の展望について考察する。 予習：第1～14回まで授業内容を整理し、自分の感想と意見をまとめておく（1時間） 復習：授業で取り組んだ内容の全体を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間） A：中

	B：多 E：あり F：あり
教育目標との関連	国際こども教育学科で学ぶ意義を意識し、世界に視野を向ける。高い専門性を備えた保育者になり、自らのやりがいを感じると同時に、社会や地域に貢献できる力を身につける
到達目標　（学修成果）　　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	※添付資料のルーブリックを参照 1.国際化が進む世界における幼児教育の概要と状況を理解し、説明することができる。 3.多文化共生保育について理解し、その方法や内容について論じ合うことができる。 5.保育における子どもの権利や多様性の尊重について考え、実践の方法を知ることができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	振り返りノート＋期末レポート（６０％） グループ研究・プレゼンテーション（２０％） 国際学生交流実践（２０％） 提出課題（振り返りノート含む）発言による授業への貢献、参加の姿勢もルーブリック評価の対象とする 成績評価は添付資料のルーブリックを参照 ＊欠席等の取扱いについては、『履修要項』に準ずる
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	最終授業内にてディスカッションを行う中で教員およびピア・フィードバックを行う。
教科書	必要に応じてPDF等で配布する
参考書	OECD編著；星美和子・首藤美香子・大和洋子・一見真理子訳（2011）『OECD保育白書―人生の始まりこそ力強く:乳幼児期の教育とケア（ECEC）の国際比較』明石書店 泉千勢・一見真理子・汐見稔幸編著（2008）『世界の幼児教育・保育改革と学力』明石書店 咲間まり子編（2020）『保育者のための外国人保護者支援の本』かもがわ出版
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	上記に記載の通りとする
履修上の注意、条件等	事情により初回授業に欠席する場合には、あらかじめ連絡すること。 好奇心を持ち、主体性を持って授業や課題に積極的に取り組むことが望まれる。 シラバスの内容は、履修学生のスケジュール、理解度、また、ゲストスピーカーに来て頂くことなどにより、変更の可能性がある。
オフィスアワー	質問は授業の前後に受け付ける。
備考・メッセージ	授業は基本的に遠隔授業で行うが、対面もありうる。どの授業がそうであるかは授業内で連絡する。 グローバル社会において、保育者として国際的な視野を持つことは不可欠です。未来を生きる子どもたちのために、保育者としてできることを一緒に考えていきましょう。

講義科目名称： 乳幼児と脳科学　　授業コード：

英文科目名称： Developmental brain science for early childhood

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年 専攻科	2単位	2年　専攻科　選択
担当教員			
佐治量哉			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：なし	ナンバリング：B303
添付ファイル			
乳幼児と脳科学2025ルーブリック.pdf			

講義概要	近年、子どもの発達に関する学術的・社会的関心は高まっている。とりわけ脳科学を標榜する書籍は数多く書店に並んでいる。しかしながら、それらの中には科学的根拠のない情報も多く、保育者として信頼できる情報と信頼できない情報を判断することが必須となっている。 この講義では、子どもの発育（成長と発達）や凸凹をとらえる視点として、最近の発達科学や脳科学研究の知見の有用性を示すとともに、その限界にも言及する。全15回の講義を通して、乳幼児期の脳の発達、睡眠、言語、運動、記憶、情動などを中心に取り上げ、さらには発達に関わる諸問題（遺伝・環境、神経発達症候群など）についても論じる。評価は学習到達度確認テスト（期末テスト）にて行う。 乳幼児の発達科学研究・脳科学研究に従事してきた経験に基づき、日々更新されていく数々の知見を保育現場にどのように活かすべきなのか、活かすことができるのかを授業の中で述べていく。 他の科目との関連：「保育の心理学」「子どもの保健」で習得する項目を、発達科学・脳科学研究の視点からさらに掘り下げて学び、保育士として必要なスキルのさらなる向上を目指す。また心理学特論と共に学ぶことで、人間の理解はさらに深まることが期待される。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　イントロダクション 近年の技術革新によって、生きている意識のある人間の脳内の活動をリアルタイムに可視化することができるようになってきた。このような脳科学研究は、乳幼児の心の理解にどのように役立つのか？限界はあるのか？脳科学を標榜する育児本や教育法は枚挙にいとまがない。しかし科学的根拠がない誤った知識が独り歩きしている実情もある。この講義では、現在の脳科学研究が人間を理解するために欠かせないものであることを学ぶ。 予習の問い：「私たちは、どうして保育（子育て）で赤ちゃんを抱っこするのか」について自分の意見を発表できるようにまとめておく【1時間】 D：少、F：あり 第2回　胎児期から乳幼児期の脳の発達 人の場合、産まれたばかりの赤ちゃんの頭部に脳があることは周知の事実である。それでは脳はいつ形成されるのか？この問いに答えるために、この授業では脳の成り立ちと脳内の神経細胞ネットワークの発達について、胎内から乳幼児期までの期間を中心に学ぶ。 予習の問い：「母親の胎内で最も早く働き始める感覚（5感）は何か」について自分の意見を発表できるようにまとめておく【1時間】 【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。 D：少、E：あり、F：あり 第3回　胎児期から乳幼児期の脳の発達に関わる諸問題 喫煙や飲酒と胎児の発育の関係や虐待など胎児期から乳児期における脳発達に影響を及ぼす諸問題について学ぶ。 予習の問い①：「同居家族の喫煙は妊娠中の母体と赤ちゃんにどのような影響を与えるのか」について自分の意見を発表できるようにまとめておく【1時間】 予習の問い②：「5感の中であなたが最も失いたくない感覚は何か」について自分の意見を発表できるようにまとめておく【30分】 【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。 B：少、E：あり、F：あり 第4回　乳幼児の睡眠 眠ること（睡眠）は、乳幼児期の脳のみならず心や身体の発達にとっても欠かせません。この授業では、乳幼児期の眠りの特徴について学ぶと共に、眠りが脳の働きによってコントロールされていることを学ぶ。 予習の問い①：「どうして眠るときに布団を掛けるのか」について自分の経験を踏まえて自分の意見を発表できるようにまとめておく【1時間】 予習の問い②：「早起き・早寝」は正しいのか、について自分の経験も含めて意見を発表できるようにまとめておく【30分】 【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。 D：少、E：あり、F：あり 第5回　乳幼児の睡眠に関わる諸問題：午睡、夜泣き 乳幼児期には眠りが大切であると思えば思うほど、眠りに関する諸問題が顕在化してくる。たとえば、午睡は何時間とるべきなのか、夜泣きにはどのように対応するべきなのかなど、保育園で

よく直面する眠りに関する諸問題について考察する。

予習の問い：「保育園で午睡をしたくない子どもがいた時、あなたが担任ならどのような対応をするか、またその保護者に対してどのように報告するのか」について、自分の意見を発表できるようにまとめておく【1時間】

【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。

B：少、E：あり、F：あり

第6回　乳幼児に適切な刺激

乳幼児の発育において適切な静けさとは何か？適切な触覚刺激や運動とは何か？適切な匂いとは何かという点について、保育環境の在り方と共に学ぶ。

予習の問い：香水やにおいの強い柔軟剤は、乳児の保育現場では避けたほうが良いといわれています。その理由について、自分の意見を発表できるようにまとめておく【1時間】

【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。

D：少、E：あり、F：あり

第7回　乳幼児の言語

人間の言語能力は生後36カ月の間に、音声、語彙、文法の獲得とめざましい発達変化を遂げる。その後も徐々に発達は続けるが、最も急激な言語発達が観察されるのが乳幼児期である。この講義では、言語の一次的機能に焦点を当てて言語知覚と言語発話の2つの側面から、特に生後1年の言語獲得過程について学ぶ。

予習の問い：「まだ言葉を話さない乳児に対して絵本の読み聞かせをする意味はあるのか」という問いに対して自分の意見を発表できるようにまとめておく【1時間】

【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。

B：少、E：あり、F：あり

第8回　乳幼児の言語と身体を育むための遊び

近年注目されていることばを育むための関わり方（インリアルアプローチ）について、SOULの視点から学ぶ。

予習の問い：「スマートフォンやタブレットとうまく付き合う方法はあるか」という問いに対して、自分の意見を発表できるようにまとめておく【1時間】

【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。

D：少、E：あり、F：あり

第9回　乳幼児の記憶

記憶は私たちの日常生活の中心をなすものである。生まれたばかりの赤ちゃんに記憶はあるのでしょうか？この講義では、生後1カ月の乳児であっても潜在記憶が存在することや、生後8－10ヶ月頃に顕在記憶技能が顕著に向上することなど乳児の記憶研究の知見を学ぶ。

予習の問い：「あなたが最も子どもの時に最も遡れる記憶（思い出）」の内容を整理しておく。それは何歳ごろの出来事なのか、具体的に発表できるようにまとめておく【1時間】

【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。

B：少、E：あり、F：あり

第10回　乳幼児の情動

表情は人間だけが持つ感情表現の一つである。基本6感情と言われる「喜び、悲しみ、怒り、嫌悪、恐怖、驚き」は、文化を超え、全人類に共通に存在する表情である。さらに生後1週間の乳児であっても母親を識別するという新生児の顔選好性はよく知られていることから、人間にとって表情認識は大変に重要なコミュニケーションツールであることが分かる。この講義では、乳幼児の表情認知能力がどのように発達していくのか、表情認識に関わる脳の神経基盤について学ぶ。

予習の問い：「赤ちゃんはどうして相手の顔をよく見るのか。また目が合うと笑うのはなぜか」という問いに対する自分の考えを発表できるようにまとめておく【1時間】

【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。

D：少、E：あり、F：あり

第11回　乳幼児の発達に関する諸問題：遺伝と環境

子どもの発達において、親（家庭）の役割は絶対的に重要である。しかし、成育環境や個性を調べて分かることは、遺伝子は環境により、環境は遺伝子によってお互いに繋がっているという点である。つまり遺伝 or 環境という捉えかたではなく、遺伝 and 環境という考え方で子どもの発達をとらえる必要があると思われる。この講義では、一卵性双生児の研究などを紹介しながら、人間の心理的・行動的気質形成に及ぼす、遺伝の影響と環境のかかわりについて学ぶ。

予習の問い：自分の性格面や行動面を振り返ってみて「親から遺伝している」と思う点を2つ挙げられるようにまとめておく【30分】

【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。

B：少、E：あり、F：あり

第12回　乳幼児の発達に関する諸問題：神経発達症候群（１）ASD

自閉症スペクトラム症（ASD）は、社会性及び対人コミュニケーションの困難さ、過度に強いこだわりや常同行動によって定義される発達障害である。この講義では、自閉症スペクトラムの中心的な問題であると考えられる非定形な自己について解説する。また自己と心の理論の問題に関す

	る脳科学研究を紹介しながら、ASD児に見られる心の理論の不全の原因について学ぶ。 予習の問い：「“自閉的”な行動とはどんな行動か」という問いに対して具体例を3つ挙げて発表できるようにまとめておく。【1時間】 【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。 B：少、E：あり、F：あり 第13回　乳幼児の発達に関する諸問題：神経発達症候群（２）ADHD 注意欠陥多動症（ADHD）は、一般社会のみならず教育・保育に関わる専門家の中でもまだ十分に認知されているとは言えない。その理由の一つに、ADHDの行動特徴は正常行動からの質的な逸脱がなく、ややあいまいな基準で診断されていることも考えられる。この講義では、最近のADHDの遺伝学的な研究、脳科学的知見、二次障害の有病率の高さ、薬物治療の状況などについて学ぶ。 予習：「多動な子ども」と言えばどのような子どもをイメージするか、具体的な行動を3つ発表できるようにまとめておく。【1時間】 【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。 B：少、E：あり、F：あり 第14回　乳幼児の発達に関する諸問題：神経発達症候群（３）LD 限局性学習症（LD）の概念は教育現場の立場と医療診断の立場では差異がありあいまいさを含んだ概念である。この講義では、現在LDの中で最も研究が進んでいるディスレクシア（Dyslexia）の基本病態や脳科学研究の知見について学ぶ。 予習：英語圏における「ディスレクシア」の現状（例えば、ディスレクシアであることをカミングアウトしている有名人のことなど）について、ノートにまとめておく。【1時間】 【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。 B：少、E：あり、F：あり 第15回　学習到達度確認テストの総括 学習到達度確認テストの総括を行う。 予習：1～14回目までの授業プリント・スライドを参照し、自らのノートに授業内容を総括する。【2時間】 E：あり
教育目標との関連	子どもの発育を「大人中心主義」の「経験側」で見極めることは避けるべきである。この科目で学ぶ乳幼児の発育（成長・発達）理解に役立つ発達科学研究や脳科学研究の知見に高い関心をもち、積極的に保育現場へ活かそうとする姿勢を身につける。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L01：乳幼児の基礎的な発育に関して、発達科学や脳科学の知見に関連付けて説明できる。 L02：乳幼児の発育の凸凹に対して、科学的な知見に基づいた工夫や歩み寄りの筋道を保育環境に即して立案できる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	・学習到達度確認テスト：60%（授業内容全般についての理解度を評価） ・予習課題、振り返り：20%（各講義回の始めに前回の授業の振り返りを行い、理解度の確認） ・平常点：20%（出席状況や授業態度、授業内の発言などを総合的に評価） なお、評価基準は添付資料のルーブリックを参照のこと
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回目の授業において総括を行う。
教科書	授業中に随時紹介する
参考書	乳幼児の発達と保育（秋田喜代美監修、朝倉書店2019）など
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の課題（予習、復習）は上記の通りである。
履修上の注意、条件等	「保育の心理学」を履修済みかつ、1年次終了時のGPAが2.0以上であること
オフィスアワー	講義資料・プリントはGoogle classroomを利用して各自、必要に応じてダウンロードすること。また、講義の内容に関する質問は限定コメント欄またはメールを利用してください。
備考・メッセージ	授業形態は対面で実施する。

講義科目名称： 比較乳幼児教育論　　授業コード：

英文科目名称： Comparative Early Childhood Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年	2単位	2年
担当教員			
石見　容子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：C302
添付ファイル			
ルーブリック比較乳幼児教育論（2025）.pdf			

講義概要	多様化する社会において、次世代の保育を担う保育者には国際的な視点を身につけることが求められている。国際化とは、相手の立場を認め尊重し、自分の考えも充分に伝えられることであり、互いの違いを知り理解しようとする姿勢が重要である。本科目では、異なった歴史、文化、社会の背景をもとに発展してきた世界各国の保育について様々な角度から考察し、多様な価値観や、共通する子ども観についての考えを深める。国際こども教育概論から発展し、より個別具体的に国家間の乳幼児教育の相違点を検討する。 担当教員は日米の乳幼児教育に携わり、インターナショナルスクールでの教員経験や北アメリカでの在住経験をもつ。実務経験を活かし、世界の絵本、遊び、保育形態、保育制度への理解を通して様々な文化や考え方を知り、視野を広げるための授業を多面的に展開する。保育者として子どもたちへ国際化教育を行う際の具体的な方法について、履修学生同士が学び合い、互いを高め合える授業を展開する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　イントロダクション 本授業説明（目的、課題、評価などについて）と担当教員紹介 今までの学びを振り返り、国際的な視点について考える。 予習：シラバスを読み、本演習の内容と意義を理解する（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） Ｂ：多 Ｅ：あり Ｆ：あり 第2回　比較教育研究について 国際データを様々な角度で比較し、比較教育研究の意義についての知識を深める。 予習：気になる国の義務教育について調べ学習をする（約30分） 復習: 授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） Ｂ：多 Ｅ：あり Ｆ：あり 第3回　子どもの権利条約について 子どもの権利条約について、その歴史や意義について学びを深める。 予習：子どもの権利条約について調べ学習をし、感じたことをまとめておく。（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） Ａ：中 Ｂ：中 Ｅ：あり Ｆ：あり 第4回　未来の子どもの可能性について これからの社会の変容について、子どものもつ可能性についてクラス内でdiscussion・debateをする。 予習：未来の社会について調べ学習をし、感じたことをまとめておく（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） ※個人課題に使用する絵本と、分析の視点を紹介する準備をする（1時間） Ａ：中 Ｂ：多 Ｅ：あり Ｆ：あり 第5回　IB教育について IB教育を実践している外部講師を招き、IB教育について学習する。 予習：IB教育について調べ、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） Ｅ：あり Ｆ：あり 第6回　SDG's、ESDについて SDG's、ESDについて学びを深め、SDG's#14教育について、今私たちのできることを考える。 予習：SDG's、ESDについて調べ、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約30分） 復習：自身の受けてきた教育について振り返りまとめる（約1時間） Ａ：中 Ｂ：多 Ｄ：少 Ｅ：あり Ｆ：あり 第7回　世界の子ども達の生活について 世界の子ども達の生活について知り、パネルプレゼンテーションについて考えをまとめる。 予習：気になる国の子どもの生活について調べる（約1時間） 復習：次回の発表に向けての準備を進める（約1時間） Ｂ：中 Ｅ：あり Ｆ：あり

	第8回　世界の子ども達の生活について 個人課題「パネルプレゼンテーション」に向けて準備を進める。 予習：パネルプレゼンテーションに活用できそうなものを考える（約1時間） 復習：パネルプレゼンテーションの準備を進める（約1時間） B：中 E：あり F：あり 第9回　世界の子ども達の生活について 世界の子ども達の生活についての個人発表を通して意見を共有し、様々な視点を持つ大切さに気付く。 予習：パネルプレゼンテーションの発表準備を進める（約1時間） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） D：多 E：あり F：あり 第10回　世界の保育・教育について 世界の保育・教育について調べ、グループワークの準備を開始する。 予習：世界の保育・教育について調べ、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約1時間） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） A：中 B：中 E：あり F：あり 第11回　世界の保育・教育について 世界の保育・教育についてグループプレゼンテーションの準備をする。 予習：プレゼンテーションのための準備を進める（約1時間） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） A：中 B：中 E：あり F：あり 第12回　世界の保育・教育について 互いのプレゼンテーションを通して意見を共有し、視野を広げる。 予習：プレゼンテーションの準備を進める。（約1時間） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） A：中 B：多 D：多 E：あり F：あり 第13回　世界のおもちゃや伝統遊びについて 学外の施設に出向き、実際に様々なおもちゃを手に取って遊び、教育的活用法について考える。 予習：世界のおもちゃや伝統遊びについて調べ、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約1時間） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約30分） C：多 E：あり F：あり 第14回　世界の子育て事情について 世界の子育てについて知ったことについてグループ内でディスカッションしてまとめる。 予習：13回の授業の振り返りをする。（1時間30分） 復習：世界の子育てについて質問をまとめる（約30分） B：中 D：中 E：あり F：あり 第15回　授業の総括 世界の子育てについてのまとめ作業をする。科目総括。 予習：世界の子育てについて調べる（約30分） 復習：科目の振り返りをし、これからの課題を考える。（30分） A：中 D：中 E：あり F：あり
教育目標との関連	世界の子どもを取り巻く状況や保育についての理解を深め、国際的な視野を持つと同時に、子どもたちに幼児期からの平等の意識を育む国際化教育の方法を知ることを目標とする
到達目標　（学修成果）　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	L01.国際的な保育を学ぶ意味について理解し、世界の保育を比較乳幼児研究の観点から説明することができる L04.平等や子どもの権利、多様性について理解し、保育実践に活かす具体的方法を主体的に考えることができる L05.多文化共生社会における保育者の役割について理解し、子どもや保護者に対しての配慮を学ぶことができる
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	1．期末レポート　20%、提出課題　20%、発表　20%、発言による授業への貢献　20%、参加の姿勢　20% 2．成績評価は添付資料のルーブリックを参照。 ＊欠席等の取扱いについては、『履修要項』に準ずる

期末試験・期末レポートのフィードバック方法	期末レポートのフィードバックは授業内で個別に行う。
教科書	必要に応じてプリントを配布する。教科書は使用しない。
参考書	・『なぜ世界の幼児教育・保育を学ぶのか―子どもの豊かな育ちを保障するために―』泉千勢編 ミネルヴァ書房（2017年）¥3850（税込） ・『OECD保育白書―人生の始まりこそ力強く:乳幼児期の教育とケア（ECEC）の国際比較』OECD編著；星美和子・首藤美香子・大和洋子・一見真理子訳　明石書店　（2011年）¥8360（税込） その他、授業内に提示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習復習は、上記の通りである。
履修上の注意、条件等	事情により初回授業に欠席する場合には、事前にクラスルームを通して欠席連絡をする。 好奇心を持ち、主体性を持って授業や課題に積極的に取り組むことが望まれる。 シラバスの内容は、履修学生のスケジュール、理解などにより、変更の可能性がある。
オフィスアワー	研究室に掲示。 質問はオフィスアワー、または科目のGoogleクラスルームにて受けつける。
備考・メッセージ	学外施設に出向き、世界のおもちゃについて学ぶ回があります。交通費、入場料については各自の負担となります。 詳細は初回授業でお伝えします。 自ら積極的に好奇心を持って学ぼうとする保育者は、子どもに良い影響を与え、自ら積極的に学ぶ姿勢を持つ子どもを育てることにつながります。共に楽しく学び合い、新しい知識を得ることに喜びを感じましょう。

講義科目名称： 保育英語I　　授業コード：

英文科目名称： English for Nursery Schools I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	１単位	国際こども教育コース　選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E301
添付ファイル			
ルーブリック評価　保育英語I.pdf			

講義概要	In this current global society, the number of non-Japanese speaking children is increasing. With English as the global common language, there is a great need for teachers who can talk with the parents of these students. We will study the English needed to express your learning from other courses, such as nutrition, health and Japanese culture. In this course, we will study the basic English needed to work in an English-speaking nursery school or kindergarten. In each class, we will focus on one topic and learn the English needed not just within the nursery school, but also to talk to parents about their children's day. Mary Jones has 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　What's Your Name? In this class, we will study English used to introduce yourself and give basic information. Vocabulary: Things children use at nursery school Grammar: Present tense A:中　B:少　E: あり　F:あり Review vocabulary list handout. (30 min) Complete writing homework handout. (15 min) Read dialogues in the next unit. (15 min) 第2回　Where are you from? In this class, we will study English used to talk about yourself and where you are from and ask questions. Vocabulary: Countries and Nationalities Grammar: Present tense questions A:中　B:少　E: あり　F:あり Review vocabulary list handout. (30 min) Complete writing homework handout. (15 min) Read dialogues in the next unit. (15 min) 第3回　Good Morning!! In this class, we will study the English used to talk about your daily life and schedule in a nursery school. Vocabulary: Daily life Grammar: Present tense and present continuous tense A:中　B:少　E: あり　F:あり Review vocabulary list handout. (30 min) Complete writing homework handout. (15 min) Read dialogues in the next unit. (15 min) 第4回　Are You OK? In this class, we will learn the English used to talk about sickness and not feeling well. Vocabulary: Illness and medical products Grammar: Be verb A:中　B:少　E: あり　F:あり Review vocabulary list handout. (30 min) Complete writing homework handout. (15 min) Read dialogues in the next unit. (15 min) 第5回　What are you doing? In this class, we will learn the English used to talk about what is happening now. Vocabulary: Activities children do at nursery school Grammar: Verbs that don't use the progressive

A:中　B:少　E: あり　F:あり

Review vocabulary list handout. (30 min)
Complete writing homework handout. (15 min)
Read dialogues in the next unit. (15 min)

第6回　How are you feeling?
In this class, we will learn the English used to talk about feelings.

Vocabulary: Feeling
Grammar: ed and ing adjectives

A:中　B:少　E: あり　F:あり

Review vocabulary list handout. (30 min)
Complete writing homework handout. (15 min)
Read dialogues in the next unit. (15 min)

第7回　What's She Like?
In the class, we will learn the English used to talk about people.

Vocabulary: Family members, personality adjectives
Grammar: Different uses of "like"

A:中　B:少　E: あり　F:あり

Review vocabulary list handout. (30 min)
Complete writing homework handout. (15 min)
Read dialogues in the next unit. (15 min)

第8回　Do's and Dont's
In this class, we will learn the English used to give orders.

Vocabulary: Verbs
Grammar: Imperative

A:中　B:少　E: あり　F:あり

Review vocabulary list handout. (30 min)
Complete writing homework handout. (15 min)
Read dialogues in the next unit. (15 min)

第9回　Let's Eat Lunch!
In this class, we will learn the English used to talk about food.

Vocabulary: Food
Grammar: Different uses for "let"

A:中　B:少　E: あり　F:あり

Review vocabulary list handout. (30 min)
Complete writing homework handout. (15 min)
Read dialogues in the next unit. (15 min)

第10回　What do you want to do?
In the class, we will learn the English used to invite people to do things and also how to react to news.

Vocabulary: Children's games
Grammar: Exclamatory sentences

A:中　B:少　E: あり　F:あり

Review vocabulary list handout. (30 min)
Complete writing homework handout. (15 min)
Read dialogues in the next unit. (15 min)

第11回　What do you have to do?
In the class, we will learn how to talk about your obligations and also giving advice.

Vocabulary: Children's fights
Grammar: Modal verbs

A:中　B:少　E: あり　F:あり

Review vocabulary list handout. (30 min)
Complete writing homework handout. (15 min)
Read dialogues in the next unit. (15 min)

第12回　I need to go potty.
In this class, we will learn the English needed to talk about the bathroom and making requests.

Vocabulary: Bathroom and toilet training
Grammar: Requests

A:中　B:少　E: あり　F:あり

	Review vocabulary list handout. (30 min) Complete writing homework handout. (15 min) Read dialogues in the next unit. (15 min) 第13回 Injuries and Emergencies In this class, we learn about the English needed to talk about injuries and emergencies. Vocabulary: Injuries and parts of the body Grammar: Past tense A:多　B:少　E: あり　F:あり Review vocabulary list handout. (30 min) Complete writing homework handout. (15 min) Read dialogues in the next unit. (15 min) 第14回 We're going to go outside In this class, we will talk about the English need when taking children on walks or playing outside. Vocabulary: Outside activities Grammar: Future tense B:少　E: あり　F:あり Review vocabulary list handout. (30 min) Complete writing homework handout. (15 min) 第15回 Review Review of course material in preparation for final exam. F:あり Review handouts for final exam. (2 hours) 試験 Final Exam Students will take a written final exam covering the material. The final exams and feedback will be conducted though google classroom.
教育目標との関連	In this course, students will learn the importance of English in modern society and be able to use it to communicate with parents and coworkers in the future.　They will have the basic English needed to communicate with children and parents about life in a nursery school and be a vital member of the staff.
到達目標　(学修成果)　　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	LO1. Students will gain the vocabulary needed to work with children. LO2. Students will have a better understanding of the differences between Japan and other cultures. LO3. Students will be able to express themselves using basic English and communicate in an early childhood education situation.
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	Final Exam 30% Composition Writing Homework 20% Vocabulary Tests 30% Short Answer Homework 20% There will be multiple sort writing assignments which will be graded using a rubric.
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	The final exam will be returned in the final class and we will review it together, so students can learn where they need to study more.
教科書	「Speaking of Childcare」　Peter Vincent Naoko Nakazato 著　南雲堂出版
参考書	None.
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	There will be a vocabulary test every week, so please study the previous week's vocabulary.
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	I will take questions before and after each class.
備考・メッセージ	These classes will be conducted in person.

講義科目名称： 保育英語Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称： English for Nursery Schools II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年	１単位	2年　専攻科　国際こども教育コース選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E302
添付ファイル			
ルーブリック評価　保育英語II.pdf			

講義概要	In this current global society, the number of non-Japanese speaking children is increasing. With English as the global common language, there is a great need for teachers who can talk with the parents of these students. We will study the English needed to express your learning from other courses, such nutrition, health and Japanese culture. In this course, we will study the English needed to work in an English-speaking nursery school or kindergarten as an assistant teacher. In each class, we will focus on one topic and learn the English needed not just within the nursery school, but also to talk to parents about their children's day. This class will be conducted entirely in English. Mary Jones has 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　Looking for a Good Preschool Asking for Directions to the Preschool Getting Information In this class, we will study telephone English and how to take a phone message. And also questions used when signing up for a nursery school. A:中　B:少　E: あり　F:あり Review vocabulary list handout. (30 min) Read ahead for the next class (30 min) 第2回　Starting Preschool A snowy day First Day of School In this class, we will study greetings and questions used on the first day of nursery school. We will also learn how to write a questionnaire about the family and make a daily schedule for a nursery school. A:中　B:少　E: あり　F:あり Review vocabulary list handout. (30 min) Read ahead for the next class (30 min) 第3回　Going to Preschool Going to school on a rainy day Going to school on a hot day In this class, we will study the English used when talking about the weather. We will also learn about the passive voice and how it is used in written announcements or letters. A:中　B:少　E: あり　F:あり Review vocabulary list handout. (30 min) Read ahead for the next class (30 min) 第4回　Playing Inside Making Decorations for Children's day Kamishibai In this class, we will learn the English used when talking about Children's Day events and customs. A:中　B:少　E: あり　F:あり Review vocabulary list handout. (30 min) Prepare for presenations. (60 min) 第5回　Presentations - English Picture book Each student will read a picture book out loud to the class.

A:中　B:少　D: 多　E: あり　F:あり

Read ahead for the next class (30 min)

第6回　Playing Inside 2
Dancing

In this class, we will learn the English used when talking about dancing or rhythm. We will also learn how to explain Japanese radio exercise.

A:中　B:少　E: あり　F:あり

Review vocabulary list handout. (30 min)
Read ahead for the next class (30 min)

第7回　Playing Inside 3
Drawing and Painting
Folding Origami Paper

In this class, we will learn the English used when talking about arts and crafts. We will also begin preparations for the arts and crafts presentations.

A:中　B:少　E: あり　F:あり

Review vocabulary list handout. (30 min)
Read ahead for the next class.　(30 min)

第8回　Eating Lunch
Getting ready for lunch
Second helping and cleaning time

In the class, we will learn the English used during lunch or talking about meals.　We will also learn how to create a menu in English.

A:中　B:少　E: あり　F:あり

Review vocabulary list handout. (30 min)
Read ahead for the next class (30 min)

第9回　Snack Time
Snack time

In this class, we will learn the English used during snack time.　We will learn how to write a personal letter or notice to a parent.

A:中　B:少　E: あり　F:あり

Review vocabulary list handout. (30 min)
Prepare for presentation.　(90 min)

第10回　Presentations - Arts and Crafts
In this class, students will give their arts and crafts presentations.

A:中　E: あり　D: 多い　F:あり

Read ahead for the next class (30 min)

第11回　Playing Outside
Playing Tag
Playing Jump Rope

In this class, we will learn the English used when playing outside. We will learn how to explain common outdoor games.

A:中　B:少　E: あり　F:あり

Review vocabulary list handout. (30 min)
Read ahead for the next class (30 min)

第12回　School Trip
Preparing for the school trip
Going on a school trip

In the class, we will learn about the English used in planning and executing a school trip. We will also learn how to write a letter telling the parents about the trip.

A:中　B:少　E:あり　F:あり

Review vocabulary list handout. (30 min)
Read ahead for the next class (30 min)

第13回　Sickness

	Getting a stomachache Getting a fever In the class, we will learn how to talk about health and sickness in English, including calling parents to inform them. A:中　B:少　E: あり　F:あり Review vocabulary list handout. (30 min) Read ahead for the next class (30 min) 第14回　Getting Hurt Falling down and getting hurt In this class, we will learn the English needed to talk about injuries, including how to describe pain. A:中　　B:少　E: あり　F:あり Review vocabulary list handout. (30 min) 第15回　Presentations - Preperation We will prepare for the group presentations. Each pair of students will choose one theme of this course and prepare a presentation for the next class. A:多い　E: あり　F:あり Prepare for presenations. (60 min) 第16回　Presentations & Review Each group of students will give their presentations. We will also review and look back over the course. A:多　D: 多　F:あり
教育目標との関連	In this course, students will learn the importance of English in modern society and be able to use it to communicate with parents and coworkers in the future. They will have the basic English needed to communicate with children and parents about life in a nursery school and be a vital member of the staff.
到達目標　(学修成果)　　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	LO3. Students will acquire the basic English skills needed to work as an assistant teacher. LO2. Students will acquire greater understanding of cultural differences. LO3. Students will be able to communicate effectively in a teaching situation.
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	Writing assignments 40% Presentations 40% Vocabulary Tests 20%
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	After presentations, a detailed evaluation will be passed out to each student describing their strengths and weaknesses.
教科書	「幼保英検2級テキスト」幼児教育・保育英語検定協会　著　株式会社ブックフォレ　出版　2019年
参考書	None
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	There will be a vocabulary test every week, so please study the previous week's vocabulary.
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	I will take questions before and after each class.
備考・メッセージ	This class will be conducted in person.

講義科目名称： 世界のＥＳＤと保育　　授業コード：

英文科目名称： Education for Sustainable Development in the World from the Early Childhood

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
春学期	専攻科	2単位	専攻科選択	
担当教員				
尾崎　司				
授業形態：講義	担当形態：単独		実務経験：有	ナンバリング：C305
添付ファイル				
ルーブリック（世界のESDと保育）.pdf				

講義概要	現在、紛争、気候変動、自然災害、人権侵害、貧困問題、教育格差、資源の争奪など地球規模の問題群が山積する中、世界各国で17の持続可能な開発目標(SDGs) を掲げ、解決に向けて国際的な機運が高まっています。 今、目の前にいる日本の子どもたちは、望むと望まざるとにかかわらず、20年後、30年後には人口減少社会を生き抜き、社会的課題を抱える国際社会の中で暮らしていかなければなりません。 持続可能な社会を子どもたちと一緒に築いていくために、皆さんは「持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development：ESD）」を学ぶ必要があるのです。社会的課題はありますが、マイナス面だけではありません。課題解決のプロセスを通じて、新たにワクワクする未来社会を創っていけるのです。 ESDやSDGsは、幼児期の生活においても深く密接に関わっていますが、日本の保育現場ではそれを意識して取り組んでいる割合はまだ少ないと言えます。 この授業では、ESDが取り扱うトピックに関して、テーマワークや絵本などを通して体験的に学んでいきます。担当講師はNPOや自治体で、グローバル教育のファシリテーターとして持続可能な社会づくりに関わってきました。皆さんが保育現場で意識を持ってESDに取り組むことができるように、保育現場でのESDについて、ワークショップ形式で一緒に考えていきます。子どもたちの未来社会について考えたい人、社会的課題に将来取り組める未来世代を育てたい人、ぜひ一緒に学びましょう。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第１回　グローバルな学び①　ホリスティック・アプローチ 持続可能な社会に暮らす子どもたちに、私たちは何を伝えることができるのか。グローバリティをとらえる４次元モデルを紹介し、この授業のガイダンスをおこなっていきます。 【学修形態】(A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中 ［予習］自分のことを好きになる、自信が持てる絵本を１冊、選書してきてください。（約１時間） ［復習］リフレクション・シートを記入してください。（約１時間） 第２回　グローバルな学び②　学び方を学ぶ 持続可能な社会に暮らす子どもたちを育てるには、まず自分自身の「ものの見方」を常に問い直す姿勢を持つこと、そして子どもたちを含め周りの人たちを「エンパワメント」していく行動が求められます。持続可能な社会における学び方について、一緒に考えていきます。 【学修形態】(A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中 ［予習］自分が前向きになる絵本を１冊、選書してきてください。（約１時間） ［復習］リフレクション・シートを記入してください。（約１時間） 第３回　トピック① いきもの 私たちを含め、私たちは生き物と共に生活しています。しかし、人間によって、循環している生態系が破壊され、生物の多様性も脅かされています。私たちは、これから生き物とどう付き合っていくのかを考えていきます。 【学修形態】(A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中 ［予習］動物の福祉について調べておいてください。（約１時間） ［復習］リフレクション・シートを記入してください。（約１時間） 第４回　トピック② 水 「水」は私たちの生活に身近なものであるにもかかわらず、その問題はあまり意識されていません。水をめぐる様々な問題、脱プラスチックの問題などを考えながら、それをどう伝えていくのかについて考えます。 【学修形態】(A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中 ［予習］脱プラスチックの問題について調べておいてください。（約１時間） ［復習］リフレクション・シートを記入してください。（約１時間） 第５回　トピック③ モノ 現代社会はモノにあふれています。近年、生産から廃棄までのプロセスを考え、モノを作ることが求められるようになりました。これからモノとどう付き合っていくのかを考えていきます。 【学修形態】(A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中 ［予習］あなたが持っている服の処分についての考えをまとめておいてください。（約１時間） ［復習］リフレクション・シートを記入してください。（約１時間） 第６回　ESDの視点から保育を考える① これまでの授業を振り返り、グループワークをおこないます。 【学修形態】 (A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中　(E)振り返り…中 ［予習］トピック①～③の感想を書き出しておいてください。（約１時間） ［復習］ESDの視点から保育に取り組んでいる好事例を調べましょう。（約１時間） 第７回　トピック④ ちがい 持続可能な社会において、「ちがい」を尊重することは大切です。自分とは異質の他者とどう付き合っていくのかを意識していかなければなりません。社会的性役割（ジェンダー）や人種、障害を持つ人への偏見・差別から解放されるために、幼児期からの環境や社会との接触を私たちがどのように作っていくべきかを考えていきます。 【学修形態】(A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中 ［予習］　あなたが将来訪問してみたい異文化の地とその理由・魅力を書き出しておいてください。（約１時間） ［復習］リフレクション・シートを記入してください。（約１時間）

	第８回　トピック⑤ 食べること 生きることは、食べることです。私たちを含め、生き物は、いのちをいただいて共に生活しています。しかし、動物のいのちや福祉ということに目を向けると、この食べるという行為を深く考える必要があります。食に対する他文化の人たちの考え方や食の多様性について考えます。 【学修形態】(A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中 ［予習］ベジタリアンやヴィーガンについて調べておいてください。（約１時間） ［復習］リフレクション・シートを記入してください。（約１時間） 第９回　トピック⑥ 世代間公正 人口減少社会では、これまでの人口増加社会と質的に異なる世代間交流とその仕組みが求められています。世代間それぞれが不公平な待遇を受けないことや、「幸福寿命」を充実させる生き方を模索し、子どもたちが生きる未来社会を考えていきます。 【学修形態】(A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中 ［予習］高齢社会でどのような問題があるかをできるだけ多く書き出しておいてください。（約１時間） ［復習］リフレクション・シートを記入してください。（約１時間） 第１０回　トピック⑦ 平和 世界では未だに紛争が絶えません。平和は外的に戦争が無い状態だけでなく、心に平和の砦（ユネスコ憲章）を築く個々人のあり方も求められます。持続可能な社会に暮らす子どもたちに、平和を伝えていくにはどうすればいいのかを考えていきます。 【学修形態】(A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中 ［予習］今起きている紛争について、あなたの意見をまとめておいてください。（約１時間） ［復習］リフレクション・シートを記入してください。（約１時間） 第１１回　トピック⑧ メディア 高度情報社会では、メディアが私たちの生活に欠かせないものになっています。生まれた時からメディアに接触している現代の子どもたちは、無意識のうちに大きな影響を受けています。子ども環境を作る大人が、メディアを積極的に読み解き活用する能力（メディアリテラシー）を身につけることについて考えていきます。 【学修形態】(A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中 ［予習］ 30分程度の子ども向けTV番組（民放）を１つ選び、その番組内でどんなCMがあるか書き出しておいてください。（約１時間） ［復習］リフレクション・シートを記入してください。（約１時間） 第１２回　トピック⑨ 小さな市民 ESDは、地球規模の社会的課題に対して解決策を模索し、行動を起こす地球市民を育む教育です。対話を通じ、民主的・平和的解決をおこなう市民を幼少期から育てるには、小さな社会である保育の場でどのようなことが大切になってくるのでしょうか。「参画のはしご論」をもとに、小さな市民の育成を考えていきます。 【学修形態】(A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中 ［予習］ 海外の友人から「日本の政治についてどう思う」とあなたの意見を求められたら、どんな話をしますか？ 話題を１つ、まとめておいてください。（約１時間） ［復習］ リフレクション・シートを記入してください。（約１時間） 第１３回　トピック⑩ アイディア ESDは、社会を創り変える学びです。対話してみる、アクションを起こしてみる、何かを提案してみる、などでアイディアを形にしていくことが大切です。園でできること、親子でできること、地域でできることを一緒に考えていきましょう。 【学修形態】(A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中 ［予習］ アップサイクルについて調べ、あなたが「これいいな」と思う取り組みを１つあげてください。（約１時間） ［復習］ 期末レポート作成に向け、リフレクション・シートの内容を整理しておいてください。（約１時間） 第１４回　ESDの視点から保育を考える② これまでの学びを振り返り、グループワークをおこない、期末レポートの準備をします。 【学修形態】 (A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中　(E)振り返り…中 ［予習］期末レポート提出に向け、あなたが学んだことを書き出しておいてください。（約１時間） ［復習］第15回の授業で、期末レポートについて語れるようにしておいてください。（約１時間） 第１５回　ESDを保育の中に みんなの期末レポートをもとに、これまで学んだことを分かち合っていきます。ESDを保育の中に取り入れていくにはどうしたらいいのか、みんなでそのアイディアを語り合ってみましょう。 【学修形態】 (A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中　(E)振り返り…中 ［予習］第15回の授業で、期末レポートについて語れるようにしておいてください。（約１時間） ［復習］第15回の授業で、学んだことをまとめておきましょう。（約１時間）
教育目標との関連	SDGsの理念である「地球上の誰ひとりとして、置き去りにしない」という言葉は、本学の愛の教育に基礎をおく教育目標と合致するものです。ESDを学ぶことで、持続可能な社会づくりに何が必要かを考え、行動を起こす地球市民を意識することができます。そして、そうした意識を持った大人が、保育にESDの視点を取り入れ、子どもに関わることがこの授業で期待されています。
到達目標　（学修成果） １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	LO1.ESDがどのような教育であるかを理解し、説明することができる。 LO4.ESDが取り扱う社会的課題やSDGsに関心を持ち、自分の考えを述べることができる。 LO5.保育・子どもの生活にESDの視点を取り入れるための提案を考えることができる。

評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	１．評価方法 ・期末レポート　８０％ ・リフレクション・シート　２０％ ２．ルーブリックは添付資料参照
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	最終回授業にてコメント、フィードバックをおこないます。
教科書	教科書は特になし。ポートフォリオを作成し、リフレクションをおこなうため、絵本ブックを購入してください（授業内で指示します）。
参考書	配布資料やサイトURLを適宜、提示します。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習・復習は授業計画の通り
履修上の注意、条件等	シラバスの内容は、履修学生の理解度により、変更があります
オフィスアワー	授業終了後に直接質問してください
備考・メッセージ	第１回～第１５回　対面授業 総括として、期末レポートを実施。第１５回でコメント、フィードバックをおこないます。

講義科目名称： 言語教育と幼児教育　　授業コード：

英文科目名称： Additional Language Education and ECE

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	専攻科	2単位	専攻科　選択
担当教員			
橋元　知子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E305
添付ファイル			
「言語教育と幼児教育」ルーブリック（2025）.pdf			

講義概要	国際こども教育の現場では、学び手のこども達や教え手の教育者にとり、非母国語教育は大変重要である。本科目では特に、この言語教育を幼児教育における資源として捉える視点を持つものとする。イマージョン教育など比較的新しい概念について学び、これらを検討することで、言語教育と幼児教育の関係性と意味を考え、その可能性や問題点について知る。先行して履修している「保育内容」系の科目での学びを、幼児教育に係る考察要素の一部土台とする。 他の科目との関連：国際こども教育概論で学習した言語教育と幼児教育の共存とその特徴を考察する。他の英語系科目での学びも言語的知識の基となる。 担当教員は保育士としてイングリッシュプレスクールに勤務していたことから実務経験を活かした授業を展開する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション 【meet】 授業の概要、評価、担当教員について知る。言語教育と幼児教育とは何かについてと、意義や目標を理解する。（本科目は遠隔授業で実施予定である。詳細については授業内に提示する。） 予習：言語教育と幼児教育のシラバス全体をよく読み、科目の全体像を把握しておく。（約1時間） 復習:自己省察（約1時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第2回　外国語教育の経緯と意義 【meet】 幼児英語教育は初等外国語教育の影響を大きく受けている。よって外国語教育が小学校まで降りてきた経緯とその意義について知る。 予習：前回学んだ内容を復習する。（約1時間） 復習：テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回の授業で共有できるよう、書き留めておく。（約1時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第3回　第二言語習得論と英語教育 【meet】 第二言語習得論と英語教育について理解する。 予習：前回学んだ内容を復習する。（約1時間） 復習：テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回の授業で共有できるよう、書き留めておく。（約1時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第4回　英語教育と第一言語の影響 【meet】 英語教育と第一言語の影響について学ぶ。 予習：前回学んだ内容を復習する。（約1時間） 復習：テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回の授業で共有できるよう、書き留めておく。（約1時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第5回　外国語教授法 【meet】 こどもに外国語を教える際の教授法について学習する。 予習：前回学んだ内容を復習する。（約1時間） 復習：テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回の授業で共有できるよう、書き留めておく。（約1時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第6回　外国語教授法ー行動主義に基づくアプローチ 【meet】 行動主義に基づく外国語教授法について知る。 予習：前回学んだ内容を復習する。（約1時間） 復習：テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回の授業で共有できるよう、書き留めておく。（約1時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第7回　外国語教授法ー生得主義・相互交流主義に基づくアプローチ 【meet】 生得主義・相互交流主義に基づく外国語教授法について学ぶ。 予習：前回学んだ内容を復習する。（約1時間） 復習：テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回の授業で共有できるよう、書き留めておく。（約1時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第8回　こども外国語教育ー関連領域との比較から 【meet】

	こども外国語教育の目標について関連領域との比較から考える。 予習：前回学んだ内容を復習する。（約1時間） 復習：テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回の授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第9回　こども外国語教育とこどもの発達 【meet】 こども外国語教育をこどもの発達の視点から知る。 予習：前回学んだ内容を復習する。（約1時間） 復習：テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回の授業で共有できるよう、書き留めておく。（約1時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第10回　諸外国におけるこども外国語教育ーヨーロッパ、アジア 【meet】 ヨーロッパやアジアにおけるこども外国語教育について理解する。 予習：前回学んだ内容を復習する。（約1時間） 復習：テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回の授業で共有できるよう、書き留めておく。（約1時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第11回　諸外国におけるこども外国語教育ーアメリカ 【meet】 アメリカにおけるにおけるこども外国語教育について学習する。 予習：前回学んだ内容を復習する。（約1時間） 復習：テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回の授業で共有できるよう、書き留めておく。（約1時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第12回　こども外国語教育における活動 【meet】 こども外国語教育における活動を学ぶ。 予習：前回学んだ内容を復習する（約1時間）。 復習：テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回の授業で共有できるよう、書き留めておく。（約1時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第13回　クラスルームイングリッシュと個人プロジェクトのテーマの探求 【meet】 クラスルームイングリッシュの活用について知る。プロジェクトについて説明する。こども外国語教育について探求したいテーマを見つけ、プロポーザル原稿を作成する。 予習：前回学んだ内容を復習する。（約1時間） 復習：テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回の授業で共有できるよう、書き留めておく。（約1時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第14回　プロジェクト：プロポーザルの熟考、練習 【対面】 個人プロジェクトのプロポーザルを熟考し、予行練習をする。 予習：原稿作成（約1時間） 復習：自己省察（約1時間） A：中　B：多　E：あり　F：あり 第15回　プロジェクト：プレゼンテーションの共有と考察／期末レポート／授業総括 【対面】 独自のテーマにおける探究成果物の発表、共有と考察。期末レポート実施。授業総括。 予習：発表準備（約1時間） 復習:自己省察（約1時間） D：多　E：あり　F：あり
教育目標との関連	保育現場等での円滑な国際レベルでの他言語コミュニケーション能力の必要性や有用性に関わるステークホルダーは、こども達に限らず、教員、職員、保護者など多岐にわたる。本科目では教育・保育資源としての言語教育の理論と実践への検討を通して、先述の各ステークホルダーの視点から言語教育と幼児教育について考察し、さらにはそれらを包括的に検討する。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	LO1.【知識・理解】幼児教育や保育現場で言語教育に関する有用な知識について理解し、述べることができる。 LO2.【思考・判断】言語が教育の対象及び手段の両方となりうることを踏まえ、保育環境に応じて利用法を判断できる。 LO4.【関心・意欲】言語教育と幼児教育の連関性と両分野を共に学ぶ意義について、問題意識を持つことができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	１.自己省察ノート　２０％、プレゼンテーション　３０％、期末レポート　３０％、参加姿勢　２０％ ２.成績評価は添付資料のルーブリックを参照。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	成績の開示及び質問があればメールで受け付ける。期末レポートのフィードバックはGoogle classroomで配信する。
教科書	「初等外国語教育（MINERVAはじめて学ぶ教科教育）」卯城祐司　編者　ミネルヴァ書房（2018年）¥2420（税込）
参考書	適宜授業内で指示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的	準備学習については授業計画を参照。

内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	事情により初回授業に欠席する場合は、あらかじめ連絡をすること。 シラバスの内容は、履修生のスケジュールや理解度などにより変更の可能性がある。
オフィスアワー	授業の前後で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	外国語教育のありかたをこども主体で考える姿勢と、ご自身がどのような保育者になりたいのかというイメージを持ち、授業に臨むことを期待する。基本的に最初の１３回の授業は遠隔(Meet)で実施し、最後の２回は対面で実施する（対面回数はプロジェクトを実施する幼稚園の都合により変わる可能性がある）。授業内容や授業形態などを変更する場合には事前に連絡をする。

講義科目名称： 保育内容特論　　授業コード：

英文科目名称： Practical Approach to Contents of Childcare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	専攻科	1単位	専攻科選択
担当教員			
間野　百子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：なし	ナンバリング：F302
添付ファイル			
「保育内容特論」ルーブリック様式　(2025).pdf			

講義概要	幼児期の発達・学びに関する特徴や理論を踏まえたうえで、子どもを学びの主体者として位置づける海外の保育実践を通して、保育者の役割について学びましょう。 幼児の観察者（保育者）が子どもの行動や表現の意味をより深く理解し、自らの実践を振り返ることを目的とした方法論が多数あります。本授業では、そのなかの「ラーニング・ストーリー」や「フィールド・ワーク）に焦点をあてていきます。 ニュージーランドで実践されている「ラーニング・ストーリー」は、子どもの学びのプロセスを長期間に渡って積み上げていく、観察と記録の方法で、子ども自身に潜んでいる学ぶ力と可能性への保育者の信頼を基盤としています。したがって、ストーリーを書くうえでのポイントや記録の仕方を習得していくことにより、子どもを肯定的にみていく視点を養うことができます。 これまでの授業や実習体験を踏まえて、子どもの発達や学びをより多面的・継時的に捉える視点を育んでいきましょう。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション、本授業の目的 本授業の内容、目的について理解する。テキストの構成について説明する。 これまでの保育・教育体験を振り返り、各自の子ども観を問いてみる（グループワーク）。 予習：シラバスを読み、本授業の全体像を把握する（1時間）。 復習：学びの振り返りを記載する（1時間）。 A:多　B:中　E:あり　F:あり 第2回　子ども観の変遷と子ども期の捉え方 子ども観の変遷について、資料をもとに理解を深める。子ども期の捉え方について検討する。 予習：配布資料を読み込む（1時間） 復習：学びの振り返りを記載する（1時間） A:中　B:中　E:あり　F:あり 第3回　子ども主体の保育実践 子ども主体の保育の実践事例における保育者の役割について学ぶ。子ども・保育者の立場にたって、ロールプレイングを行い、子どもへの援助の在り方について討議する。 予習：テキストを読み込む（1時間） 復習：学びの振り返りを記載する（1時間） B:多　E:あり　F:あり 第4回　子ども期に育みたい能力（非認知能力） 人間に備わっている能力（認知能力、非認知能力）について学び、子ども期に非認知能力を育むことの意味について考える。自らの幼少期の体験を振り返り、子どもの非認知能力を養える（た）エピソードについて議論する。 予習：テキストを読み込む（1時間） 復習：学びの振り返りを記載する（1時間） B:中　E:あり　F:あり 第5回　子ども主体の保育・教育理論 子どもを学びの主人公として捉える発達理論について理解を深める。 予習：テキストを読み込む（1時間） 復習：学びの振り返りを記載する（1時間） B:少　E:あり　F:あり 第6回　子ども理解の方法論 子ども理解を深めるうえでのさまざまな方法論について概観する。方法論の一つである、ラーニング・ストーリの特徴について学ぶ。 予習：テキストを読み込む（1時間） 復習：学びの振り返りを記載する（1時間） B:少　E:あり　F:あり 第7回　ラーニング・ストーリーにおける子ども期の見方 子ども理解を深めるうえで、ラーニング・ストーリーが依拠している理論や実践例について学ぶ。そのうえで、子どもを観察する際の「五つの視点」について理解する。 予習：テキストを読み込む（1時間） 復習：学びの振り返りを記載する（1時間） B:中　E:あり　F:あり 第8回　ラーニング・ストーリーの書き方 ラーニング・ストーリーを書くうえでの五つの視点について各自の実践例をもとに検討しあう。事例をもとにラーニング・ストーリーの書き方を学ぶ。 予習：テキストを読み込む（1時間） 復習：学びの振り返りを記載する（1時間） B:少　E:あり　F:あり 第9回　ラーニング・ストーリーを通した保育者、保護者間の連携 ラーニング・ストーリーの積み重ねを通しての保育者・保護者間の連携について理解する。 ラーニング・ストーリーの発展性や課題についても学ぶ。 予習：テキストを読み込む（1時間） 復習：学びの振り返りを記載する（1時間）

	B:少　E:あり　F:あり 第10回　子ども理解を深める方法ーフィールド・ワーク フィールドワークを通した子ども観察の方法について学ぶ。 事例をもとに、フィールド・ノートを作成する。 予習：配布資料を読み込む（1時間） 復習：学びの振り返りを記載する（1時間） B:少　E:あり　F:あり 第11回　フィールド・ワーク案の考案 各自の研究課題にそくして、フィールド・ワークの場所、対象、目的を決定し、フィールド・ノートを作成する。これまでの学習内容を振り返り、レポートの書き方及びプレゼンテーション報告の方法も示す。 予習：配布資料を読み込む（1時間） 復習：学びの振り返りを記載する（1時間） B:中　E:あり　F:あり 第12回　ラーニング・ストーリーの発表・検討会① 各自が作成したラーニング・ストーリーのプレゼンテーションをもとに、発表内容についてフリーにディスカッションしながら成果と課題を確認する。 予習：プレゼンテーションの内容を検討しておく（1時間） 復習：学びの振り返りを記載する（1時間） D:多　E:あり　F:あり 第13回　ラーニング・ストーリーの発表・検討会② 各自が作成したラーニング・ストーリーのプレゼンテーションをもとにして、発表内容についてフリーにディスカッションしながら成果と課題を確認する。 予習：プレゼンテーションの内容を検討しておく（1時間） 復習：学びの振り返りを記載する（1時間） D:多　E:あり　F:あり 第14回　ラーニング・ストーリーの発表・検討会③ 各自が作成したラーニング・ストーリーのプレゼンテーションをもとにして、発表内容について討議しながら成果と課題を確認する。 予習：プレゼンテーションの内容を検討しておく（1時間） 復習：学びの振り返りを記載する（1時間） D:多　E:あり　F:あり 第15回　学習成果の振り返りと今後の課題 これまでの学びを振り返り、子ども理解を深めるうえでのポイントや課題について提出したレポートをもとにに議論し、今後どのように子どもと関わっていきたいのかについて総括する。 予習：配布資料の事例について検討しておく（1時間） 復習：学びの振り返りを記載する（1時間） B:多　E:あり　F:あり
教育目標との関連	こどもの行動を観察し、保育者として、子どもが表現したいことや心情を理解できる力量を養う。そのうえで、こどもの個性や発達段階に応じた声掛けや適切な支援を実践できる力を身につける。 子どもの多面的な理解を深めるうえでの五つのポイントを理解し、相互の関係を意識しながら、幼児ひとり一人の発達に応じて支援できる能力を高める。
到達目標　（学修成果）　　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	1．子ども理解の視点から、子どもの発達や学びに関する教育理論、発達の過程に必要な援助を導き出すうえでの基礎的な知識を習得している。 2．「ラーニング・ストーリー」の視点から、子どもを観察し、発達の過程をとらえることができる。 3．子どもの学びの過程を多面的にとらえたうえで、子どもの行動について論理的に考え、論じ合うことができる。 4．子どもが興味・関心を示していること、表現しようとしていることなどにより関心を示し、子ども観察を通して、子ども理解を深めていこうという意欲がある。 5．学生間の相互発表・検討会を通して、他者の考えを受け入れたり学んだりしながら、保育方法を改善していく能力を有する。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	期末レポート　40%（ラーニング・ストーリーの視点を活かした子ども観察ができている） 課題提出　20%（授業メモに気づきや課題を記載している） 発表に向けての取り組み・参加度　40%（発表に向けて、子どもの行動を多面的に検討したり、他者の発表から自らの学びを深めることができている） 評価基準は、添付資料のルーブリックを参照のこと
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	最終授業時に今までの授業内容の振り返り、最終発表やレポート課題についての解説を行う。個別の質問なども受け付ける。
教科書	大宮勇雄著『学びの物語の保育実践』ひとなる書房
参考書	大宮勇雄・白石昌子・原野明子著『子どもの心が見えてきた』ひとなる書房 中坪史典編『子ども理解のメソドロジー』ナカニシヤ出版
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業計画の記載の通り
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	担当教員の研究室にて質問などを受け付ける。また、限定コメントでも随時受け付ける。
備考・メッセージ	対面授業。状況により、予定を変更する場合は、事前にお伝えします。

講義科目名称： 国際こども教育と探求型アドボカシー（海外フィールドワーク）　授業コード：

英文科目名称： Global ECE & Inquiry-based Advocacy (International Fieldwork)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	専攻科	１単位	専攻科選択
担当教員			
長谷山 康一			
授業形態：演習	授業担当：単独	実務経験：あり	ナンバリング：G304
添付ファイル			
rubric-advocacy (1).pdf			

講義概要	本科目では、専攻科在学中の１年間を通じて、social actor（ソーシャル・アクター／社会的行動家）としての国際こども教育者であるための素養と実践力を育むため、カナダ・ブリティッシュコロンビア州の現地保育者や保育者養成大学課程の在学生などと協働し、社会正義主義的な側面から、主に子ども・教育・探究哲学などに関わる社会的資源を共同で構築することを目的とする。実践的な活動目的として、日本での前期からのリモート準備期間を経て、同州バンクーバー市において『日加こども教育フォーラム』を「カナダ保育研修」履修期間中に、学生主導で開催する。フォーラム参加者は、当科目履修生と、子ども教育従事者や学生、こども等を主とする。当該のフォーラムでは、日本文化や実践から解釈した子ども教育の見地を北米社会へ発信するとともに、多文化共生社会であるメトロ・バンクーバー地域の幼児教育の発展にも貢献することで、履修学生らの行動家力を育む。本フォーラム運営において以下に挙げる様々な教育目的から、履修学生は、探究者としての教育者の能力養成を国際コミュニティを舞台に、学者、学生、実践者の隔たりを壊し、履修生自ら、子ども教育に関する共同探究と発信の場を実現化していく。 ・　履修生各自による、子ども教育の分野において、社会正義を観点とした探究（研究）の実施と発表の準備 ・　本学（専攻科生・国際コース生）とカナダ現地大学の幼児教育専攻生や現職保育士らなどによるフォーラムの共同運営／カナダセンター紀要における、フォーラム受理発表研究の投稿の支援や運営補佐 ・　本学教員、国内外の保育者や現地学生による実践・研究報告（ポスターやペダゴジカルナレーション掲示発表やオンライン、事前録画など）の補佐 ・　履修学生ら独自の共有テーマの設定により、地域の子どもたちの参加を企画 ・　国際社会における英語優越主義に対峙し、現地日系社会とも連携するため、「在外日本人」である子どもや家族のための生活資源ともなるよう、日本語・英語のバイリンガル運営を基本とし、その運営を支援する 担当教員は、現地保育コミュニティに精通しており、学生らによる参加者の募集やイベント周知活動に必要な基盤整備がされている。現地の関係団体との共同参画を運営の基本的な方向性とする。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と	1　イントロダクション：本授業の概要と目的を理解する 本科目履修者としての目的を考える A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 2　行動家（ソーシャルアクター） 行動家である国際教育者とはを考える A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 3　探究心と好奇心 実践者における探究心とは何かを探る A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 4　社会正義とアドボカシー 身近な社会正義を行動家視点から考える A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 5　好奇心の具現化 探究者としての活動の源を探る A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 6　好奇心の言語化 探究者としての活動の源を可視化する A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 7　好奇心の発信演習 探究者としての活動の源を共有する

表記されます。	A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 8　「日加こども教育フォーラム」実行委員会（発足） フォーラム運営の意義とあり方について考える A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 9　「日加こども教育フォーラム」実行委員会（目的の探究） 当該年度のフォーラム運営の目的を考える A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 10　「日加こども教育フォーラム」実行委員会（手段の探究） フォーラム運営の方法について考える A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 11　「日加こども教育フォーラム」実行委員会（プランニング・概要） フォーラム運営のおおまかな枠組みを確定し、学びとしての目的との整合性を確認する A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 12　「日加こども教育フォーラム」実行委員会（プランニング・実践マッピング） フォーラム運営活動の内容を詳細化して、実施への始動の土台を作る A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 13　「日加こども教育フォーラム」実行委員会（プランニング・中間検討） フォーラム運営におけるこれまでのプランニングを一度立ち止まって再検討し、問題点などをセルフチェックする A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 14　「日加こども教育フォーラム」実行委員会（事前準備指導ー導入） これまでのプランニングの成果物を基に、フォーラム実施事前準備を教員指導の下、行う A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 15　「日加こども教育フォーラム」実行委員会（事前準備指導ープログラム決定） これまでのプランニングの成果物を基に、フォーラム実施事前準備を教員指導の下、行う A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 16　「日加こども教育フォーラム」実行委員会（現地準備ー関係機関顔合わせ） 現地入り後、日本での事前準備を基に、関係機関との作業行程の確認をするを教員指導の下、行う A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 17　「日加こども教育フォーラム」実行委員会（現地準備ー共同準備作業） 現地入り後、日本での事前準備を基に、フォーラム実施準備を教員指導の下、行う A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 18　「日加こども教育フォーラム」実行委員会（保育アクティビティ　実施・運営） 現地にて、フォーラムの実施運営１（プレゼンテンション部門運営） A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 19　「日加こども教育フォーラム」実行委員会（社会貢献活動　実施・運営） 現地にて、フォーラムの実施２（フォーラムの基幹的運営） A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 20　「日加こども教育フォーラム」実行委員会（共同省察）

	現地にて、フォーラム実施後の省察 A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 21　研究発信者実践：カナダ紀要フォーラム学生実行委員会 フォーラム発表研究の紀要発表の自己投稿準備と紀要発行活動補佐 A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 22　研究発信者実践：カナダ紀要フォーラム発表投稿（初稿） フォーラム発表研究の紀要発表の自己投稿準備 A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 23　研究発信者実践：カナダ紀要フォーラム発表投稿（最終稿） フォーラム発表研究の紀要発表の自己投稿最終校正 A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 24　共同ポートフォリオ制作の導入 フォーラム発表研究の紀要発表のeポートフォリオ化への導入と理解 A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 25　共同ポートフォリオ（指導１（ピアフィードバック）） フォーラム発表研究の紀要発表のeポートフォリオ作成（作業と学び） A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 26　共同ポートフォリオ（指導２（ピアフィードバックのリフレクション）） フォーラム発表研究の紀要発表のeポートフォリオ作成行程の協働的再考 A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 27　共同ポートフォリオ（指導３（教員フィードバック）） フォーラム発表研究の紀要発表のeポートフォリオ最終校正 A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 28　共同ポートフォリオ発表（指導４（教員フィードバックのリフレクション）） フォーラム発表研究の紀要発表のeポートフォリオの評価と自己省察 A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 29　共同ポートフォリオ発表（学内共有と検討） フォーラム発表研究の紀要発表のeポートフォリオの完成と学内発表（学内教員と学生からのフォードバック） A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 30　総括（ポートフォリオ公開式典） フォーラム発表研究の紀要発表のeポートフォリオの学内発表後、教員と協働の最終校正を経て、社会発信 A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
教育目標との関連	国際こども教育者としての実践力、すなわち行動力は発揮されることを前提と考えると、実際に国際社会的環境において探究と発信の実践を高等教育のフレームワークの中で経験すべきである。本科目は、実社会での行動家としての自身を鍛錬するためのプラクティカムと捉えることができる。
到達目標　（学修成果）　　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	４．社会正義主義の視点から世界市民である子どもたちの人権や発育に関する社会的問題点に気づくことができる ３．グローカルな視点から、行動家としての教育者であるに必要な発信力を持てる ２．自己の生きた経験から、国際こども教育に関する社会的イデオロギーを多角的に理解し、対峙することができる

評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	・こども教育実践者フォーラムの運営（役割別グループワーク）（４０％） ・フォーラムにおける探究発表（３０％） ・自己省察的ePortfolio（「期末レポート」）（３０％） フォーラム後には省察的記録して、ePortfolioを履修生と教員で校正し、ソーシャルメディアや本学ウェブサイトなどを通じて、国内外のこども教育関連団体や行政などへ発信する
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	レポート（文面）提出後、ポートフォリオ作成の時点から継続した校正指導を行い、社会発信への準備をすることでフィードバックを行う。
教科書	授業で指定する。購入するものは無い。
参考書	特になし
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業内で随時指定する
履修上の注意、条件等	特になし
オフィスアワー	授業内で随時指定する
備考・メッセージ	・自己探究案が発見できない場合でも、教員との協働で有意義な活動範囲を提供しますので、気軽に参加してください。 ・ティーチングアシスタント：コニー・ジェイムス先生

講義科目名称： 海外フィールドワークⅡ　　授業コード：

英文科目名称： International Fieldwork Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1、2年	3単位	選択
担当教員			
大見由香、八木真祈			
授業形態：実習	担当形態：複数	実務経験：あり（大見）	ナンバリング：G104
添付ファイル			
Rubric - IFWⅡOMI.pdf			

講義概要	本科目では、ニュージーランド・クライストチャーチでの４週間の語学研修を中心に、現地大学等の高等機関に関連する乳幼児教育保育施設、及び現地社会活動の場の視察や学びを行う。ホームステイにより現地家庭での交流や海外での体験を通して、異文化理解を深め、グローバルな視野で保育を実践することに繋がるものである。 実務経験(大見）：インターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験がある。 他の科目との関連：本科目は本学における乳幼児教育・保育に関するすべての科目と関連している。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第１回　事前学習　（１）海外フィールドワークIIの意義と、渡航準備・手続き ・海外フィールドワークの概要を把握し意味と意義を確認する ・渡航に必要な心構えと下準備の確認を行う ・アプリケーションフォームを作成し、異文化での生活への意識を高める 予習：シラバスを読む（30分） 復習：クライストチャーチでの日程表を読み込む（30分） 宿題：アプリケーションフォームの内容を確認し完成させる（１時間） A：中、B：中、E：あり、F：あり 第２回　事前学習　（２）　ニュージーランドの文化・生活について理解する ・ニュージーランドの文化・生活について理解する ・ニュージーランドについてのクイズを行う 予習：ニュージーランドの文化・生活についてインターネットなどで調べておき、ニュージーランドについてのクイズを考える（１時間） 復習：今後の自分の課題を認識する（１時間） A：中、B：中、E：あり、F：あり 第３回　事前学習　（３）ニュージーランド 滞在経験者との対話 ・ニュージーランドの生活、習慣、保育について学ぶ ・日本とニュージーランドの保育や文化の違い、アメリカ英語とイギリス英語、ニュージーランドの生活、Te Whāriki について学ぶ 予習：ニュージーランド滞在における注意事項等を調べておく。（１時間） 復習：講義内容を振り返り、自己の渡航に向けての課題を考える。（１時間） 宿題：自己紹介を考える。ARAホームページのよくある質問を読み、現地アドバイザーへの質問を考えておく（１時間） A：中、B：多、D：少、E：あり、F：あり 第４回　事前学習　（４）研修先について理解する（現地アドバイザーとの対話） ・クライストチャーチ滞在関連の具体的な情報を得て、フィールドワークへの意識を高める 予習：ARAホームページを観ておく（１時間） 復習：研修先での生活について理解する。（１時間） A：中、B：中、D：少、E：あり、F：あり 第５回　事前学習　（５）レベル分けテストと手続き ・オンラインテストを受ける ・入国に必要な手続きを行う（NZeTAなど） 予習：入国に必要な手続き（NZeTAなど）について調べておく（20分） 復習：海外フィールドワークIIにおける探究課題の焦点を定める（30分） E：あり　F：あり 第６回　事前学習　（６）ニュージーランドにおける海外フィールドワークでの学びの目標を定める ・研修のしおりの内容を確認し、渡航準備、手続きの意義について理解を深める ・情報の扱いへの配慮について学ぶ ・ホームステイでの留意点について確認する 復習：しおりを読み込み、渡航準備を行う（２時間） 宿題：無犯罪証明書（犯罪経歴証明書）を申請・取得する。 B：中、D：少、E：あり、F：あり 第７回　事前学習　（７）渡航準備 ・手続き、準備状況を確認する。 復習：学生個人の課題に取り組む、NZの乳幼児教育カリキュラムガイドライン”Te Whariki”を読む 乳幼児教育視察施設における問いを考え、実技などの準備をする　（２時間） A：中、B：中、D：少、E：あり、F：あり 第８回　事前学習　（８）海外安全研修と最終確認 ・渡航時や滞在国の安全対策について理解し、演習を行う。 ・しおりの最終確認を行う。 予習：海外での安全について確認する（１時間） 復習：安全研修で学んだ留意点について振り返る。（１時間） A：多　E：多　F:中 第９-１４回　海外研修：フィールドワーク

	ニュージーランドクライストチャーチ市にて4週間の研修 ・英語学習・保育施設視察・フィールドトリップ・ホームステイ C：多 第１５回　事後学習　海外フィールドワークIIでの学びの振り返りと今後の展望 ・海外フィールドワークのプレゼンテーションを行う。 ・今後の学びへの課題を口頭で発表し、履修者間で分かち合う。 ・まとめとフィードバックを行う。 予習：プレゼンテーション（パワーポイントの作成）を準備する（２時間） 復習：学生個人の課題について認識する（30分） A：中、B：中、D：多、E：あり、F：あり
教育目標との関連	国際こども教育学科の学生としての自覚を高めると同時に、グローバルな視座で身の回りの事象を捉え、一人ひとりの子どもの最善の利益を保障する保育実践者としての知識・スキル・態度を養うことにつなげる。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L0１．国際的な社会環境における教育と他の人間的営みに関する知識について説明できる。 L0２．多文化や多様な社会及び人間の営みに対し、柔軟かつ理論的な視点を持つことができる。 L0３．コミュニケーション能力を体得して表現し、異文化間交流ができる L0４．世界のこどもの育ちやこども教育の発展に関心を持ち、自らのテーマを見出して取り組むことができる。 L0５．異文化や異なる価値観、ダイバーシティを尊重し、受け入れることができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	・授業への参加・貢献（海外フィールドワーク実習を含む）　６０％ ・提出物・プレゼンテーション　４０％
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	事後学習のプレゼンテーション時に振り返りとフィードバックを行う。
教科書	授業にてプリントを配布するほか、Google Classroomにて資料などを配信する。
参考書	使用しない。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	学期を通し、各自授業内容及び自己省察を継続的に行い、課題に備えること。
履修上の注意、条件等	特になし。事前面談を行う。事前学習にはすべて出席、無断欠席厳禁。提出物は期限内に出すこと。連絡はLINE、Google Classroomにて行う。
オフィスアワー	大見研究室のドアに掲示する。その他質問はGoogle Classroomにて受け付ける
備考・メッセージ	世界中の子ども、生活・文化との出会いと驚き、発見を大切にするように。「何故？何だろう？知り合い？」という好奇心を持って履修者、教員と共に学び成長したい、との心持ちで受講されたい。

講義科目名称： Intensive EAL　　授業コード：

英文科目名称： Intensive EAL

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	専攻科	2単位	専攻科選択
担当教員			
Mary　Jones			
授業形態：演習	担当形態：オムニバス	実務経験：あり	ナンバリング：E306
添付ファイル			
ルーブリック評価　Intensive EAL.pdf			

講義概要	During the third year of the Global Early Childhood Education and Care Program course, students spend 11 weeks living and studying early childhood education in Canada. This class will focus on the English you will need to study abroad. We will focus on English in daily life, but also study English that is needed in the classroom. This class will focus on listening and speaking, so class participation is very important. Mary Jones has over 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students' communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	Class 1　College Life In this class, we will learn the vocabulary and expressions needed to introduce yourself and talk about basic facts about your life. We will also learn about some differences between American and Japanese universities. A: 多　B:少　D:少　E:あり　F:あり Complete the reading exercise on page 13. (20 min) Review vocabulary list handout. (20 min) Class 2　Future Plans In this class, we will learn the vocabulary and expressions needed to talk about your future plans and dreams. We will also learn the vocabulary for occupations. A: 多　B:少　D:少　E:あり　F:あり Complete the reading exercise on page 20. (20 min) Review vocabulary list handout. (20 min) Class 3　Part-time Jobs and Weekends In this class, we will learn the vocabulary and expressions needed to talk about your hobbies and part-time jobs. We will also learn about differences of ″otaku″ and ″geek″. A: 多　B:少　D:少　E:あり　F:あり Complete the reading exercise on page 27. (20 min) Review vocabulary list handout. (20 min) Class 4　Movies In this class, we will learn the vocabulary and expressions needed to talk about movies and making plans with friends. We will also talk about the differences between American and Japanese movie theaters. A: 多　B:少　D:少　E:あり　F:あり Complete the reading exercise on page 34. (20 min) Review vocabulary list handout. (20 min) Class 5　Festivals In this class, we will learn the vocabulary and expressions needed to talk about special events and asking for a favor. We will also talk about the differences in barbeque in multiple countries. A: 多　B:少　D:少　E:あり　F:あり Complete the reading exercise on page 41. (20 min) Review vocabulary list handout. (20 min) Class 6　Friends In this class, we will learn the vocabulary and expressions needed to apologize to people and showing appreciation. A: 多　B:少　D:少　E:あり　F:あり Complete the reading exercise on page 48. (20 min) Review vocabulary list handout. (20 min) Class 7　Study Abroad In this class, we learn the vocabulary and expressions need to talk about study abroad programs and how to ask for clarification. We will also learn about world Englishes. A: 多　B:少　D:少　E:あり　F:あり Complete the reading exercise on page 55. (20 min) Review vocabulary list handout. (20 min) Class 8　SNS / Fashion In the class, we will learn the vocabulary and expressions used to make small talk. We

	will also learn vocabulary related to weather. A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり Complete the reading exercise on page 62. (20 min) Review vocabulary list handout. (20 min) Class 9 Cultures / Anime In the class, we will learn the vocabulary and expressions needed to talk about Japanese popular culture, including anime and idols. A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり Complete the reading exercise on page 69. (20 min) Review vocabulary list handout. (20 min) Class 10 Music In the class, we will learn the vocabulary and expressions needed to talk about music. We will also learn how to ask for permission and make suggestions. A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり Complete the reading exercise on page 76. (20 min) Review vocabulary list handout. (20 min) Class 11 Relationships In the class, we will learn the vocabulary and expressions needed to describe people and talk about likes and dislikes. We will also learn adjectives related to personality and apperance. A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり Complete the reading exercise on page 83. (20 min) Review vocabulary list handout. (20 min) Class 12 Traveling Overseas In the class, we will learn the vocabulary and expressions needed to talk about travel and practice expressions for survival English. A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり Complete the reading exercise on page 90. (20 min) Review vocabulary list handout. (20 min) Class 13 Shopping In the class, we will learn the vocabulary and expressions needed to talk about shopping and negotiation. We will also talk about the difference in shopping between Japan and America. A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり Complete the reading exercise on page 97. (20 min) Review vocabulary list handout. (20 min) Class 14 Social Media In the class, we will learn the vocabulary and expressions needed to talk about social media. We will also learn common expressions used on phone calls. A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり Review handouts for final exam. (2 hours) Final Exam Final Exam We will have the final exam. Class 15 Review We will review the course and talk about the upcoming study abroad. A: 多 B:少 E:あり
教育目標との関連	In this class, students will acquire the English they need to live abroad.
到達目標 （学修成果） 1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	LO3. Students will acquire the English skills needed to live and study abroad. LO2. Students will acquire a greater understanding of cultural differences. LO1. Students will be gain a new understanding and appreciation of foreign cultures.
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法 2.ルーブリックによる評価基準	50% Final Exam (Written and speaking exams) 30% Vocabulary quizzes 20% Homework & Participation
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	We will review and discuss the final exam during the final class.
教科書	Activator Next 金星堂 出版
参考書	Please review basic English grammar through junior high school education in Japan.
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な	We will have a vocabulary test every week and there will be reading homework.

時間	
履修上の注意、条件等	The instructor will be available in her office. Office hours will be posted on the door.
オフィスアワー	I will take questions before and after each class.
備考・メッセージ	This class will be conducted in person.

講義科目名称： 保育とアート　　授業コード：

英文科目名称： Early Childhood Care and Art

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	専攻科	1単位	専攻科　選択
担当教員			
久保寺　賀子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：D301
添付ファイル			
保育とアート.pdf			

講義概要	「幼児造形Ⅰ」の内容を土台として、さらに子ども理解を深める。担当講師の幼稚園での絵画・工作指導の実務経験を基に、子どもの興味や関心、言葉や姿を起点とする遊びを表現と捉え、生活と表現の繋がりを理解する。さらに、子どもが造形表現を行うことで育む様々な能力について考察を深め、教材研究を行ったり、指導計画を立てたりする力をつける。また、保育者として幼児の表現を支えるために必要な造形活動の楽しさや、作品を鑑賞する喜びについて体験を通して学ぶ。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション／幼児と造形活動について 【対面】 ・既修の造形的な知識や技能を振り返る。 ・子どもにとっての日常生活のなかにある造形的な視点を理解する。準備学習（計1時間） （予習）シラバスに目を通しておく。（30分） （復習）リフレクション・シートの作成。（30分） A：少　B：少　E：あり　F：あり 第2回【対面】　色彩学の基礎 ・色彩の原理を学び、表現に生かせる感性を磨く。 準備学習（計1時間） （予習）配布もしくは共有資料に目を通しておく。（30分） （復習）レフレクション・シートの作成。（30分） A：少　B：中　E：あり　F：あり 第3回【対面】　教材・技法の応用Ⅰ ・転写の技法「版画」より紙版画、スチレン版画 準備学習（計1時間） （予習）配布もしくは共有資料に目を通しておく。（30分） （復習）ポートフォリオの作成。（30分） A：少　B：中　E：あり　F：あり 第4回【対面】　教材・技法の応用Ⅱ ・転写の技法「版画」よりコラージュ版画、ローラーあそび 準備学習（計1時間） （予習）配布もしくは共有資料に目を通しておく。（30分） （復習）ポートフォリオの作成。（30分） A：少　B：中　E：あり　F：あり 第5回【対面】　作って演じる活動Ⅰ ・転写技法によるペープサートの製作「世界の旅行ガイドブックをつくろう！」 ・自他国にかかる調査や分析を基に、その国の風土や文化（行事、祭事、習慣、衣食住など）を紹介する紙芝居の製作。 準備学習（計1時間） （予習）配布もしくは共有資料に目を通しておく。（30分） （復習）グループで協議した内容をまとめる。（30分） A：多　B：多　E：あり　F：あり 第6回【対面】　作って演じる活動Ⅱ ・転写技法によるペープサートの製作「世界の旅行ガイドブックをつくろう！」 ・自他国にかかる調査や分析を基に、その国の風土や文化（行事、祭事、習慣、衣食住など）を紹介する紙芝居の製作。 準備学習（計1時間） （予習）前回までの調査資料やまとめ、デザイン案をふり返る。（30分） （復習）授業内で製作した内容をふり返る。（30分） A：多　B：多　E：あり　F：あり 第7回【対面】　作って演じる活動Ⅲ ・転写技法によるペープサートの製作「世界の旅行ガイドブックをつくろう！」 ・自他国にかかる調査や分析を基に、その国の風土や文化（行事、祭事、習慣、衣食住など）を紹介する紙芝居の製作。 準備学習（計1時間） （予習）前回までの製作内容をふり返る。（30分） （復習）授業内で製作した内容をふり返る。（30分） A：多　B：多　E：あり　F：あり 第8回【対面】　作って演じる活動Ⅳ ・・転写技法によるペープサートの製作「世界の旅行ガイドブックをつくろう！」の発表

	準備学習（計1時間） （予習）完成した作品をふり返り、演じるための資料を検索する。（30分） （復習）授業内で鑑賞した内容をふり返る。（30分） A：多　B：多　D：多　E：あり　F：あり 第9回【対面】　幼児造形教育の広がり ・児童館や美術館、生涯学習センターなどの社会教育施設で展開するものづくりワークショップに焦点をあて、多様化する子どもの造形活動を調査、分析する。 準備学習（計1時間） （予習）配布もしくは共有資料に目を通しておく。（30分） （復習）ポートフォリオの作成。（30分） A：少　B：少　E：あり　F：あり 第10回【対面】　幼児造形における美術鑑賞 ・対話型美術鑑賞の演習をおこなう。 準備学習（計1時間） （予習）配布もしくは共有資料に目を通しておく。（30分） （復習）リフレクション・シートの作成。（30分） A：少　B：少　E：あり　F：あり 第11回【対面】　造形表現における道具としてのICT ・子どもが自発的及び主体的に造形表現をおこなうなかで、現代を代表する生活用具（器具）であるICT機器類をどのようにとりいれるかを考える。 準備学習（計1時間） （予習）配布もしくは共有資料に目を通しておく。（30分） （復習）リフレクション・シートの作成。（30分） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第12回【対面】　ICT活用による製作Ⅰ ・海外の国の生活や文化を主題とする映像製作をおこなう。（発想、構想、立案） 準備学習（計1時間） （予習）前回の授業内容をふり返る。（30分） （復習）グループ内で協議した内容をふり返り、まとめておく。（30分） A：多　B：多　E：あり　F：あり 第13回【対面】　ICT活用による製作Ⅱ ・海外の国の生活や文化を主題とする映像製作をおこなう。（製作） 準備学習（計1時間） （予習）前回の授業内容をふり返る。（30分） （復習）授業内で製作した内容をふり返り、必要に応じて手を加える。（30分） A：多　B：多　E：あり　F：あり 第14回【対面】　ICT活用による製作Ⅲ ・海外の国の生活や文化を主題とする映像製作をおこなう。（発表） 準備学習（計1時間） （予習）完成した作品を振り返り、発表のための演習をする。（45分） （復習）　様々な作品の鑑賞を通して、内容をふり返る。(45分) A：多　B：中　D：多　E：あり　F：あり 第15回【対面】　教材研究（指導計画）／ふりかえり ・ICTを取り入れた造形活動を考案する。 ・これまでの授業の振り返りを行い、どのような知識や技能が身に付いたかを文章に表現する。 準備学習（計1時間） （予習）これまでの授業をふり返り、道具としてのICTについて自分なりの考えをまとめる。（45分） （復習）授業全般で学んだことについて振り返る。（30分） B：中　E：あり　F：あり
教育目標との関連	日常の中にある造形的な視点を用いて、自らの発想や気づきを基に表現し、主体的に造形活動を計画して実行することができる。製作活動に必要な知識と技術を高め、作品鑑賞での感想を言葉で表現する力を育む。また、保育の中核に表現活動を位置づけ、子どもの自発的及び主体的な遊びを展開させるための支援方策を身につける。
到達目標　（学修成果）　　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	L01．自らの発想や気づきを基に表現し、主体的に造形活動を計画して実行することができる。 L03．多角的なアプローチにおける造形表現を追求することで、幅広い造形的な視点を養う。 L05．自他の表現を尊重し合い、相乗効果による新たな価値創造を協働にて学ぶ。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	授業内課題（レポート及び作品）（50%） 到達度評価としてのポートフォリオの提出（期末レポート扱い）（50%） 評価基準は添付資料のルーブリックを参照のこと。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	最終授業において振り返る。
教科書	特に用いない。 必要に応じて資料を配布、共有する。

参考書	『幼稚園教育要領』文部科学省、『保育所保育指針』厚生労働省、『幼保連携授型認定こども園教育・保育要領』内閣府他　共にフレーベル館. 『幼児造形の基礎-乳幼児の造形表現と造形教材』樋口一成 編著、萌文書林、2018
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	準備学習の具体的内容および必要な時間については授業計画に記載。
履修上の注意、条件等	教職をめざす学生として、自覚・自律ある態度及び協調性をもって授業に取り組むこと。
オフィスアワー	フィードバックは原則として授業中に解説する。 その他の質問等がある場合は、Google Classroomの限定コメントおよび研究室（時間は掲示）にて受け付ける。
備考・メッセージ	全15回の授業はすべて対面での実施となる。 安全に配慮しながら制作をすること。 準備、後片付けを徹底すること。 授業に必要な道具や材料は忘れずに用意すること。 Google Classroom の掲示やメール通知の確認を怠らないこと。

講義科目名称： 英語で伝える日本文化　　授業コード：

英文科目名称： Explaining Japanese Culture in English

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	専攻科	１単位	専攻科選択
担当教員			
間野 百子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：なし	ナンバリング：H302
添付ファイル			
英語で伝える日本文化ルーブリック様式 （2025）.pdf			

講義概要	Japan's unique culture such as anime, hot springs, shrines and temples continues to fascinate people all around the world. However, there are some Japanese people who tend to lack knowledge about their own culture as well as the necessary English proficiency to express our unique culture clearly. In this course, students will learn about Japanese culture and the necessary vocabulary to introduce Japanese culture using English as a medium to individuals from around the world.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:ＰＢＬ（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	Class 1 Introduction An explanation about the course, evaluation, and textbook will be provided. In addition, the instructor and the students will introduce themselves one another. Students will exchange views on Japanese culture they are interested in. A：中 B：多 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2hours(1hour-preparation for next Lesson's topic; 1hour-review a previous lesson) Class 2 The Spirit of Japanese Hospitality We will learn about the spirit of Japanese hospitality, 'omotenashi', and the terms related with this. A: 中 B：中 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours(1hour-preparation for next Lesson's topic; 1hour-review a previous lesson) Class 3 Japanese Seasonal Charms: The Bewitching Beauty of Kimono We will go over facts about the beauty of the 'kimono' and the vocabulary and phrases associated with this. A: 中 B：中 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours(1hour-preparation for next Lesson's topic; 1hour-review a previous lesson) Class 4 Japanese High-Quality Technology We will learn about Japan's high-quality technology, leading companies, and facts surrounding this subject. We will also go over the vocabulary necessary to explain this in English. A: 中 B：中 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours(1hour-preparation for next Lesson's topic; 1hour-review a previous lesson) Class 5 Healthy and Colorful Japanese Cuisine We will talk about Japanese cuisine and discuss what makes it so intriguing to people from around the world. Vocabulary and phrases associated with this will be covered. A: 中 B：多 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours(1hour-preparation for next Lesson's topic; 1hour-review a previous lesson) Class 6 Samurai Spirit We will learn about the samurai spirit and how this can still be seen in Japanese individuals acting as leading figures around the world. Expressions used to explain this will be learned. A: 中 B：多 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours(1hour-preparation for next Lesson's topic; 1hour-review a previous lesson) Class 7 Anime: A Japanese Soft Power We will discuss anime, and how this is perceived worldwide. Related vocabulary will be discussed. A: 中 B：多 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours(1hour-preparation for next Lesson's topic; 1hour-review a previous lesson) Class 8 Hot Springs: Let's Become Healthy and Beautiful! We will learn how to explain hot springs in Japan and how to go in a hot spring. The culture and vocabulary will be introduced. A: 中 B：多 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours(1hour-preparation for next Lesson's topic; 1hour-review a previous lesson) Class 9 Kawaii Going Global We will discuss the concept of 'kawaii' and how this is more than being cute. The history and the popularity it has gained around the world will be explained. A: 中 B：多 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours(1hour-preparation for next Lesson's topic; 1hour-review a previous lesson)

	Class 10 Preparation for each presentation on Japanese culture The students will be required to introduce Japanese culture which they are interested in to the class. Therefore the students take time to collect material for one's presentation. A: 中 B：多 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours(1hour-preparation for next Lesson's topic; 1hour-review a previous lesson) Class 11 Presentation on Japanese culture(1) clothing The students will present on each Japanese culture to the class and answer the questions raised by the class members. D: 多 E:あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours(1hour-preparation for next Lesson's topic; 1hour-review a previous lesson) Class 12 Presentation on Japanese culture(2) cuisine The students will present on each Japanese culture to the class and answer the questions raised by the class members. D: 多 E:あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours(1hour-preparation for next Lesson's topic; 1hour-review a previous lesson) Class 13 Presentation on Japanese culture(3) traditional festivals and events The students will present on each Japanese culture to the class and answer the questions raised by the class members. D: 多 E:あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours(1hour-preparation for next Lesson's topic; 1hour-review a previous lesson) Class 14 Presentation on Japanese culture(4) arts and etc. The students will present on each Japanese culture to the class and answer the questions raised by the class members. D: 多 E:あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours(1hour-preparation for next Lesson's topic; 1hour-review a previous lesson) Class 15 Final discussion We will review and discuss the materials covered in the class. B：中 D：多 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours(1hour-preparation for term report)
教育目標との関連	In this course, students will learn the basic English skills to talk and explain about Japanese culture. They will also acquire knowledge about different customs as well as learn to appreciate their own traditions.
到達目標 （学修成果） 1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	1. Students will acquire basic English skills needed to talk and explain about different aspects of Japanese culture. 2. Students will acquire a great understanding of cultural differences. 3. Students will gain a certain level of ability to express the charms of Japanese culture. 4. Students will show a good interest and willingness to discuss about Japanese culture. 5. Students will be accustomed to discussing about Japanese culture with one another.
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法 2.ルーブリックによる評価基準	Students will be graded based on assignments(20%) : to get assigned homework prepared ahead of time. class participation(20%) : to participate actively in a group discussion. final presentations(30%): to be able to make a presentation about Japanese culture. term report(30%) : to be able to sum up things Japanese. Refer to the attached rubric for evaluation crietria.
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	Term paper will be requested, and a detailed evaluation will be given to each student.
教科書	Kinuyo Koikawa, Kentaro Yamada, David Farnell, and Motoko Yakushiji (2016) 『Let's Introduce Japanese Culture!』英宝社
参考書	Will be presented in class
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	Every week there will be reading, listening, and writing homework (1 hour). Students are also required to review class material and investigate inquiries that may arise (1 hour). At the end of the semester, there will be a final presentation about Japanese culture that students must prepare for (2 hours).
履修上の注意、条件等	Active participation in class is required.
オフィスアワー	I will take questions before and after each class.
備考・メッセージ	Classes will be held in-person unless otherwise instructed.

講義科目名称： こどもと国際貢献　　授業コード：

英文科目名称： Children and intergenerational exchange

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	専攻科	2単位	専攻科　必修
担当教員			
金田利子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：C304
添付ファイル			
ルーブリックこどもと国際貢献（2025）.pdf			

講義概要	子どもは、人類の未来である。子ども時代からの国際的交流は、世界平和の礎となり子どもの国際貢献を意味する。今年は、子どもの権利条約の国連における採択から36年、日本批准から31年となるが、子どもの生存と発達はまだまだ保障されているとはいえない。それどころか、一方では飢餓や戦時下の中で苦しい生活を余儀なくされる子どもが多く、また一方では児童虐待が増加するなど、一層子どもたちが生きにくい社会になってきている。ここでは、子どもの権利条約の視点から国際的視野で持続可能な社会のありようを考えていく（世界のESDと保育）。 「こどもと国際貢献」の学びの応用として、外国籍の子どもの保育をインクルーシブな関係になるようにしていくコーディネーターになり得る力も養っていきたい。 以下の授業内容は、参加者の意見と討論により適宜変わることがある。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　イントロダクション：国際貢献とは？こどもと国際貢献の視点 ・国際貢献とは？子どもを取り巻く世界から考える ・子どもの位置：①子ども自身の国際貢献と、②子どもを育てる大人の側の貢献 ・授業の内容説明・担当教員と参加学生の相互紹介 B　多 第2回　世界の子どもの現状と国際貢献―世界の子どもの今― ・世界の子どもを取り巻く世界情勢について理解を深める ・世界における日本の位置―近現代史から ・その中での子どもの実態を探る―光と影 ・国際貢献の取り組みの事例 A,B 多 第3回　世界の子どもの現状と国際貢献―日本の子どもの今― ・日本の子どもを取り巻く日本の情勢について理解を深める。 ・新聞記事文献等からワークショップを試みる ・年間に適宜入れるフィールドワークを計画する。 A, B　多 第4回　子どもの国際貢献とESD（外国籍の子どもの保育を考える中で） ・ESD(Education for Sustainable Development）とは？ ・ESDと国際貢献をつなぐOMEP（世界幼児教育・保育機構） A,B多 第5回　子ども自身の国際貢献 ・幼児期からの多文化理解教育 ・子ども自身が次世代に継続（持続）する存在であること ・子どもの心に平和のタネを A、B　多 第6回　子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献:　①ESDとSDGsと子どもの権利条約 ・ESDと子どもの権利条約の理解 ・上記両者の関連の理解 A,B　多 第7回　子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献：保育者・保育学生にできること ・OMEPにおける子どもの権利条約の絵本作りとその効果 ・上記のテーマで討論する―子どもに自身の権利を知らせるための参加者による教材づくり A,B C　多 第8回　子どもの関わるNGO/NPOの国際貢献：OMEP ・OMEPのこれまでの取みー7つのR ・World OMEP　のESDに関する取り組みと日本の取り組み　世代間交流における子どもの意味 A,B　多 第9回　子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献：Save the children Japan他国際貢献組織について ・活動についての聞き取り ・自身の理解を冊子のまとめる A,B　C　多 第10回　子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献：ユネスコ・ユニセフ 子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献：ユネスコ・ユニセフ 第11回　子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献：IPA(国際遊び協会) 子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献：IPA(国際遊び協会) 第12回　外国籍の子どもの保育と日本の貢献 ・文献に学ぶ ・実態の把握 A、B　多 第13回　子どもと国際貢献のまとめーこれまでの学びから ・これまでの振り返りからの整理―子ども自身の国際貢献 ・保育者及び社会的機関の取り組み

	A、B、C　多 第14回　子どもの国際貢献のまとめ―改めて子どもの権利条約との関係から ・子どもの権利条約に当たって考える。 ・報告してあって考えをまとめる。 A,B　多 第15回　学びの振り返りと今後の展望 ・これまでのまとめを整理しプレゼンテーションをする。 ・学ぶ前と今を比較し自己評価をする。 B,D,E、多
教育目標との関連	子どもも国際貢献の担い手であると認識して、受講者が国際貢献者であるという当事者意識を高めること、そして保育現場における国際貢献の役割についての考え、実践する力を身につける。
到達目標　(学修成果)　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.　子どもを取り巻く事象について地域・社会・世界視座から捉え、理解し説明できる。 2.　子どもの理解者・探究者・代弁者として、国際貢献のあり方について専門家意識を蓄え、考えることができる。 5.　保育の専門家として歩むための学びであるとしての意識を持ち、他者と学び合うことを大切にし、協力できる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	授業態度・参加状況・提出課題（レポートと基礎知識）とプレゼンテーションを総合的に評価。 授業態度・参加・課題への取組み　30% 提出課題・個人プロジェクトとプレゼンテーション　70% 成績評価はルーブリックを参照
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	最後の授業で振り返り学習をし、それぞれの到達点と課題を各自確認できるようにする。
教科書	 『新ポケット版　子どもの権利ノート』子どもの権利・教育・文化 全国センター（300円）
参考書	五島敦子・関口知子編著『未来をつくる教育ESD』明石書店、2010年、2,160（税込） 萩原元昭著『多文化保育論』学文社、2008年、1,200（税別）、他新しいものは授業内で紹介
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	毎授業の課題について文献等を探索・探究する姿勢で読み、問題意識・課題を持って授業に臨むこと。授業後は振り返りを行い、不明な用語・内容について理解しておくよう努めること。
履修上の注意、条件等	・授業を構成する当事者として臨みましょう。 ・スマホは授業として必要な時のみにしましょう。 ・シラバスの内容は、履修学生の理解等により変更も有ります。
オフィスアワー	授業終了後に教室で受け付ける
備考・メッセージ	・受講生のスケジュールやフィールドワークにより、授業のスケジュールが変更する可能性があります。 ・子ども・保育と国際関係、相互貢献等について知りたい、分かち合いたいとの思いで履修しましょう。

講義科目名称： 保育英語研究　　授業コード：

英文科目名称： Research in English for Nursery Schools

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	専攻科	2単位	専攻科　選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E304
添付ファイル			
ルーブリック評価　保育英語研究.pdf			

講義概要	In this current global society, the number of non-Japanese speaking children is increasing. With English as the global common language, there is a great need for teachers who can talk with the parents of these students. We will study the English needed to express your learning from other courses, such nutrition, health and Japanese culture. In this course, we will study the English needed to work in an English-speaking nursery school or kindergarten as an teacher. In each class, we will focus on one topic and learn the English needed not just within the nursery school, but also to talk to parents about their children's day. This class will be conducted entirely in English. Mary Jones has 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　Going to School Asking for Directions to the Preschool A Snowy Day In this class, we will study English for talking about coming to school and weather. We will also how to write a sign-up sheet. A:中　B:少　E: あり　F:あり Review vocabulary list handout. (30 min) Read ahead for the next class (30 min) 第2回　Fun School Events - Summer Tanabata Festival A Day in the pool In this class, we will study English to describe and explain Japanese events and playing in the pool. A:中　B:少　E: あり　F:あり Review vocabulary list handout. (30 min) Read ahead for the next class (30 min) 第3回　Fun School Events - Fall Horizontal Bar Sports Day In this class, we will study the English used when talking about sports day. A:中　B:少　E: あり　F:あり Review vocabulary list handout. (30 min) Read ahead for the next class (30 min) 第4回　Fun School Events - Winter Performance Day Omochitsuki Event In this class, we will learn the English used when talking about performance day and omochitsuki. A:中　B:少　E: あり　F:あり Review vocabulary list handout. (30 min) Read ahead for the next class (30 min) 第5回　Fun School Events- Spring Setsubun Hinamatsuri In this class, we will learn the English used when talking about Japanese events,

setsubun and hinamatsuri.

A:中　B:少　E: あり　F:あり

Review vocabulary list handout. (30 min)

第6回　Presentations - Preperation
Drawing and Painting
In this class, students will prepare their presentations

A:中　B:少　E: あり　F:あり

Finish preparations for presentation. (90 min)

第7回　Presentations - Arts and Crafts
In this class, students will give their arts and crafts presentations.

A:中　D: 多　E: あり　F:あり

Read ahead for the next class (30 min)

第8回　The Developmental Stage of an Infant
Infant (0-2 months)
Infant (3-5 months)
Infant Daycare program

In the class, we will learn the English used during lunch or talking about infants.

A:中　B:少　E: あり　F:あり

Review vocabulary list handout. (30 min)
Read ahead for the next class (30 min)

第9回　School Absence and Illness
A Painful Cavity
Taking Precautions against the Flu
School Closure

In this class, we will learn the English used when talking about illnesses and how they effect the school.

A:中　B:少　E: あり　F:あり

Review vocabulary list handout. (30 min)
Read ahead for the next class (30 min)

第10回　Emergency Drill
Emergency Pick-Up Drill
Evacuation Drill

In this class, we will learn the English used when running emergency drills.

A:中　B:少　E: あり　F:あり

Review vocabulary list handout. (30 min)
Read ahead for the next class (30 min)

第11回　Education Prior to Enrollment
Listen to a Story and Visualize
Learning Hiragana and the Alphabet

In the class, we will learn the English used in teaching the children how to tell time and how to read.

A:中　B:少　E: あり　F:あり

Review vocabulary list handout. (30 min)
Read ahead for the next class (30 min)

第12回　Education Prior to Enrollment
Learning to Tell Time
Learning about Numbers

In the class, we will learn the English to teach children about numbers.

A:中　B:少　E: あり　F:あり

Review vocabulary list handout. (30 min)
Read ahead for the next class (30 min)

第13回　Phonics

	In this class, we will learn about phonics and how it can be used to help children. A:中　B:少　E: あり　F:あり Review vocabulary list handout. (30 min) 第14回　Presentations - Preperation We will prepare for the group presentations. Each pair of students will choose one theme of this course and prepare a presentation for the next class. A:多　E: あり　F:あり Finish preperation for presentations. (90 min) 第15回　Presentations & Review Each group of students will give their presentations. We will also review and look back over the course. A:多　C:あり　D:多　F:あり
教育目標との関連	In this course, students will learn the importance of English in modern society and be able to use it to communicate with parents and coworkers in the future. They will have the basic English needed to communicate with children and parents about life in a nursery school and be a vital member of the staff.
到達目標　(学修成果)　　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	LO3. Students will acquire the basic English needed to be an assistant teacher at a nursery school or kindergarten. LO2. Students will acquire a greater understanding of cultural differences. LO3. Students will be able to communicate effectively in a teaching situation.
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	Writing assignments 40% Presentations 40% Vocabulary Tests 20%
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	After each presentation, a detailed evaluation will be given to each student. Writing assignments will be graded and returned the following week.
教科書	「幼保英検準1級テキスト」幼児教育・保育英語検定協会　著　株式会社ブックフォレ　出版　2019年
参考書	None
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	There will be a vocabulary test every week, so please study the previous week's vocabulary.
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	I will take questions before and after each class.
備考・メッセージ	This class will be conducted in person.

講義科目名称： 多文化間心理学　　授業コード：

英文科目名称： Cross-cultural psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	専攻科	2単位	専攻科選択
担当教員			
中村　麻衣子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：B301
添付ファイル			
ルーブリック多文化間心理学.pdf			

講義概要	文化・社会的要因が人の心の形成に与える影響を学ぶ。文化による人の行動の差異や普遍性を理解するとともに、多文化接触・体験や多文化環境において生じる心理的現象について学び、多文化共生社会をめざす保育者のあり方を考える。 スクールカウンセラーや学生相談の実務経験を有する教員による具体的な体験事例を通して、多文化接触や文化間移動によって生じる心理的現象を理解するための視点を養う。 他の科目との関連：「保育の心理学」「子ども家庭支援の心理学」で学んだ心理学の基礎知識を基に、本科目では異文化接触にまつわる心理学理論を学び、多文化共生保育に必要なグローバルな視点を獲得する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　あなたの常識は私の非常識。多文化心理学への招待 現在進行中であるグローバル化社会にいる私たちの周りで起こっていることを概観し、文化に関する心理学的な知見を学ぶ。また、認知発達の視点から文化の問題を考え、多文化理解の心理学を学ぶことの意義を理解する。 予習：あなたが常識だと思っていることが、他の人にとってそうではなかった経験」、あるいは逆に、「他の人の常識が、あなたにとって非常識だったという経験」を考えておく。（約１時間） 復習：授業内容を振り返る。（約1時間） A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり 第2回　日本在住外国人の心理 日本に住む外国人はどのように日本の社会に適応しているのか、または、どのような不便さを感じているのかを理解する。特に、子どもの教育においては、日本の学校についていけないため未就学になっているような児童が相当数存在している現状などを、事例を通して学ぶ。 予習：偏見やステレオタイプがなぜ起こるのかについて考えておく。（約1時間） 復習：授業内容を振り返る。（約1時間） A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり 第3回　共文化コミュニケーション 共文化とは、居住地域、年代、職業、ジェンダーなどの差異や、障害の有無など、「日本文化」という1つの文化の中に存在しているが、独自の考え方や行動様式を備えているグループが持っているものである。私たちは、同じように日本で育ったとしても、それぞれ育った地域、性別、職業などによって大きな影響を受けており、若者文化、女性文化、教員文化など、さまざまな共文化を併せ持つことになる。この共文化の違いによる諸問題や現象を理解する。 予習：ある朝起きたら、あなたの性が変わっていた。さて、あなたの生活はどのように変化すると思うだろうか。また、将来の夢や希望も含めて、あなたが経験するであろう変化について、できるだけ具体的に考えておく。（約1時間） 復習：授業内容を振り返る。（約１時間） A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり 第4回　帰国日本人の心理 一定期間海外に暮らした後で日本に帰国した場合、母国日本においてさまざまな問題に遭遇し、困惑するということがよくある。この現象をスクールカウンセラーとしての実務経験を持つ教員の事例を通して理解する。 予習：あなたの周りに帰国児童・生徒はいただろうか。また海外生活が長かった有名人・芸能人の言動で気になったことについて考えておく。（約1時間） 復習：授業内容を振り返る。（約1時間） A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり 第5回　海外留学での多文化経験 日本人が外国に出かけて現地で異文化と出会ったとき、心に何が起きるのかについて、自らの体験や事例をもとにグループディスカッションを通して具体的に考える。 予習：インターネットを使って、今まで日本人留学生が何らかの事件に巻き込まれた例を探しておく。（約1時間） 復習：授業内容を振り返る。（約1時間） A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり 第6回　海外駐在での多文化体験 海外赴任者と、それに同伴する家族の心を理解する。現地での生活は、日本で得られたような普通の便利さが大幅に欠乏すると感じることが多い。また、子どもは現地の言葉をいかに習得し、学校に適応するのか。これらの現象について、事例をもとにケーススタディーを通して理解する。 予習：海外に赴任することが決まったら、どのような準備をしたら良いと思うか考えておく。（約１時間） 復習：授業内容を振り返る。（約1時間） A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり 第7回　国際舞台で起きる多文化交流の諸相①　国際交渉 国内外で起きているさまざまな交流活動の諸相を本講から2回にわたって、国際交渉、国際協力、難民の観点から考察する。本講では、国際交渉に欠かせない多文化コミュニケーション能力とは何かについて理解する。 予習：捕鯨問題について概略を調べておく。（約1時間） 復習：授業内容を振り返る。（約1時間） A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり

	第8回　国際舞台で起きる多文化交流の諸相②　国際協力 国内外で起きているさまざまな交流活動の諸相を、国際協力の視点で考察する。国際協力とは、社会や経済の開発、平和問題、人命や人権など人道上の問題、環境問題などに対して、国を越えて行われる援助活動のことである。このような援助の実態と、そこで起こる援助する側・される側の心の問題について、事例をもとにグループディスカッションを通して考える。 予習：青年海外協力隊について、文献やインターネットなどで調査しておく。(約1時間) 復習：授業内容を振り返る。(約1時間) A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり 第9回　多文化共生理解教育（学外研修） 聖心女子大学グローバル共生研究所にて研修授業を行う。グローバルに活躍できる保育者を目指し、多文化共生に関する研究発表・ワークショップに参加し、多文化共生理解教育についての知見を深める。 予習：新聞や複数のwebを参照し、多文化共生理解教育がどのように行われているかについてまとめる(約 2時間) 復習：授業内容を振り返る。(約1時間) C：多　E：あり　F：あり 第10回　英語圏のマンガから見える子どもの生活文化とユーモア 文化が人間の発達や認知に与える影響をマンガや絵本を通して学ぶ。 予習：スヌーピーなど英語圏のマンガを読んでおもしろいと感じられない、意味がわからない、という経験はあるだろうか。そのような経験を探しておく。(約2時間) 復習：授業内容を振り返る。(約1時間) A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり 第11回　多言語アイデンティティー 複数の文化と言語環境で成長する子どもたちの生活と心理について映像資料を通して理解する。また、カナダなどにおける二言語教育やそれに関する研究の知見から、二言語併用が子どもの認知過程やその発達に与える影響について考察する。 予習：日本での外国語教育について、自分たちの受けた教育のままで良いと思うか。自分の考えをまとめておく。(約2時間) 復習：授業内容を振り返る。(約1時間) A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり 第12回　多文化共生をめざす保育者のあり方 多文化共生保育とは、さまざまな違いを認めあい、すべての子どもが自分らしく生きるために必要な力を身につけることである。多様な子どもや保護者に対して、相手を尊重する深い配慮をもった関わり方、それを周囲の子どもが見て学ぶことが多文化共生保育の重要なポイントであることを理解する。 予習：実習やボランティア活動などで異文化の子どもと関わった経験はあるだろうか。その時に感じたことをまとめておく。(約2時間) 復習：授業内容を振り返る。(約1時間) A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり 第13回　多文化コミュニケーションスキル 文化背景の異なる人々と共生していくには相手を理解しようとオープンな心で接することが大切だが、自分の考えや感じたことを相手に正確に伝えることも大切である。本講ではコミュニケーションスキルの１つであるアサーティブ・コミュニケーションについて実践的に学ぶ。 予習：これまで、自分の思っていることや考えていることが相手にうまく伝わらなかった経験や、そもそも伝えることを諦めてしまった経験はあるだろうか。その原因を考えておく。(約１時間) 復習：授業内容を振り返る。(約1時間) A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり 第14回　異文化適応力 私たちが、いかに文化のフィルターを通して物事を見ているのか、また、どんなに客観的に物事をとらえていると思っても、その見方さえ多大な文化の影響を受けていることに気づく。その上で、自分の文化的な偏狭に気づき、異なる価値観を受け入れる柔軟性をもち、自分自身のものの見方を広げていく。 復習：授業内容を振り返る。(約2時間) E：あり 第15回　総まとめ・学習成果の振り返り 授業の総まとめ、および、シラバスに書かれている到達目標（学習成果）を達成できたか各自振り返る。 予習：これまでの授業全体を通して質問などを考えて授業に臨むこと（約2時間） 復習：授業内容を振り返る。(約1時間) E：あり
教育目標との関連	グローバルな視野を持ち、文化的背景の異なる人々を理解するための知識、技法、態度を習得する。国際社会に生きる一員として、多文化共生社会をめざす保育者のあり方について、自分なりの考えを持てるようにする。また、文化的背景の異なる人々が共生する国際社会で活躍できる保育者をめざす。
到達目標　(学修成果)　　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L01：異文化接触・多文化環境において生じる心理的問題を理解し、説明することができる L03：多文化共生社会をめざす保育者のあり方について、論理的な考えに基づいて論じ合うことができる L05：グローバルな視野を持ち、異なる価値観や多様性を尊重し、受け入れることができる
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	期末レポート　　40%：授業内容全般を理解し、自分の言葉で説明できているかを評価する。 提出課題　　30%：授業内で行う課題への取り組みを評価する。 授業への参加度　30%：授業内での発言・発表やグループワークでの積極性など、授業の取り組み態度を評価する。 ＊評価基準は添付資料のルーブリックを参照
期末試験・期末レ	Google Classroomにて期末レポートの解説を配信する。

ポートのフィードバック方法	
教科書	なし。授業でレジュメや資料を配布する。
参考書	授業中に指示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記のとおり。レジュメ・Google Classroomにアップした資料等を有効に活用し、授業内容の理解と定着に努めること。
履修上の注意、条件等	世界情勢に関心を持ち、多文化共生について自分なりの意見・考えを持つよう心掛けること。授業内でしばしば意見を求める。
オフィスアワー	研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。また、Google Classroomの限定コメントでも随時受け付ける。
備考・メッセージ	授業形態は対面で実施する。

講義科目名称： カナダ保育研究　　授業コード：

英文科目名称： Inquiry Seminar: ECE in Canada

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	専攻科	2単位	専攻科　選択
担当教員			
長谷山 康一、大見　由香			
授業形態：演習（実習）	担当形態：オムニバス	実務経験：あり	ナンバリング：G301
添付ファイル			
rubric-CF-1.pdf			

講義概要	本科目では、カナダ保育を包括的に研究するに当たって、カナダ・ブリティッシュコロンビア州での現地保育園の視察、その他現地社会活動の視察及び体験を通じて、海外の保育活動をその社会的文脈を含め、実体験と並行して考察をするものである。 他の科目との関連：本来、在学中に学ぶ全ての科目群の内容は多様な形及び側面で一つの学びとして織り込まれるべきである。その上で、在学期間を通して国際こども教育を考える際、個々の学生の位置によって、その基となったり、きっかけとなる知識や思想、または既得のそれらを深め、より有効なものにするための即社会的見地を、本科目で得る異国の教育現場や社会環境における実体験から見出すことも可能となる。これにより、存在論的にも認識論的にもより学生個々に即した新鮮な材料を提供できるものと考えられる。 教員の本科目関連する実務経験としては、担当教員は、現地保育者資格の保有、現地大学における保育士資格学位プログラムの現役教員及び教育実習指導教員であり、現地社会においても10年ほどの滞在歴を持っており、それらの経験と知識を用いて、「保育」を養成教育及び社会文化的な側面から学生と共に紐解いていく。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	1　カナダ基礎知識 社会文化、社会歴史、社会政治的な方面からの国家としてのカナダを一程度、理解する。（総括Miniプロジェクト（導入）） A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 2　ブリティッシュコロンビア州保育施設の基礎情報 ブリティッシュコロンビア州保育の基礎的な現状、制度の理解。 A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 3　カナダ・ブリティッシュコロンビア州政府の乳幼児学習フレームワークについて知る カナダ・ブリティッシュコロンビア州政府の乳幼児学習フレームワークについて、その概要を理解する。 A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 4　カナダ・ブリティッシュコロンビア州政府の乳幼児学習フレームワークについて考察する 前回授業の内容から、各学生で異なる焦点を担当し、考察・共有する。 A：中　B：中　D: 中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 5　カナダの乳幼児教育（フレンチ・イマージョン／先住民族） カナダ全土の乳幼児教育をフレンチイマージョンやインディジナス教育から考察する。 A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 6　こども教育と社会的制度 こども教育と社会的制度について考察する。（総括Miniプロジェクト（プロポーザル作成開始）） A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 7　カナダ・ブリティッシュコロンビア州乳幼児教育者免許課程 州の教育者資格制度を理解し、保育者に求められる質や教育を考察する。 A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 8　カナダの保育現場　概論 保育現場の社会的位置付けや、その様々な形態の理解を社会文化的側面から掘り下げる。 A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）

	9	現地保育所の実態 前回授業を、さらに細かな「事例」を通じて、考察、理解する。 A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	10	現地保育士や他のこどもに関わる専門職の現状 働き手に焦点を当て、考察する。 （総括Miniプロジェクト（仮プロポーザル発表/個別調査開始）） A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	11	カナダ現地の社会文化とこども　概論 以下5回の授業では、それぞれのカナダにおける社会的側面から「こども」について考察する。今回は、そのイントロダクション。 A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	12	街と人 A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	13	社会的構造と営み A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	14	異文化コミュニケーション A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	15	こども、家族、教育、コミュニティ A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	16	施設視察　小規模保育園 現地保育施設(ラングレー)及び関連資源の見学と考察。 B:中　C: 多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	17	施設視察省察　プリスクール 現地保育施設(バンクーバー)及び関連資源の見学と考察。 B:中　D:多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	18	施設視察　日系保育園 現地保育施設(Donguri)及び関連資源の見学と考察。 B:中　C: 多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	19	施設視察　日本語学校 現地保育施設(JEC)及び関連資源の見学と考察。 B:中　D:多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	20	施設視察　大型保育園 現地保育施設(UBC)及び関連資源の見学と考察。 B:中　C: 多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	21	施設視察　科学センター 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 （総括Miniプロジェクト（調査中間報告）） B:中　D:多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	22	施設視察　公園 現地保育施設(保育隣接・バンクーバー)及び関連資源の見学と考察。 B:中　C: 多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）

	23 施設視察　保育資料センター 現地保育施設(CCRR)及び関連資源の見学と考察。 B:中　D:多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 24 施設視察　幼児玩具店 現地保育施設(グランビルアイランド)及び関連資源の見学と考察。 B:中　C: 多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 25 施設視察省察　UBC幼児教育学科 現地保育施設(４大学部)及び関連資源の見学と考察。 B:中　D:多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 26 カナダ保育者との対話 現地保育士(Ms. Haseyama)及び教育関係者との対談から学ぶ。 B:多 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 27 カナダ保育所経営者との対話 現地保育士(Ms. Furuhashi)及び教育関係者との対談から学ぶ。 B:多 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 28 総括プロジェクト　Step 1 Mini研究プロジェクト：プロポーザル共有と協同再考 B:中　D:多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 29 総括プロジェクト　Step 2 Mini研究プロジェクト：付加リサーチ B:中　D:多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 30 総括プロジェクト　Final Mini研究プロジェクト：発表・共有 B:中　D:多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
教育目標との関連	国際こども教育者としての実践力、すなわち行動力は発揮されることを前提と考えると、実際に国際社会的環境を身をもって感じ、考える機会がより多く必要である。これは、その核となる経験と学びを提供するものである。
到達目標　(学修成果)　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．学生個々にとって国際的な社会環境における教育と他の人間的営みに関する比較的現地化した体験を通じて、専門職としてのより高度な教育力の基礎知識の習得、ならびに実践力の基礎となる知識・思想を深めることができる。 ２．異国での生活と学習体験を通し、多文化や多様な社会及び人間の営みに対し、理論的な視点をより柔軟かつ多様化できる。 ３．専門職として必要かつ、より高度な説明理論や表現、コミュニケーション能力を継続した挑戦から体得し、発揮できるようになる。 ４．実際に多様な海外のこども教育に触れる体験を通じて、世界のこどもの育ちに関し、自らのテーマを幅広い見識から見出し、こども教育の発展を主体的に考え、より高度な探究をする技能を得る。 ５．教育という活動において、国外の教育現場体験からなる視点を深めることで、自らのこども愛を能動的に表現する多角的な術を向上できる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	成績評価は添付資料のルーブリックを参照 カナダこども教育討論 50% 研究ノート（期末レポート） 20% プレゼンテーション　30%　カナダからの帰国後の報告会におけるプレゼンテーションを評価対象とし、各自に設定した関連テーマにおいて学びを深めた度合いを評価します。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	学生の発表時に対話的授業を持って教員とピア・フィードバックを行う。
教科書	授業中に指示します。購入するものはない。
参考書	使用しない
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な	学期を通し、各自、授業内容及び自己省察を継続的に行い、課題に備えること。

時間	
履修上の注意、条件等	特になし
オフィスアワー	各週の授業前後で設定。
備考・メッセージ	本授業はカナダ滞在中の現地での活動および帰国後の報告会が中心となります。

講義科目名称： 声楽Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称： Vocal Study Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	２年	１単位	卒業選択、保育士選択
担当教員			
大見由香			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：D202
添付ファイル			
Vocal 1 Rubric OMI.pdf			

講義概要	子どものうたや合唱曲に取り組む。授業では毎回ウォームアップ体操、呼吸、発声、音程などの基礎練習を行い、子どものうたを歌う。フレージング、歌詞の意味、曲の構成などを理解し、表現豊かな演奏を目指す。合唱ではお互いのバランスや調和をとる事を学ぶ。学修の成果は①わらべうたを用いたグループ発表、②子どものうたや合唱曲を用いて子どもへの出し物を想定した発表作品を準備し、発表する。 他の科目との関連：「幼児音楽Ⅰ、Ⅱ」で習得したうたの技能、表現力をさらに高める。本授業で習得した子どものうたの理解、表現、レパートリーは「保育内容（表現）の指導法Ⅰ、Ⅱ」「幼児音楽Ⅲ、Ⅳ」において、伴奏法、楽器演奏、身体表現、指導案作成の学習に関連する。 実務経験：インターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験がある。子どものミュージカルやティータイムショーの企画、監督なども手がけている。海外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイント、また楽器を用いた表現法をなじみやすい方法で紹介できる。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　授業の概要　呼吸と発声について 授業概要・呼吸と発声について説明を受け、実際に行う。 各自選んだ子どものうたを独唱し、各自の声質と声域を確認する。 復習：授業で行った呼吸と発声の練習とうたの練習。（30分） 宿題：声楽に関する意識を見出すアンケートを行う。（30分） A：多　E：あり　F：あり 第2回　2部合唱・春のうた・歌詞について 「Believe」を2部で歌う。　歌詞の意味とフレーズを理解して表現する。 グループで選んだ曲の歌詞を模造紙にわかりやすく書くことを想定して縮小版を作成する。 音程（重唱）の練習。 予習：呼吸法と発声の練習をする。（30分） 復習：春のうたを覚え、両パートともいつでも歌えるようにする。（30分） A：中　B：あり　E：あり　F：あり 第3回　保育現場における歌唱活動(１)　こどものうた 春のこどもの歌の歌唱のポイントを学び練習する。 グループで選んだ曲の歌詞を模造紙を用いて子どもに教えることを想定して、グループで発表する。 予習：Believeや春の子どものうたを練習する。（30分） 復習：春の子どものうたを覚え、いつでも歌えるようにする。（30分） A：中　D：中　E：あり　F：あり 第4回　保育現場における歌唱活動(２)　わらべうた 保育現場における歌唱活動について：弾き歌い、手遊び、わらべうた。わらべうたのグループ練習。 予習：わらべうたについて調べておく。（30分） 復習：『幼児のための音楽教育』のわらべうたをうたい遊び方を覚える。（30分） A：中　B：中　F：あり 第5回　保育現場における歌唱活動(３)　わらべうた わらべうたのグループ発表を鑑賞し保育現場でのわらべ歌について考える。 予習：グループ発表に向けて、わらべうたの遊び方を説明できるようにしておく。（30分） 復習：今まで授業で歌った歌を練習する。（30分） D：中　E：あり　F：あり 第6回　外国のこどもの歌に取り組む 外国のこどもの歌を練習し、レパートリーに加える。 予習：外国の子どもの歌をYouTubeなどで聞いておく。（30分） 復習：授業で歌った外国の歌を練習する。（30分） A：中　E：あり　F：あり 第7回　合唱曲に取り組む(２) 2パートの曲の両パートを練習し、お互いのパートを聴きながら歌うことに慣れる。 予習：合唱曲の両パートを練習しておく。（30分） 復習：授業で歌った歌を練習する。（30分） A：中　E：あり　F：あり 第8回　合唱曲に取り組む(３) 合唱曲のレパートリーを増やし、自分の声や全体のバランスの中で貢献できるパートを見出す。 予習：合唱曲の両パートを練習しておく。（30分） 復習：授業で歌った歌を練習する。（30分） A：中　E：あり　F：あり 第9回　最終プロジェクト（１）発表する曲を決める お誕生日会の出し物を想定してグループで発表する曲の候補を歌ってみる。 予習：発表したい曲を考えアンケートに入力する。（30分） 復習：発表曲を練習する。（30分） A：中　B：中　E：あり　F：あり

	第10回　最終プロジェクト（２）発表する曲を練習する 発表曲を練習し、歌詞、パートを覚える。 予習：発表曲を練習し自分の役割を考えておく。（30分） 復習：授業で決まった役割を暗譜で演じられるように練習し、準備をする。（30分） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第11回　最終プロジェクト（３）発表する曲の演出方法を考える 発表曲の意味を考え、子どもの状況を考慮した上で演奏順や振り付けなどの演出方法を考える。 予習：曲の表現について考え、意見交換きるようにしておく。（30分） 復習：曲や振り付けを練習し暗譜でできるようにしておく。（30分） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第12回　最終プロジェクト（４）発表する曲の練習と流れの確認 各発表曲を子どもの方を見て歌うことを想定して練習する。司会者を決定し、司会の内容についてディスカッションする。立ち位置、流れを確認する。 予習：各自の役割の練習、準備をする。（30分） 復習：各自の役割の練習、準備をする。（30分） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第13回　最終プロジェクト（５）リハーサル リハーサルを行い、こどもの視点でどのように見える、聞こえるのかを意識し、立ち位置、音響などを確認する。 予習：舞台での見え方について授業で撮ったビデオを見て、自分や全体の動きについて考察する。（30分） 復習：個々、グループで発表曲の練習を行う。（30分） A：中　B：中　C：多　E：あり　F：あり 第14回　最終プロジェクト（６）最終リハーサル ゲネプロを行い最終確認をする。 予習：発表曲のうた、振り付け、流れなどの最終チュックを行う。（30分） 復習：ゲネプロの内容を振り返り、演じ方、歌い方をしっかり身につけておく。（30分） A：中　B：中　C：多　E：あり　F：あり 試験　最終プロジェクトの発表 お誕生日会を想定した発表会で演じる。 第15回　まとめとフィードバック 最終プロジェクトの振り返りとフィードバックを行う。 本授業で取り組んだ歌を歌う。 予習：最終プロジェクトのビデオを見て振り返り、意見交換できるようにしておく。（30分） 宿題：保育現場の歌唱活動についてレポートを作成する。（30分） A：中　B：中　C：多　E：あり
教育目標との関連	保育者として必要な声楽の技術と知識を身につける。 子どものうたや、学生自身が共感できる曲に取り組むことにより、豊かな知性と愛の心、歌ごころを育てる。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L01.歌に込められたメッセージを理解し、状況にあった表現を理解している。 L02.童謡のレパートリーが増え、子どもやその時期の状況にあった歌を提示し、指導できる。 L03.子どもの歌を各音域で通る声で歌い、他者に伝わる表現で歌える。 L04.うたの楽しみを感じ、表現の仕方を工夫することに関心を持つ。 L05.お互いに聴き合う感覚を磨き、協働の重要性を尊重できる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	受講態度　30%　お互いに協力する姿勢、事前・事後の個人での練習を含む。 提出課題と実技発表　40%　グループ発表、こどものうたや合唱曲を用いたプレゼン。 期末試験　30%　最終プロジェクトの実技発表 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	期末試験のフィードバックは最終授業にて行う。
教科書	授業内にてプリントを配付する。
参考書	なし
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業で取り組んだ子どものうたは、暗譜でいつでも歌えるようにしておく。
履修上の注意、条件等	うたを学びたいという気持ちのある者。グループでの発表に際しては、リハーサルを円滑に行うための協力、連絡、役割を全うする姿勢が不可欠。ファイルを準備し、授業で配布するプリントを保管し、毎回各自の楽譜を持ってくること。
オフィスアワー	Google Classroomもしくは大見研究室で受け付ける。オフィスアワーは、研究室に掲示する。
備考・メッセージ	本クラス用のYouTubeの練習用音源を活用して、日々の練習を行う事。

講義科目名称： 声楽Ⅱ(Sing in English)　　授業コード：

英文科目名称： Vocal Study Ⅱ (Sing in English)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	１、２年	１単位	卒業選択、保育士選択
担当教員			
大見由香			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：D206
添付ファイル			
Sing Rubric OMI.pdf			

講義概要	英語の子どものうたやミュージカルソングなどの楽曲に取り組む。英語で歌うための発音、フレージングなどのポイントを学び、授業では毎回英語の歌を歌うための発声器管発達のための発声練習を行い、筋肉を鍛える。文化祭などのイベントでグループ発表を行う。 他の科目との関連：「幼児音楽Ⅰ、Ⅱ」で習得したうたの技能、表現力をさらに高める。本授業で習得した子どものうたの理解、表現、レパートリーは「保育内容（表現）の指導法Ⅰ、Ⅱ」において身体表現、指導案作成の学習や全ての英語科目 に関連する。 実務経験：インターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験がある。子どものミュージカルやティータイムショーの企画、監督なども手がけている。海外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイント、また楽器を用いた表現法をなじみやすい方法で紹介できる。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　授業の概要　呼吸と発声について 呼吸と発声、英語の歌のフレージング・リンキングについて説明を受け、実際に歌ってみる。 予習：英語のこどもの歌をYouTubeなどで聞いておく。（60分） 復習：授業で行った呼吸と発声の練習とうたを練習する。（30分） 宿題：声や英語の歌に関する意識を見出すアンケートを行う。（30分） A：中　E：あり　F：あり 第2回　英語の歌・こどものうた1 英語の子どものうたを歌う。英語の歌の歌唱のポイントを学ぶ。 予習：英語の子どものうたの歌詞を一曲覚え、いつでも歌えるようにする。（60分） 復習：授業で学んだ歌を練習する。（60分） A：中　E：あり　F：あり 第3回　英語の歌・こどものうた2 各自選んだ子どものうたを独唱し、各自の声質と声域を確認する。 rhymeについて理解し、楽しみ、歌詞を覚える。 予習：英語のうたを一曲選んで練習し独唱できるようにしておく。（60分） 復習：授業で歌った英語の歌を練習する。（60分） A：中　D：中　E：あり　F：あり 第4回　文化祭発表の企画 文化祭において発表するステージ・ミニシアターなどの企画を考える。 予習:文化祭の企画案を考えておく。（60分） 復習：今まで授業で歌った歌を練習しておく（60分） A：多　B：中　F：あり 第5回　文化祭発表の準備 文化祭において発表する歌の表現やふり、設定を考える。 予習：文化祭で歌う歌の表現やふりを考えておく。（60分） 復習：文化祭で歌う歌を練習し、暗譜で歌えるようにする。（60分） A：多　B：中　F：あり 第6回　文化祭発表のリハーサル 文化祭において発表する際の各自の役割を確認しリハーサルを行う。 予習：文化祭で歌う歌の表現やふりを確認しておく。（60分） 復習：リハーサルで確認した役割を覚えておく。（60分） A：多　B：中　D：中　F：あり 第7回　文化祭発表のリハーサル後の修正 リハーサルの振り返りを行い、子どもや聴衆にメッセージが伝わり、楽しめるように工夫する。 予習：文化祭の歌を個人で練習しておく。（60分） 復習：文化祭リハーサルで見出した課題を修正しておく。（60分） A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり 第8回　文化祭発表 準備した企画、歌を文化祭にて発表する。 予習：文化祭の歌を個人で練習しておく。（60分） 宿題：文化祭発表の振り返りをGoogle Classroomにて提出する。（60分） A：中　D：多　E：あり　F：あり 第9回　文化祭の振り返り 文化祭の振り返りをクラス単位で行い、歌をプレゼンすることの意義を見出す。 子どものうた・英語の歌を歌う。 予習:最終プロジェクトで歌いたい歌を考えておく。（60分） 復習：授業で歌った歌を練習する。最終プロジェクトで歌いたい歌を考えアンケートに入力する。（60分） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第10回　クリスマスソング 最終プロジェクトで歌うたの候補曲を実際に歌い、声質・テーマにあった曲を考える。

	クリスマスソングを練習する。 予習:クリスマスのこども用の歌をYouTubeなどで聞いておく。（60分） 復習：授業で歌ったクリスマスソングを練習する。（60分） A：中　E：あり　F：あり 第11回　クリスマスソングパーティの企画 クリスマス会を想定した企画を考える。 予習：クリスマス会を想定した企画を考えておく。（40分） 復習：授業で歌ったクリスマスソングを練習する。（40分） 宿題：クリスマスソングにちなんだクイズを考えて提出する。（40分） A：中　B：中　F：あり 第12回　クリスマスソングパーティの準備 クリスマスソングパーティの環境設定を行う。 予習：グループで決めたクリスマスソングを練習する。（60分） 復習：授業で歌ったクリスマスソングを練習する。パーティに必要な作品・備品などを準備しておく。（60分） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第13回　クリスマスソングパーティ クリスマスソングパーティに参加し、準備した曲の発表を行う。 予習：発表曲のうた、振り付け、流れなどの最終チュックを行う。（60分） 宿題：振り返りレポートを行う。（60分） A：中　D：多　E：あり　F：あり 第14回　最終プロジェクトの歌の決定 最終プロジェクトの歌を決め、練習する。 予習:最終プロジェクトの歌を練習する。（60分） 復習：最終プロジェクトの歌を練習し、表現の仕方を考える。（60分） A：中　B：中　F：あり 第15回　最終プロジェクトの歌の仕上げとまとめ 最終プロジェクトの歌を練習し自信を持って歌えるようにする。 最終プロジェクトの歌を発表する。 ふりかえりアンケートを行う。 予習：最終プロジェクトの歌を練習する。（30分） 復習：最終プロジェクトの歌を表現をつけて練習する。（30分） 宿題：最終ビデオレポートを作成する。（60分） A：中　E：あり　F：あり
教育目標との関連	グローバルな保育者として必要な英語の歌唱の技術と知識を身につける。 英語の子どものうたや、学生自身が共感できる曲に取り組むことにより、豊かな知性と愛の心、歌ごころを育てる。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L01. 歌に込められたメッセージを理解し、状況にあった表現を理解している。 L02. 英語の子どものうたのレパートリーが増え、子どもやその時期の状況にあった歌を提示し、指導できる。 L03. 英語の子どものうたを各音域で通る声で歌い、他者に伝わる表現で歌える。 L04. 英語のうたの楽しみを感じ、表現の仕方を工夫することに関心を持つ。 L05. 英語のうたの意味や背景、文化を理解し、尊重できる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	受講態度　40%　課題への取り組み、またお互いに協力する姿勢、事前・事後の個人での練習を含む。 実技発表　30%　文化祭でのプレゼンまたは演奏とそれにまつわる準備。 期末プロジェクト　30%　期末プロジェクトの演奏を評価する。 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	フィードバックはGoogle Classroom にて行う
教科書	授業中に適宜プリントを配布する
参考書	なし
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業で取り組んだ歌は毎回練習すること。 以上の個人練習の他、文化祭、最終プロジェクト前にはグループリハーサルに参加すること。
履修上の注意、条件等	英語の歌を学びたい、歌いたいと思う学生対象。発表・リハーサルは各自責任を持って周囲とコミュニケーションをとり、報告・連絡・相談を怠らないこと。
オフィスアワー	質問、相談は研究室（308）もしくはGoogle Classroomにて受け付ける。オフィスアワーは研究室前に掲示。
備考・メッセージ	「耳と体」でうたによく慣れて、歌のメッセージをよく理解して心をこめて歌いましょう。

講義科目名称： 演習ゼミ　　授業コード：

英文科目名称： Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	専攻科	２単位	専攻科　必修
担当教員			
中村麻衣子、相澤京子、大見由香、間野百子、石見容子、赤松広美、舟生直美、織壁佐和子、岡村泰敬			
授業形態：演習	担当形態：各指導教員単独	実務経験：各指導教員により異なる	ナンバリング：G302
添付ファイル			
ルーブリック演習ゼミ.pdf			

講義概要	世界の乳幼児教育・保育に関して一人ひとりの興味や関心に応じて研究室に所属し、主体的に学びを深め、探究することの面白さを体験的に学んでいく。現代の乳幼児が抱える保育・教育上の諸問題について理解を深め、これからの保育・教育のあり方や保育の質に関する調査研究をすることにより、自身の保育・教育観を構築する。日本国内だけではなく海外の動向・取組みも含め、多角的に分析、考察していくことで、課題解決に挑む。 他の科目との関連性：本学で学ぶすべての科目が関連している。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　イントロダクション（ガイダンス） ・シラバス内容と授業概要を理解し、1年間の目標を確認する 予習：シラバスを読む（約30分） 復習：授業で学んだことを振り返り、授業を通じた自らの目標を立てる(約1時間) A：中　B：多　E：あり　F：あり 第2回　研究論文とは何か ・リサーチクエスチョンの見つけ方、レポートとの違い、情報源の信頼性について理解する 予習：研究論文とレポートの違いについての意見をまとめる（約1時間） 復習：リサーチクエスチョンについて省察する(約1時間) A：中　B：多　E：あり　F：あり 第3回　研究論文を探す ・論文の検索システムの用い方、調べ方について学ぶ 予習：関心のあるテーマについての意見をまとめる（約1時間） 復習：論文の検索方法の基本について省察する(約2時間) A：中　B：多　E：あり　F：あり 第4回　研究論文の形式と構成 ・研究プロジェクトのテーマの選択と、仮タイトルの決定を通じて、自らの研究課題についての理解を深める 予習：関心のある論文を入手し、3本以上読む（約1時間） 復習：3本の研究論文についてのポイントをまとめる(約1時間) A：中　B：多　E：あり　F：あり 第5回　多様な研究方法 ・質的研究法/量的研究法の手法を知る ・先行研究を基に多様な研究方法を理解する 予習：自分の関心のある研究方法（メソッド）を調べる（約1時間） 復習：多様な研究方法について省察する(約1時間) A ：中　B：中　C：中　E：あり　F：あり 第6回　フィールドワーク法についての学び ・写真を用いたフィールドワークの演習を通じて、研究法についての理解を深める 予習：フィールドワークについて自分なりの意見をまとめる（約1時間） 復習：写真を用いたフィールドワークのレポートを完成する(約1時間) A ：少　B：少　C：多　E：あり　F：あり 第7回　先行研究の収集と整理 ・文献・資料の収集方法、図書館の利用（発展） ・引用文献の書き方について学ぶ 予習：自分の研究テーマに関連する先行文献について調べる（約1時間） 復習：先行文献を調べ、論文における記載の仕方を理解する(約1時間) A ：多　B：中　C：少　E：あり　F：あり 第8回　研究倫理 ・オリジナリティーと剽窃（ひょうせつ）、インフォームドコンセントについて学ぶ 予習：論文における倫理についての指定文献を読む（1時間） 復習：論文における倫理と剽窃についての理解を定着させる(約1時間) A ：中　B：多　E：あり　F：あり 第9回　人に伝わるプレゼンテーション（基礎） ・プレゼンテーションの作成とディスカッションを通して、より良く人に伝える方法について理解する 予習：プレゼンテーションを作成し、発表リハーサルの準備をする（約1時間） 復習：教員や他の履修学生からのアドバイスをもとにプレゼンテーションを修正・改善する(約1時間) B：中　D：多　E：あり　F：あり 第10回　中間発表 ・準備、実施、ディスカッション、振り返りを通して、研究課題についての考察を深める 予習：中間発表のプレゼンテーションのナレーションを準備する（約1時間） 復習：教員や他の学生からのアドバイスをもとに、研究論文について修正を加え、改善する(約1時間)

	B：中　D：多　E：あり　F：あり 第11回　論理的な文章の書き方 ・論理的な文章、要旨、本文、文献註の書き方について理解する 予習：指定文献を読む（約1時間） 復習：自分の研究論文の要旨を書く(約1時間) A：中　B：多　E：あり　F：あり 第12回　統計的データの分析手法 ・説得力のある論文を書くための数字の扱い方、分析手法（平均値や比較）を知る 予習：指定文献を読む（約1時間） 復習：統計的データを用いた比較について調べる(約1時間) A：中　B：多　E：あり　F：あり 第13回　思考を深めるディスカッション ・自分の意見を言うことと人の意見を取り入れることについて、演習を通じて理解する 予習：指定文献を読む（約1時間） 復習：有意義なディスカッションの方法についての考察を深める(約1時間) A：中　B：多　E：あり　F：あり 第14回　人に伝わるプレゼンテーション（発展） ・効果的なプレゼンテーションの方法と実践をプレゼンテーションのリハーサルを通して学ぶ ・タイムマネジメントや、ポインターの使い方などを学ぶ 予習：自分の研究論文に関するプレゼンテーションを準備する（約1時間） 復習：教員や他の履修学生からのアドバイスをもとにプレゼンテーションを修正・改善する(約2時間) B：中　D：多　E：あり　F：あり 第15回　最終発表と口頭試問 ・自分の研究プロジェクトのプレゼンテーションを実施し、今後の展望を見据える 予習：自分の研究論文に関するプレゼンテーションのリハーサルを実施する（約1時間） 復習：自らの研究プロジェクトに関し得られた学びについて省察する（約1時間） B：中　D：多　E：あり　F：あり
教育目標との関連	演習ゼミにおける研究活動は専攻科での学びの集大成である。自身の問いをたて、多様な研究方法を用いて調査、考察し、論文にまとめるという一連の活動は、保育者としての確かな知識を用いた論理的思考力、表現力、学びに向かう意欲を育成することにつながる。
到達目標　（学修成果）　　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	LO2：自身の問いについて、客観的な根拠に基づき、論理的に考えることができる。 LO3：十分な根拠に基づいた考えや主張を、筋道立てて、わかりやすい文章で表現することができる LO4：研究に主体的・意欲的に取り組むことができる
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	個人研究プロジェクト(研究、論文、プレゼンテーション）について下の①～③を基に評価する：70% 平常点（積極性や貢献度など取組み姿勢）について下の①～③を基に評価する：30% ①中間発表（20点：LO2：5点、LO3：5点、LO4：10点） ②最終発表（20点：LO2：5点、LO3：5点、LO4：10点） ③論文提出（60点：LO2：20点、LO3：30点、LO4：10点） *評価基準は添付資料のルーブリックを参照
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	最終授業回（最終口頭発表）で講評とフィードバックを行う。
教科書	授業内で適宜指示する
参考書	授業内で適宜指示する
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の準備学習は上記の通りである。授業時間以外にも論文作成のための研究を自主的に進めていくことが求められる。
履修上の注意、条件等	授業は対面で行う。諸般の状況を鑑み、遠隔（Google Meetを使用した双方向）に変更することがある。 やむを得ず欠席する場合は、あらかじめ指導教員に連絡をし、課題に関する指示を受けること。
オフィスアワー	質問は各教員の研究室・メール・Google Classroomで受け付ける。
備考・メッセージ	専攻科生としての高い意識と倫理観をもち、主体的・積極的に学びましょう。

講義科目名称： 留学英語準備講座Ⅰ　　授業コード： 30167

英文科目名称： English for Studying Abroad

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年	１単位	卒業選択
担当教員			
MaryJones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E105
添付ファイル			
ルーブリック評価　留学英語準備講座I.pdf			

講義概要	During the third year of the Global Early Childhood Education course, students spend 12 weeks living and studying early childhood education in Canada. This class will focus on the English you will need to study abroad. We will focus on English needed to succeed in the classroom, but will also study English that can be used in daily life. This class will focus on listening and speaking, so class participation is very important. Mary Jones has over 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students' communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	Class 1　Unit 1: Meeting New People Vocabulary: Clubs at university Conversation Listening: Meeting New people / Talking about your hobbies Grammar: Gerunds Speaking: Introducing yourself / Talking about your hobbies Speech listening: Dorm announcement / Voicemails Complete writing homework handout. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (20 minutes.) A: 多　B:少　D:少　E:あり　F:あり Class 2　Unit 2: Home Vocabulary: Types of homes/ Rooms in a home Conversation Listening: About the shared residence / Where do you want to live? Grammar: Comparatives Speaking: Describing rooms / Comparing rooms Speech listening: Short talk about my home Complete writing homework handout. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (20 minutes.) A: 多　B:少　D:少　E:あり　F:あり Class 3　Unit 3: Family Vocabulary: Family tree Conversation Listening: Making plans with a family member / Talking about my family Grammar: Reflexive pronouns Speaking: Talking about your family / Making plans Speech listening: Advertisement Complete writing homework handout. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (20 minutes.) A: 多　B:少　D:少　E:あり　F:あり Class 4　Unit 4: Transportation in the city Vocabulary: Places in a city Conversation Listening: Talking with a tourist / Giving Directions Grammar: Will and be going to Speaking: Giving directions Speech listening: Station Announcement / Directions Complete writing homework handout. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (20 minutes.) A: 多　B:少　D:少　E:あり　F:あり Class 5　Unit 5: Shopping Vocabulary: Sections and Products in a supermarket Conversation Listening: Asking for help / Comparing products Grammar: How much? How many? Speaking: Asking for help / Comparing products Speech listening: Short talk about a store

Complete writing homework handout. (20 minutes)
Review vocabulary list handout. (20 minutes.)

A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり

Class 6 Unit 6: Celebrations
Vocabulary: Different celebrations in life
Conversation Listening: Organizing a party / Shopping for a present
Grammar: Present Perfect tense and for and since
Speaking: Buying a present
Speech listening: Giving a speech at a party

Complete writing homework handout. (20 minutes)
Review vocabulary list handout. (20 minutes.)

A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり

Class 7 Unit 7: Volunteering
Vocabulary: Volunteering jobs
Conversation Listening: A voluneer tour guide / Talking about a plan
Grammar: Conjunction - so
Speaking: Talking about a tour
Speech listening: Announcement at a volunteer event

Complete writing homework handout. (20 minutes)
Review vocabulary list handout. (20 minutes.)

A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり

Class 8 Unit 8: Staying Well
Vocabulary: Ways to stay healthy
Conversation Listening: Talking about your health / Opinions on staying fit
Grammar: Passive voice
Speaking: Talking about your opinions on staying fit
Speech listening: A short talk on staying healthy

Complete writing homework handout. (20 minutes)
Review vocabulary list handout. (20 minutes.)

A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり

Class 9 Unit 9: Pets
Vocabulary: Qualities of a good pet
Conversation Listening: Talking about my pet / Going to the vet
Grammar: Present Perfect Continous
Speaking: Talking about your pet
Speech listening: Advertisement for a pet service

Complete writing homework handout. (20 minutes)
Review vocabulary list handout. (20 minutes.)

A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり

Class 10 Unit 10: Free-time Activities
Vocabulary: free-time activities
Conversation Listening: Talking about your plans / Free-time activities
Grammar: Adverbs of frequency
Speaking: Talking about your free-time activities
Speech listening: Recipe / Voicemail

Complete writing homework handout. (20 minutes)
Review vocabulary list handout. (20 minutes.)

A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり

Class 11 Unit 11: Music
Vocabulary: Types of music
Conversation Listening: Calling a concert hall / Talking about a concert
Grammar: Tag questions
Speaking: Buying tickets / Talking about your favorite singers
Speech listening: Short talk about music

Complete writing homework handout. (20 minutes)
Review vocabulary list handout. (20 minutes.)

A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり

Class 12 Unit 12: Eating out
Vocabulary: Words to describe tastes / Reading a menu
Conversation Listening: Ordering at a restaurant / Talking about a meal
Grammar: Adjectives and adverbs

	Speaking: Giving opinions / Describing food Speech listening: Radio advertisement for a restaurant Complete writing homework handout. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (20 minutes.) A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり Class 13 Unit 13: Movies Vocabulary: Types of movies Conversation Listening: Making plans to see a movie / Discussing a movie Grammar: Simple past tense Speaking: Giving your opinion on a movie / Making plans Speech listening: Voicemail Complete writing homework handout. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (20 minutes.) A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり Class 14 Unit 14: Sport Vocabulary: Different sports / Equipment Conversation Listening: Going to a game / Talking about sports Grammar: Conditional sentences Speaking: Talking about sports Speech listening: Short talk about a sport I like Complete writing homework handout. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (20 minutes.) A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり Class 15 Unit 15: Going on Vacation Vocabulary: Things to do on a vacation Conversation Listening: Talking about an itinerary / Asking for advice Grammar: Definite and Indefinite articles Speaking: Giving advice / Talking about plans Speech listening: Radio advertisement for a river cruise Review handouts for final exam. (2 hours) A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり Final Exam Final Exam Final exam will be conducted.
教育目標との関連	In this class, students will acquire the English they need to study abroad.
到達目標 （学修成果） 1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	LO1. Students will be gain a new understanding and appreciation of foreign cultures. LO2. Students will acquire a greater understanding of cultural differences. LO3. Students will acquire the English skills needed to live and study abroad.
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法 2.ルーブリックによる評価基準	50% Final Exam 30% Vocabulary quizzes 20% Homework & Participation
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	Final exam will be returned through google classroom with email explaining mistakes.
教科書	Listen Up, Talk Back Flaherty, Bean, Kamakura 著者 成美堂出版
参考書	瞬時にわかる英語リスニング大特訓 山崎祐一 著 金星堂 出版 究極の英語リスニング Vol. 1 アルク 出版 マーフィーのケンブリッジ英文法 中級編 Raymond Murphy 著 Cambridge University Press 出版
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	Please review basic English grammar through junior high school education in Japan.
履修上の注意、条件等	It is important to study every week for the quizzes and turning in homework on time.
オフィスアワー	The instructor will be available in her office. Office hours will be posted on the door.
備考・メッセージ	This class will be conducted in person.

講義科目名称： 留学英語準備講座Ⅱ　　授業コード： 30168

英文科目名称： English for Studying Abroad II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年	１単位	卒業選択
担当教員			
MaryJones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E106
添付ファイル			
ルーブリック評価　留学英語準備講座II.pdf			

講義概要	During the third year of the Global Early Childhood Education course, students spend 12 weeks living and studying early childhood education in Canada. This class will focus on the English you will need to study abroad. We will focus on English needed to succeed in the classroom, but will also study English that can be used in daily life. This class will focus on listening and speaking, so class participation is very important. Mary Jones has over 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students' communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	Class 1　Unit 1: Campus Life Vocabulary: Activities and places at a university Conversation Listening: Joining a gym / Asking for directions on campus Grammar: Gerunds after adjectives and adverbs Speaking: Joining a group / Expressing interest Speech listening: Online Welcome video Complete writing homework handout. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (20 minutes.) A: 多　B:少　D:少　E:あり　F:あり Class 2　Unit 2: Health Care Vocabulary: Illness / Injuries Conversation Listening: Making an appointment / At the doctors Grammar: Could for possibilities Speaking: Making an appointment / Talking with a doctor Speech listening: Voicemail Complete writing homework handout. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (20 minutes.) A: 多　B:少　D:少　E:あり　F:あり Class 3　Unit 3: My Favorite Things Vocabulary: Kinds of favorite things Conversation Listening: Talking about favorite things / Talking about food Grammar: Tag Questions Speaking: Talking about your favorite things / Using tag questions Speech listening: Speech about my favorite things Complete writing homework handout. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (20 minutes.) A: 多　B:少　D:少　E:あり　F:あり Class 4　Unit 4: International travel Vocabulary: Airport vocabulary Conversation Listening: Talking about an upcoming trip / Checking-in Grammar: Simple present tense for future events Speaking: Talking about a trip / Talking about a flight Speech listening: Airport Announcement Complete writing homework handout. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (20 minutes.) A: 多　B:少　D:少　E:あり　F:あり Class 5　Unit 5: Weather Vocabulary: Weather events Conversation Listening: Talking about the weather / Extreme weather Grammar: Let me with infinitive3s Speaking: Talking about weather / Offering help Speech listening: Weather forecast

	Complete writing homework handout. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (20 minutes.)
	A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり
Class 6	Unit 6: Education Vocabulary: University subjects Conversation Listening: At a workshop about presentations / Finding a location Grammar: Nobody, no one, nothing Speaking: Asking about a location / Using no one and nothing Speech listening: Talk about a library Complete writing homework handout. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (20 minutes.)
	A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり
Class 7	Unit 7: Exploring a New City Vocabulary: Activities to do in a new city Conversation Listening: Asking about transportation / Talking about the theater Grammar: Embedded questions Speaking: Asking for directions / Making plans Speech listening: Announcement at the beach Complete writing homework handout. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (20 minutes.)
	A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり
Class 8	Unit 8: Learning English Vocabulary: Skills for learning English Conversation Listening: Easy and difficult aspects of English / About a test Grammar: Find it and adjective and infinitive Speaking: Talking about English Speech listening: A short talk about my experience learning English Complete writing homework handout. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (20 minutes.)
	A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり
Class 9	Unit 9: Money Vocabulary: Money / Banking Conversation Listening: Saving money / Exchanging money Grammar: Polite questions using could, may and would Speaking: Exchanging money / Answering the phone Speech listening: Financial advisor's talk Complete writing homework handout. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (20 minutes.)
	A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり
Class 10	Unit 10: The Environment Vocabulary: Enviromental disasters Conversation Listening: Volunteering / Recycling Grammar: Get and object and complement Speaking: Asking about a volunteer event Speech listening: Short talk about the environment Complete writing homework handout. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (20 minutes.)
	A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり
Class 11	Unit 11: Clothes Vocabulary: Shopping / Clothing Conversation Listening: Talking about clothing / Shopping Grammar: Linking Verbs Speaking: Shopping / Talking about clothes Speech listening: Advertisement for a clothing store Complete writing homework handout. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (20 minutes.)
	A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり
Class 12	Unit 12: Buildings and Addresses Vocabulary: Buildings Conversation Listening: Asking for directions / Asking about a building Grammar: Verb and object and infinitive Speaking: Asking for directions / Talking about problems with a building

	Speech listening: Building evacuation procedure Complete writing homework handout. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (20 minutes.) A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり Class 13 Unit 13: News Vocabulary: News Conversation Listening: Talking about a news story / A news interview Grammar: See someone gerund Speaking: Talking about the news Speech listening: Traffic reports Complete writing homework handout. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (20 minutes.) A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり Class 14 Unit 14: Jobs and work Vocabulary: Jobs Conversation Listening: Asking questions about a job / A job interview Grammar: Subject questions Speaking: A job interview Speech listening: Welcome talk for new employees Complete writing homework handout. (20 minutes) Review vocabulary list handout. (20 minutes.) A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり Class 15 Unit 15: Future plans Vocabulary: Life goals Conversation Listening: Saying goodbye / Talking about your future plans Grammar: present perfect plus adjective Speaking: Talking about future goals / Saying good bye Speech listening: Short talk about personal goals Review handouts for final exam. (2 hours) A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり Final Exam Final Exam Final exam will be conducted.
教育目標との関連	In this class, students will acquire the English they need to study abroad.
到達目標 （学修成果） 1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	LO1. Students will be gain a new understanding and appreciation of foreign cultures. LO2. Students will acquire a greater understanding of cultural differences. LO3. Students will acquire the English skills needed to live and study abroad.
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法 2.ルーブリックによる評価基準	50% Final Exams 30% Vocabulary quizzes 20% Homework & Participation
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	Final exam will be returned through google classroom with email explaining mistakes.
教科書	Listen Up, Talk Back 2 Flaherty, Bean, Kamakura 著者 成美堂出版
参考書	瞬時にわかる英語リスニング大特訓 山崎祐一 著 金星堂 出版 究極の英語リスニング Vol. 1 アルク 出版 マーフィーのケンブリッジ英文法 中級編 Raymond Murphy 著 Cambridge University Press 出版
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	Please review basic English grammar through junior high school education in Japan.
履修上の注意、条件等	It is important to study every week and to turn in homework on time.
オフィスアワー	The instructor will be available in her office. Office hours will be posted on the door.
備考・メッセージ	This class will be conducted in person.

講義科目名称： 幼児造形入門　　授業コード：

英文科目名称： Introduction to Early Childhood Art and Craft

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	1	卒業選択
担当教員			
久保寺　賀子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：D109
添付ファイル			
幼児造形入門.pdf			

講義概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領のなかの「表現」のねらいと内容を踏まえ、子どもの造形表現への理解に向けた基礎を学ぶ。生活の中にある身近なものを材料や用具として扱い、幅広い造形活動を通して、受講生の感性を磨き創造力を育てる。担当講師の幼稚園での絵画・工作指導の実務経験を基に、材料の効果的な使い方や用具の基本的な扱い方を習得し、造形活動の構想や計画を立てて造形表現に取り組むことで、同表現に深く関わる資質と能力を高める。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション／日本の伝統について 【対面】 ・保育のなかの造形表現を理解する。 ・日本の伝統文様を表現する。 ・紙を使って「編む／組む」による表現について学ぶ。 （予習）シラバスに目を通す。／自身の家の家紋を調べてくる。（15分） （復習）リフレクション・シートの作成。（30分） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第2回　大きな絵を描く活動 【対面】 ・世界の植物をテーマに大きな紙に共同で描く。 ・造形表現の技法「フィンガーペイント／ステンシル版画」／フローッタージュ」などを用いる。 （予習）配布もしくは共有資料に目を通しておく。（30分） （復習）リフレクション・シートの作成。（30分） B：少　D：少　E：あり　F：あり 第3回　色あそび「混色」 【対面】 ・描画材を使って混色をつくる。 ・紙類を使って混色をつくる。 ・生活素材使って混色をつくる。 （予習）配布もしくは共有資料に目を通しておく。（30分） （復習）リフレクション・シートの作成。（30分） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第4回【対面】　つくって演じる活動Ⅰ（発想、構想、立案、製作） ・色水シアターの製作と発表に向けた立案をする。 ・「色で巡る世界のまち」を主題とする。 （予習）配布もしくは共有資料に目を通しておく。（30分） （復習）グループ内で協議した内容を振り返り、まとめ、次回に向けた準備をする。（45分） 第5回【対面】　つくって演じる活動Ⅱ（製作、発表、鑑賞） ・各グループによる色水シアターの発表をおこなう。 ・作品の発表（演じる）を通して、保育者としての役割を理解する。 ・他者と成果を共有し、表現の多様性を感じとり味わう。 （予習）前回までの進捗状況を鑑みて、必要に応じて製作を進めるなどおこなう。（30分） （復習）リフレクション・シートの作成。（60分） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第6回【対面】　日常のなかのアートⅠ（発想、構想、立案） ・造形表現における「見立て」の理解。 ・幼児の造形表現におけるICTの取り入れについて学ぶ。 ・ICTの活用による製作「コマ撮り漫画」。 ・製作に必要な情報収集のための調査や分析をおこなう。 （予習）配布もしくは共有資料を精読し、レポートにまとめる。（60分） （復習）グループ内で協議した内容をふり返り、次回に向けた準備をおこなう。（30分） B：中　D：少　E：あり　F：あり 第7回【対面】　日常のなかのアートⅡ（制作） ・造形表現における「見立て」の理解。 ・幼児の造形表現におけるICTの取り入れについて学ぶ。 ・ICTの活用による製作「コマ撮り漫画」。 （予習）前回までに収集した情報を整理してまとめ、不足を補う。（60分） （復習）授業内で作業した内容を振り返り、次回に向け計画の見直しをする。（60分） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第8回【対面】　日常のなかのアートⅢ（発表、鑑賞） ・作品の発表を通して、保育者としての役割を理解する。 ・幼児の造形表現における鑑賞の意義を理解する。

	（予習）配布及び共有資料を精読し、レポートにまとめる。（60分） （復習）リフレクション・シートの作成。（60分） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり
教育目標との関連	日常生活の中にある身近なものを造形活動の材料や用具として活用できることに気づき、幅広い表現活動を通して造形的な視点や探究心を育む。材料や用具の性質や特徴を踏まえ、それらの色やかたち、手触りを体感し、自分なりのイメージを膨らませて表現する過程の重要性を理解する。
到達目標　（学修成果）　　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	LO１．身近な材料を用いた子どもの造形表現に対する興味関心を深め、活動方策を理解している。 LO３．造形的な視点を以って自らの思考判断で活動方策を研究し、造形の基礎的能力を伸ばすことができる。 LO４．造形表現における保育者として必要な資質及び能力への理解を深めようとしている。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	授業内課題（作品）（50%） 到達度評価としてのポートフォリオの提出（期末レポート扱い）（25%） 学習カードによる振り返り（25%） 評価基準は添付資料のルーブリックを参照のこと。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	授業最終回にて振り返り、解説する。
教科書	特に用いない。 必要に応じて資料を配布、共有する。
参考書	『幼稚園教育要領』文部科学省、『保育所保育指針』厚生労働省、『幼保連携授型認定こども園教育・保育要領』内閣府他　共にフレーベル館.
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	準備学習の具体的内容および必要な時間については授業計画に記載。
履修上の注意、条件等	学校の規則を守り、自覚・自律ある態度及び向上心をもって授業に取り組むこと。
オフィスアワー	作品に対するフィードバックは原則として授業中に解説する。 その他の質問等がある場合は、Google Classroomの限定コメントにて受け付ける。
備考・メッセージ	Google Classroom の掲示やメール通知の確認を怠らないこと。 授業の１週間前に予習用の資料をClassroomで配信するので、視聴してから授業に臨むこと。また，毎回Chromebookを持参すること。 安全に配慮しながら制作をし、準備、後片付けを徹底すること。 授業に必要な道具や材料は忘れずに用意すること。 提出物の締め切りは厳守すること。

講義科目名称： 保育者入門　　授業コード：

英文科目名称： Introduction to Child Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年	１単位	卒業選択
担当教員			
中村麻衣子、相澤京子、大見由香、間野百子、赤松広美、石見容子、織壁佐和子、舟生直美、福田尚子、岡村泰敬、安田真紀子			
授業形態：講義	担当形態：複数		ナンバリング：H102
添付ファイル			

講義概要	このオムニバス講義は、保育に興味を持つ高校生の皆さんと大学生が共に学びを深める高大接続授業です。「子どもが好き！」という純粋な気持ちを原動力に、心理学の理論を通じて子どもの行動や心の背景を理解する基礎を築きます。 保育現場で欠かせない絵本の読み聞かせが子どもに与える意味や、子どもの視点に立った絵本の選び方を学び、皆さんが子どもの頃に親しんだ懐かしい絵本も多数紹介します。また、現代の保育現場で求められるICT活用スキルとして、保護者への「おたより」作成を通じて効果的な情報伝達方法を習得します。 さらに、現代の子育て家庭が抱える課題を歴史的視点から紐解き、子どもだけでなく保護者も支援する保育者の役割について深く考察します。集団生活における協働遊びや、障がいを持つ子どもたちとのコミュニケーションを通じて、多様性を尊重し、共に成長する喜びを体験します。子どもにとって「遊び」が持つ本質的な意味や、子どもの無限の可能性を引き出す保育者の関わり方についても実践例を交えながら学びを深めます。 保育現場で身近な「うた」の取り入れ方や、自然の中での遊びが子どもの五感や能力に与える影響、そして「パネルシアター」のような児童文化財が子どもの発達に果たす役割についても触れていきます。 本講義を通して、皆さんは保育の専門性を高めるとともに、子どもたちの豊かな成長を支えるための実践的な知識と深い洞察力を養うことができるでしょう。未来の保育者を目指す皆さんにとって、この講義が学びの第一歩となることを願っています。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　やさしい心理学入門－12（中村麻衣子） 保育に役立つ心理学の基礎をやさしく学びます。保育は恋といっしょで「こどもが好き！」「もっと知りたい！」という気持ちが大切です。その気持ちが原動力となり、こどもの行動や背景にある気持ちを解ろうとします。この時に役立つのが心理学の諸理論です。乳幼児期に大切な理論（と恋に役立つ理論）を楽しく学びましょう。 第2回　やさしい心理学入門－2（中村麻衣子） 保育に役立つ心理学の基礎をやさしく学びます。保育は恋といっしょで「こどもが好き！」「もっと知りたい！」という気持ちが大切です。その気持ちが原動力となり、こどもの行動や背景にある気持ちを解ろうとします。この時に役立つのが心理学の諸理論です。乳幼児期に大切な理論（と恋に役立つ理論）を楽しく学びましょう。 第3回　こどもと絵本－1(相澤京子) 保育者の姿をイメージしようとすると、こどもたちに絵本の読み聞かせをしている様子が思い浮かぶのではないでしょうか？この授業では、絵本がこどもにとってどのような意味を持っているのかを学びます。また、こどもと大人の絵本の見方の違いを知ることによって、こどもに絵本を与える際に気をつけることについても学びます。授業では懐かしい絵本を多く紹介します。それらの絵本をじっくりと観察することで、絵本作家の想いや表現、そして豊かな物語の世界を味わいましょう。 第4回　こどもと絵本－2(相澤京子) 保育者の姿をイメージしようとすると、こどもたちに絵本の読み聞かせをしている様子が思い浮かぶのではないでしょうか？この授業では、絵本がこどもにとってどのような意味を持っているのかを学びます。また、こどもと大人の絵本の見方の違いを知ることによって、こどもに絵本を与える際に気をつけることについても学びます。授業では懐かしい絵本を多く紹介します。それらの絵本をじっくりと観察することで、絵本作家の想いや表現、そして豊かな物語の世界を味わいましょう。 第5回　保育園 「6月の おたより」 作成に挑戦しよう－1（福田尚子） 本授業では、保育園で配布される「おたより」を題材に、情報機器（パソコンやタブレット等）を活用して、保護者にわかりやすく・効率よく情報を伝える方法を考えながら、実際に90分でおたよりを作成します。保育現場におけるコミュニケーションの重要性を理解し、情報デザインやICT活用の視点も取り入れて、実践的なスキルを学びます。 第6回　保育園 「6月の おたより」 作成に挑戦しよう－2（福田尚子） 本授業では、保育園で配布される「おたより」を題材に、情報機器（パソコンやタブレット等）を活用して、保護者にわかりやすく・効率よく情報を伝える方法を考えながら、実際に90分でおたよりを作成します。保育現場におけるコミュニケーションの重要性を理解し、情報デザインやICT活用の視点も取り入れて、実践的なスキルを学びます。 第7回　保護者への支援（岡村泰敬） 子育て家庭の保護者は、様々な問題や課題、困難を抱えています。そのため、保育者は、子どもだけでなく、子育て家庭の保護者への支援も求められている職業です。子育て家庭の保護者が抱えている問題などについて、日本の子育ての歴史から見直し、保護者への支援について一緒に考えていきましょう。 第8回　協働遊び（織壁佐和子） 1人の力では限界はあっても、皆が集まって力が合わさるとたちまち大きな力となります。集団生活を初めて経験する子どもにとって友だちや先生と力を合わせる体験は、信頼することや協力することの学びにつながります。保育施設で使われる遊具や道具を使って、友だちと一緒に力を1つにして大きな力を体験してみましょう！

	第9回	障がい児保育入門（赤松広美） 障がいを持つ子どもと接する際にどのような知識が必要でしょうか。 演習を通して、障がい児とコミュニケーションをとる際に大切な知識を身につけましょう。
	第10回	子ども×あそび（石見容子） 自分の子ども時代に遊んだ遊びを思い出してみましょう。あの時に遊んだ遊びは、今の自分に成長するまでにどんな意味があったのでしょう。 「子どもは遊ぶことが好き」「では、なぜ遊ぶ？学ばなくていいの？」このクエスチョンに対する答えを一緒に探しましょう。
	第11回	子ども理解を 深める（間野百子） 子どもは幼くて可愛いだけの存在でしょうか。実は、力強くて頼もしい子どもの視点に立ってみると、子どもの感性や想像力の豊かさに目を見張らされます。子ども理解を深めるうえでの観察のポイントや子どもの無限の可能性を伸ばしていく保育者の役割について実践例を通して考えていきましょう。
	第12回	幼児音楽－1（大見由香） 幼稚園、保育園の生活の中で、うたはどのようにとりいれられているかについて学習します。また、こどもに伝わるように歌うためのポイントや、歌詞の意味とその表現について考えます。
	第13回	幼児音楽－2（大見由香） 幼稚園、保育園の生活の中で、うたはどのようにとりいれられているかについて学習します。また、こどもに伝わるように歌うためのポイントや、歌詞の意味とその表現について考えます。
	第14回	保育内容（環境） 自然遊びと 感覚刺激－1（舟生直美） 現在、幼児教育では自然遊びや里山保育など自然体験活動を通した学びが注目されています。自然の中での遊びは、子どもの五感を刺激し、運動能力、バランス感覚、集中力、探求心、創造性など、様々な能力の発達を促すと考えられています。変化に富んだ自然環境は、子どもたちの好奇心を刺激し、主体的な学びを引き出します。実際に林を散策し、恵み多き自然から受ける感覚刺激について一緒に考えていきましょう。
	第15回	保育内容（環境） 自然遊びと 感覚刺激－2（舟生直美） 現在、幼児教育では自然遊びや里山保育など自然体験活動を通した学びが注目されています。自然の中での遊びは、子どもの五感を刺激し、運動能力、バランス感覚、集中力、探求心、創造性など、様々な能力の発達を促すと考えられています。変化に富んだ自然環境は、子どもたちの好奇心を刺激し、主体的な学びを引き出します。実際に林を散策し、恵み多き自然から受ける感覚刺激について一緒に考えていきましょう。
	第16回	児童文化財 パネルシアターを 体験しよう（安田真紀子） 子どもたちが大好きなパネルシアター！観るのも作って演じるのも楽しい児童文化財です。でもただ楽しいだけではありません。この授業では楽しいパネルシアターを子どもの発達の視点から捉えます。児童文化材の面白さと保育の奥深さを一緒に体感しましょう。
教育目標との関連		
到達目標 （学修成果） 1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性		
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法 2.ルーブリックによる評価基準		
期末試験・期末レポートのフィードバック方法		
教科書	なし、適時	
参考書	なし	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間		
履修上の注意、条件等		
オフィスアワー		
備考・メッセージ		

講義科目名称： サービスラーニング　　授業コード：

英文科目名称： Service Learning

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	専攻科	2単位	専攻科選択
担当教員			
間野　百子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：	ナンバリング：Ｈ３０３
添付ファイル			

講義概要	
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	
教育目標との関連	
到達目標　（学修成果）　　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	
教科書	
参考書	

準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 多文化保育論　　授業コード：

英文科目名称： Multicultural Education and Care in Early Childhood

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	１年	2単位	１年　選択
担当教員			
尾崎　司			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：C307
添付ファイル			
ルーブリック多文化保育論.pdf			

講義概要	世界がグローバル化し急速に変化していく今日にあって、経済的な価値が世界の民族・文化圏の文化的価値を侵食しています。私たちは文化多様性の価値をあらためて認識し、どの国の人びとも、民族、地域及びコミュニティに特有の歴史的で文化的な背景を持っていることを尊重して暮らしていかなくてはいけません。また、それらの多様な文化的価値を互いに高め合い、ダイバーシティを実現し、創造性やイノベーションを活性化していくことが大切な時代になってきています。 この授業では、外国につながりのある親子が自文化を誇りに思い、また、そうした日本語を母語としない親子の人権が尊重される社会を築くために、何が必要かを考えていきます。さらに、文化多様性の理解を深め、多文化保育の場での保育者としての役割や支援の方法を検討していきます。とりわけ、①多様な文化・考え方がありそれを尊重すること、②人びとの中にある偏見・バイアスに気づき意識すること、③生活や文化の中で外国につながりのある親子の支援を考えること、を大切にしていきます。NPOや自治体で、グローバル教育のファシリテーターとして持続可能な社会づくりに関わってきました。ワークショップ形式で、多文化共生社会を皆さんとともに考えていきます。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第１回　ガイダンス～グローバル社会とダイバーシティ 世界の中でグローバル化した経済が発展するにつれ、そうした経済的な価値は、ともするとそれぞれの民族・文化圏の文化的価値を侵食していきます。文化多様性が尊重される社会を築くため、私たちは子どもたちに何を伝えることができるのかを考えます。 【学修形態】 (A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中 ［予習］「みんな違ってみんないい」という言葉について、どんな印象を持つかを考えてきてください。 ［復習］リフレクション・シートを記入してください。 第２回　多様な文化の尊重(1) 習慣 いろいろな国の「習慣」に触れ、自分自身の異文化への感じ方を意識し、それを尊重するとはどういうことかを、一緒に考えていきます。 【学修形態】 (A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中 ［予習］海外の人に紹介したい日本の「習慣」を考えてくる。 ［復習］リフレクション・シートを記入してください。 第３回　多様な文化の尊重(2) 食 いろいろな国の「食文化」に触れ、自分自身の異文化への感じ方を意識し、それを尊重するとはどういうことかを、一緒に考えていきます。 【学修形態】 (A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中 ［予習］昆虫食について、どう思うかを考えてくる。 ［復習］リフレクション・シートを記入してください。 第４回　多様な文化の尊重(3) 衣 いろいろな国の「着る文化」に触れ、自分自身の異文化への感じ方を意識し、それを尊重するとはどういうことかを、一緒に考えていきます。 【学修形態】 (A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中 ［予習］民族衣装について、どう思うかを考えてくる。 ［復習］リフレクション・シートを記入してください。 第５回　日本文化とアイデンティティ 異文化を知ることと同時に自国の文化を知り、伝えることはとても大切です。ここでは、日本文化とアイデンティティについて一緒に考えていきます。 【学修形態】 (A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中 ［予習］あなたが日本文化について語るとしたら、どんなことを話題にするかを考えてくる。 ［復習］リフレクション・シートを記入してください。 第６回　多様な文化の魅力を考える 第１回から第５回を振り返り、多様な文化の魅力について一緒に考えていきます。また、それを他者に伝える方法を考えます。 【学修形態】 (A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中　(E)振り返り…中 ［予習］多様な文化についての情報を収集しておく。 ［復習］これまでの学びをまとめましょう。 第７回　多文化保育の必要性(1)外国にルーツを持つ子ども 外国にルーツを持つ子どもを受け入れるにあたって、保育をおこなう上でどのような問題が生じているのかについて考えていきます。 【学修形態】 (A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中 ［予習］多文化保育を考える上での課題を調べておいてください。 ［復習］リフレクション・シートを記入してください。

	第８回　多文化保育の必要性(2)外国籍の親とのコミュニケーション 外国にルーツを持つ子どもを受け入れるにあたって、外国籍の親とコミュニケーションをとる上でどのような問題が生じているのかについて考えていきます。 【学修形態】 (A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中　(E)振り返り…中 ［予習］多国籍の親とのコミュニケーションを考える上での課題を調べておいてください。 ［復習］リフレクション・シートを記入してください。 第９回　多文化保育の取り組み事例 多文化保育を意識的に取り組んでいる保育施設の事例を検討します。 【学修形態】 (A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中 ［予習］多文化保育に取り組む保育施設を調べてみましょう。 ［復習］リフレクション・シートを記入してください。 第１０回　多文化子育ての取り組み事例 多文化子育て支援を意識的に取り組んでいる自治体や居場所の事例を検討し、多文化保育を支えるコミュニティについて考えてきます。 【学修形態】 (A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中　(E)振り返り…中 ［予習］自分が居住するエリアで多文化子育てがおこなわれているかを調べてみましょう。 ［復習］リフレクション・シートを記入してください。 第１１回　多文化保育の課題を考える 第７回から第１０回を振り返り、多文化保育の課題について一緒に考えていきます。また、課題解決に向けてのアイディアを出し合い、議論します。 【学修形態】 (A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中　(E)振り返り…中 ［予習］多文化保育の課題解決に参考になりそうな国内外の事例を調べてみましょう。 ［復習］これまでの学びをまとめましょう。 第１２回　ものの見方・偏見・差別 私たちは、大なり小なり偏見を持って生きています。違ったものの見方を持つ人たちたちが集まれば、差別という行為が生まれることもあります。自分の内面を見つめ、自分の傾向性を意識していきます。 【学修形態】 (A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中 ［予習］　人種・国籍・考え方によって生まれる偏見・差別に対して考えておいてください。 ［復習］　リフレクション・シートを記入してください。 第１３回　グループワーク(1) 親子支援を考える これまでの学びをふまえて保育現場でできることを考え、次回第14回の発表に向けてアクションや提案をグループで一緒に考えます。 【学修形態】 (A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中　(E)振り返り…中 ［予習］　これまでの学びをまとめておいてください。 ［復習］　次回の発表に向け、発表内容を整理しておいてください。 第１４回　グループワーク(2) 親子支援の具体案 これまでの学びをふまえて保育現場でできることを考え、次回第14回の発表に向けてアクションや提案をグループで発表します。また、これまでの学びやグループワーク、発表内容をふまえ、あなたが学んだことを800字以上で期末レポートにまとめ、授業時間内に提出します。 【学修形態】 (A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中　(E)振り返り…中 ［予習］グループ発表に向け、準備してください。 ［復習］第15回の授業で、期末レポートについて語れるようにしておいてください。 第１５回　多文化保育の実践に向けて 提出された期末レポートをもとに、コメントやフィードバックをおこない、多文化保育の実践に向けて私たちができることを考えます。 【学修形態】 (A)グループワーク…中　(B)ディスカッション…中　(E)振り返り…中 ［予習］提出した期末レポートを確認しておきましょう。 ［復習］この授業を通して、自分の内部にある多様性を考えてみましょう。
教育目標との関連	文化多様性の価値は、本学の愛の教育に基礎をおく教育目標と合致するものです。外国とつながる乳幼児やその保護者に対する支援を考え、ダイバーシティを尊重する視点を保育の中に取り入れ、子どもに関わることがこの授業で期待されています。
到達目標　(学修成果)　1．知識・理解 2．思考・判断 3．技能・表現 4．関心・意欲 5．人間性・社会性	1．多文化保育の必要性を理解し、その取り組みや課題を理解し、説明することができる。 4．保育者として多様な生活や文化に関心を持ち、自分の考えを述べることができる。 5．保育・子どもの生活に多文化保育の視点を取り入れるための提案を考えることができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	1.評価方法 ・期末レポート 80% ・リフレクション・シート 20% 2.ルーブリックは添付資料参照
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	最終回授業にてコメント、フィードバックをおこないます。
教科書	特になし
参考書	配布資料やサイトURLを適宜、提示します。

準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習・復習は授業計画の通り
履修上の注意、条件等	シラバスの内容は、履修学生の理解度により、変更があります
オフィスアワー	授業終了後に直接質問してください
備考・メッセージ	第1回～第15回 対面授業 総括として、期末レポートを実施。第15回でコメント、フィードバックをおこないます。

講義科目名称： 保育実習指導Ⅱ（専攻科）　　授業コード：

英文科目名称： Instruction for Practice Teaching II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	専攻科	１単位	保育士選択必修
担当教員			
舟生　直美			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：G206
添付ファイル			
ルーブリック保育実習指導Ⅱ（2025）.pdf			

講義概要	これまでの実習における学びを踏まえ、保育実習Ⅱに向けての保育実習の意義・目的・内容を理解し、自己課題を明らかにする。こども理解に基づいた指導計画を立案し、模擬保育を通して実践する力・省察する力を養う。また事後指導では、総括、評価を行い、今後の保育活動に活かせるよう、自己課題を明確にする。 他教科との関連：保育実習指導Ⅰ（保）・教育実習指導及び保育実習指導Ⅰ・教育実習において学んだ保育者としての心構えや保育技術の習得の上に、望ましい保育者像を追求する。 担当教員は、保育所での保育者経験があり、それを活かして、より現場をイメージできるような説明をしながら実習に向けての準備をすることができるよう、授業を展開する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション　保育士の仕事と役割 学内オリエンテーション①「実習参加に向けての準備」 これまでの実習を振り返り、実習生としての心構え・実習生に求められるものについて考える。また、海外における様々な保育を知り、本学の実習の在り方について改めて理解を深める。 B:中　E:あり　F:あり 予習：シラバスを熟読しておく（30分）。 復習：次の実習に向かうにあたり、どのような準備が必要であるか、各自で考える（30分）。 第2回　こども理解と日誌の書き方① こども理解に基づいた日誌の書き方を学ぶ。(時系列の記録) 時系列の記録の取り方についてそのポイントを確認する。 B:中　E:あり　F:あり 予習：今までに行った実習の日誌を見返す（1時間）。 復習；時系列の記述について流れをまとめる（1時間）。 第3回　こども理解と日誌の書き方② こども理解に基づいた日誌の書き方を学ぶ。（エピソード記録） エピソード記述式の記録の取り方についてそのポイントを確認する。 B:中　E:あり　F:あり 予習：今までに行った実習の日誌を見返す（1時間）。 復習：エピソード記述式の記録の取り方のポイントをまとめる（1時間）。 第4回　乳児の指導計画 0・1・2歳児指導計画の立案の仕方について学ぶ。生活場面における個別配慮事項について理解する。 実際に計画を立てる練習をする。 B:中　E:あり　F:あり 予習：乳児の発達について教科書を見て復習する（1時間）。 復習：授業内で立てた計画を見直す（1時間）。 第5回　乳幼児の活動提案 0・1・2・3・4・5歳児の発達の理解に基づいた活動の提案を行う。活動内容が発達を踏まえたものであるか、またこどもたち自らが工夫を加えることができる発展性のある教材となっているか意見交換をし検討する。 B:中　E:あり　F:あり 予習：幼児の発達について教科書を見て復習する（1時間）。 復習：授業内に出た他者からの意見をまとめておく（1時間）。 第6回　乳幼児の活動提案② 0・1・2・3・4・5歳児の活動の提案を行う（続き）。 責任実習を想定し、改良を加える。 Ｂ：多　Ｆ：あり 予習：活動案を決めシミュレーションする（1時間）。 復習：授業内でまとめた計画を見直す（1時間）。 第7回　学内オリエンテーション 学内オリエンテーション②(実習先のオリエンテーションに向けての諸注意及び確認) 実習前の心構えと諸注意について学ぶ。 F：あり 予習：保育実習Iを振り返り実習前の心構えを各自まとめる（1時間）。 復習：実習園についてまとめたうえで、実習前オリエンテーションの質問事項をまとめる（1時間）。 第8回　全日指導案の作成 活動提案型の全日指導案を作成する。 課題：全日指導案の作成 A:多　E:あり　F:あり 予習：各自の選択した歳児の発達について十分理解しておく（1時間）。 復習：授業内で決めた計画の詳細をシミュレーションする（1時間）。 第9回　模擬保育の準備 乳児グループ、幼児グループに分かれて、模擬保育に向けた準備をする。 A:多　E:あり　F:あり 予習：主活動（模擬保育）に向けての準備物をまとめる（1時間）。

	復習：その活動に参加する実際の子どもをイメージする（30分）。 第10回　模擬保育① グループごとに、保育実習Ⅱをイメージし、幼児理解に基づいた模擬保育を行う。 また振り返りでは、自らの模擬保育を評価し、互いの評価も行う。 A：多　F：あり 予習：模擬保育の準備をする（1時間）。 復習：自身の振り返りをまとめる（1時間）。 第11回　模擬保育② グループごとに、保育実習Ⅱをイメージし、幼児理解に基づいた模擬保育を行う。 また振り返りでは、自らの模擬保育を評価し、互いの評価も行う。 A：多　F：あり 予習：模擬保育の準備をする（1時間）。 復習：自身の振り返りをまとめる（1時間）。 第12回　日誌点検 実習に向け、日誌の在り方について再確認し、内容の点検を行う。 F：あり 予習：保育実習Iの日誌を見返す（1時間）。 復習：実習日誌を書く際のポイントをまとめる（1時間）。 第13回　保育実習Ⅱにおける学びについてディスカッション 保育実習Ⅱにおける学びについてディスカッションを以下の観点で行う。 ・園の特徴について。 ・保育者の姿勢や助言から学んだことについて。 ・困ったことへの対応について。 ・これまでの実習と比較して成長したところについて。 ・自分の保育観について。 B：多　F:あり 予習：実習を振り返る（1時間）。 復習：自身の保育観について考える（1時間）。 最終課題：指導案及び実習課題のレポートを提出。 第14回　実習課題の明確化 実習の課題を明確にし課題達成に向けて流れを明確にする。 B：多　F:あり 予習：保育実習Ⅱの意義を考えまとめて授業に参加する（1時間）。 復習：保育実習Ⅱの意義を理解し実習の準備を整える（1時間）。 第15回　実習の振り返りとまとめ（学生によるプレゼンテーション及び自己評価と課題設定） 保育実習Ⅱにおける学びや自身への気づきについてプレゼンテーションを行う。 専門職としての保育士に必要な知識、態度、技能を身につけるために、保育実習Ⅱの自己評価と今後の学びについて課題を明確にする。 D:多 予習：実習を振り返り、プレゼンの下準備をする（1時間）。 復習：次のステップに向けての自身の課題をまとめる（1時間）。
教育目標との関連	保育者として、理論に基づいた確かな保育技術を身につける。また実習生としての立場を理解し、謙虚に誠実に、かつ前向きに参加し、愛情をもって人と関わることができるよう、日頃の立ち振る舞いから指導を行う。社会生活に必要な教養を身につける。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L01.保育実習Ⅱの意義、目的、心構え、法令上の事項について理解できる。 子どもの発達,子ども理解につとめるとともに、社会の中の保育園の存在意義について説明できる。 L02.保育内容を観察・計画・実践・評価し、目標の達成に向けた改善及び方法について思考・判断することができる。 L03.実習指導案、日誌、自己の課題等について規定及び文章作法に基づいてまとめることができる。 L04.保育実習を振り返り、自身の良かった点や今後の課題について分析・自己評価することができる。 L05.実習生として保育者としてふさわしい人間性を身につけ、他者と協働することができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	１．評価方法 提出課題50%：指導案、実習課題の最終レポート 受講態度50% ２．成績評価は添付資料のルーブリック参照
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	指導案、実習課題の最終レポートについて、授業内で解説し実習に向かう準備を整える。実習指導の最終授業において実習の振り返りを実施する。また、実習園の評価をもとに個別に面談を行い実習の振り返りを行う。
教科書	『幼稚園・保育所・認定こども園実習　パーフェクトガイド』小櫃智子他　わかば社 『保育所保育指針解説』　厚生労働省　　フレーベル館
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各授業前にはシラバスを確認し、授業に向けての準備を整えておく。その他、具体的予習内容は各授業回に記載している。
履修上の注意、条件等	保育実践力を身につけるために、指導案の作成と模擬保育を行う。
オフィスアワー	質問等は各教員の研究室で、オフィスアワーに受け付ける。
備考・メッセージ	原則として全て対面授業でおこなう。

講義科目名称： 保育実習Ⅱ（専攻科）　　授業コード：

英文科目名称： Nursery Practice Teaching　Ⅱ(Nursery School)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	専攻科	２単位	保育士選択必修
担当教員			
舟生　直美			
授業形態：実習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：G205
添付ファイル			
ルーブリック保育実習Ⅱ（2025）.pdf			

講義概要	本科目は保育所における実習である。各保育所での指導を受け、保育観察・保育参加・責任実習などを行い、乳幼児理解をはじめ、実習記録の取り方、保育指導案の作成など保育の実際を学ぶことにより、使命感や責任感を持って教育実践できる能力を身につけることを目的とする。また事前に立てた個々の実習課題を追究する。保育所実習においては子どもの命を預かり、かけがえのない日々を過ごしていることを十分認識し、常に学ぶ姿勢を持ち、体調に留意しながら実習に臨む必要がある。 他の科目との関連：保育実習指導Ⅱ 担当教員は、保育所での保育者経験があり、それを活かして、より現場をイメージできるような説明をしながら実習に向けての準備をすることができるよう、授業を展開する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	以下の内容について、約11日間の実習を行う。教員が訪問指導を行う。 1. 保育所の役割や機能の具体的展開。 (1) 養護と保育が一体となって行われる保育。 (2) 保育所の社会的役割と責任。 2. 観察に基づく保育理解。 (1) 子どもの心身の状態や活動の観察。 (2) 保育士等の動きや実践の観察。 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握。 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携。 (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通じて総合的に行う保育の理解。 (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援。 (3) 地域社会との連携。 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価。 (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価とカリキュラムマネジメントの理解。 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価。 5. 保育士の業務と職業倫理。 (1) 多様な保育の展開と保育士の業務。 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理。 6. 自己課題の明確化。
教育目標との関連	保育実習を通して学生は、本学の目標である幼児の心身の発達について広範な知識と豊かな保育技術を習得する。また、保育現場という社会で実習をすることにより、社会生活に必要な教養を身に着けることができる。さらに、自分の体調を管理しながら乳幼児と共に過ごすことにより、豊かな感性と愛の心を育む。
到達目標　（学修成果）　１．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	L01.保育実習Ⅱの意義、目的、心構え、法令上の事項について理解できる。 子どもの発達,子ども理解につとめるとともに、保護者対応や支援の意義を理解できる。 L02.保育内容を観察・計画・実践・評価し、目標の達成に向けた改善及び方法について思考・判断することができる。 L03.実習指導案、日誌、自己の課題等について規定及び文章作法に基づいてまとめることができる。 L04.保育実習を振り返り、自身の良かった点や今後の課題について分析・自己評価することができる。 L05.実習生として保育者としてふさわしい人間性を身につけ、他者と協調することができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリッ	原則として以下の基準で評価を行う。 実習先が与えた評価　４０％ 実習日誌など（最終レポート　実習自己評価票の提出を含む）の評価　６０％ （授業内でルーブリックを示し評価方法を解説する。また保育・教職の手引きを参照すること）

クによる評価基準	
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	実習指導の最終授業において実習の振り返りを実施する。また、実習園の評価及び実習自己評価票をもとに個別に面談を行い実習の振り返りを行う。
教科書	幼稚園・保育所・認定こども園実習　パーフェクトガイド　わかば社
参考書	『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	保育実習Ⅰの指導内容、さらには保育実習指導Ⅱの授業内容を復習しておくこと。 実習日誌に毎日記録をおこなう（約2時間） 提出された日誌は園でのチェックを受け、実習後に教員との評価票面談を通して振り返りをおこなう。
履修上の注意、条件等	保育実習Ⅰ(保育所および施設）を修了し、かつ、保育実習指導Ⅱを履修しなければならない。 本科目を修得できない場合は、保育実習指導Ⅱも修得できない。
オフィスアワー	授業内で指示する。
備考・メッセージ	すべて対面（園における実習）。